ご使用前に必ずお読みください

コンバイン

MCH1100

取扱説明書



はじめに

お使いになる前に、取扱説明書を必ずお読みください

このたびは、　　コンバインをお買い上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は、本機の取り扱い方法と、使用上の注意事項について記載しています。
本製品をご使用いただく前に、この取扱説明書を良くお読みいただき、内容を理解して正しくお使いください。
また、お読みになった後も、この取扱説明書をシート後のポケットに入れ、いつもお手元に置いて、必要に応じて活用してください。

お願い

- この取扱説明書の内容が理解できるまで、本製品をご使用にならないでください。
- 本製品を貸したり、譲渡するときは、この取扱説明書を本製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書および安全銘板を、紛失または損傷された場合は、速やかに当社の特約店・販売店、または JA にご注文ください。
- この取扱説明書には、安全に作業していただくために、「1 章 安全な作業をするために必ずお守りください」を記載しています。ご使用前に必ずお読みください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、お買い上げいただいた特約店・販売店・ JA へご相談ください。

おことわり

- 本製品は改良のため、使用部品などを変更することがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容には、作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発見されてもただちに修正できないことがあります。

このコンバインは、路上（公道）走行できません。

このコンバインは、道路運送車両法の保安基準に適合する装備をしておりませんので、法令により公道を自走することができません。公道を移動する場合は、必ずトラックなどにのせて運搬してください。※積載するトラックの選定など、道路交通法を守ってください。

説明記号の見方

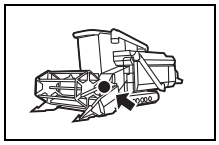
⚠危険　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠警告　その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠注意　その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

[重要]　誤りやすい操作に対する注意を示します。守らないと、機械の破損や、故障の原因になります。

[参考]　作業効率を良くしたり、誤った操作をしないための補足説明です。



説明箇所の位置と、見ている方向を示します。

● 印：位置　➡ 印：見ている方向

本製品の使用目的について

本製品は、稲・麦の他に、大豆・小豆・そばなどの作物の刈取・収穫用作業機としてご使用ください。使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。大豆・小豆・そばの場合は、専用キットに交換し、各部の調整を必ず行ってください。（詳細は、専用キットの取扱説明書をご覧ください。）
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は、保証書をご覧ください。）
本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

仕様について

本製品には下記の仕様があり、取扱説明書の内容で、仕様によっては該当しない項目もあります。

〈標準ヘッダ仕様〉

MCH1100-CSM

- M　:セカンドモア
- S　:スプレッダ
- C　:キャビン仕様
- 型式

〈ワイドヘッダ仕様〉

MCH1100-CWSMU

- U　:ロングクローラ（幅550㎜）
- M　:セカンドモア
- S　:スプレッダ
- W　:ワイドヘッダ（刈幅2590㎜）
- C　:キャビン仕様
- 型式

目次

はじめに 1

1章　安全な作業をするために必ずお守りください 5

1．作業者の体調・服装について 5
2．使用する機械について 5
3．運転前・作業前点検をするとき 6
4．運転・移動をするとき 8
5．運搬するとき 10
6．刈取作業をするとき 12
7．作業後の手入れ・格納をするとき 14
8．点検・整備をするとき 15
9．安全銘板の貼り付け位置 17
10.安全銘板の手入れについて 22

2章　保証とサービスについて 23

保証書は大切に保管してください 23
アフターサービスをお受けになるときは 23

3章　各部のなまえ 24

1．外観 24
2．運転操作部 27
3．キャビン 29

4章　各操作部のはたらき 30

1．フロントコラム中央部 30
2．ハンドル部 31
3．センターディスプレイ部 32
4．サイドパネル部 35
5．サイドコラム部 37
6．オールマイティシフトレバー部 41
7．オーガマルチリモコン 43
8．オーガ先端 45
9．その他の操作関係 46
10.キャビン関係 48
11.その他 53

5章　運転前・作業前点検のしかた 56

1．作業者の体調・服装について 56
2．本機の点検のしかた 57

6章　運転・移動のしかた 58

1．コンバインへの乗降のしかた 58
2．シート位置の調節のしかた 58
3．マルチハンドルの前後調節のしかた 59
4．メンテナンスモードについて 60
5．操作機能の変更のしかた 63
6．エンジンの始動のしかた 64
7．暖気運転のしかた 66
8．エンジンの停止のしかた 67
9．発進のしかた 67
10.変速のしかた 69
11.旋回のしかた 69
12.停車のしかた 71
13.駐車のしかた 71
14.移動走行のしかた 72
15.トラックでの運搬のしかた 75
16.エアコンの使いかた 80

7章　刈取作業前の準備のしかた 82

1．刈取りできる作物の条件について 82
2．刈取り作業ができるほ場の条件について 83
3．ほ場の準備と刈取方法について 83
4．コンバインの準備のしかた 85
5．ほ場への出入りのしかた 89

8章　刈取作業のしかた 90

1．刈取操作のしかた 90
2．作物や作業条件に合わせた各部の調節のしかた 96
3．警報装置が作動したときの処置のしかた 98
4．自動装置について 98
5．こく粒の排出のしかた 112

9章　各部の脱着・オープンのしかた ... 117

1．各部脱着・オープン一覧 117
2．主なカバーのなまえ 118
3．ロータカバーのオープンのしかた 119
4．グレンタンクのオープンのしかた 120
5．脱こく左後カバーのオープンのしかた 122
6．エンジン後カバーのオープンのしかた 122
7．脱こく側板の取り外しかた 122
8．スプレッダのオープンのしかた 123
9．脱こく下網の脱着のしかた 124
10.ヘッダ部の脱着のしかた 125
11.揺動装置の脱着のしかた 128

10章 作業後の手入れと格納について.....131

1．機体の洗浄のしかた.....131
2．刈取部ストッパ（刈取部固定）のセットのしかた.....132
3．各部の掃除のしかた.....133
4．各部の注油のしかた.....137
5．グリスアップのしかた.....139
6．格納のしかた.....141

11章 点検・整備のしかた.....143

1．定期点検・整備の時期について.....143
2．定期点検一覧表.....145
3．オイル・グリス・不凍液一覧表.....148
4．給油・給水一覧表.....148
5．メンテナンス時間のリセットのしかた.....149
6．燃料の点検・補給のしかた.....150
7．オイルの点検・補給・交換のしかた.....152
8．冷却水の点検・補給・交換のしかた.....157
9．エンジンオイルエレメントの交換のしかた 159
10.燃料フィルタの交換のしかた.....160
11.ウォータセパレータの点検・水抜き・交換のしかた.....160
12.燃料タンクのドレン抜きのしかた.....161
13.燃料の空気（エア）抜きのしかた.....161
14.エアクリーナーの掃除・交換のしかた.....162
15.プレクリーナーの掃除のしかた.....163
16.防塵装置の掃除のしかた.....163
17.作動油タンクオイルの点検・補給・交換のしかた.....165
18.HSTフィルタの交換のしかた.....167
19.ウォッシャー液の補充のしかた.....168
20.バッテリの点検・整備のしかた.....168
21.パイプ類の点検のしかた.....171
22.電気配線の点検のしかた.....171
23.ヒューズの点検・交換のしかた.....171
24.刈刃の調節のしかた.....173
25.プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた.....174
26.リール変速ベルトの交換のしかた.....174
27.プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節のしかた.....175
28.フィーダチェンの張り調節のしかた.....176
29.プラットホームオーガリミットクラッチの点検・調節のしかた.....177
30.リールの調節のしかた.....178
31.各部チェンの点検・調節のしかた.....180
32.各部ベルトの点検・調節のしかた.....182
33 駐車ブレーキの点検・調節のしかた.....192
34.クローラの点検・調節のしかた.....192
35.強力ピンの交換のしかた.....193
36.排気ガスの色について.....194
37.クーラーガス（冷媒）の点検のしかた.....194

12章 不調診断のしかた.....196

1．センターディスプレイの注意画面について.....196
2．センターディスプレイの異常表示と処置のしかた.....198
3．センターディスプレイに表示されない不調について.....202
4．チェッカ機能について.....209

13章 その他.....211

1．用語解説.....211
2．主要諸元.....213
3．オプション.....215
4．主要消耗部品.....216
5．主要消耗部品の点検・交換時期の目安表.....219
【重要】お客様へのお知らせ.....221

1章　安全な作業をするために必ずお守りください

●ここに記載されている注意事項は、安全に関する重要な内容です。必ず守ってください。
●ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。
※ご購入された製品によっては、一部該当しない内容も記載していますのでご了承ください。

1. 作業者の体調・服装について

⚠警告

■ こんなときは、運転しない！

・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき。
・酒を飲んだとき。
・妊娠しているとき。
・18才未満の人

【守らないと】

思わぬ事故の原因になります。



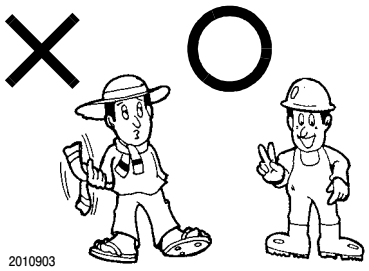
2010902

■ 安全靴・作業帽・ヘルメット・つなぎなどの作業に適した服装をする

はち巻き・首巻き・腰タオルは禁止です。

【守らないと】

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



2010903

2. 使用する機械について

⚠警告

■ 使用する前には、必ず点検を行う

コンバインを使用するときは、運転前・作業前点検を行い、異常箇所は必ず整備してください。
また、作業終了時にも異常箇所がないか点検してください。

【守らないと】

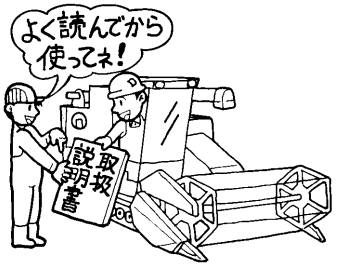
整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

■ 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読むように指導してください。

【守らないと】

死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



⚠注意

■ 必ず定期点検整備を受ける

１年ごとに定期点検整備を受け、各部の保守を行ってください。特に、燃料パイプは２年ごとに交換し、電気配線は毎年点検してください。

【守らないと】

整備不良による事故、機械の故障を引き起こすおそれがあります。

3. 運転前・作業前点検をするとき

⚠危険

■ 注油･給油は､エンジンが冷えてから行う

エンジン回転中やエンジンが熱い間は､給油･注油を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料やオイルに引火して、ヤケドや火災の原因になります。

■ 燃料補給時は火気厳禁

燃料補給時は､くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。

【守らないと】
燃料に引火して、ヤケドや火災の原因になります。



⚠警告

■ 点検は平坦で安定した場所で行う

点検･整備を行うときは､機械が倒れたり動いたりしない､平坦で安定した場所で行ってください。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ 燃料を補給した後は､燃料キャップを締め､こぼれた燃料は拭き取る

燃料キャップがゆるんでいると､燃料がこぼれ出ることがありますので､確実に締め込んでください。また､こぼれた燃料は､きれいに拭き取ってください。

【守らないと】
火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

⚠警告

■ 燃料もれに注意する

燃料パイプが破損していると燃料もれを起こしますので､必ず点検してください。

【守らないと】
火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 電気部品やコードも必ず点検する

毎日の作業前には､配線コードが他の部品のエッジ部に接触していないか､コードの被覆がはがれていないか､コードの固定部がゆるんでいないか点検し､ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
ショートして、火災の原因になります。

■ バッテリ液を｢下限(LOWER)｣以下にしない

バッテリ液が｢上限｣と｢下限｣の間にあることを確認し､｢下限｣以下にしないでください。

【守らないと】
｢下限｣以下になると､容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。



A2037549

⚠ 警告

■ 排気ガスには十分に注意

倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動するときは、十分に換気をしてください。

【守らないと】
排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

■ ブレーキの効きや各レバー類の作動点検を行う

ブレーキの効き具合や、マルチハンドル・各レバー類に著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは、厚紙や板などを使って点検する

高圧噴油に手や体が、直接触れないようにしてください。もし、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。

【守らないと】
油が皮膚に侵入した場合、数時間以内に取り除かないと強度のアレルギーを起こすおそれがあります。

■ 各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止する

各部の脱着・オープン、点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止させ、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

⚠ 警告

■ 刈取部を上げて作業するときは、必ず刈取部ストッパをする

刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで必ず固定してください。

【守らないと】
刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

⚠ 注意

■ クローラの磨耗やキズを点検する

クローラが著しく磨耗していたり、キズがついていないか、確認してください。

【守らないと】
横滑りや転倒事故の原因になります。

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

整備・点検で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

【守らないと】
機械に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。



⚠注意

■ エンジン始動前には、運転前・作業前点検を行う

エンジン始動前には、運転前・作業前の点検を行ってください。

【守らないと】
整備不良による機械の故障を引き起こす場合があります。

■ 回転部に注油するときは、必ずエンジンを停止する

回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

■ 刈刃の手入れ・交換には、厚手の手袋を着用し刃先をさわらない

刈刃の手入れ・交換時には、厚手の手袋を着用し刃先をさわらないでください。
また刈刃は重いので、取り付け・取り外しは、必ず二人以上で行ってください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

■ 点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから

点検・整備を行うときは、高温部分が十分に冷めてから行ってください。

【守らないと】
ヤケドをするおそれがあります。

4. 運転・移動をするとき

⚠警告

■ グレンタンク内にこく粒が入っているときは、あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急施回、坂道(前後左右 10 度以上)での作業および走行はしない

グレンタンク内にこく粒が入っていると、本機の重心が高くなり危険ですので、あぜ越え、トラックへの積み・降ろし、急施回、坂道(前後左右10度以上)での作業および走行はしないでください。

【守らないと】
バランスをくずし、転倒のおそれがあります。

■ 寒冷時には必ず暖気運転を行う

寒冷時に運転する場合は、エンジンを始動してから暖気運転(15分)を必ず行ってください。

【守らないと】
駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤作動する可能性があります。

■ 道路の端に、寄りすぎないように注意

走行時は、道路の端に寄りすぎないでください。

【守らないと】
路肩がくずれ、横倒しになって、傷害事故を引き起こすおそれがあります。



■ 運転席から離れるときは、必ず駐車ブレーキをかける

【守らないと】
突然機械が動き出し、ケガをするおそれがあります。

⚠警告

■ 溝や高いあぜを渡るときは､アユミ板を使用する

ほ場に入るとき､溝や高いあぜを渡るとき､軟弱な場所を通るときは､必ずアユミ板を使用してください｡アユミ板は､幅･長さ･強度が機械に適したものを使用してください。

【守らないと】
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 坂道では下記項目を必ず守る

・坂道の途中では駐車しないでください。
・坂道では、副変速を操作しないでください。
・坂道では、高速（移動）走行、急施回をしないでください。
・坂道では、斜め走行をしないでください。

【守らないと】
機械が不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、傷害事故の原因になるおそれがあります。

■ エンジン始動時は､周囲の安全を確認する

エンジン始動時は､必ず運転席に座り､各スイッチとレバー位置､周囲の安全を確認してください。

【守らないと】
急に機械が動き出し、傷害事故を起こすおそれがあります。

■ 高速走行(移動)時は､急施回をしない

高速走行(移動)時は､急施回をしないで､必ず速度を落としてください。

【守らないと】
接触・転倒事故のおそれがあります。

⚠注意

■ デバイダヘッドを取り外し､サイドデバイダ･排出オーガを収納する

デバイダヘッドを取り外し､サイドデバイダは内側に､排出オーガはオーガレストに収納してください。

【守らないと】
人や物に接触して、思わぬ事故を引き起こす原因になります。

■ 関係法規を守り､ヘルメットを必ず着用する

移動走行時は関係法規を守り､安全のためにヘルメットを着用してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 周囲に合図し､ゆっくり発進する

発進するときは､周囲に合図をして､安全を確認しながらゆっくり発進してください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こすおそれがあります。

■ 運転者以外の人を乗せない

走行中は､他の人を機械に乗せたり､周囲に近づけたりしないでください。

【守らないと】
思わぬ傷害事故を引き起こす原因になります。

■ 移動走行時には､リール､セカンドモア(オプション)､刈高さ､水平の各自動スイッチを｢切｣位置にする

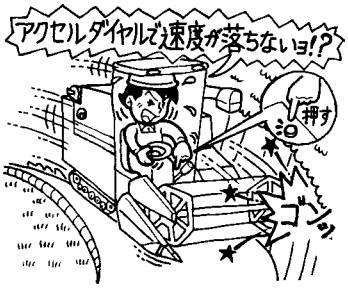
【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。



⚠注意

■ 刈取作業のとき以外は、E モード切替スイッチは「切」位置にする

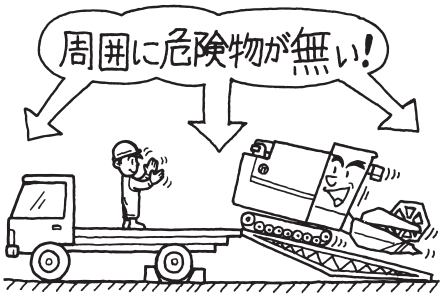
【守らないと】
E モード切替スイッチを「入」位置にしたままでは、アクセルダイヤルでのエンジン回転調節ができないため、思わぬ事故の原因になります。



■ 積み・降ろしは、水平で安定した場所で行う

トラックなどへの積み・降ろしは、周囲に危険物が無く、水平で安定した場所で行なってください。

【守らないと】
転落・転倒事故をまねくおそれがあります。



5. 運搬するとき

⚠警告

■ 長距離輸送をするときは、お買上げ先にご相談を

トラックによる長距離輸送の場合は、お買い上げ先までご連絡ください。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ ほ場間の移動には、十分に強度のあるトラックを使う

積載荷重6t以上のトラックを使用してください。

【守らないと】
思わぬ事故の原因になります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、長さ・強度・幅の十分あるアユミ板を使用する

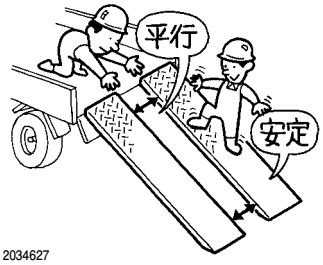
アユミ板は、丈夫ですべり止めのある基準に合ったもので、トラックの荷台に設置したときに、傾斜角度が15度以下になる長さのものを使用してください。また、アユミ板は段差の4倍以上の長さのものを使用してください。

【守らないと】
アユミ板が折れて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。また、バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。

■ トラックへの積み・降ろしをするときは、アユミ板の平行や安定を確認する

アユミ板を設置するときは、平行や安定を必ず確認してください。特に本体がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、速度にも十分注意してください。

【守らないと】
バランスがくずれて転倒し、傷害事故を引き起こす原因になります。



2034627

⚠警告

■ 運搬をするときは、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

トラックに積み込んだら、コンバインのエンジンを停止し、駐車ブレーキを必ずかけてください。

【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 機械をトラックに、ロープで確実に固定する

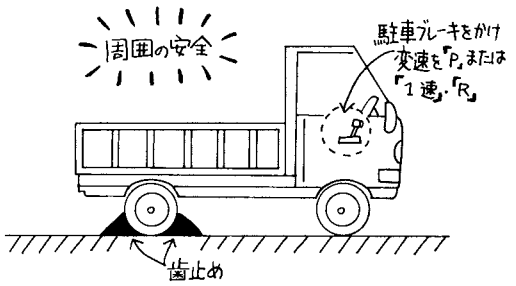
丈夫なロープをコンバインのロープフックに掛け、トラックと確実に固定してください。

【守らないと】
運搬中、荷台から機械が転落して、事故を引き起こす原因になります。

■ 積み込むトラックには、必ず歯止めをする

コンバインを積み込むトラックは、エンジンを停止し、変速を「P」または「1速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけて、タイヤに歯止めをしてください。

【守らないと】
トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。



■ 積み・降ろし作業は、誘導者を付けて行う

トラックへの積み・降ろし作業は、補助者を付けて、周囲の安全を十分に確認しながら行ってください。また補助者は、機械の直前・直後には立たないでください。

【守らないと】
転落などの事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 傾斜した荷台・アユミ板の上では、副変速の操作、進路変更禁止

【守らないと】
機械が不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスがくずれて、転倒し、傷害事故の原因となります。



【守らないと】
傷害事故を引き起こす原因になります。

■ トラックでの輸送時には機体の各カバーを固定する

カバー類、折りたたみ部品などは、風圧で破損・脱落のおそれがありますので、確実に固定するか、外して荷台に置いてください。
脱こくサイドカバー・グレンタンク下部カバーも確実にロックしてください。

【守らないと】
トラックが動いて、転落事故を引き起こすおそれがあります。

6. 刈取作業をするとき

⚠危険

■ ワラクズの上では絶対に作業しない

ワラクズが堆積している付近に機械を止めて、作業をしないでください。

【守らないと】
マフラーの熱でワラクズが高温になり、火災を引き起こすことがあります。



■ 作業中は絶対に人を近づけない

作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。

【守らないと】
死亡事故や重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 作業前に、補助者と作業の段取りを打ち合せる

補助者と組んで作業をするときは、作業の段取りを、補助者とよく打ち合せしてください。また作業中は、ホーンなどでお互いに合図し合って行ってください。

【守らないと】
傷害事故を引き起こす原因になります。

⚠警告

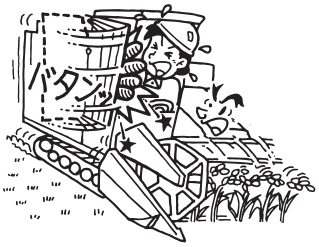
■ 手刈りしたものを、プラットホームに投げ込まない

【守らないと】
回転する刃やリールに巻き込まれ、重大な傷害事故をまねくおそれがあります。



■ ドアを開放したまま作業しない

【守らないと】
作業中の衝撃などにより、不意にドアが閉まって手や身体が挟まれるおそれがあります。



■ 詰まりを取り除くときは、エンジンを停止する

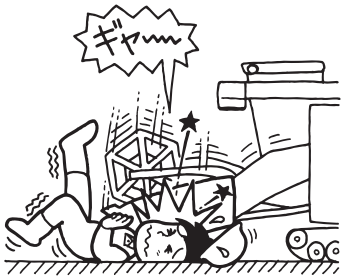
脱こく部の詰まりを取り除くときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキを掛けてください。また、コンベア部・チェン部に手を入れないでください。

【守らないと】
回転するこぎ歯に触れてケガをしたり、コンバインが急に動きだして、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ 刈取部の下にもぐったり、手足を突っ込まない

【守らないと】
刈取部が下がったとき、挟まれて傷害事故を起こすおそれがあります。



■ エンジンやマフラー、プーリ駆動部の周辺のゴミは取り除く

作業中は、エンジンやマフラー、プーリ駆動部に付着しているワラクズ・ゴミ・燃料などを、時々取り除いてください。また、取り除くときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、作業関係レバーを全て「切」位置にしてください。

【守らないと】
付着物が引火して、火災事故を引き起こし、ヤケドをするおそれがあります。

■ 異常と思ったらエンジンをすぐに停止する

異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係のレバーを全て「切」にしてから点検をしてください。

【守らないと】
思わぬ破損、傷害事故になります。

■ あぜを乗り越えるときは、最低速度であぜに対して直角に渡る

あぜを乗り越えるときは、斜めに渡らないでください。必ずあぜに対して直角に渡ってください。

【守らないと】
バランスをくずし、転倒などによる傷害事故を引き起こすおそれがあります。

⚠注意

■ 夜間作業をするときは、作業灯を使用する

夜間作業をするときは、作業灯を点灯し周囲が確認できる状態で作業してください。

【守らないと】
周囲の状況がわかりにくく、思わぬトラブルを引き起こします。



■ 排出オーガを操作するときは、周囲の障害物に注意する

排出オーガを上昇・下降・旋回させるときは、周囲に障害物がないことを確かめ、ゆっくりと操作してください。

【守らないと】
接触事故を起こすおそれがあります。

■ 排出オーガの先端には、籾袋などを吊り下げ、作業をしないでください

【守らないと】
排出オーガの変形や籾詰まりの事故および駆動系の破損のおそれがあります。

■ こく粒排出作業中は、排出口に手を入れない

こく粒排出作業中は、排出オーガ内部でコンベアが回転しているので排出口に手を入れないでください。

【守らないと】
ケガをするおそれがあります。

7. 作業後の手入れ・格納をするとき

⚠警告

■ エンジンが熱いときは、シートをかけない

エンジンが高温のときは、絶対にシートをかけないでください。

【守らないと】
火災の原因になります。

■ グレンタンクをオープンするときは、以下の事項を必ず守る

・必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
・グレンタンク内を空にしてください。
・機体を水平な状態にしてください。

【守らないと】
グレンタンク回動部が破損したり、回転部でケガをするおそれがあります。

■ ロータカバーの開閉時には、以下の事項に注意する

・必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。
・ロータの扱歯に注意し、素手でさわらないでください。
・ロータカバーを閉じるときは、ロックハンドルが「ロック」位置にあることを確認してください。

【守らないと】
回転部などでケガをするおそれがあります。また、作業中にロータカバーが開いたときには、ロータ内からの作物等の飛散でケガをするおそれがあります。

■ 掃除をするときには、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかける

掃除をするときには、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

【守らないと】
回転刃や刈刃などで手をはさまれて、ケガをするおそれがあります。

⚠警告

■ １日の作業終了後は、各部の掃除をする

１日の作業が終ったら、必ず点検・整備を行い、各部の掃除をして、ゴミなどを完全に取り除いてください。

【守らないと】
火災の原因になります。

■ 平坦な場所に機械を保管する

機械は、平坦な場所に刈取部を接地させ、駐車ブレーキを掛けて保管してください。

【守らないと】
機械が動き出し、思わぬ事故の原因になります。

■ 高い場所の整備や手入れを行う場合は、脚立などを使用する

【守らないと】
エンジンルームの上などは高温となっているためヤケドを負ったり、高いところから落ちてけがをするおそれがあります。

8. 点検・整備をするとき

⚠危険

■ ラジエータが熱いときは、ラジエータキャップを外さない

ラジエータが高温のときは、ラジエータキャップを絶対に外さないでください。

【守らないと】
熱湯が吹き出して、ヤケドをするおそれがあります。



2034606

■ バッテリ点検時は火気厳禁

液槽キャップを開けると、バッテリの液槽口から爆発性のあるガスがでます。バッテリを点検するときや液槽キャップを開けるときは、火気を近付けないでください。

【守らないと】
ガスに引火して、ヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ バッテリ点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用し、バッテリ液を体や衣服に付けないように

バッテリ液を体や衣服に付けないように注意してください。万一、付着したときは、すぐに水で洗い流してください。また、目に入ったときや飲み込んだときは、すぐに水でよく洗った後、必ず医師の治療を受けてください。

【守らないと】
バッテリ液は希硫酸です。衣服が破れたり、失明やヤケドをします。

⚠警告

■ コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談を

サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら、自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた販売店・特約店・JAまでご連絡ください。

【守らないと】
整備不良による機械の故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。

■ バッテリの取り付け・取り外しは、正しい手順でする

バッテリ端子は、取り付けるときは(+)側を先に取り付け、取り外すときは(−)側から取り外してください。

【守らないと】
ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 必ず指定のバッテリを使用する

バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書で指定された型式のバッテリを使用してください。

【守らないと】
ショートして、ヤケドや火災の原因になります。

■ 点検・整備を行うときは、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけ、回転部の停止を確認する

点検・整備は、平坦な場所でエンジンを停止させ、刈取昇降ロックを行い、駐車ブレーキをかけて、クローラに歯止めをしてから行ってください。また、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。

【守らないと】
機械が動き出し、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

■ ブレーキの点検整備は必ず行う

ブレーキの効きが悪いと、たいへん危険です。必ず点検整備を行ってください。

【守らないと】
死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

⚠警告

■ ステアリングハンドルや操作レバー・スイッチ類は、必ず点検整備をする

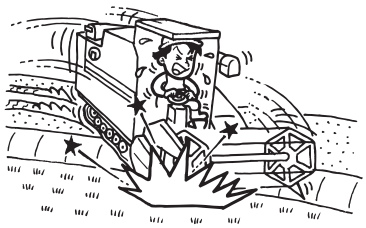
ステアリングハンドルや各操作レバー類に、著しいガタや遊びがないか点検し、ある場合は必要な処置をしてください。

【守らないと】
正常な走行ができず、死亡や傷害事故、機械の破損を引き起こすおそれがあります。

■ ステアリングハンドルのきき具合を、必ず点検・整備する

ステアリングハンドルの切角と旋回半径(きき具合)が同じか点検し、違う場合は、点検・整備に出してください。

【守らないと】
正常な走行ができず、死亡事故や重大な傷害事故の原因になります。



■ クローラの摩耗やキズを点検する

クローラが著しく摩耗していたり、キズが付いていないか点検し、ある場合は新しいクローラと交換してください。

【守らないと】
クローラの耳切れや破損、および横滑りや転倒事故の原因になります。

■ バッテリの上面および周辺は、常に清潔にする

バッテリの上面および周辺は、常に清潔にし、バッテリや配線に付着しているワラクズ・ゴミを取り除き、排気穴をふさがないようにしてください。

【守らないと】
破損や火災の原因になります。

■ バッテリ液は「下限(LOWER)」以下にしない

バッテリ液は「下限(LOWER)」以下にしないでください。

【守らないと】
容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。

⚠注意

■ 廃油や冷却水などの廃棄物をむやみに捨てない

地面へのたれ流しや河川・沼への廃棄は絶対にしないでください。
廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他の有害物質を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

【守らないと】
法令や処理方法を義務づけているものもあり、処罰されることがあります。

■ 取り外したカバー類は、必ず取り付ける

点検整備で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。

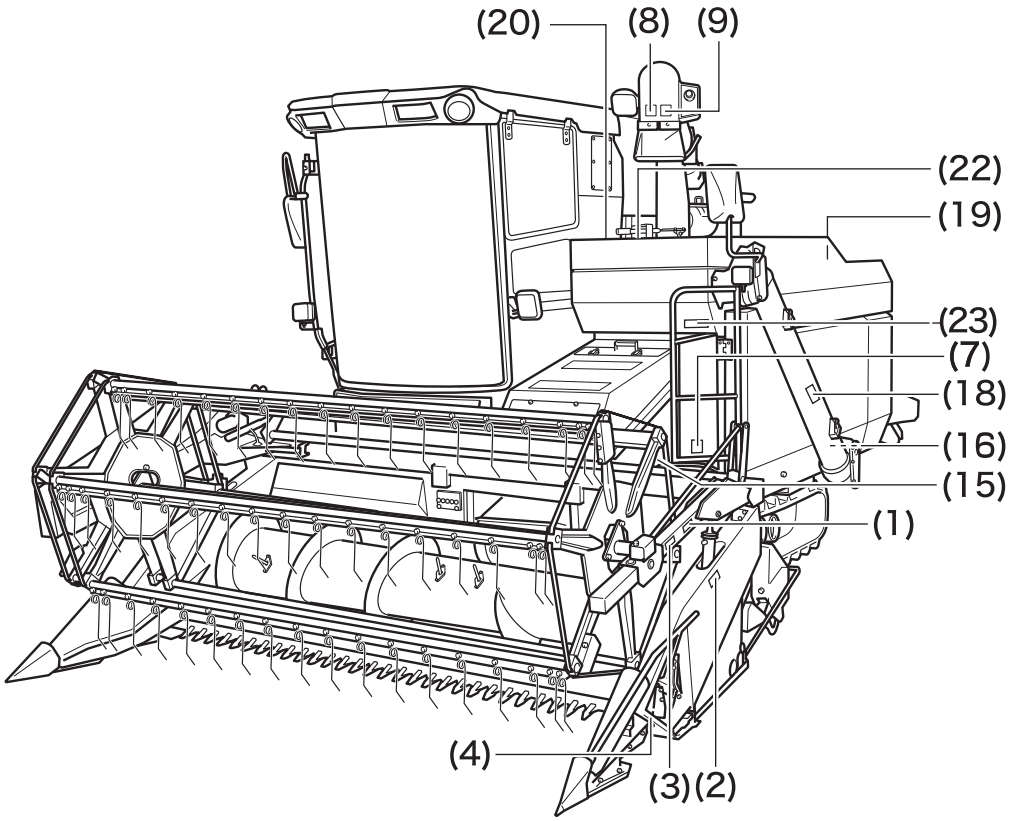
【守らないと】
機械に巻き込まれたり、回転部にふれてケガをする原因になります。

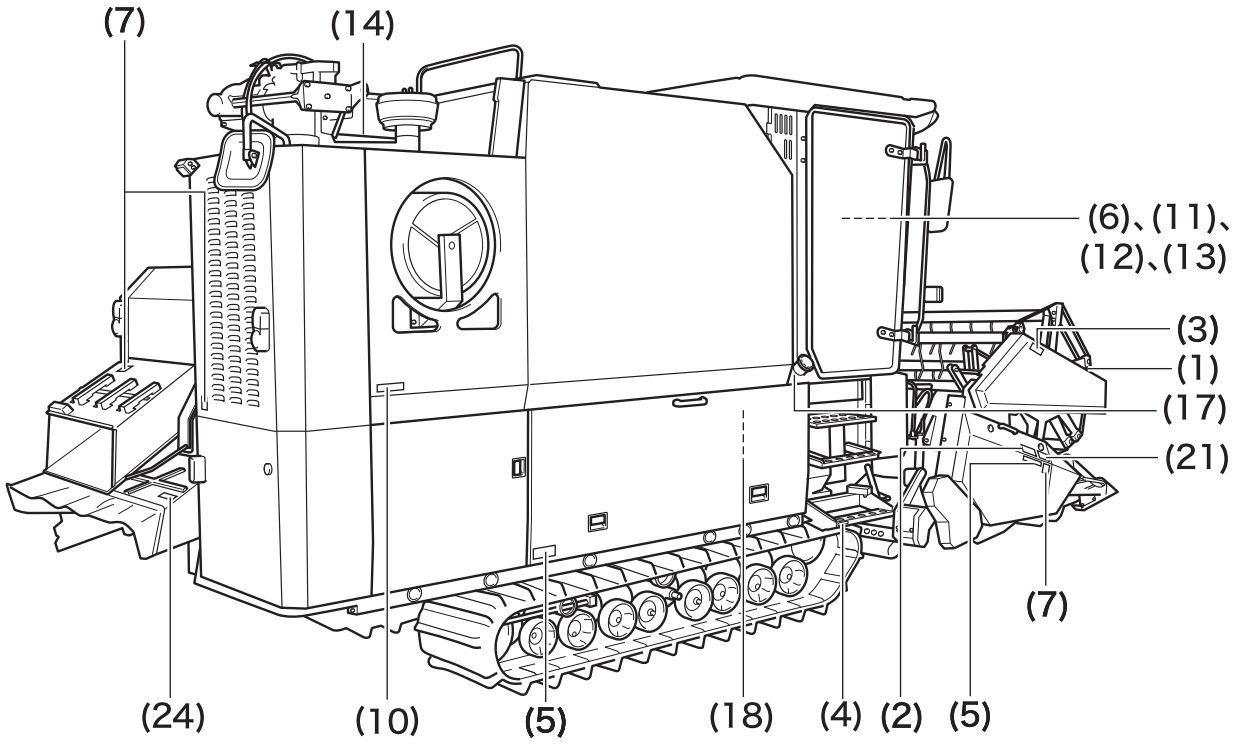
■ 刈刃・回転刃を点検・調節・交換するときは、厚手の手袋を着用し、刃先にさわらない

【守らないと】
素手で刃先にふれると、ケガをするおそれがあります。

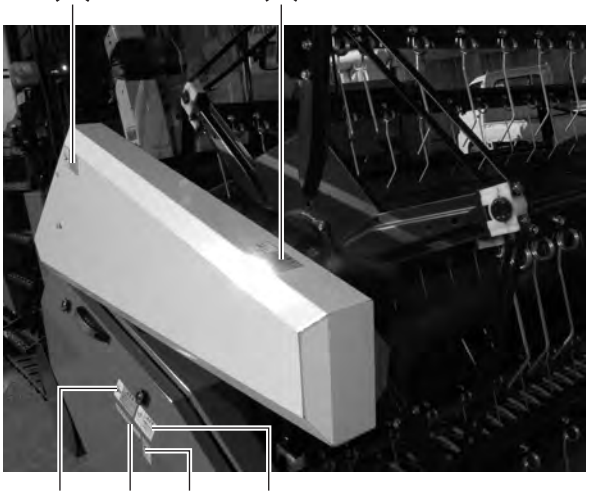
9. 安全銘板の貼り付け位置

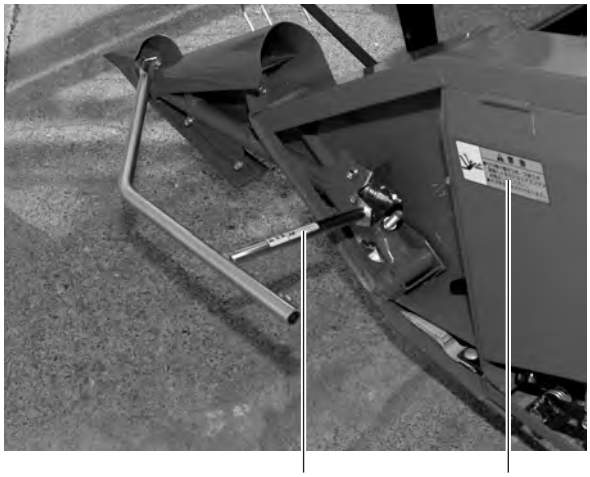
安全に作業していただくために安全銘板の貼り位置を示したものです。
安全銘板は常に汚れや破損のないように保ち、もし破損・紛失した場合は、新しいものに貼り直してください。

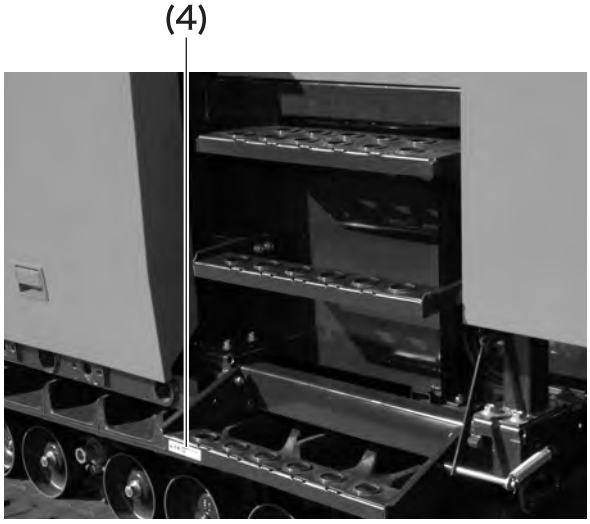




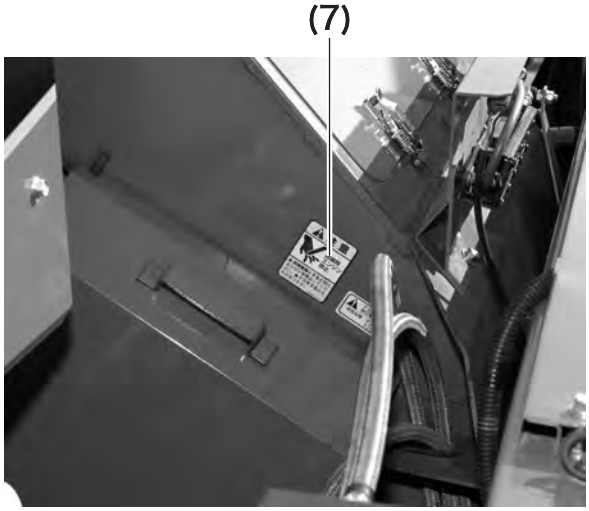
※ 図はスプレッダ付

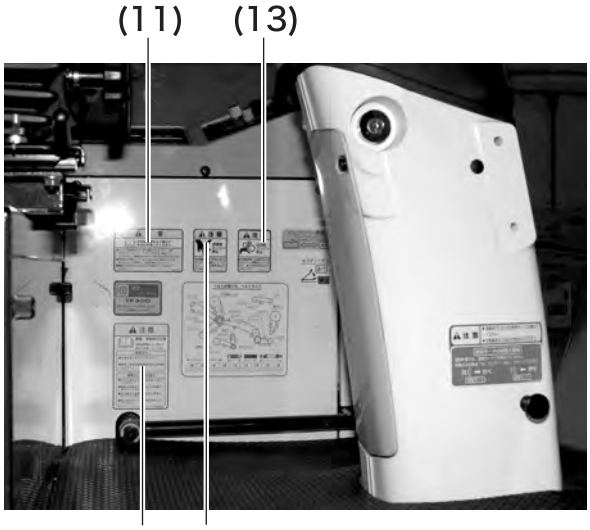

(3)
(1)
(2)
(5)
(7)
(21)


(4)
(2)

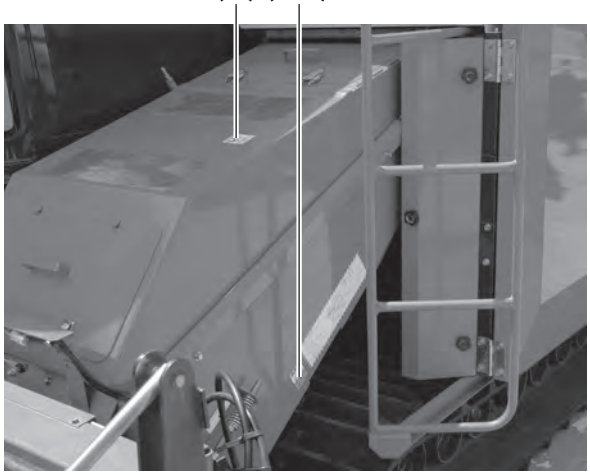

(4)


(6)


(7)


(11)
(13)
(12)
(7)

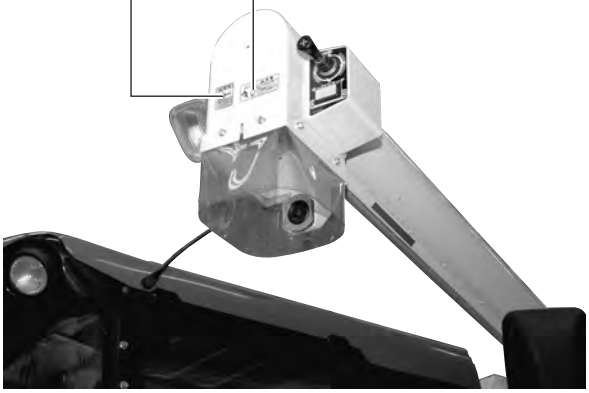
(7) (15)



(16) (7)



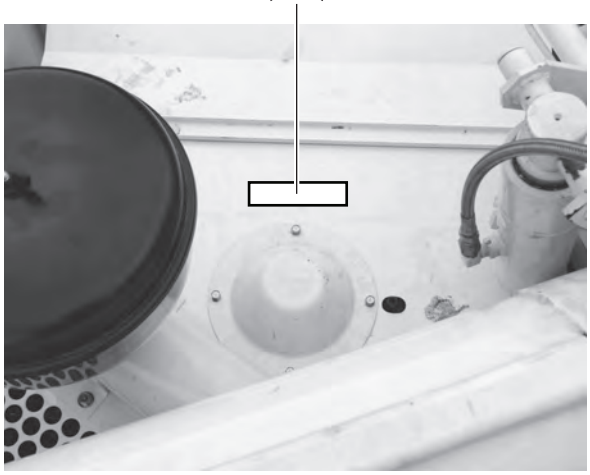
(8) (9)



(9)

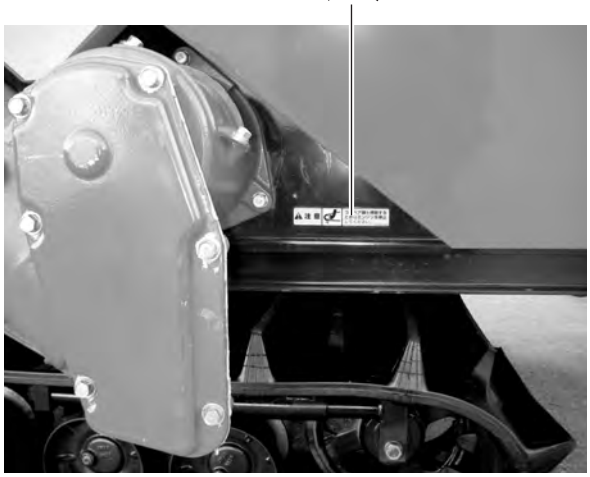


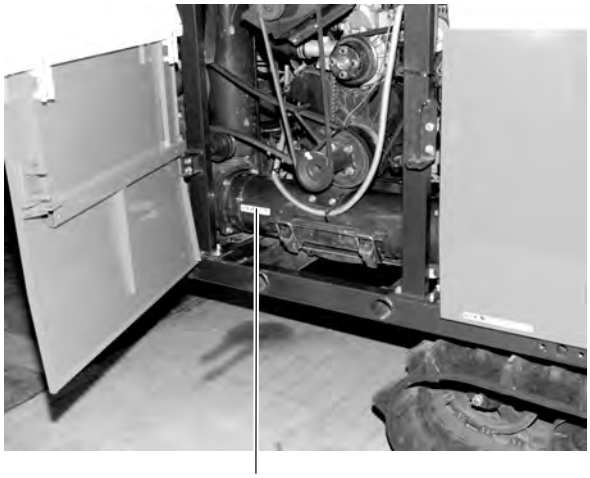
(14)



※エンジン上部にある、ラジエータカバー付近に貼ってあります。

(16)





(16)

(18)



※グレンタンク下部カバーを取り外しています。

(20)

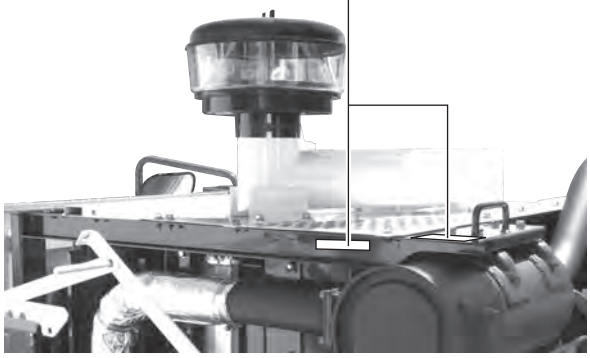


※ロータカバー上面前部に貼ってあります。

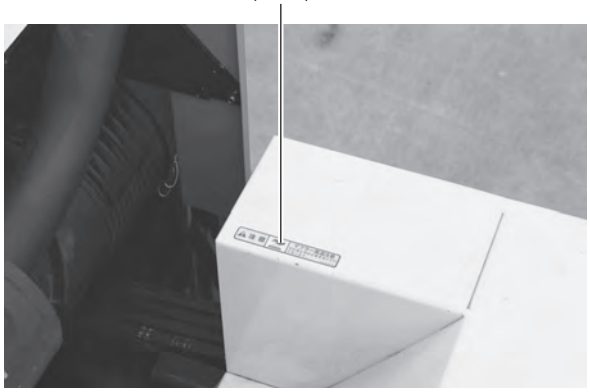
(17)



(19)

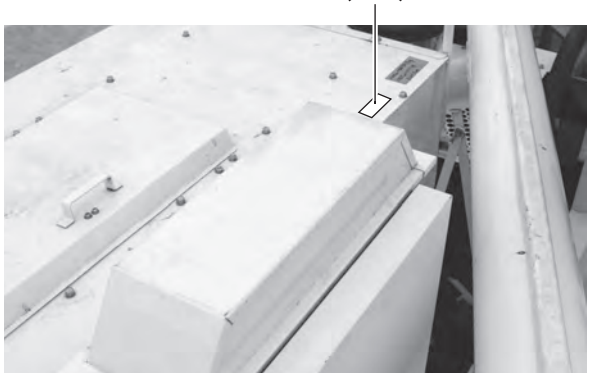


(19)



※ロータカバー上面に貼ってあります。

(22)



(1) 1E6684-97110　警告（リール）



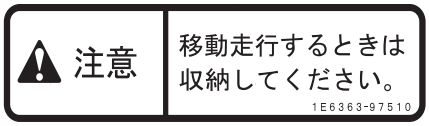
(2) 1E8500-97320　警告（点検 A）



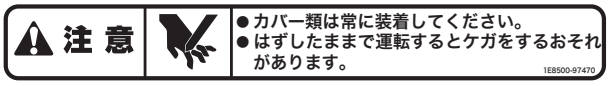
(3) 1E8980-97340　警告（PF）



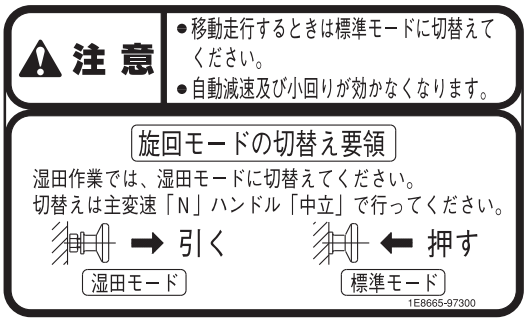
(4) 1E6363-97510　注意（収納）



(5) 1E8500-97470　注意（ベルトカバー C）



(6) 1E8665-97300　注意（旋回モード）



(7) 1E8500-97460　注意（エンジン停止）



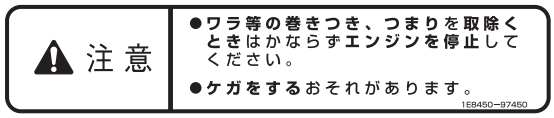
(8) 1E8510-97310　警告（点検 E）



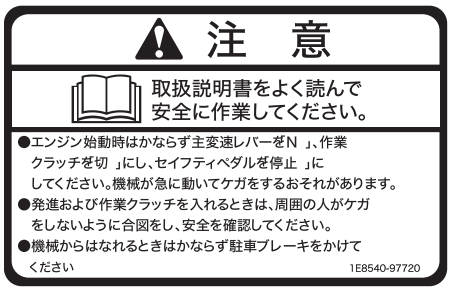
(9) 1E8505-97400　注意（オーガ操作）



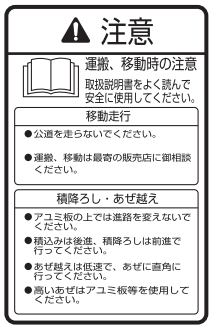
(10) 1E8450-97450　注意（点検）



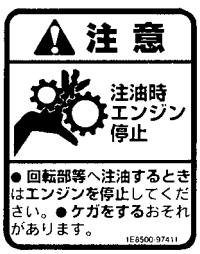
(11) 1E8540-97720　注意（取扱 S）



(12) 1E8450-97441　注意 (運搬・移動)



(13) 1E8500-97411　注意（注油）



（14）1E8500-97220　危険（ラジエータ）



（15）1E6684-97100　警告（刈取点検）



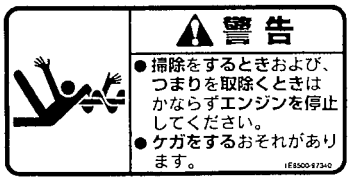
（16）1E8500-97450　注意（コンベア樋）



（17）1E8230-97030　危険（火気厳禁 B）



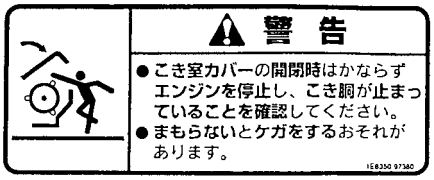
（18）1E8500-97340　警告（点検 C）



（19）1E5120-86720　注意（マフラー）



（20）1E8350-97380　警告（こき室カバー B）



（21）1E8450-97520　注意（デバイダ）



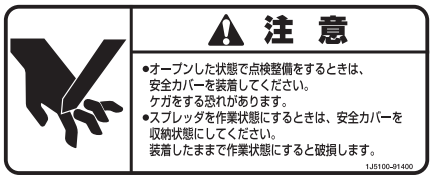
（22）1E6684-97120　警告（バケット）



（23）1E6684-97140　注意（ラダー）



（24）1J5100-91400　注意（カバー）



10.安全銘板の手入れについて

■ 安全銘板は、いつもきれいにして、傷つけないようにしてください。安全銘板が汚れているときは、石鹸水を付けた布で拭き、やわらかい布で水分を拭き取ってください。

■ 高圧洗浄機の高圧水を、安全銘板に当てないでください。はがれるおそれがあります。

■ 安全銘板を破損や紛失したときは、新しい安全銘板を元の位置に貼ってください。安全銘板は、お買い上げの特約店・販売店・JAに注文してください。

2章　保証とサービスについて

保証書は大切に保管してください

「保証書」は、お客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスをお受けになるときは

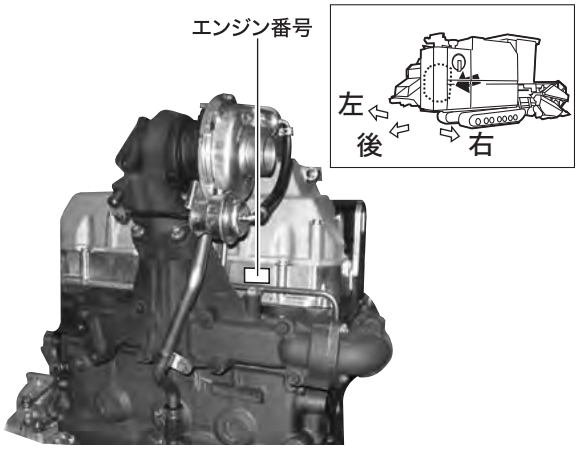
機械の調子が悪いときに 196 ページの「12 章 不調診断のしかた」に従って、点検・処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた特約店・販売店・JA までご連絡ください。

《連絡していただきたい内容》

- 型式名と製造番号
- エンジンの場合はエンジン番号
- ご使用状況は？
  （何速で、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか？
  （約□□アールまたは約□□時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えください。



型式名と製造番号



《補修部品の供給年限について》

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後 9 年です。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

《メーカー純正部品・オイルについて》

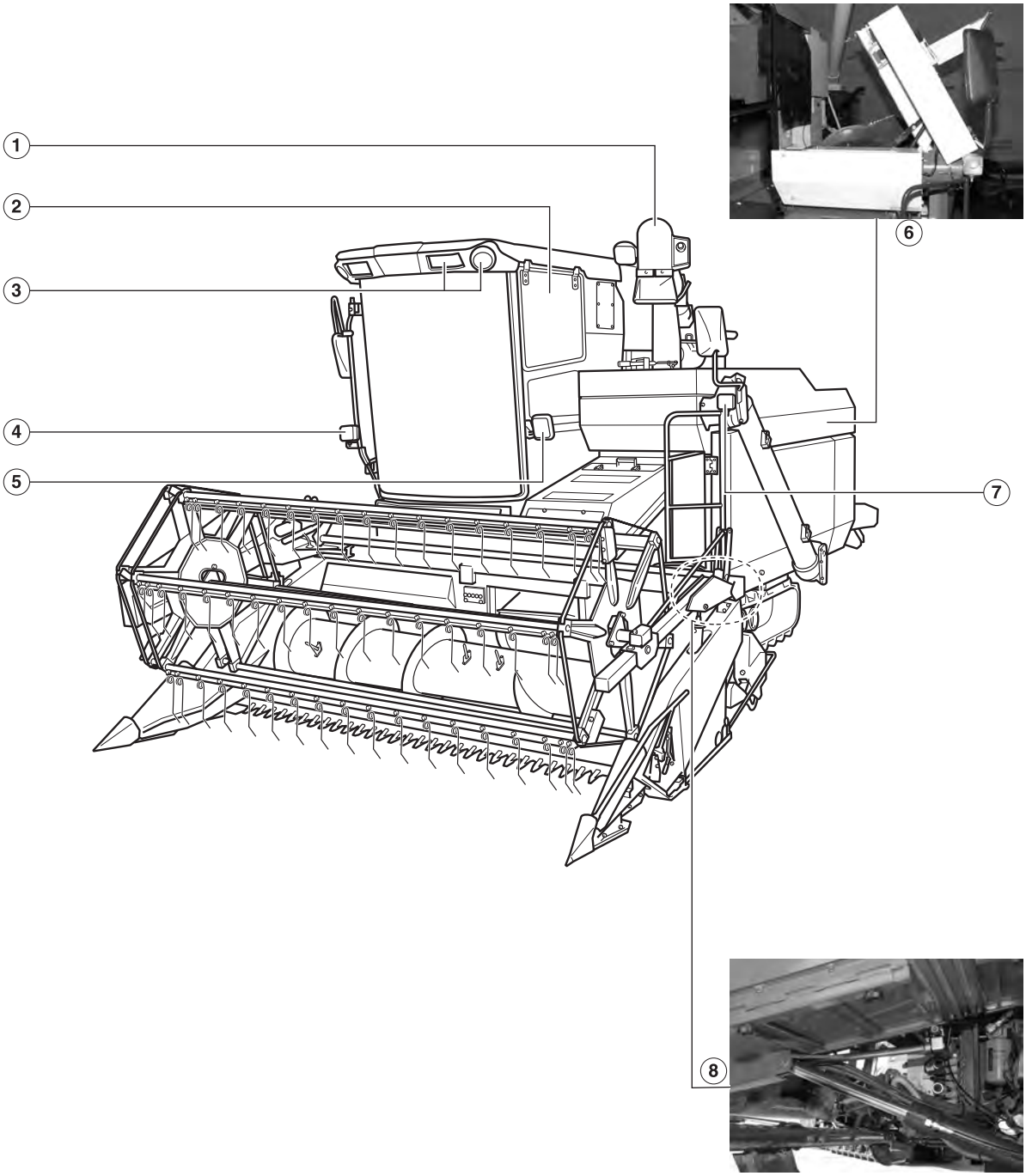
純正部品・純正オイルは、厳密なテストを重ね、きびしい品質検査に合格したもので、安心して使用していただけます。

部品・オイルを交換する場合には、必ず純正部品・純正オイルとご指定ください。



2034455

1. 外観



① 排出オーガ

② キャビン

③ 作業灯（キャビン）

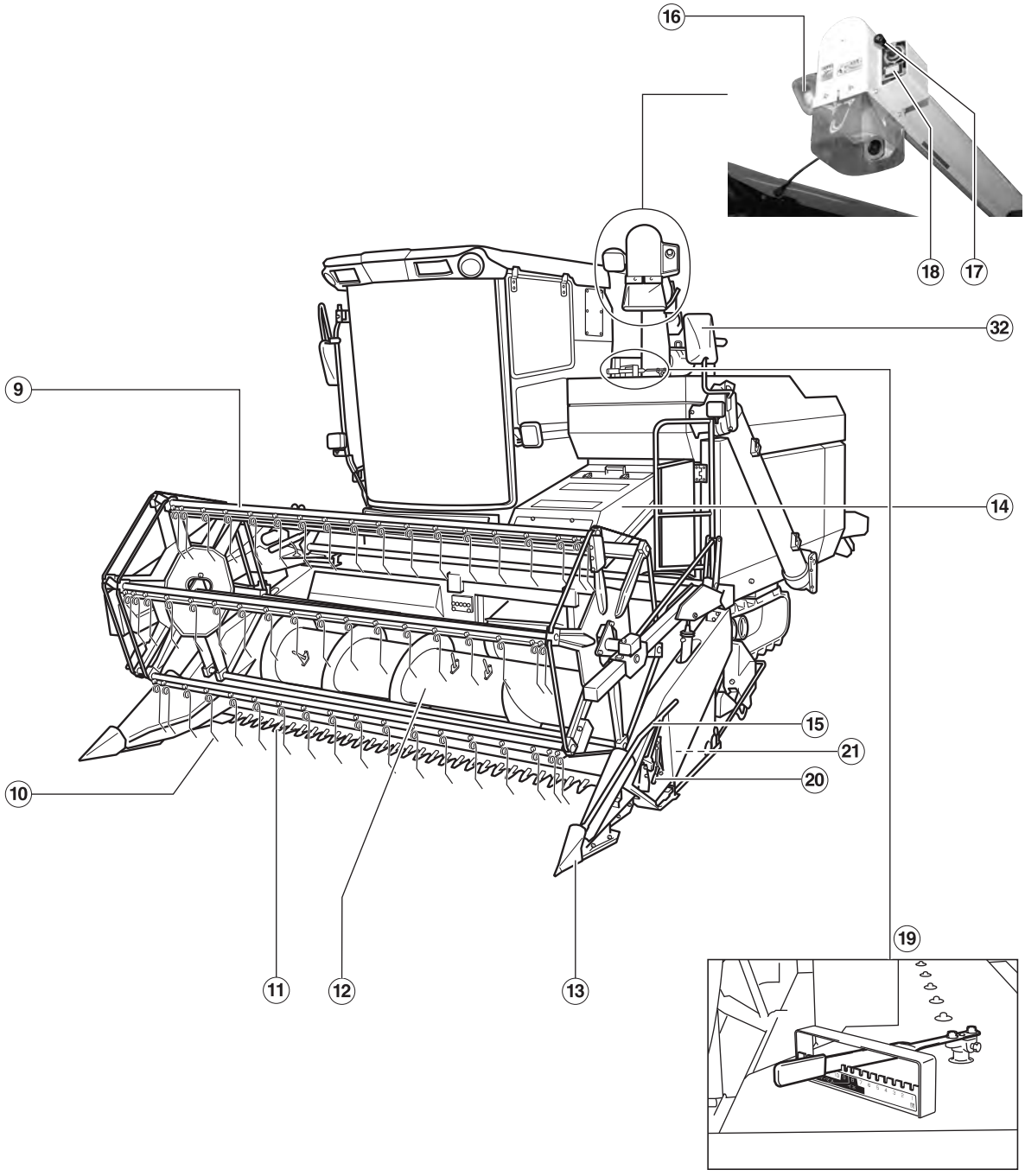
④ 方向指示器（右）

⑤ ヘッドライト

⑥ ロータ
刈取った作物を脱こくします。

⑦ 方向指示器（左）

⑧ 刈取部ストッパ
刈取部を上げて点検・整備するときに、刈取部が下がらないようにロックします。



⑨ リール
作物を引き起こし、刈刃で刈り取った作物を取り込みます。

⑩ タイン

⑪ 刈刃
作物を刈取ります。

⑫ プラットホームオーガ
刈取った作物を、フィーダハウスへ搬送します。

⑬ デバイダ

⑭ フィーダハウス
プラットホームオーガから送られてきた作物を、脱こく部へ送ります。

⑮ サイドデバイダ

⑯ 作業灯（オーガ先端）

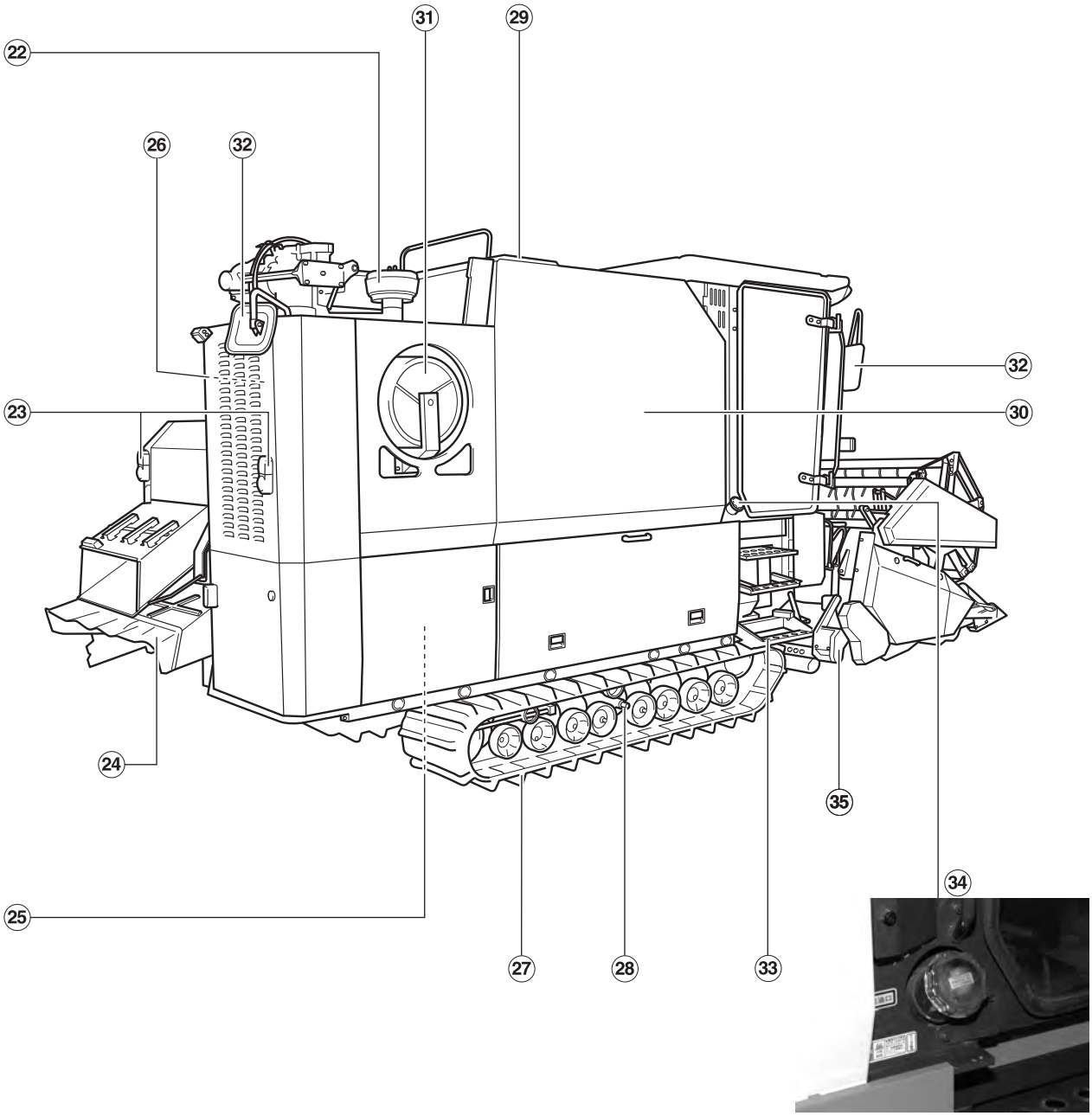
⑰ 排出オーガクロスレバー（オーガ先端）

⑱ 排出オーガクラッチスイッチ（オーガ先端）

⑲ 送塵調節レバー

⑳ センサソリ切換レバー

㉑ センサソリ



㉒プレクリーナー
空気中に含まれる砂塵を取り除きます。

㉓方向指示器（左・右）

㉔スプレッダ（オプション）

㉕エンジン

㉖エアクリーナー

㉗クローラ

㉘イコライザ
田面の凹凸に対して、転輪が上下に動き、安定した走行を行います。

㉙バケットコンベア
こく粒をグレンタンクへ送ります。

㉚グレンタンク
脱こくされたこく粒を、溜めておくタンクです。

㉛エンジン防塵装置
（ロータリースクリーン）

㉜バックミラー

㉝乗降ステップ

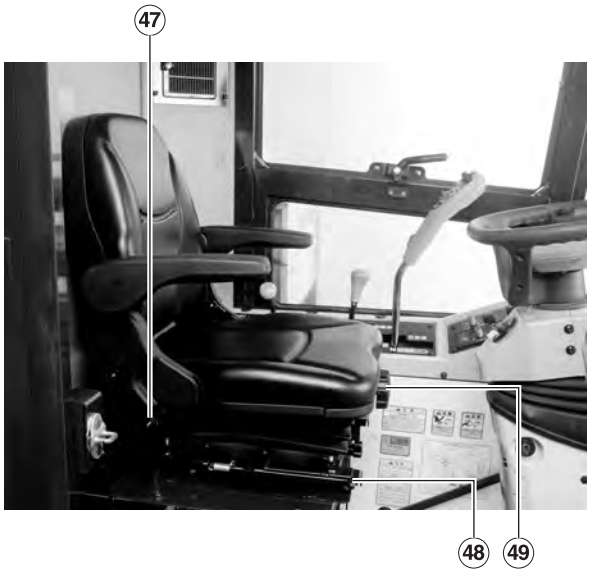
㉞燃料給油口

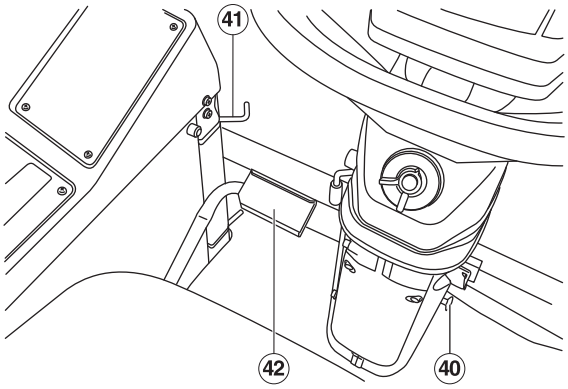
㉟セカンドモア（オプション）

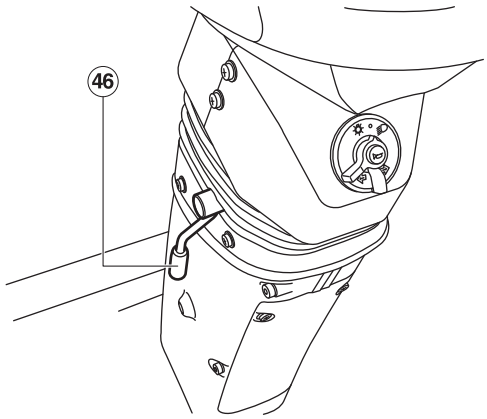
2. 運転操作部



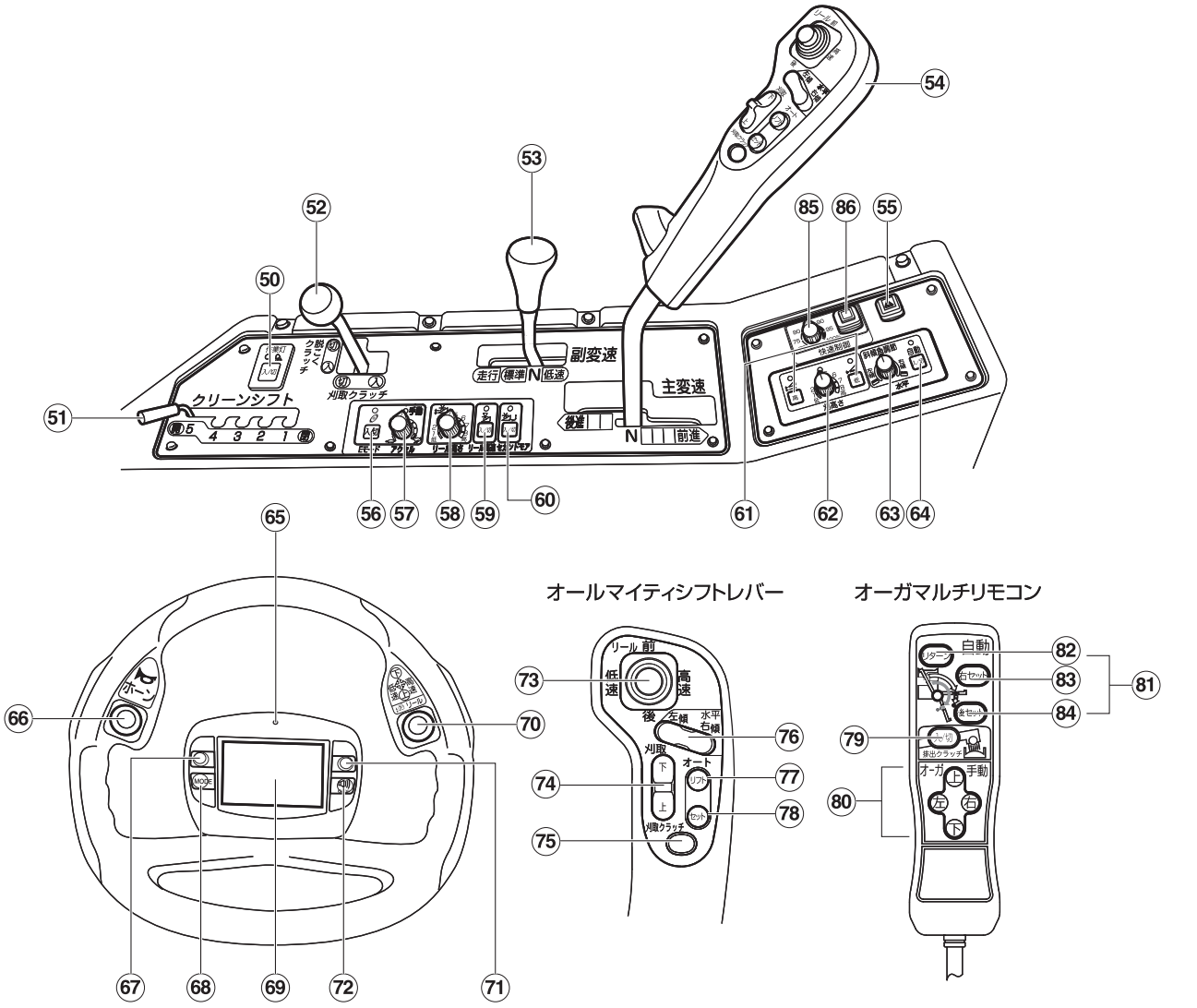








㊱ センターディスプレイ
㊲ マルチハンドル
㊳ ドライバーシート
㊴ キースイッチ
㊵ 旋回モード切替ノブ
㊶ 駐車ブレーキロックレバー
㊷ セフティペダル
㊸ ライトスイッチ
㊹ ホーンボタン
㊺ ウインカスイッチ
㊻ チルトレバー
㊼ リクライニングレバー
㊽ 前後調節レバー
㊾ サスペンション調節ノブ



50 作業灯スイッチ
51 クリーンシフトレバー
52 作業クラッチレバー
53 副変速レバー
54 オールマイティシフレバー
55 ハザードボタン
56 E モード切替スイッチ
57 アクセルダイヤル
58 リール高さ調節ダイヤル
59 リール変速自動スイッチ
60 セカンドモア自動スイッチ
61 刈高さ自動切替スイッチ
62 刈高さ調節ダイヤル
63 傾斜角調節ダイヤル
64 水平自動スイッチ
65 警報表示ランプ
66 ホーンボタン
67 設定スイッチ 1
68 MODE（表示切替）スイッチ
69 センターディスプレイ
70 リール昇降・リール速度スイッチ
71 設定スイッチ 2
72 OFF（ブザー停止）スイッチ
73 リール前後・リール速度スイッチ
74 刈取昇降スイッチ
75 刈取クラッチボタン
76 水平手動スイッチ
77 刈取オートリフトボタン
78 刈取オートセットボタン
79 排出オーガクラッチスイッチ
80 排出オーガ手動スイッチ
81 オーガ自動旋回スイッチ
82 オーガリターンスイッチ
83 オーガ右セットスイッチ
84 オーガ後セットスイッチ
85 快速調節ダイヤル
86 快速制御スイッチ

3. キャビン



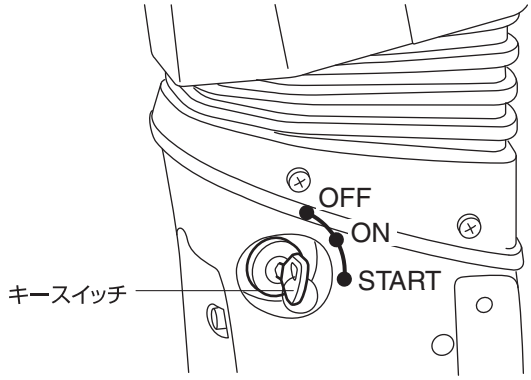


⑧⑦ アンテナ
⑧⑧ ドアウインドウ
⑧⑨ ドアハンドル
⑨⓪ サイドウインドウ
⑨① ワイパー
⑨② 灰皿
⑨③ フィルター
⑨④ ルームランプ
⑨⑤ 風向グリル（左右吹出口）
⑨⑥ スピーカー
⑨⑦ ワイパー&ウォッシャースイッチ
⑨⑧ 温度コントロールレバー
⑨⑨ ファンスイッチ
⑩⓪ エアコンスイッチ
⑩① 風向グリル（前方吹出口）
⑩② FM・AM 付 CD ラジオ
⑩③ サンバイザー

1. フロントコラム中央部

（1）キースイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



- 「OFF」位置…… エンジン停止時に使用する。（電流は流れず、キーを抜き取れる）
- 「ON」位置……各電装スイッチに電流が流れる。
- 「START」位置…セルモータが回転し、エンジンが始動する。エンジンが始動したらキーから手を離す。キーは自動的に「ON」位置に戻り、連続運転に入る。

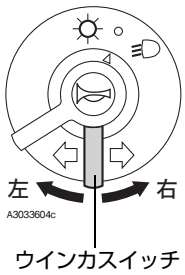
[参考]

- 寒冷時には、キースイッチを「ON」位置にしてから、数秒間はヒータが作動し、エンジンの始動を容易にします。ヒータ作動時にはセンターディスプレイに「ヒータ作動中」と表示されます。
  作業クラッチレバーが「脱こく・入」位置の場合には、安全のためにセルモータは回転しません。

（2）コンビネーションスイッチ

●ウインカスイッチ

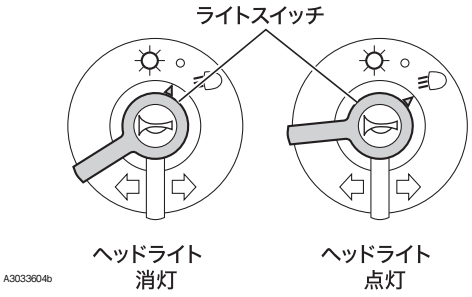
方向指示器を点滅させるときに使用します。
キースイッチを「ON」位置にして、旋回する側の矢印方向にスイッチを回すと、方向指示器が点滅します。同時にセンターディスプレイのウインカパイロットランプも点滅します。



- 右へ回す…… 右側が点滅する
- 左へ回す…… 左側が点滅する

●ライトスイッチ

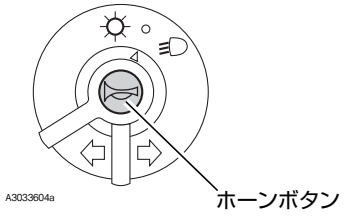
ヘッドライトを照射させるときに使用します。



キースイッチを「ON」位置にして、ライトスイッチを希望の位置に回してください。

●ホーンボタン

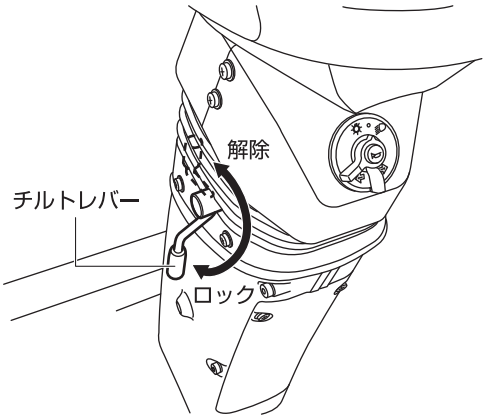
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

(3) チルトレバー

マルチハンドルの前後の角度を調節するときに使用します。

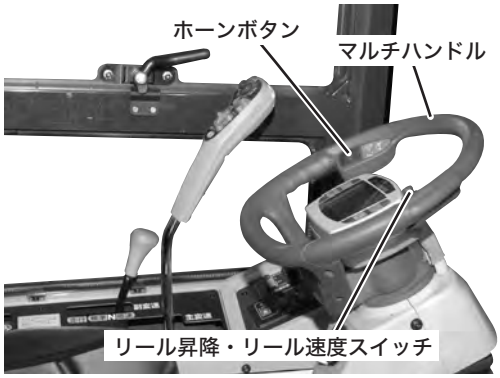


●「解除」方向……ハンドルの固定が解除される。
●「ロック」方向…ハンドルが固定される。
好みの角度に調節し、調節後は確実に固定してください。
(→59ページ参照)

2. ハンドル部

(1) マルチハンドル

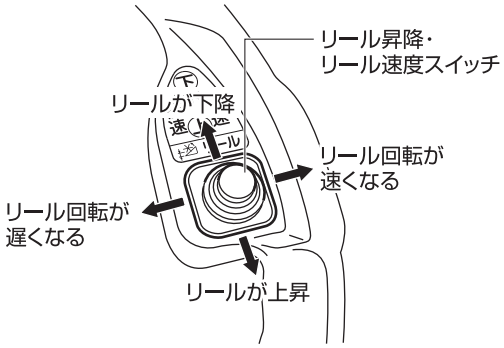
機体を旋回させるときに使用します。



マルチハンドルを右へ回すと機体が右へ旋回し、左へ回すと機体が左へ旋回します。
さらにマルチハンドルを右または左へ回すと、左右のクローラの回転差が大きくなり、旋回半径が小さくなります。

(2) リール昇降・リール速度スイッチ

ハンドルを握ったままで、刈取部のリール昇降・リール速度を調節するときに使用します。

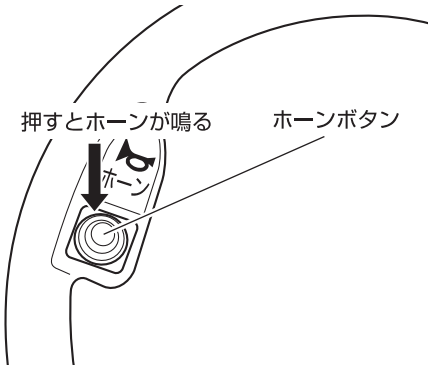


リール昇降機能
●「下」側……リールが下降する
●「上」側……リールが上昇する
リール回転速度調節機能
●「低速」側……リール回転が遅くなる
●「高速」側……リール回転が速くなる

[重要]
● オールマイティシフトレバー部のリール速度スイッチとマルチハンドル部のリール速度スイッチを誤まって同時に異方向へ操作した場合、リール速度を調節することができません。

(3) ホーンボタン

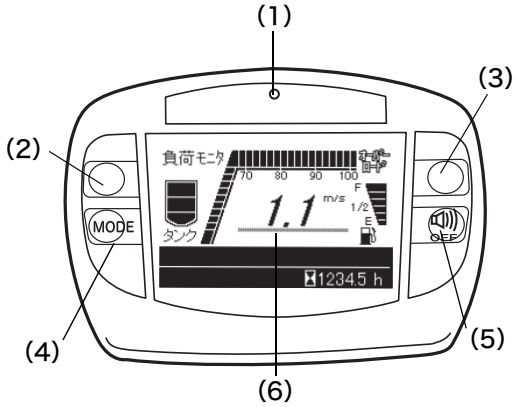
ホーン（警笛）を鳴らすときに使用します。



キースイッチを「ON」位置にして、ホーンボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

3. センターディスプレイ部

運転中の各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をモニター画面の文字やグラフィックとブザーで知らせます。



(1) 警報表示ランプ

各部の状態や、各部の状態に異常があったときに点灯し、ブザーが鳴ります。
また、異常内容はセンターディスプレイに表示されます。

(2) 設定スイッチ 1

設定を変更するときに使用します。

(3) 設定スイッチ 2

設定を変更するときに使用します。

(4) MODE（表示切替）スイッチ

警報画面などで、表示内容を切り替えるとき、および「設定メニュー」の画面に切り替えるときに使用します。

(5) OFF（ブザー停止）スイッチ

警報ブザーを停止するときに使用します。

次の警報の場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。

- エンジン系統（チャージ・油圧・水温）
- タンクシグナル
- 燃料残量
- もみ満量警報

次の警報の場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押してもブザーは鳴り止みません。

- オーバーロードモニター
- ロータ・1 番・2 番詰まり警報
- スプレッダ警報（オプション装着時）

[参考]

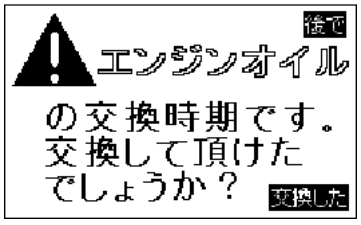
- 警報装置については、196 ページを参照してください。

(6) センターディスプレイ

運転中の機械の情報を文字とグラフィックで表示します。主な表示内容について以下に紹介します。

〈メンテナンス情報の画面〉

エンジンオイル交換など、メンテナンスが必要になったときに文字で表示します。



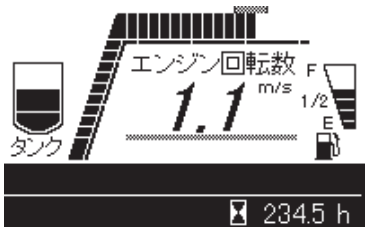
〈動作表示の画面〉

エンジンスタート時に、ヒータの作動を表示します。



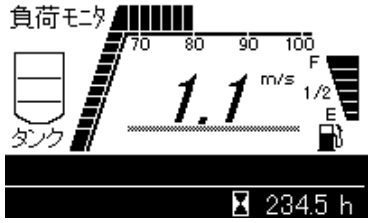
〈通常走行時の画面〉

オープニング画面表示の後、作業クラッチレバーが「脱こく・切」位置のときに表示します。



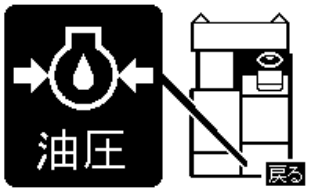
〈通常作業時の画面〉

エンジン始動後、作業クラッチレバーが「脱こく・入」位置にしたときに表示します。



〈異常箇所表示する画面〉

各部の状態や、異常があった場合の警報装置で、異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また、画面上部の警報表示ランプが点灯します。



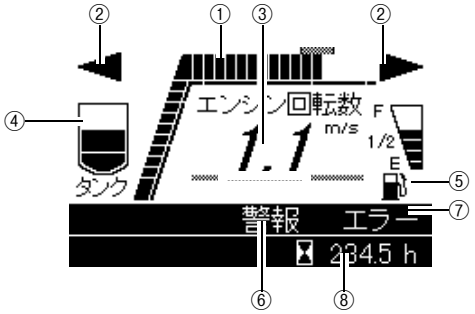
- キースイッチを「OFF」位置にすると、表示をリセットできます。

センターディスプレイについて

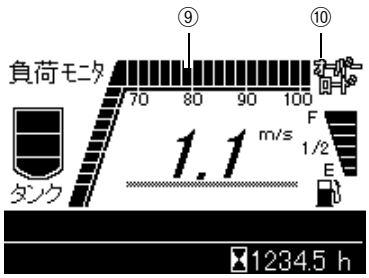
センターディスプレイでは、作業時に必要な情報を表示するモニター画面と、機能変更や微調整を行うメンテナンスモード（→ 60 ページ参照）の機能を持っています。

モニター画面について説明します。

〈通常走行時の画面〉



〈通常作業時の画面〉



①回転計

エンジン回転数を表示します。

②ウインカパイロットランプ

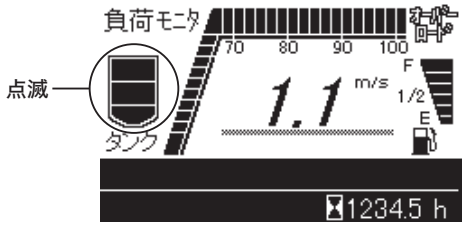
ウインカスイッチを操作したときに点滅します。

③走行速度

車速を表示します。

④グレンタンクモニター

グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが断続に鳴り、グレンタンクモニターが「3/3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画面を交互に表示します。



もみ満量画面



OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みますが「3/3」のタンクシグナルランプは点滅したままです。

充てん状況	ブザー	内容
3／3 	断続音	グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。
2／3 	停止	グレンタンク内に、こく粒が2/3充てんされています。
1／3 	停止	グレンタンク内に、こく粒が1/3充てんされています。

[参考]

● 排出オーガにてこく粒を排出するとグレンタンク内のこく粒が無くなる少し前に、センサが感知し、ブザーが断続で数秒間鳴ります。 

⑤燃料残量表示

燃料の残量を表示します。また、燃料の残量が少なくなったときに、給油マークが点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みます。給油マークは点滅したままです。



また、キースイッチ「ON」で燃料給油時に満量になると、ブザーが断続で鳴ります。

⑥警報表示

警報が発生したときに、警報が解除されるまでは「警報」の文字が表示されます。

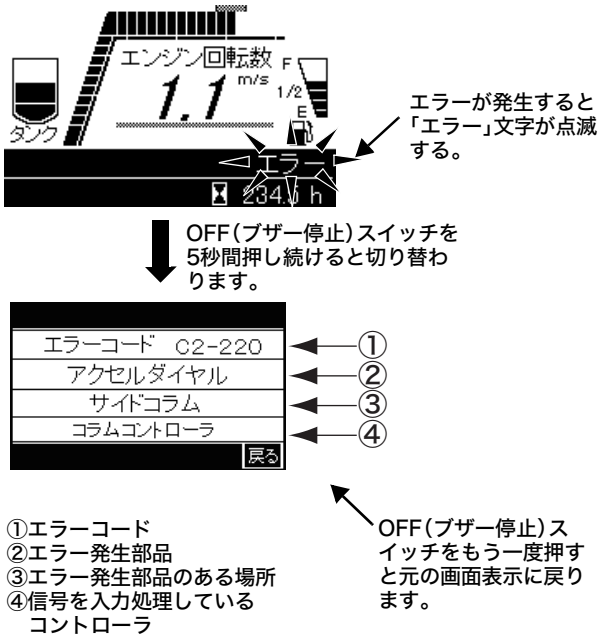
⑦センサーエラー表示

各種センサにエラーが発生したときに、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。

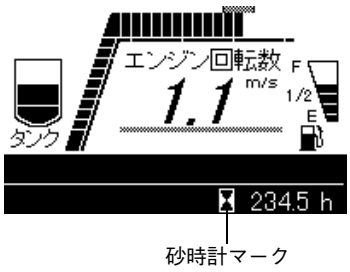
〈エラーコードの表示方法〉

OFF（ブザー停止）スイッチを５秒間以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生したセンサの名称とセンサの状態、そのセンサが入力されているコントローラの名称が表示されます。

もう一度 OFF（ブザー停止）スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。



⑧アワメータ（作業時間表示）
エンジンの使用時間の表示と、作業時間の表示ができます。エンジンの使用時間を表示しているときは「砂時計マーク」を表示し、作業時間を表示しているときは「作業時間」の表示をします。
エンジンの使用時間はエンジンを始動すると、カウントを始めます。作業時間はエンジンが回転中で作業クラッチを「刈取・入」位置にすると、カウントを始めます。
エンジン使用時間、作業時間の切り替え、および作業時間のリセットは、MODE（表示切替）スイッチで「設定メニュー」の画面に切り替えて行うことができます。（→ 63 ページ参照）
〈エンジン使用時間の画面〉



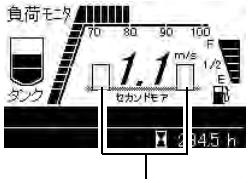
砂時計マーク

〈作業時間の画面〉

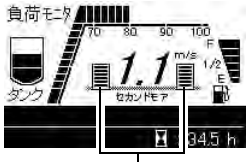


「作業時間」が表示される

⑨ロードモニター
エンジン負荷を表します。
⑩オーバーロードモニター
エンジン負荷が過負荷になったときに、「オーバロード」の文字が点滅し、ブザーが断続音で鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチではブザーを停止することができません。
⑪セカンドモアモニター（オプション）
セカンドモアの状態を表示します。



セカンドモア上昇（収納状態）

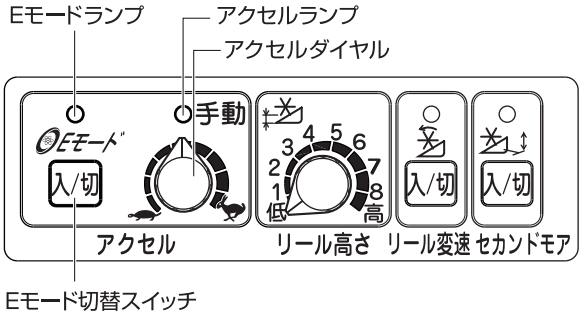


セカンドモア下降（作業状態）

4. サイドパネル部

（1）E モード切替スイッチ

エンジン回転を、自動制御したいときに使用します。

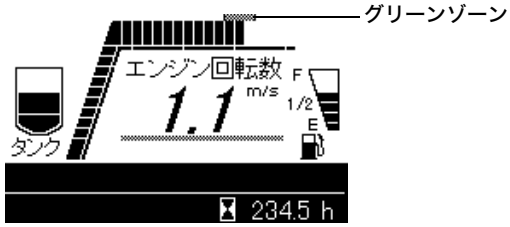


- 「切」状態（E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯）…アクセルダイヤルでエンジン回転を調節できる
- 「入」状態（E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯）…エンジン回転を自動的に制御する

〈自動定回転制御機能〉
作業負荷が変動（負荷率が 100%未満）しても、エンジン回転数を定格回転数（回転計の目盛りが示す「グリーンゾーン」位置）に保ちます。

〈オートデセル機能〉
E モード切替スイッチが「入」（E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯）状態で、下記の条件のときに、自動的にエンジン回転がセンターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置になり、下記の条件以外はアイドリング（1300rpm）回転数になります。

- オールマイティシフトレバーを前方・後方に倒す。（移動走行時）
- 作業クラッチレバーを「脱こく・入」位置にする。（脱こく時）このときエンジン回転表示から負荷モニタ表示になる。
- 排出オーガクラッチスイッチを「入」位置にする。（もみ排出作業時）
- オーガ自動旋回を行ったとき。



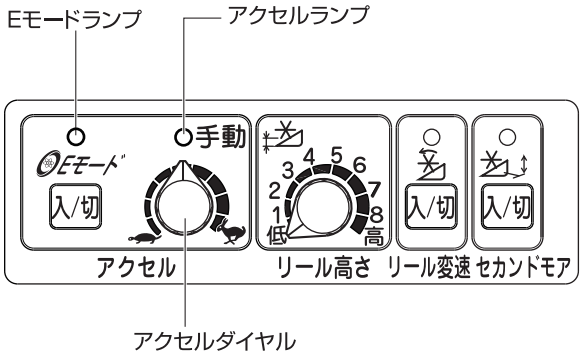
[参考]

- 走行状態で作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にし、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にして、走行を停止してもすぐには、エンジン回転はローアイドリング（低回転）になりません。約５秒間エンジン回転は、「グリーンゾーン」位置（定格回転）に保たれます。
- 走行が停止している状態で、作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置、排出オーガクラッチスイッチを「切」（ランプ消灯）にすると、すぐにローアイドリング（低回転）になります。

Eモード状態	エンジン回転数
切	アクセル位置
入	2500／1300

（2）アクセルダイヤル

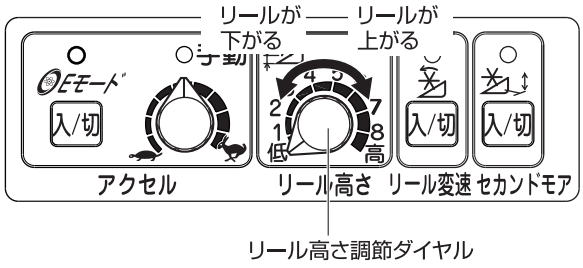
エンジン回転の調整に使用します。（E モード切替スイッチが「切」（E モードランプ消灯）のときアクセルランプが点灯し、アクセル調整ができます。）



- 右に回す…… エンジンの回転が上がる
- 左に回す…… エンジンの回転が下がる

（3）リール高さ調節ダイヤル

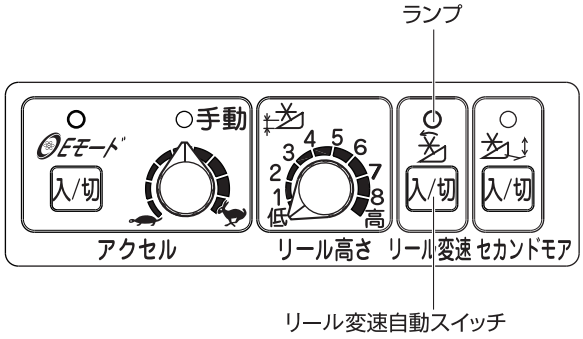
刈取オートセット作動時のリール高さを調節するときに使用します。



- 「低」側へ回す…リールが下がる
- 「高」側へ回す…リールが上がる

（4）リール変速自動スイッチ

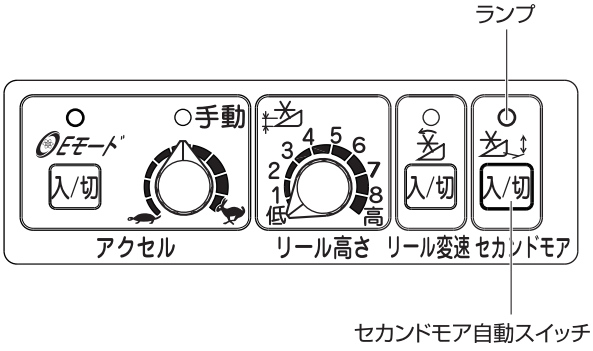
リールの回転速度と作業速度とを同調させる時に使用します。



- 「入」（ランプ点灯）…リール同調制御が働く
- 「切」（ランプ点灯）…リール同調制御が切れる

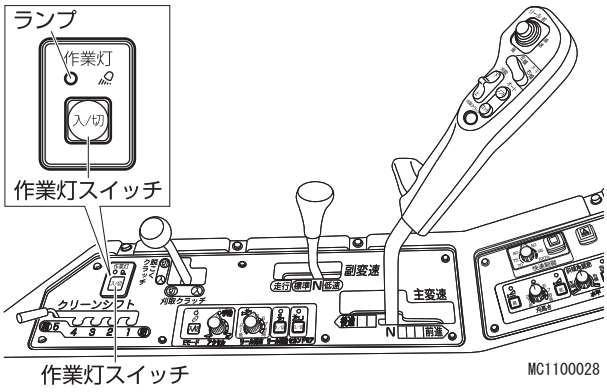
（5）セカンドモア（オプション）自動スイッチ

セカンドモア（オプション）を使用する時に使用します。（詳細はセカンドモアの取扱説明書をご覧ください。）



（6）作業灯スイッチ

作業灯（キャビン、オーガ先端）を点灯するときに使用します。

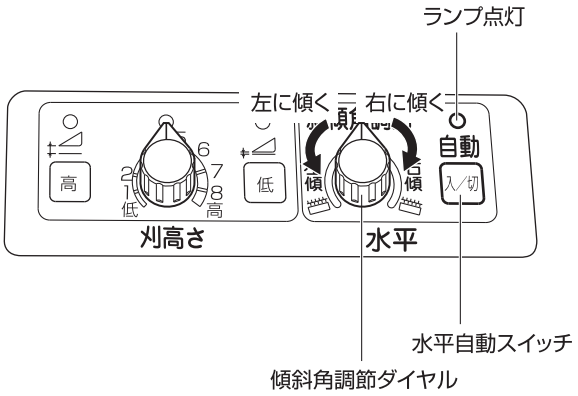


作業灯スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にすると、作業灯が点灯します。

5. サイドコラム部

（1）水平自動スイッチ

刈取部の水平を自動制御するときに使用します。



刈取水平制御装置は、作業クラッチレバーが「刈取・入」位置のときに作動します。（→ 107 ページ参照）

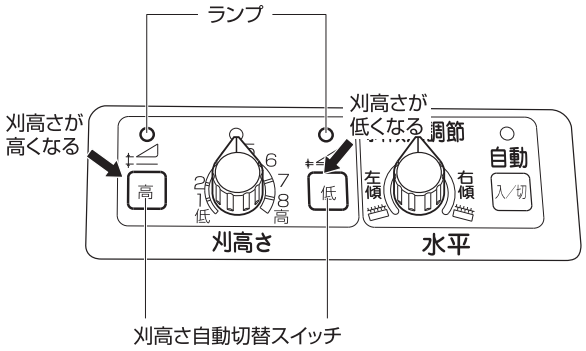
- 「入」（ランプ点灯）……刈取水平制御が働く
- 「切」（ランプ消灯）……刈取水平制御が切れる

⚠注意

- 傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、必ず水平自動スイッチを「切」（ランプ消灯）にしてください。機械が急に傾き、転倒し、ケガをするおそれがあります。

(2) 刈高さ自動切替スイッチ

刈高さを自動制御するときに使用します。
(→ 100 ページ参照)



〈低刈モード〉

刈取部のセンサソリが地面に接する高さで刈取作業を行うときに使用します。

- 「低」スイッチを押す(「低」ランプ点灯)
  ……刈高さを低刈モードで自動制御する
- 「低」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
  (「低」ランプ消灯)
  ……刈高さの自動制御が切れる
- 「低」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
  (「低」ランプ消灯し、「高」ランプが点灯)
  ……刈高さを高刈モードで自動制御する

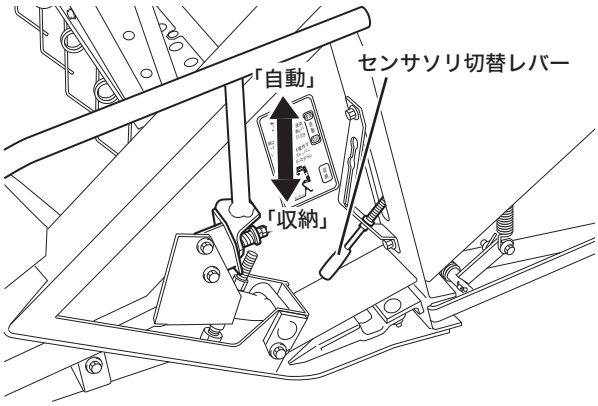
〈高刈モード〉

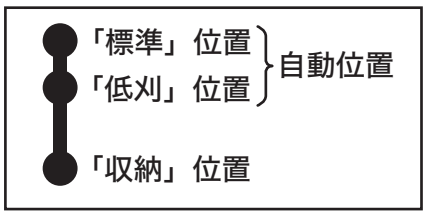
刈取部のセンサソリが地面に接地しない高さで刈取作業を行うときに使用します。

- 「高」スイッチを押す(「高」ランプ点灯)
  ……刈高さを高刈モードで自動制御する
- 「高」ランプ点灯中に「高」スイッチを押す
  (「高」ランプ消灯)
  ……刈高さの自動制御が切れる
- 「高」ランプ点灯中に「低」スイッチを押す
  (「高」ランプ消灯し、「低」ランプが点灯)
  ……刈高さを低刈モードで自動制御する

〈センサソリ切替レバーについて〉

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」位置(ランプ点灯)で、刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「自動」位置にしてください。
  自動位置には「標準」、「低刈」の 2 つのセット位置があります。
  「標準」…通常の低刈モードで作業するとき
  「低刈」…「標準」よりもさらに低い位置で作業したいとき





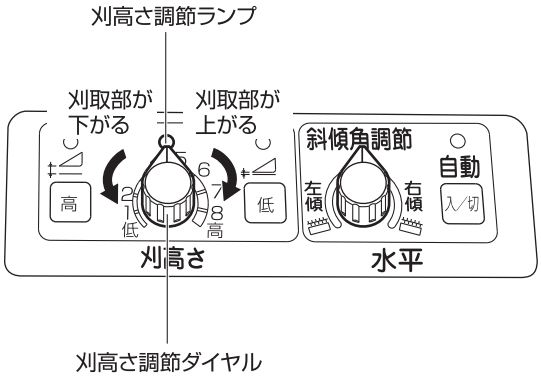
- 刈高さ自動切替スイッチが「低」・「高」ランプいずれも消灯の場合に刈取作業を行うときは、センサソリ切替レバーを「収納」位置にしてください。

[重要]

- センサソリ切替レバーを操作するときは、刈取部を地面に接地させた状態で行うと、軽く操作できます。
- 刈高さ自動制御が作動中に、刈取昇降スイッチを操作すると、手動操作による操作が優先されます。
- 後進するとき、センサソリが土を引っかけないように、必ず刈取部を上げてから行ってください。

(3) 刈高さ調節ダイヤル

刈高さ自動制御の刈高さを調節するときに使用します。



作業クラッチレバーが「刈取・入」のとき、「低」スイッチまたは「高」スイッチを押すとランプが点灯し、刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり停止します。
調節ダイヤルのランプが点滅し待機状態のときは、オートセットボタンを押してください。「低刈」の場合は手動操作にてセンサソリが接地するまで刈取を下げても自動になります。
このとき、刈高さ調節ダイヤルを回すと、自動制御する刈高さの調節ができます。

●「高」方向に回す……刈取部が上がる
●「低」方向に回す……刈取部が下がる

ランプの点灯状況			作動状況
低	刈高さ調節ランプ	高	
●	●	○	「低刈モード」作動中
●	◎	○	「低刈モード」作動していない(待機中)
○	●	●	「高刈モード」「OKリフト」作動中
○	◎	●	「高刈モード」作動していない(待機中)
ランプ(○:消灯・●:点灯・◎:点滅)			

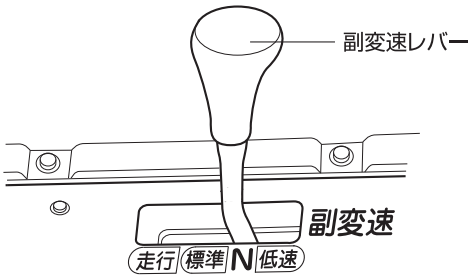
※作動中とは、自動制御が行われている状況のことです。
※待機中とは、自動制御が行われていない状況のことです。

＜低刈モード＞
刈取部のセンサソリが地面に接する高さで、刈取作業を行います。
＜高刈モード＞
刈取部のセンサソリが地面に接しない高さで、刈取作業を行います。センサソリが地面に接すると「クイックリフト」が作動し、刈取が上昇しますが、30cm 走行すると、もとの高さに下降します。

[参考]
●「クイックリフト」とは、高刈モードのときに刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止が働き、刈取部が自動的に上昇する機能のことです。

(4) 副変速レバー

使用目的や条件により、「低速」「標準」「走行」の 3 段階の走行速度が選べます

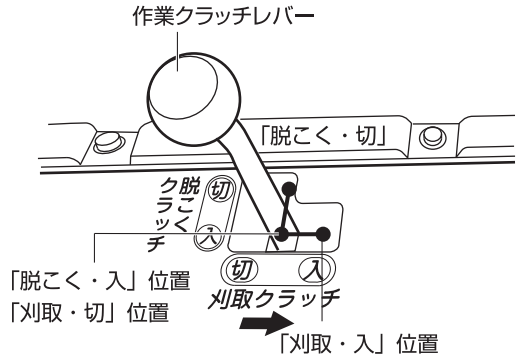


●「低速」位置 ……半倒伏や悪条件作物
●「標準」位置 ……標準的な刈取作業
●「走行」位置 ……移動走行
●「N」(中立) 位置…走行しない

[重要]
● 副変速レバーの変速は、オールマイティシフトレバーを、必ず「N」(中立) 位置にして、機体が完全に停止してから変速してください。
● セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
● 坂道では変速しないでください。

(5) 作業クラッチレバー

刈取部および脱こく部を作動させたり、止めるときに使用します。



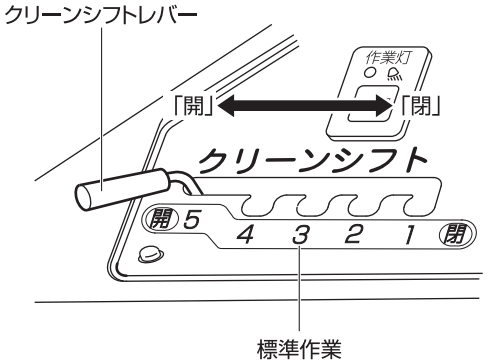
●「脱こく・切」…脱こく部も刈取部も停止する
●「脱こく・入」、「刈取・切」……
脱こく部は作動しているが、刈取部は停止している
●「刈取・入」……脱こくも刈取部も作動する

[重要]

●Eモード「入」（Eモードランプ点灯）でエンジン回転が定格回転の時に、作業クラッチレバーを「脱こく・入」にすると伝達ベルトを保護する目的で、一旦エンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。

(6) クリーンシフトレバー

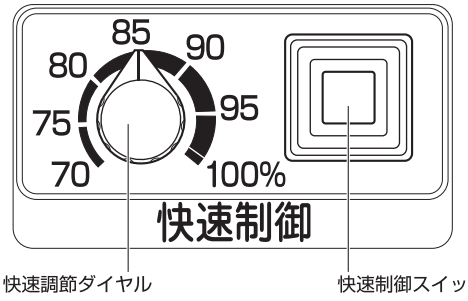
脱こく内部のチャフシーブの角度を、作物の条件に応じて調節するときに使用します。



●「1」・「2」位置……選別が悪いとき・枝梗が多いとき
●「3」位置……標準作業
●「4」～「5」位置… 作物が湿材のとき・籾飛散が多いとき

(7) 快速制御スイッチ

エンジンの負荷率により、車速を自動制御したいときに使用します。



快速制御スイッチ

●快速制御の「入」「切」を行います。
●「入」快速制御作動状態（スイッチランプ点灯）…
エンジンの負荷に応じて、自動的に車速を減速します。
●「入」快速制御待機状態（スイッチランプ点滅）…
本機のエンジン負荷率が設定負荷率以下のためオールマイティシフトレバー位置の車速になっています。
●「切」状態（スイッチランプ消灯）…
エンジンの負荷率に関係なく、オールマイティシフトレバー位置の車速になっています。

快速調節ダイヤル

●作物の状態や使用条件に合わせて、最適な状態で作業を行えます。ダイヤル位置の負荷で快速制御が作動します。

〈快速制御機能〉

エンジンの負荷が快速調節ダイヤルで設定した負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷になれば車速をオールマイティシフトレバーの位置に戻します。快速制御が働くエンジン負荷率は、作物の状態や使用条件に合わせて、任意に設定してください。オールマイティシフトレバーの操作頻度が軽減され、連続作業性が向上します。

[重要]

●減速制御には限界があります。必ず負荷モニターや機械の状態を確認しながら作業を行ってください。

●快速制御装置の作動条件はEモード「入」、快速制御スイッチ「入」、作業クラッチレバー「刈取」、車速0.5m/s以上のときです。
●快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。
●快速スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。快速スイッチランプが点滅または消灯してからオールマイティシフトレバーから手を離してください。
●快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）でもオールマイティシフトレバーによる減速操作は優先して行えます。

快速調節ダイヤルの調節

作物の状態や使用条件に合わせて、以下の要領で調節してください。

作業開始時は、ダイヤル目盛の緑範囲位置から初めてください。

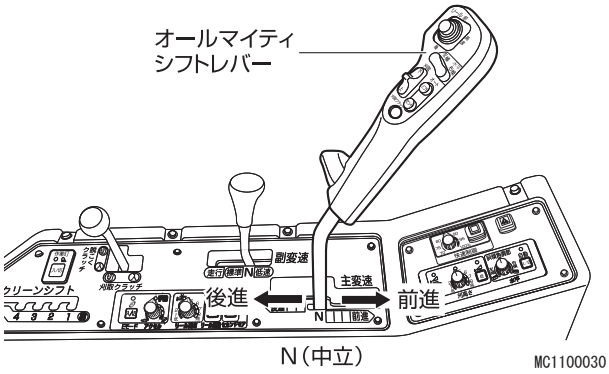
作物の状態や使用条件に合わせて、快速調節ダイヤルを適宜調節してください。

快速調節ダイヤルの位置	作物の状態	負荷モニタの状態
70% 標準 （緑範囲） 100%	全倒伏の場合 作物が湿っている場合 直立と倒伏が混在の場合 半倒伏の場合 直立の場合 脱粒しやすい品種や作物を刈る場合	負荷変動が大きく不安定な場合 負荷変動が少なく安定している場合

6. オールマイティシフトレバー部

（1）オールマイティシフトレバー（HST）

前進・後進の進行方向と走行速度の調節、および走行の停止に使用します。



●前方に押す……機体が前進する
●手前に引く……機体が後進する
●「N」（中立）位置…機体が停止する

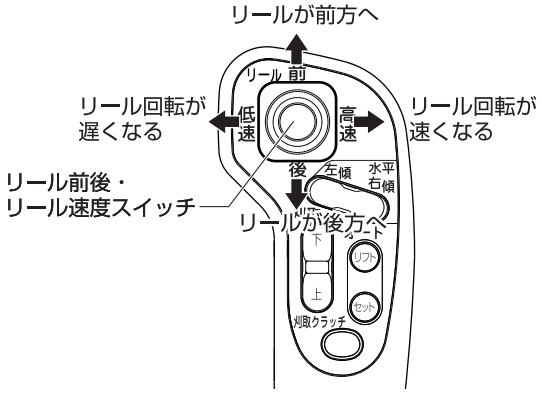
走行速度は、レバーの操作量によって無段階に選べます。

[重要]

●セフティペダルを踏み込んでいるときは、オールマイティシフトレバーは「N」（中立）位置に戻り、オールマイティシフトレバーの操作はできません。

（2）リール前後・リール速度スイッチ

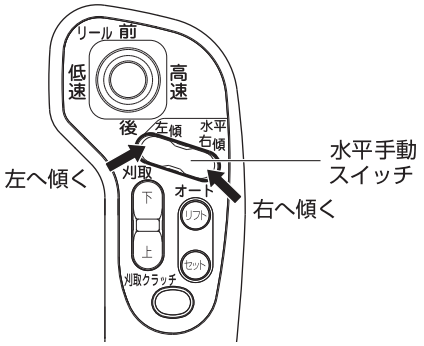
リールの前後位置と回転速度の調節をするときに使用します。



●「前」側……リールが前方へ動く
●「後」側……リールが後方へ動く
●「低速」側……リールの回転速度が遅くなる
●「高速」側……リールの回転速度が速くなる

(3) 水平手動スイッチ

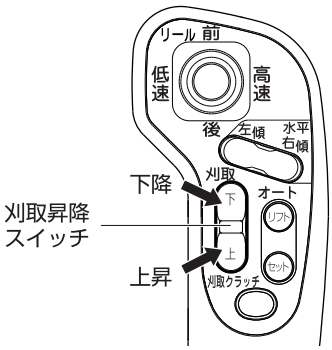
うねのあるほ場などで本機が傾いた場合、刈取部の位置を調節するときに使用します。



●「左側」……刈取部が左へ傾く
●「右側」……刈取部が右へ傾く

(4) 刈取昇降スイッチ

刈取部の上昇・下降をするときに使用します。



●「下」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く下降する
●「上」側……軽く押すと刈取部がゆっくり、深く押すと速く上昇する

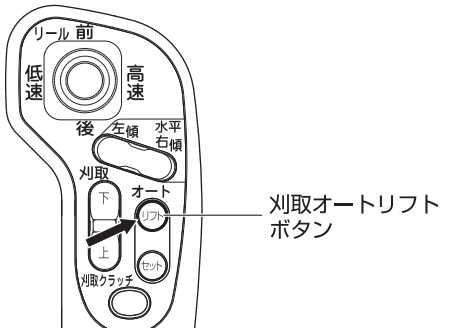
[参考]

●フィット昇降機能により、スイッチの押し加減で微妙な刈高さ調節が行えます。
（フィット昇降速度の設定は61ページ参照）

(5) 刈取オートリフトボタン・刈取オートセットボタン

●オートリフトボタン

設定している高さに、刈取部を上昇させるときに使用します。



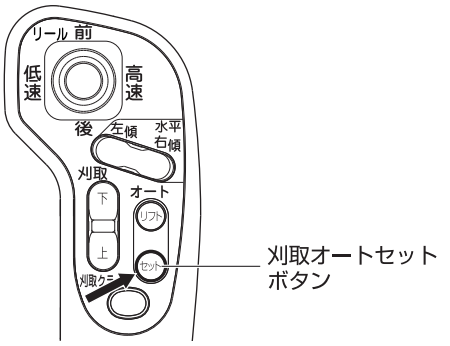
作業クラッチレバーが「刈取・入」位置のとき、オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定位置まで上昇します。（→99ページ参照）

[参考]

●出荷時の設定位置は刈刃の高さが、約 70cm の高さに設定されています。

●オートセットボタン

設定している適正な刈高さに、刈取部を下降させるときに使用します。



作業クラッチレバーが「刈取・入」位置で、オートセットボタンを押すと、刈取部が刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降します。（→99ページ参照）

(6) 刈取クラッチボタン

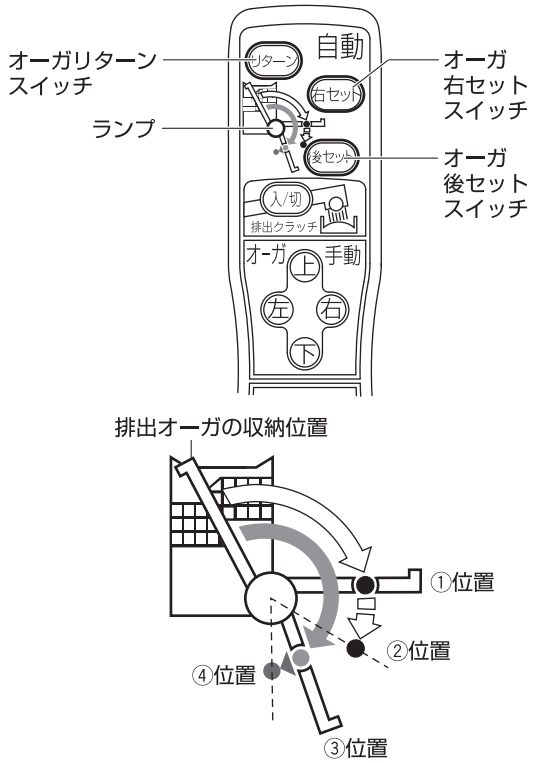
作業クラッチレバー「刈取・入」で、刈取が作動しているときに刈取クラッチボタンを押すと、刈取が停止します。また、刈取が停止しているとき刈取クラッチボタンを押すと刈取が作動します。



7. オーガマルチリモコン

(1) オーガ自動旋回スイッチ

排出オーガを自動的に、排出位置やオーガレストへ旋回させるときに使用します。(→109ページ参照)



オーガ右セットまたはオーガ後セットスイッチにより、4か所(①②③④)の位置に排出オーガを移動させることができます。(オーガオートセット装置)

〈右セット位置①への移動〉

● オーガ右セットスイッチを長押し(0.2秒以上)する
ランプ(赤)が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇した後、①の位置まで右旋回します。

〈右セット位置②への移動〉

● ランプ(赤)が点灯中にオーガ右セットスイッチを押す
ランプ(赤)が点滅し、排出オーガは②の位置まで右旋回します。

〈後セット位置③への移動〉

● オーガ後セットスイッチを長押しする
ランプ(橙)が点灯し、排出オーガは最上昇位置まで上昇した後、③の位置まで右旋回します。

〈後セット位置④への移動〉

● ランプ(橙)が点灯中にオーガ後セットスイッチを押す
ランプ(橙)が点滅し、排出オーガは④の位置まで右旋回します。

〈自動旋回を停止させるには〉

オーガが作動中に手動操作するとランプが消灯し、自動旋回が停止します。

[参考]

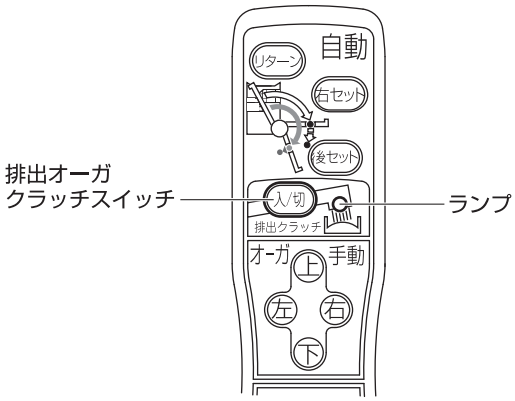
● オーガオートセット装置が作動中に、排出オーガ手動スイッチを操作すると、排出オーガ手動スイッチの操作(手動操作)が優先します。(オーガ自動旋回制御が切れ、ランプが消灯します。)

〈オーガオートリターン装置〉

オーガリターンスイッチを長押しすると、ランプ(緑)が点灯し、自動的に旋回してオーガレストに収納されます。収納後はランプは消灯します。
(→108ページ参照)

(2) 排出オーガクラッチスイッチ

グレンタンクのこく粒を、排出オーガの先端から排出するときに使用します。



● 「入」(ランプ点灯)…こく粒が排出される
長押し(0.2 秒以上)

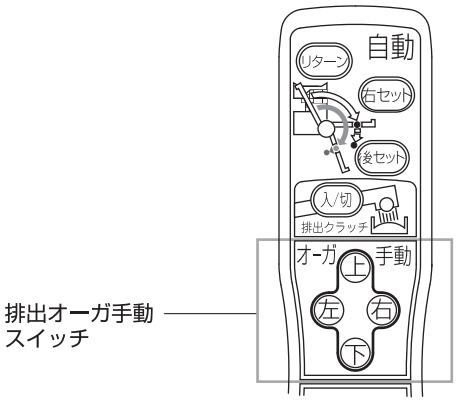
● 「切」(ランプ消灯)…こく粒の排出を停止する

[参考]

● 排出オーガが収納位置付近にある場合は、誤操作防止のために、排出オーガクラッチスイッチを押してもこく粒は排出されません。

(3) 排出オーガ手動スイッチ

排出オーガを昇降・左右旋回させるときに使用します。



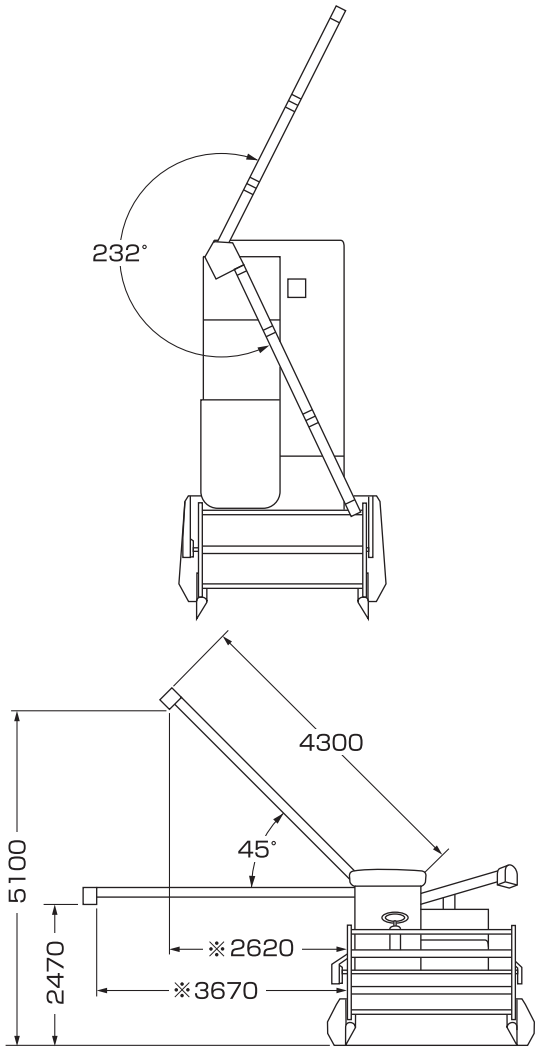
- ●「上」…… 排出オーガが上昇する
- ●「下」…… 排出オーガが下降する
- ●「右」…… 排出オーガが右に旋回する
- ●「左」…… 排出オーガが左に旋回する

[重要]

- ●排出オーガを手動で旋回するときは、最上昇位置にしてから行ってください。最上昇位置にしないと、グレンタンク後方のグレンタンクガードに当たります。
- ●排出オーガ手動スイッチで排出オーガを連続操作したときは、微調整が行いやすいように、動き始めはゆっくりと動き、その後徐々に速く動きます。

＜手動での旋回範囲＞

（単位：mm ）

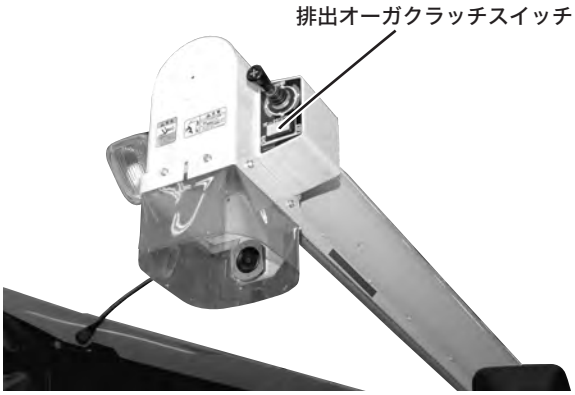


※グレンタンク側面からの寸法です。

8. オーガ先端

(1) 排出オーガクラッチスイッチ (オーガ先端)

こく粒を排出するときに、トラックの荷台から操作できます。



●「入」側を押す……こく粒が排出される
●「切」側を押す……こく粒の排出が止まる

[参考]

●排出オーガが収納位置付近にある場合は、誤操作防止のために、排出オーガクラッチスイッチの「入」を押してもこく粒は排出されません。

[重要]

●**排出中に詰まりセンサを手で押さないでください。センサが反応し途中で排出が中断されるおそれがあります。**



(2) 排出オーガクロスレバー(オーガ先端)

こく粒を排出するときに、トラックの荷台から排出オーガの微調整ができます。



●「上」側…… 排出オーガが上昇する
●「下」側…… 排出オーガが下降する
●「右」側…… 排出オーガが右に旋回する
●「左」側…… 排出オーガが左に旋回する

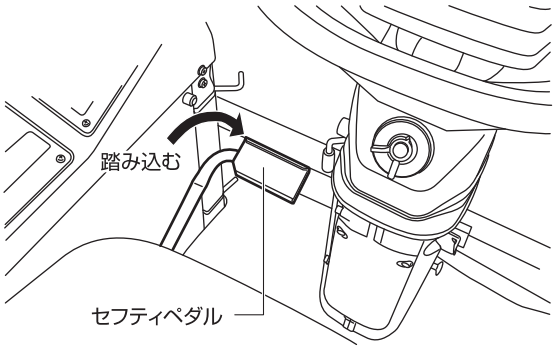
[参考]

●オーガ先端部の排出オーガクロスレバーで操作した場合、キャビン内の排出オーガ手動スイッチで操作するよりも排出オーガがゆっくりと動きます。
●排出オーガが、収納位置付近にある場合は、誤動作防止のために排出オーガクロスレバー操作をしても排出オーガは動きません。

9. その他の操作関係

(1) セフティペダル

エンジン始動時、および走行中の緊急停止時に使用します。



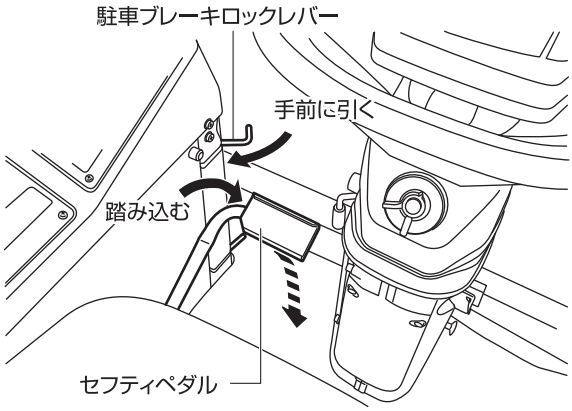
セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立) 位置に戻り、機体が停止し、ブレーキがききます。

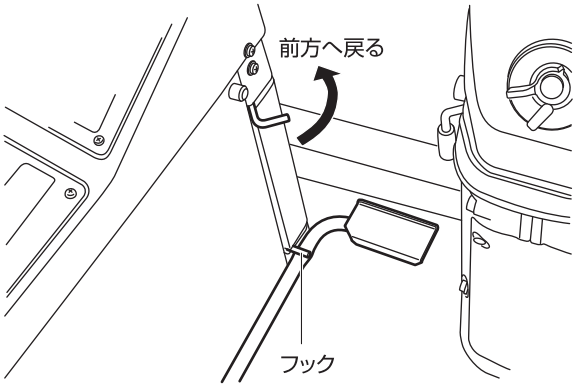
[参考]

●通常の走行停止は、オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にして行ってください。

(2) 駐車ブレーキロックレバー

ドライバーシートに座って、駐車ブレーキをかけるときに使用します。





セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。

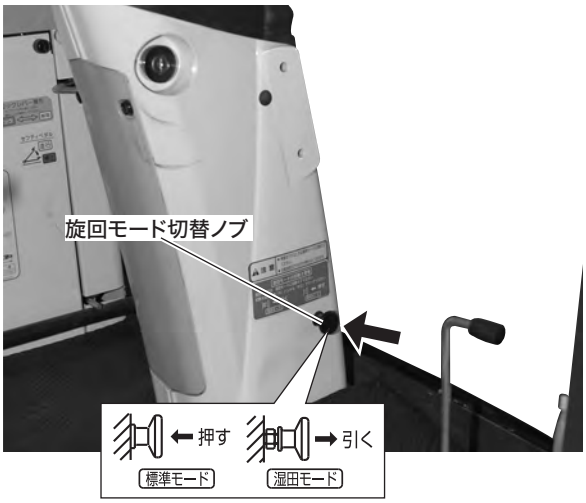
解除するときは、セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フックが外れて解除できます。

[参考]

●駐車ブレーキをかけると、オールマイティシフトレバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

(3) 旋回モード切替ノブ

旋回モードを切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「標準モード」になっています。



旋回モード切替ノブは、オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置、マルチハンドルを「直進」位置にして操作してください。

●ノブを押し込む……標準モード
(スピンターンする)

●ノブを引き出す……湿田モード
(スピンターンしない)

[参考]

●「標準モード」では、旋回時に自動減速が働いて小回りができますが、「湿田モード」では、自動減速せずに大回りになります。移動走行するときは、「標準モード」にしてください。

●乾田作業・移動走行では、「標準モード」を使用してください。湿田作業をする場合は、「標準モード」でも十分に作業は可能ですが機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

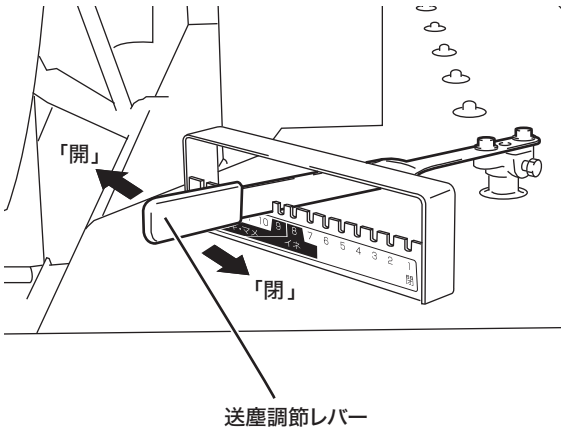
[重要]

●移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。

	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする (小回り)	スピンターンしない (大回り)
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意：ハンドルを切りすぎない	◎ (旋回力大)
移動走行性能	◎	× (使用不可)
車庫入れ性能	◎	× (使用不可)

(4) 送塵調節レバー

ロータ内の作物の流れを、作物の種類や条件に応じて調節するときに使用します



〈標準的な作物の調節位置〉

●麦・大豆……「9」位置

●稲……「8」位置

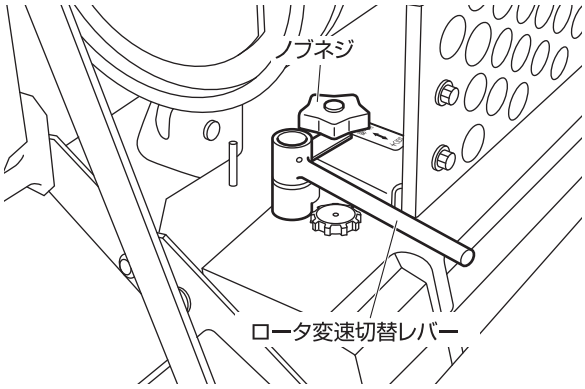
●そば・ハト麦など…「10」～「13」位置

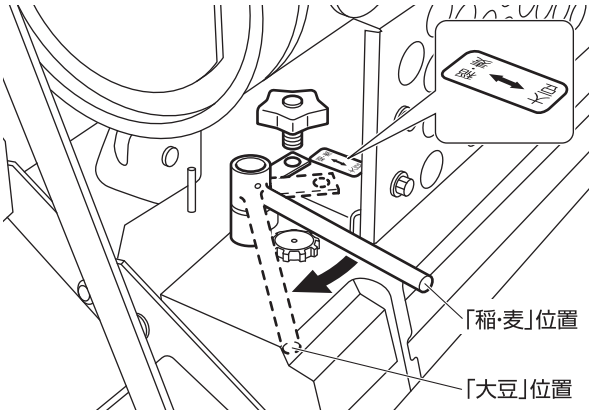
レバー位置の銘板



(5) ロータ変速切替レバー

ロータ回転を「稲・麦」「大豆」に切り替えるときに使用します。
工場出荷時は、「稲・麦」になっています。





ノブネジを外して、レバーを切り替えることができます。

- 「稲・麦」位置
  ……「稲」・「麦」を刈るときに使用します。
- 「大豆」位置
  ……「大豆」・「小豆」「そば」を刈るときに使用します。

[参考]

- レバーを切り替えたときは、確実に切り替わったことを確認し、ノブネジで固定してください。

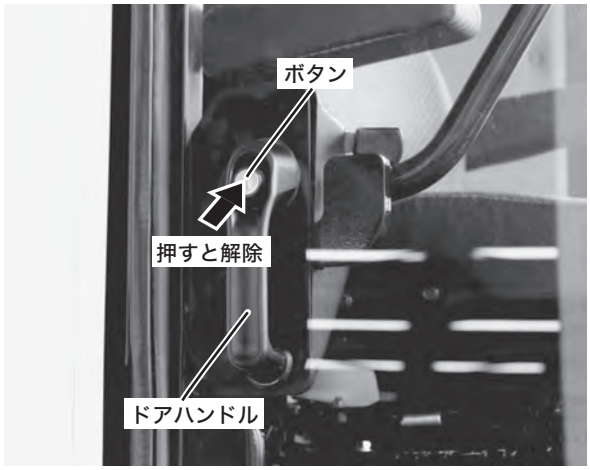
⚠注意

- ロータ変速切替レバーの近くに高温部がありますので、ロータ変速切替は、高温部分が十分に冷めてから行ってください。
  守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

10.キャビン関係

(1) ドアハンドル(外側・内側)

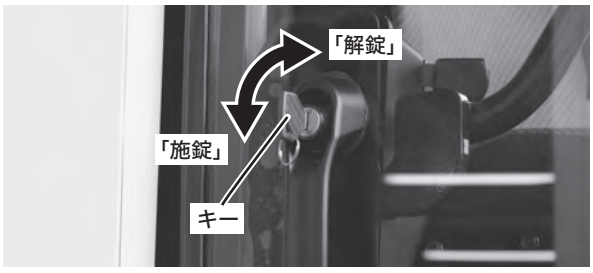
車外からドアを開閉するときに使用します。
・外側



〈開けかた〉
ドアハンドルを持ち、ボタンを押してロックを解除した後、ドアを開いてください。
〈閉めかた〉
ドアハンドルを持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

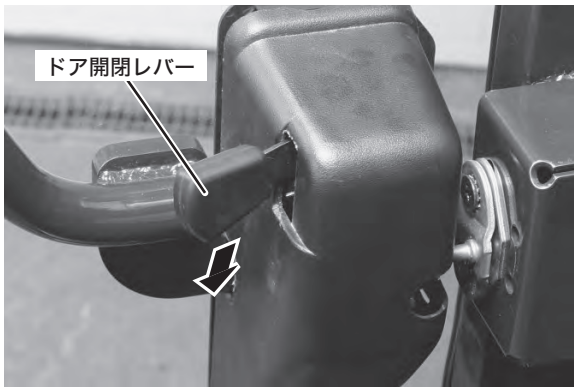
[参考]

- ドアを閉めたときは、半ドアになっていないか必ず確認してください。



〈施錠のしかた〉
ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、左側に90度回してください。ドアが施錠されます。
キーを抜いてください。
〈解錠のしかた〉
ドアハンドルのボタン部にキーを差し込み、右側に90度回してください。ドアが解錠されます。
キーを抜いてください。

・内側



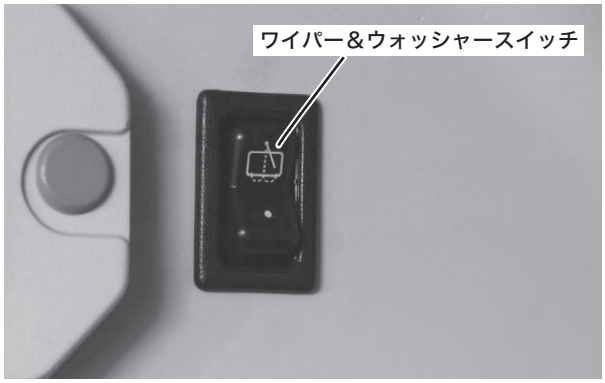
〈開けかた〉
ドア開閉レバーを下方に押してください。ドアが開きます。
〈閉めかた〉
取っ手を持ち、確実にロックされるまで閉めてください。

[参考]

● ドアを閉めたときは、半ドアになっていないか必ず確認してください。

(2) ワイパー&ウォッシャースイッチ

ワイパーの作動と、ウォッシャー液を噴出するときに使用します。



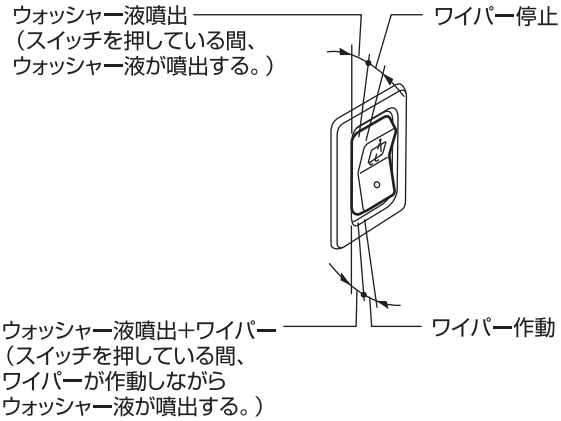
キースイッチが「入」位置のとき

● スイッチの下側を1段押す……
ワイパーが作動する

● スイッチの下側を最後まで押す……
押している間は、ワイパーが作動しながらウォッシャー液が洗浄噴出口から噴出する

● スイッチの上側を1段押す……
ワイパーが停止する

● スイッチの上側を最後まで押す……
押している間はウォッシャー液が洗浄液噴出口から噴出する



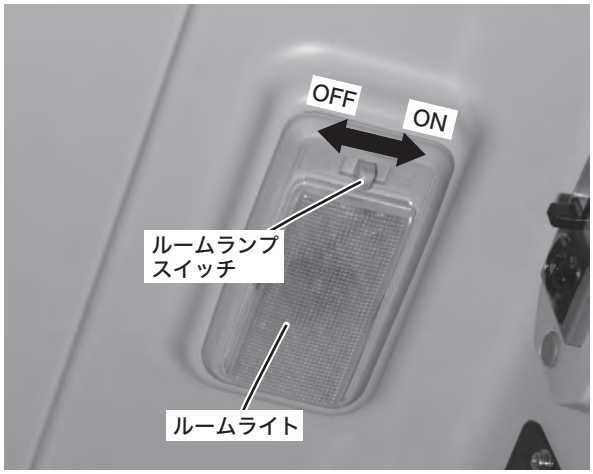
[重要]

● ウインドウガラスが乾いているときは、ワイパーを作動させないでください。ガラスやワイパーが傷つくおそれがあります。必ず、ウォッシャー液で濡らしてからワイパーを作動させてください。

●ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。ウォッシャー液が出ない状態で作動させるとウォッシャーモータの故障の原因になります。
●ウォッシャー液が出ないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。(→ 168 ページ参照)
●寒冷時、ワイパーブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがあります。張りついたまま作動させると、ワイパーが破損するおそれがありますので、温風でフロントガラスを暖めてください。
●エンジン停止状態でワイパーを長時間使用しますと、バッテリ容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

(3) ルームランプスイッチ

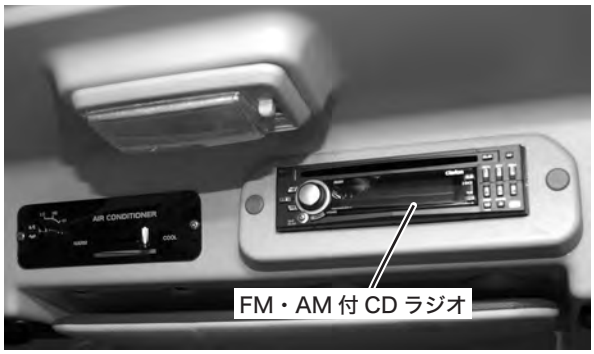
キャビン内で作業するときに使用します。



キースイッチが「ON」位置のとき
●「ON」位置 ……ルームライトが点灯する
●「OFF」位置 ……ルームライトが消灯する

[参考]
●「ON」と「OFF」の中間位置ではルームライトは点灯しません。

(4) FM･AM付CDラジオ



取り扱いについては、付属の取扱説明書をお読みください。

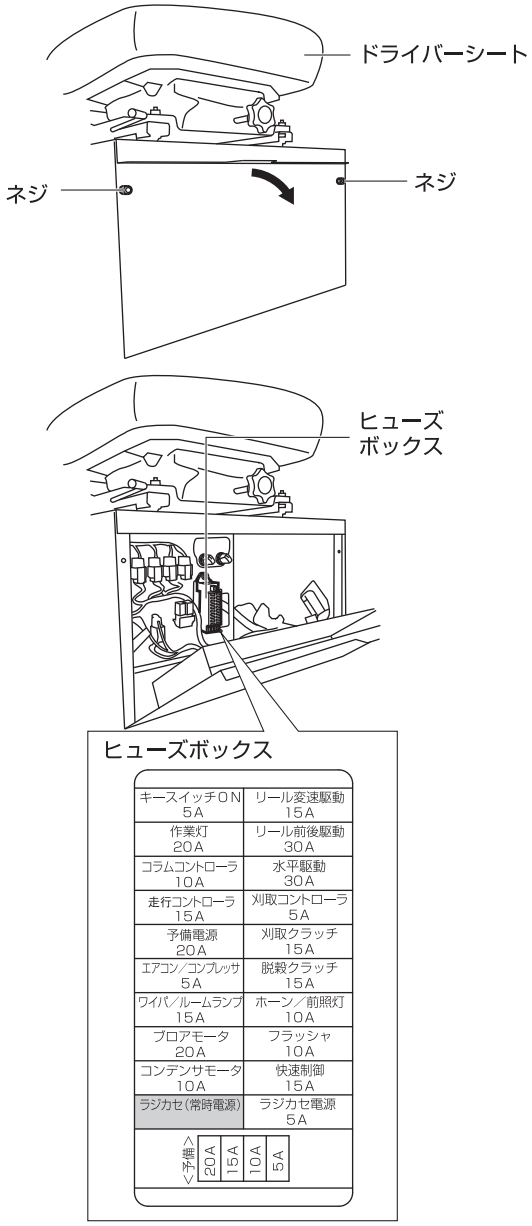
〈バックアップ電源について〉
バックアップ電源は、FM・AM付CDラジオにバッテリからの電源を供給し、キャビン内のヒューズボックスのヒューズを抜き差しして切り替えます。

[参考]
●通常は、FM・AMラジオ用の「ラジカセ（常時電源）」の5Aヒューズは抜けている状態です。
●この状態では、キースイッチを「OFF」位置にすると、本体から電源が切れて、プリセットメモリーおよび時計表示が消えますので、再セットが必要です。これは、バッテリ放電防止のためにバックアップ電源をキースイッチ「OFF」位置で切ってしまうためで、故障ではありません。

〈バックアップ電源の切り替えかた〉

⚠注意
●「ラジカセ（常時電源）」のヒューズに限り、抜き差しをするときには、必ずキースイッチを「ON」位置にして行ってください。守らないと、「ラジカセ（常時電源）」のヒューズを抜き差ししたときに、火花が飛び、他の機器を破損させるおそれがあります。

1. キースイッチを「ON」位置にしてください。
2. ヒューズボックスの「ラジカセ（常時電源）」の箇所に予備の5Aヒューズを差し込んでください。
3. キースイッチを「OFF」位置にしてください。



[参考]

● この状態では、プリセットメモリーおよび時計表示は、キースイッチの「ON」「OFF」位置に関係なく作動します。

[重要]

● 「ラジカセ（常時電源）」の箇所に5Aヒューズが差し込まれた状態では、長期間（1 カ月以上）使用しないと、バッテリが放電して使用できなくなることがあります。必ず5Aヒューズを抜いて通常の状態に戻してください。

(5) ファンスイッチ

風量を調節するときに使用します。



風量を3段階に調節できます。

● 「OFF」位置…… ファン回転停止

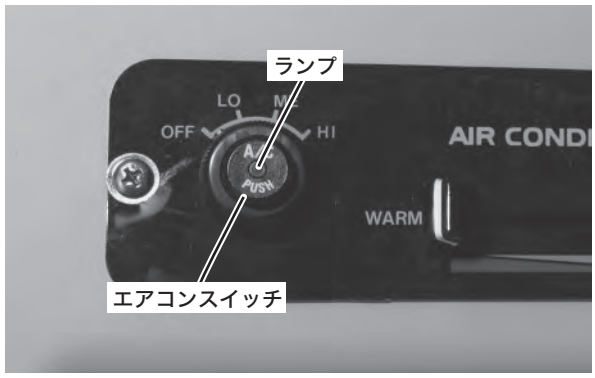
● 「LO」位置…… 弱風
● 「ME」位置…… 弱風と強風の中間
● 「HI」位置…… 強風

[参考]

● エアコンスイッチを入れる前に、ファンスイッチを希望の風量位置にセットしておきます。

(6) エアコンスイッチ

エアコン電源を「ON」「OFF」するときに使用します。



キースイッチが「ON」位置のとき

● 1回押す…… エアコン「ON」（ランプ点灯）
● ランプ点灯時に押す… エアコン「OFF」（ランプ消灯）

[重要]

● エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」（ランプ点灯）にしてください。

●エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、JAで点検を受けてください。

[参考]

●ファンスイッチが「OFF」位置のときは、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてもエアコンは作動しません。

(7) 温度コントロールレバー

エアコンの風の温度を調節するときに使用します。



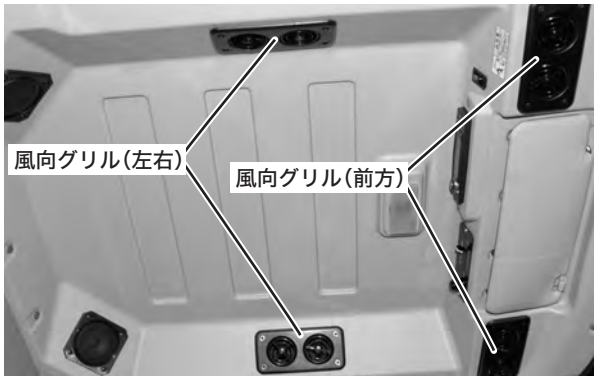
●「WARM」側 … 近づけるほど風の温度は高くなる

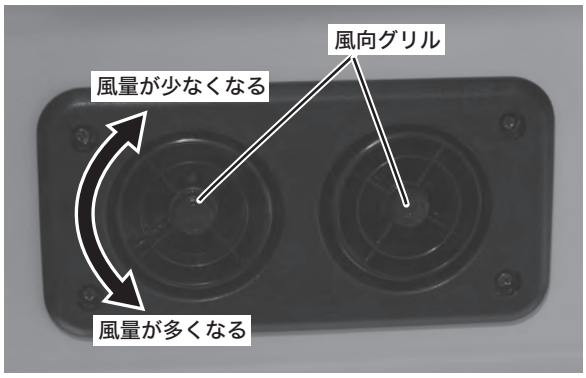
●「COOL」 側 … 近づけるほど風の温度は低くなる

(8) 風向グリル

風量を変更するときに使用します。

風向グリルは、キャビン内の前方と左右にあります。

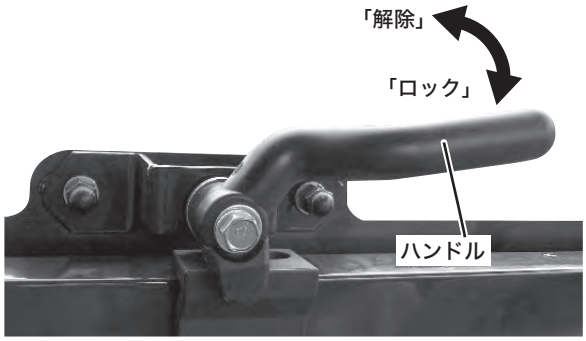




吹出口の風向グリルを矢印方向（右回転）に回転すると風量が少なくなり、反回転（左回転）にすると風量が多くなります。

(9) サイドウインドウ

開閉することができます。



〈開けかた〉

ハンドルを回してロックを外し、そのまま外側に押してください。

窓が自動的に開きます。

〈閉めかた〉
ハンドルを持って手前に引き寄せ、ハンドルを回してロックしてください。

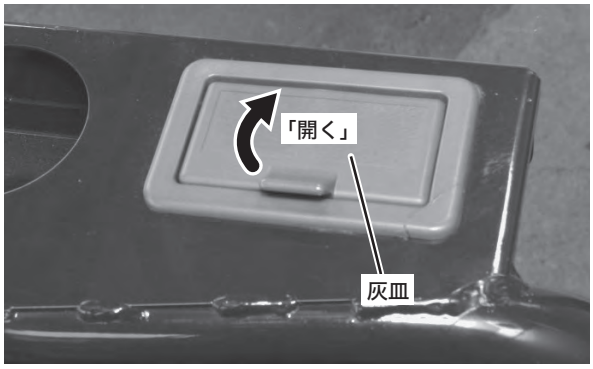
(10)灰皿

⚠注意

●灰皿を掃除するときは、灰皿内のたばこが確実に消火し、灰皿が十分に冷えてから行ってください。

〈使いかた〉
灰皿のふたはキャビン内の右側（ドアの内側）にあります。
灰皿を開いて使用してください。使用後は、灰皿のふたを押して収納してください。

〈灰皿の取り外しかた〉
灰皿を掃除するときは、下記の要領で脱着してください。
1. 灰皿のふたを開いてください。
2. 板バネを軽く押えながら、灰皿を引き出してください。



〈灰皿の取り付けかた〉
取り外しの逆手順で取り付けてください。

11.その他

(1) ドライバーシート

運転者の体格に合わせて、前後に80mm・上下に60mmおよびリクライニングの調節ができます。



- シートの前後調節… 前後調節レバーで前後に80mmスライドする（→58ページ参照）
- シートの上下調節… サスペンション調節ノブを回して、上下およびシートの硬さを調節する（→58ページ参照）
- リクライニング……リクライニングレバーで調節する
- アームレスト…… 左右とも90°可動

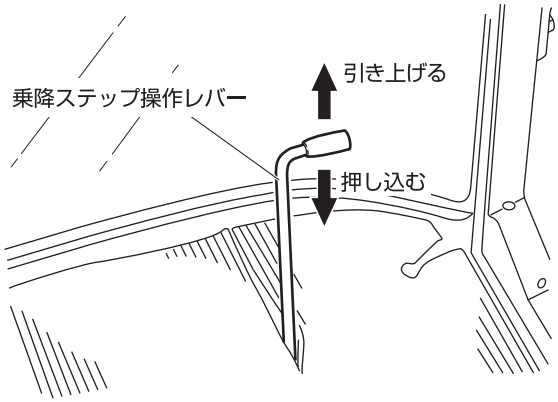
(2) 取扱説明書収納ポケット

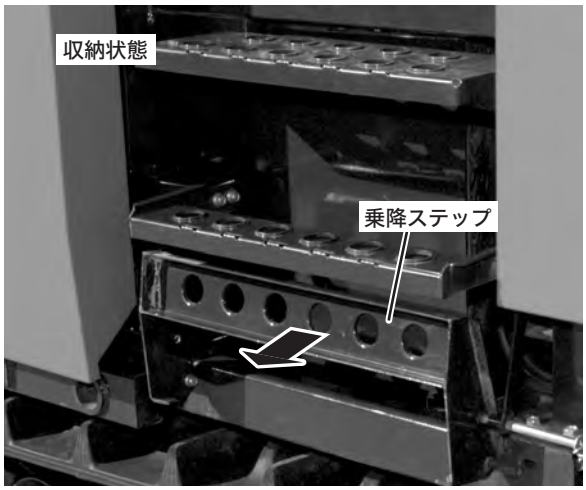
取扱説明書を収納するポケットが、ドライバーシートの後にあります。



(3) 乗降ステップ操作レバー

乗降ステップ操作レバーを押し込むと、乗降ステップが収納します。また、乗降ステップ操作レバーを引き上げると乗降ステップが出ます。





[重要]

- **トラックに積み・降ろしをするときは、乗降ステップを収納してください。ステップの破損・変形を防ぐことができます。**
- **移動走行するときは、乗降ステップを収納してください。**

[参考]

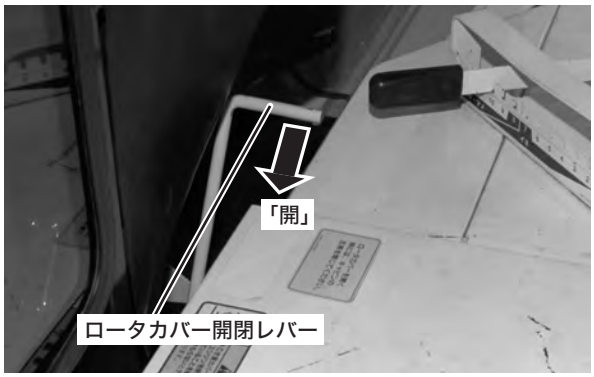
- **機体から降りたときに、乗降ステップの出し入れをするときは、乗降ステップ自体を手で持って行ってください。**

(4) ロータカバー開閉レバー

⚠注意

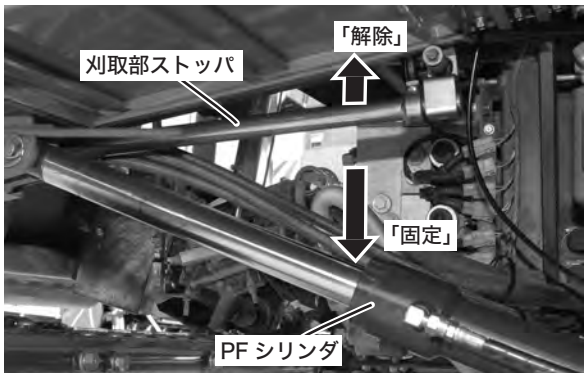
- **ロータカバーを開閉するときは、サイドウィンドを閉じてください。**

ロータカバーを開閉するときに使用します。



(5) 刈取部ストッパ

刈取部とフィーダハウスの下降を、機械的に固定するときに使用します。(→132ページ参照)



刈取部およびフィーダハウスの下で点検・整備するときには、刈取部ストッパを固定位置(PFシリンダ)に掛けてください。

(6) 外部電源

⚠警告

●記載された制限容量を超えて使用しないでください。火災の原因になります。

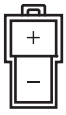
外部電源取り出し用として、コネクタが1ヶ所、作業灯増設用電源として、コネクタが2ヶ所あります。すべて2極カプラ(白色)で、緑テープ巻きにより固定されています。
各電源の使用制限容量は、外部電源が14A以下、作業灯増設用電源が12V40W以下(2ヶ所合計)となっています。

⚠注意

●外部電源と作業灯増設用電源のコネクタ内のプラスとマイナス配置が異なります。接続時には、電源アースを注意してください。

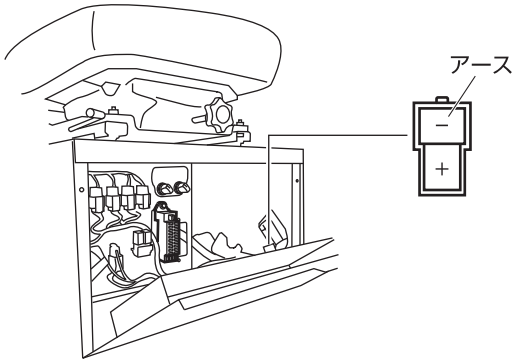


外部電源用

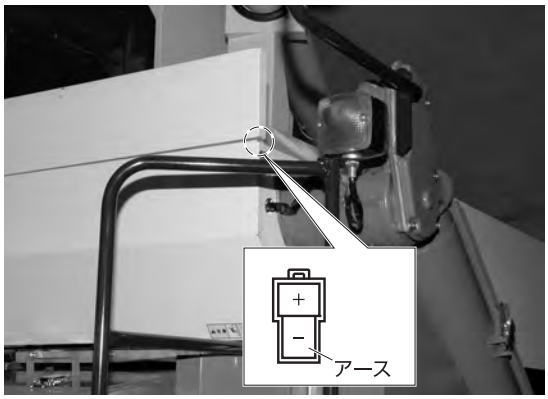


作業灯増設用

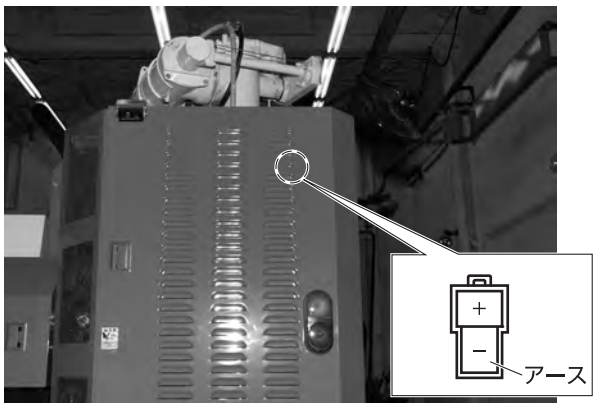
〈外部電源〉
シート下のカバー内にあります。
外部電源の通電は、キースイッチの「ON」、「OFF」に連動します。



〈作業灯増設用電源①〉
脱こく前カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(→37ページ参照)



〈作業灯増設用電源②〉
エンジン後カバー内にあります。
この電源の「入」「切」は、作業灯スイッチの「入」「切」に連動しています。(→37ページ参照)



⚠危険

- エンジン回転中やエンジンが熱い間は、注油・給油を絶対にしないでください。守らないと、ヤケドや火災のおそれがあります。
- 燃料補給時は、くわえタバコや裸火照明を絶対にしないでください。守らないと、火災の原因になります。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふき取ってください。守らないと、こぼれた燃料に引火して、ヤケドや火災のおそれがあります。

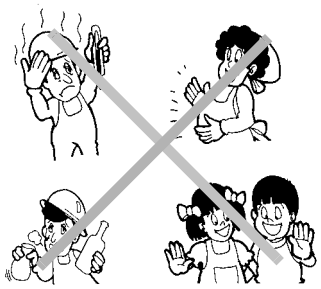
⚠警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどからの高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検し、高圧噴油に直接、手や体が触れないようにしてください。
  万一、触れた場合は、直ちに医者の診断を受けてください。守らないと、油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 点検・整備・調節を行うときは、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

1. 作業者の体調・服装について

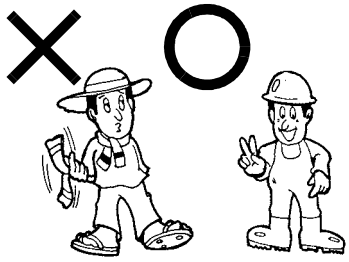
体調について

作業を行うときは、健康な状態で行ってください。過労・病気・薬物の影響、その他の理由で作業に集中できないときには、作業を行わないでください。特に、お酒を飲んで酔っている・妊娠している・18才未満の人は作業を行わないでください。


2010902

服装について

- 操作レバーや機械部品に引っかからない、だぶつきのない服装をしてください。
- 安全靴などのすべり止めの付いた靴を着用してください。
- ヘルメットを着用してください。
- 作業によっては、保護メガネ・マスク・手袋などの保護具を必ず着用してください。
- タオルをはち巻き・首巻き・腰にはさんで作業を行わないでください。


2010903

2. 本機の点検のしかた

運転・作業を行う前の点検は、次の順序で行ってください。

点検順序	点検箇所	参照ページ
前日の異常箇所	●前日の作業中に異常を感じたところはありませんか	202〜208
本機の周りを回ってみて  1039507D	●各部の変形・損傷・汚れ・ボルトのゆるみはありませんか ●燃料の量と燃料もれはありませんか ●クローラの損傷・ゆるみはありませんか ●各部注油箇所の油切れはありませんか ●各部ベルト・チェンのゆるみや折損はありませんか	 192・193 137〜141 180〜191
エンジンルームを開けてみて	●エンジンオイルの量と汚れ、油もれはありませんか ●燃料の量と燃料もれ、水もれ、オイルもれはありませんか ●冷却水の量と水もれ、ホースの損傷はありませんか ●エアクリーナー・プレクリーナーの汚れはありませんか ●冷却ファンベルトの張りと損傷はありませんか ●エンジン防塵装置のほこりやゴミはありませんか ●配線コードの被覆のはがれや、接続部のゆるみはありませんか	152〜154 157・158 162・163 187・188 163・164 171
ドライバーシートに座ってみて	●ランプ・メータ・スイッチの作動状態は正常ですか ●ドライバーシートの状態は、体格に合っていますか ●マルチハンドルが、チルトレバーにより固定されていますか、 また作業に適正な位置になっていますか	32〜34 58・59 59
エンジンを始動してみて	●エンジン始動後に異音はありませんか ●排気ガスの色は正常ですか ●各レバー・スイッチの作動状態は正常ですか ●セフティペダルの作動具合は正常ですか ●マルチハンドルで、機体の旋回が行なえますか ●刈取昇降スイッチで、刈取部の昇降が行えますか ●リール昇降・リール速度スイッチ、リール前後・リール速度スイッチで、 リールの作動が行えますか ●作業クラッチレバーで、脱こく部の作動・停止が行えますか ●作業クラッチレバーで、刈取部の作動・停止が行えますか	 194 46 69・70 42 31・41 40 40
スプレッダ･セカンドモア (オプション)について	●スプレッダの固定刃・回転刃に摩耗はありませんか ●スプレッダ・セカンドモア駆動部の油ぎれはありませんか ●それぞれの取扱説明書に従って点検してください	

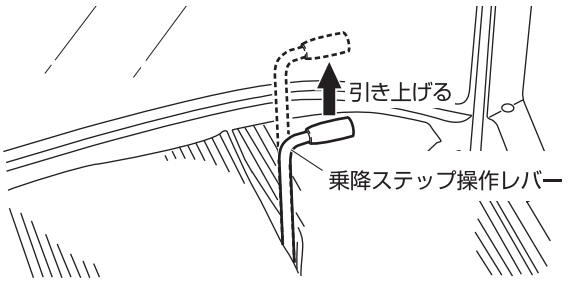
1. コンバインへの乗降のしかた

⚠注意

●コンバインへの飛び乗り、飛び降りは、あぶないので行わないでください。

乗り降りするときは、必ず乗降ステップを下図のようにセットしてください。

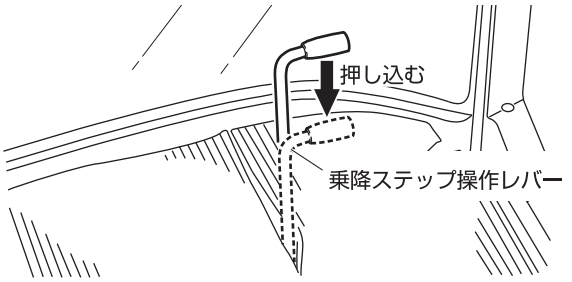
〈乗降するとき〉





機体から降りて昇降ステップを出し入れするときは乗降ステップ自体を手で持って行ってください。

〈収納するとき〉





[重要]

●トラックに積み・降ろしをするときは、乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。

●移動走行するときやコンクリート畦畔などの横で作業するときは、乗降ステップを収納してください。乗降ステップの破損・変形を防ぐことができます。

●乗降ステップ操作レバー操作時に、オーガマルチリモコンのケーブルをはさまないように注意してください。

2. シート位置の調節のしかた

運転者の体格や作業状態に合わせて、作業しやすい位置に調節してください。

●前後に 80mm の調節ができます。

●座面の高さを上下に、60mm の調節ができます。（シートの硬さも変わります。）

●リクライニングができます。

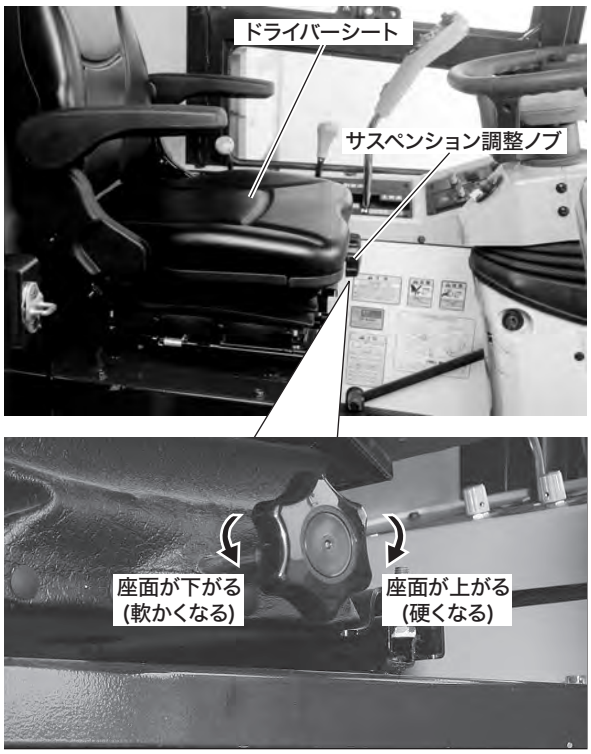
〈前後調節のしかた〉

1. 前後調節レバーを矢印方向に引き上げてください。
2. ドライバーシートを前後移動してください。
3. 前後調節レバーから手を離してください。ドライバーシートが固定されます。



〈座面の上下調整のしかた〉

1. サスペンション調節ノブを回してください。



●右へ回す…座面が上がる（硬くなる）。

●左へ回す…座面が下がる（軟らかくなる）。

2. サスペンション調節ノブから手を離してください。

〈リクライニング調整のしかた〉



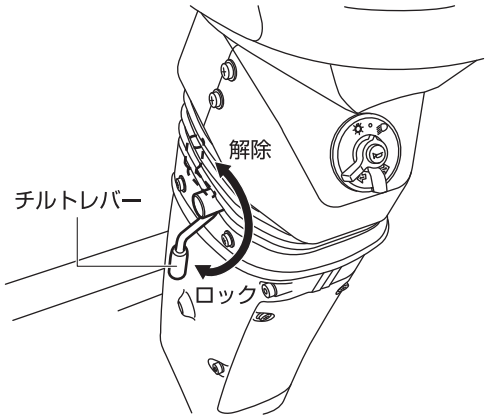
リクライニング調節レバーを「解除」位置にして、座席の背もたれの角度を調節し、「ロック」位置で背もたれの角度が固定されます。

3. マルチハンドルの前後調節のしかた

マルチハンドルの前後角度を、運転者の体格に合わせて調節してください。

〈調節のしかた〉

1. チルトレバーを「解除」位置にしてください。マルチハンドルの固定がゆるみます。
2. マルチハンドルの前後の角度を、作業しやすい位置に調節してください。
3. チルトレバーを「ロック」位置にしてください。マルチハンドルが固定されます。



[重要]

● マルチハンドルを調節したときは、チルトレバーで確実にハンドルを固定してください。

4. メンテナンスモードについて

このコンバインには、「メンテナンスモード」があります。
「メンテナンスモード」には、機能変更や微調整が行える「初期設定モード」、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行える「チェッカモード」、およびサービスマンが機械の点検を行うための「サービスマンモード」があります。(「サービスマンモード」には、お客様が入ることはできません。)
「初期設定モード」では、フィット昇降の速度を５段階に変更できる「フィット昇降速度設定」、およびEモードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更できる「Eモード設定」の各機能の設定変更がでます。

⚠警告

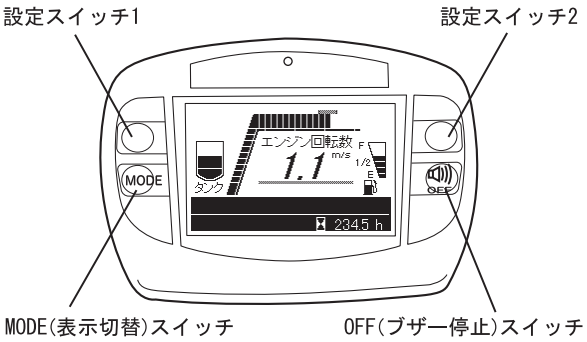
- 「メンテナンスモード」を設定するときは、安全な場所に機械を停止した状態で行ってください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 設定を変更するときには、変更内容を確認して行ってください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故やケガにつながるおそれがあります。

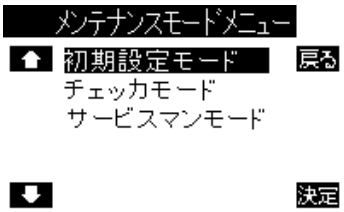
[重要]

- 確認する内容によっては、一人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特約店・販売店・JA にご相談ください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- チェック機能を使用するときには、安全な場所で機械を停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむを得ずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスモードへの切り替えかた

MODE（表示切替）スイッチと OFF（ブザー停止）スイッチを、一緒に5秒以上押し続けてください。始めにブザーが断続で鳴ってから、「メンテナンスモードメニュー」の画面に切り替わります。ブザーは、画面が切り替わると同時に停止します。





[参考]

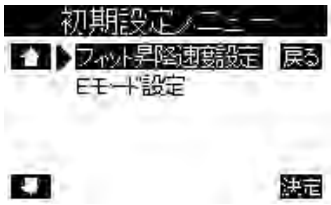
- メンテナンスモードには３種類のモードがあります。

〈初期設定モード〉
このモードは機能変更や、微調整が行えるモードです。
〈チェッカモード〉
このモードはスイッチ・センサ・モータ・電磁弁などのチェックが行えるモードです。「12章 不調診断のしかた」(→196ページ参照) のところで詳しく説明します。
〈サービスマンモード〉
サービスマンが機械の点検を行うためのモードです。お客様がこのモードに入ることはできません。

初期設定モードへの切り替えかた

設定スイッチ 1（▲）または MODE（表示切替）スイッチ（▼）を押して、▶印を「初期設定モード」の項目に移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。

初期設定モードでは、「初期設定メニュー」の画面に表示された設定が行えます。

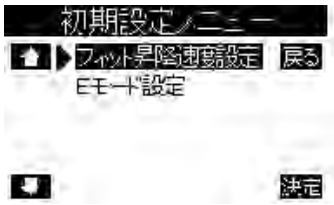


〈フィット昇降速度設定〉
フィット昇降の昇降速度を5段階に調節することができます。
〈E モード設定〉
E モードでエンジン回転数の上昇のしかたを変更することができます。

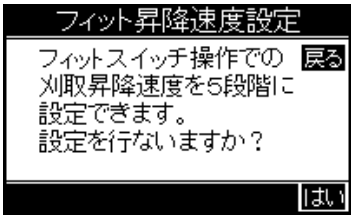
それぞれの機能の変更方法について説明します。

フィット昇降速度設定

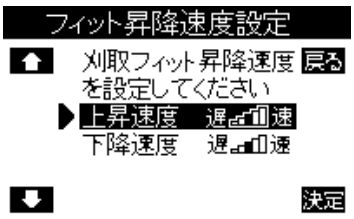
1. 設定スイッチ 1（▲）または MODE（表示切替）スイッチ（▼）を押して、▶印を「フィット昇降速度設定」の項目に移動し、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。



2. 確認画面が表示されますので、OFF(ブザー停止)スイッチ(はい)を押します。設定スイッチ 2(戻る)を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。



3. 設定スイッチ 1(▲)または MODE(表示切替)スイッチ(▼)を押して、▶印を設定する項目に移動し、設定したい速度の項目の文字を反転させます。「上昇速度」と「下降速度」は別々に設定することができます。



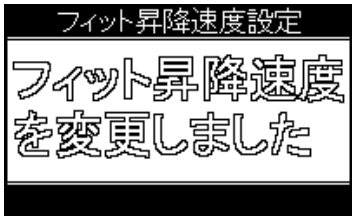
4. ブザー停止スイッチ(決定)を押して、設定したいフィット昇降の速度を選択します。OFF(ブザー停止)スイッチ(決定)を押すごとに、フィット昇降の速度が 1 段ずつ下図のように変わります。



[参考]

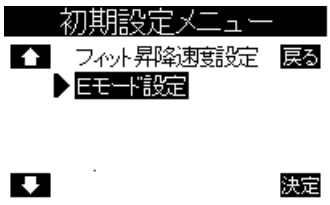
● 出荷時は、中央値 遅速 に設定されています。

5. 設定スイッチ 2(戻る)を押して、フィット昇降の速度を確定します。確定後、確認画面が 2 秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。

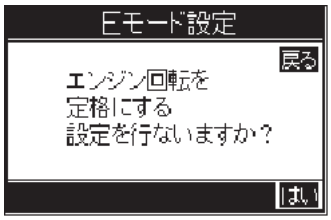


Eモード設定

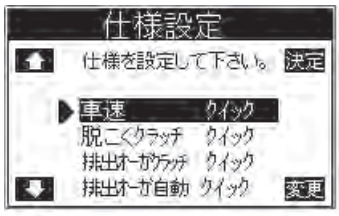
1. 設定スイッチ 1（⬆）または MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を「E モード設定」の項目に移動し、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。



2. 確認画面が表示されますので、OFF(ブザー停止)スイッチ(はい)を押してください。
   設定スイッチ 2(戻る)を押すと、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。

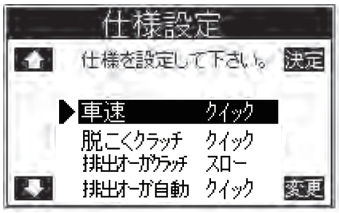


3. 設定スイッチ 1(⬆)または MODE(表示切替)スイッチ(⬇)を押して、▶印を設定を変更したい項目に移動し、文字を反転させ、OFF(ブザー停止)スイッチ(決定)を押します。
4. OFF(ブザー停止)スイッチ(決定)を押すごとに「クイック」「スロー」「切り」に切り替ります。



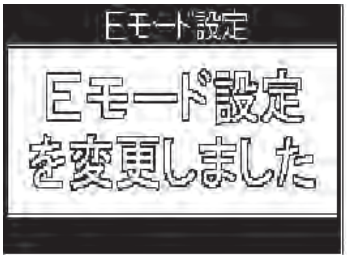
[参考]

- E モードの設定は、車速・脱こくクラッチ・排出オーガクラッチ・排出オーガ自動、それぞれ別々に設定することができます。
- 出荷時は、以下の状態に設定されています。
  - ・車速　クイック
  - ・脱こくクラッチ　クイック
  - ・排出オーガクラッチ　スロー
  - ・排出オーガ自動　クイック



〈クイック〉
エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に瞬時に上がります。
〈スロー〉
エンジン回転数は、アイドリング回転から定格回転に5秒かけて徐々に上がります。
〈切り〉
エンジン回転数は、アイドリング回転のまま維持されます。

5. 設定スイッチ 2(戻る)を押して、E モード設定を確定します。確定後、確認画面が 2 秒間表示され、「初期設定メニュー」の画面に戻ります。

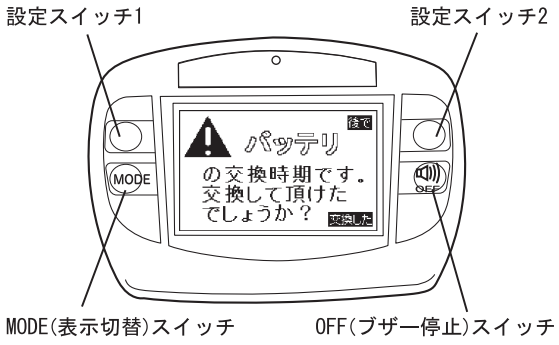


[重要]

- 「切り」に設定した場合は、E モード切替スイッチが「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯)の状態で操作をしても、エンジン回転はアイドリング回転数のままです。
  エンジン回転を上げる場合は、E モード切替スイッチを「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にして、アクセルダイヤルでエンジン回転を調節してください。

5. 操作機能の変更のしかた

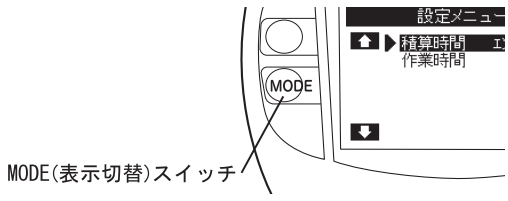
センターディスプレイで操作機能の一部を変更することができます。以下に変更できる機能と、設定方法について説明します。



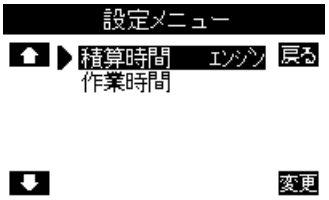
番号	機能	内容
1	積算時間	センターディスプレイに表示させる積算時間を「エンジン」または「作業時間」に設定できます。 (→63ページ参照) エンジン……エンジンが回転している時間を積算する 作業時間……作業クラッチレバーが「刈取・入」状態になっている時間を積算する
2	作業時間	上記の「作業時間」の積算を「0」に戻すことができます。 (→64ページ参照) 「エンジン」の積算時間を、「0」にすることはできません。

〈アワメータの表示を変更するには〉

1. MODE（表示切替）スイッチを長押ししてください。

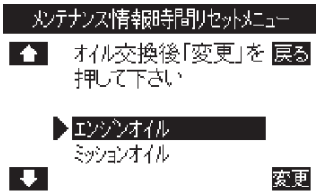


2. 「設定メニュー」の画面が表示されます。



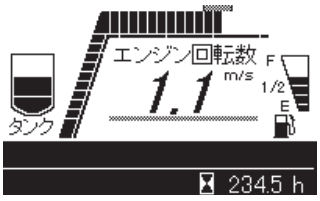
[参考]

- 工場出荷時は、「エンジン」に設定されています。
- 設定スイッチ 1（⬆）または MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押していると、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作時間の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、150 ページを参照してください。



3. OFF(ブザー停止)スイッチ(変更)を押すごとに、「エンジン」「作業」を選択できます。
4. 「エンジン」を選択すると、通常の画面でアワメータが「砂時計マーク」を表示し、エンジンの使用時間を表示します。
   「作業時間」を選択すると、通常の画面でアワメータが「作業時間」を表示し、「刈取・入」位置の時間を表示します。
5. 設定スイッチ 2(戻る)を押して、積算時間の設定を確定します。確定後は、通常の画面に戻ります。

通常の画面

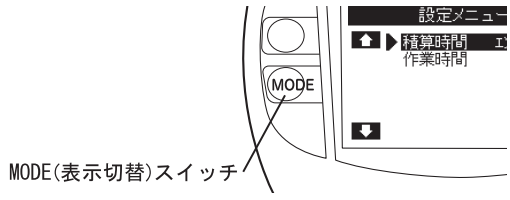


[参考]

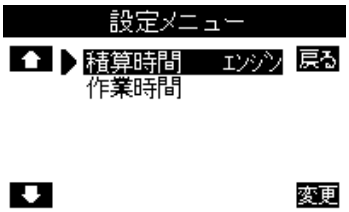
- 積算時間を「作業時間」に変更した場合は、キースイッチをいったん「OFF」位置にすると、設定内容が記憶されず、再度キースイッチを「ON」にしたときには、工場出荷時の「エンジン」設定に戻ります。

〈作業時間をリセットするには〉

1. MODE (表示切替) スイッチを長押ししてください



2. 「設定メニュー」の画面が表示されます。

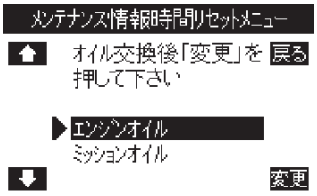


3. 設定スイッチ 1 (⬆)または MODE(表示切替)スイッチ(⬇)を押して、「作業時間」の行が反転文字になるように▶印を移動してください。

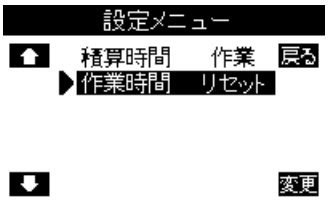


[参考]

●設定スイッチ 1（⬆）または MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押していると、メンテナンス情報時間リセットメニューが表示されますが、操作時間の変更としては使用しません。メンテナンス時間のリセットについては、150 ページを参照してください。

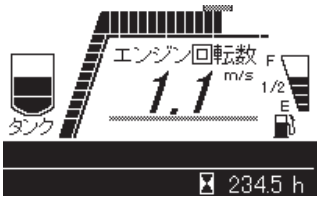


4. OFF(ブザー停止)スイッチ(変更)を押すと、「リセット」と表示され、作業時間の積算時間のリセットが確定されます。
「リセット」の文字は数秒すると消えます。



5. 設定スイッチ 2(戻る)を押すと、通常の画面に戻ります。

通常の画面



6. エンジンの始動のしかた

⚠警告

●エンジンの始動および暖機運転は、閉めきった屋内で行わないでください。やむを得ず屋内で始動する場合は、十分換気をしてください。排気ガスによる中毒で、死亡事故につながるおそれがあります。

●エンジン始動時は、必ず運転席に座って、スイッチとレバーの位置、および周囲の安全を確認してください。
守らないと、急に機械が動きだして、傷害事故を起こすおそれがあります。

⚠注意

●エンジンを始動する前に、運転前・作業前の点検を行ってください。点検せずにエンジンを始動すると、整備不良のために、傷害事故や機械の故障を引き起こす場合があります。

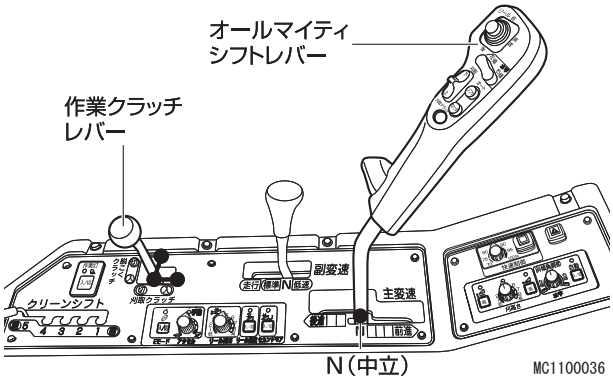
[重要]

●走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」（中立）位置にしないと、エンジンがかからない場合があります。

●作業中にエンジンが停止したときは、キースイッチをいったん「OFF」位置にしてから、再度始動してください。

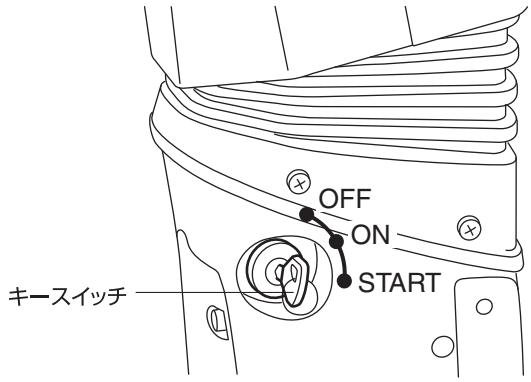
(1) エンジン始動前の確認・準備

1. ドライバーシートに座ってください。
2. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にしてください。
3. 作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。



(2) エンジン始動操作のしかた

1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(→46ページ参照)
2. キースイッチにキーを差し込んで、「ON」位置にしてください。

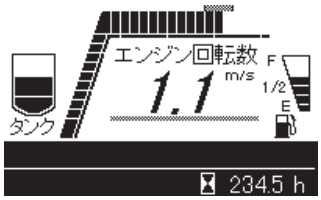


[重要]

●キースイッチを「ON」位置にすると、センターディスプレイに「ヒータ作動中」の文字が表示されます。エンジンが冷えているときは、「ヒータ作動中」の文字が消えたことを確認してから、次の操作を行ってください。

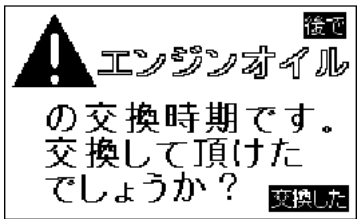


通常の画面

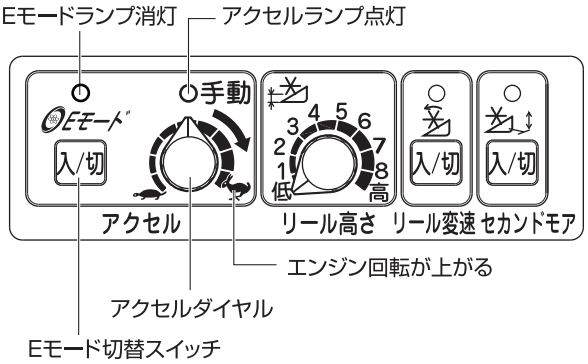


[参考]

●メンテナンスが必要な時期になったときは、メンテナンス情報が文字で表示されます。(→149ページ参照)



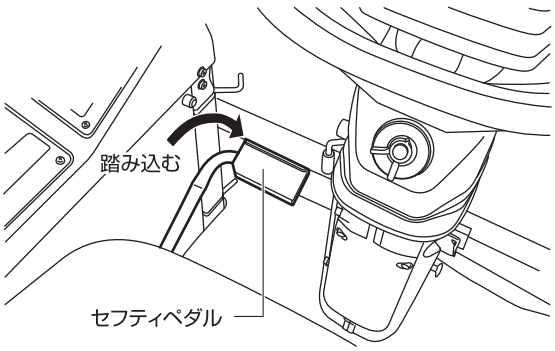
3. Eモード切替スイッチを「切」(Eモードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを右に回してください。



[参考]

●E モード切替スイッチが「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯) でもエンジンの始動はできますが、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節ができなくなりますので、E モード切替スイッチは「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯) にしておいてください。

4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



[重要]

- 作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にして、セフティペダルをいっぱいまで踏み込まないと、セルモータが回りません。
- セルモータは、大電流を消費しますので、10 秒以上の連続使用は絶対にしないでください。10 秒以内で始動しなかった場合は、いったんキースイッチを「OFF」位置にして、1 分以上経ってから、再び始動してください。

5. エンジンが始動したら、すみやかにキースイッチから手を離してください。キースイッチは、自動的に「ON」位置に戻ります

[重要]

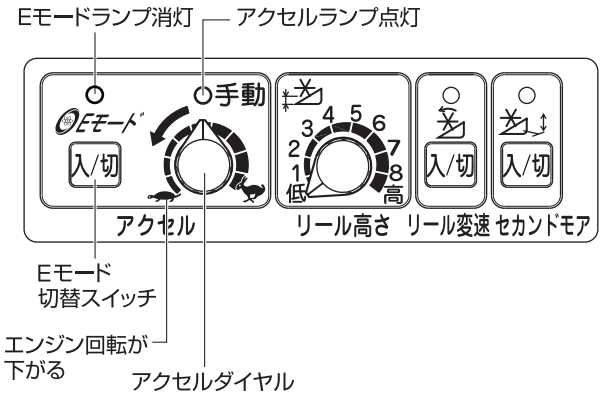
- エンジン回転中は、絶対にキースイッチを「START」位置にしないでください。セルモータが破損することがあります。

7. 暖機運転のしかた

⚠ 警告

- 倉庫や車庫など、閉めきった屋内ではエンジンを始動しないでください。
  エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行ってください。やむを得ず屋内で始動する　ときは、十分に換気をしてください。
  守らないと、排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。

1. エンジン始動後、駐車ブレーキをかけてください。(→46ページ参照)
2. E モード切替スイッチを「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



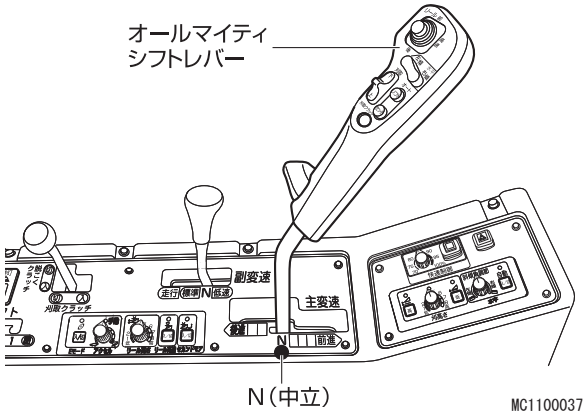
3. 約5分間は作業をせずに、エンジンをかけたままにしておいてください。

[参考]

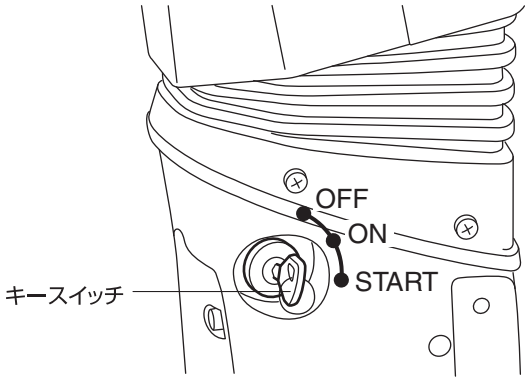
- 寒冷時は、暖機運転を 15 分以上行ってください。

8. エンジンの停止のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にしてください。



2. Eモード切替スイッチ「切」(Eモードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「低」位置にしてください。エンジン回転が下がります。



3. キースイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンが停止します。
4. キーを抜いてください。

[重要]

- オールマイティシフトレバーが「N」(中立) 位置でないときは、キースイッチを「切」位置にしないでください。エンジンの再始動が行いにくくなることがあります。

9. 発進のしかた

⚠ 警告

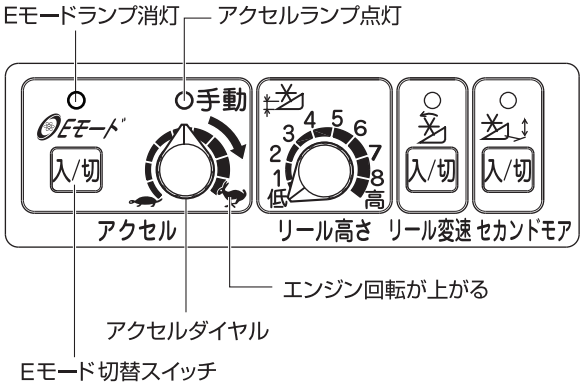
- できるだけ低速で走行し、急発進・急旋回・急停止は絶対にさけてください。
- 坂道や凹凸、カーブの多い道路では、高速運転しないでください。

⚠ 注意

- 発進するときは、周囲に合図をして、安全を確認してからゆっくり発進してください。
- 寒冷時に運転する場合は、エンジン始動後、暖機運転 (15 分以上) を必ず行ってください。駐車ブレーキワイヤーなどが凍結していると、誤動作する可能性があり危険です。

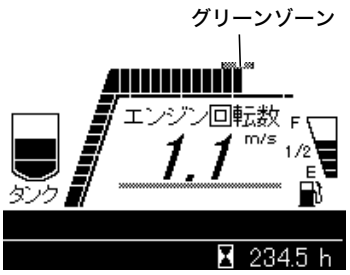
(1) 発進前の準備

1. 駐車ブレーキを解除してください。
   (→46ページ参照)
2. エンジンを始動してください。
   (→ 64 ページ参照)
3. Eモード切替スイッチ「切」(Eモードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にして、アクセルダイヤルを「高」位置にしてください。エンジン回転が上がります。

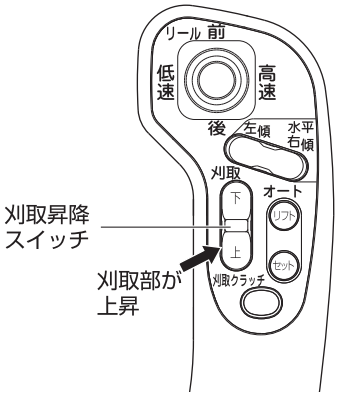


[参考]

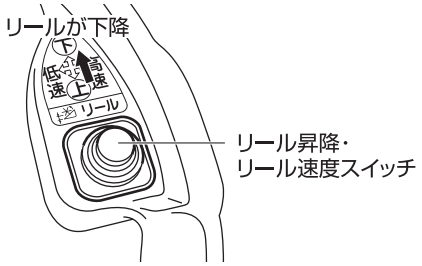
●エンジン回転数は、必ずセンターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」の回転数にしてください。



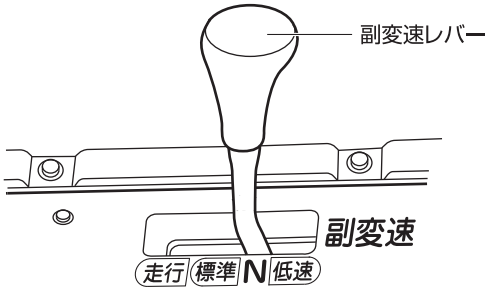
4. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押してください。刈取部が上昇します。



5. リール昇降・リール速度スイッチを「下降」にしてください。リールが下降します。

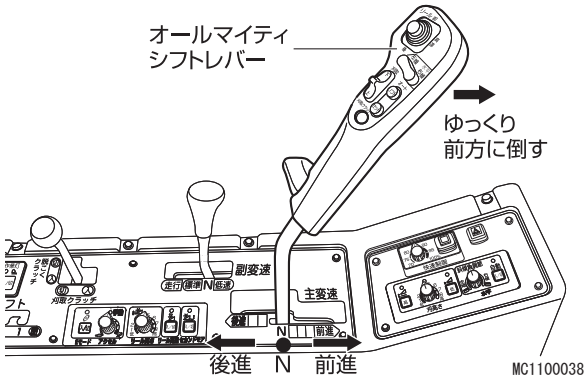


6. 副変速レバーを希望の位置にしてください。
(→ 39 ページ参照)



(2) 発進操作のしかた

1. 駐車ブレーキを解除してください。
(→46ページ参照)
2. マルチハンドルを右手で持ってください。
3. 左手でオールマイティシフトレバーをゆっくり前方へ倒してください。機体が発進します。
1) 周囲の安全を十分に確認する。
2) オールマイティシフトレバーをゆっくり前方に倒して発進する。
3) 発進後、必要に応じてオールマイティシフトレバーをさらに前方へ倒してスピードを上げる。



[重要]

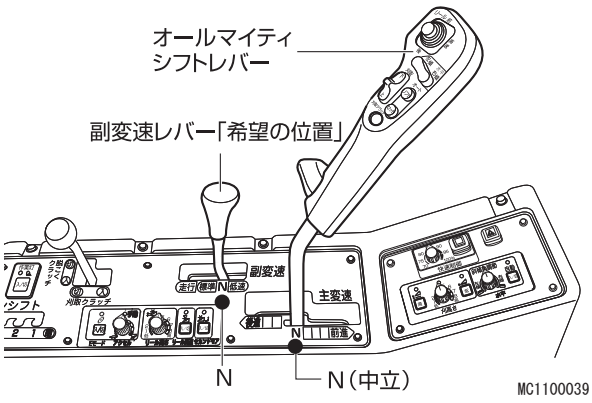
●本機は HST ミッションのため、走行時はエンジン回転数を、センターディスプレイの回転計が示す「グリーンゾーン」にしてください。

●オールマイティシフトレバーは、セフティペダルを踏み込まずに操作してください。セフティペダルを踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」(中立) 位置で固定されます。

●オールマイティシフトレバーを「前進」から「後進」、または「後進」から「前進」に操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。

10.変速のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」（中立）位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。
2. 副変速レバーを希望の位置にしてください。



[重要]

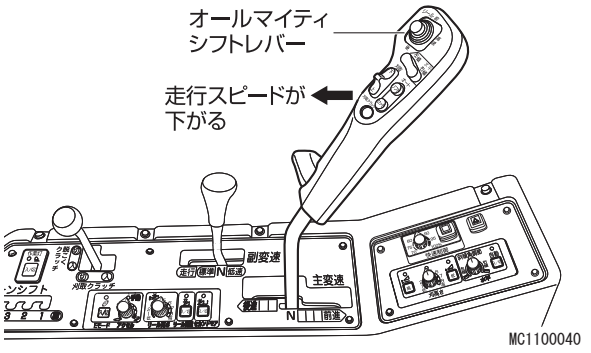
- 副変速レバーを操作する場合は、必ず機体が完全に停止してから行ってください。動いているときに行うと、機械が破損することがあります。
- セフティペダルを踏み込まない方が、スムーズに変速できます。
- 坂道では変速しないでください。

11.旋回のしかた

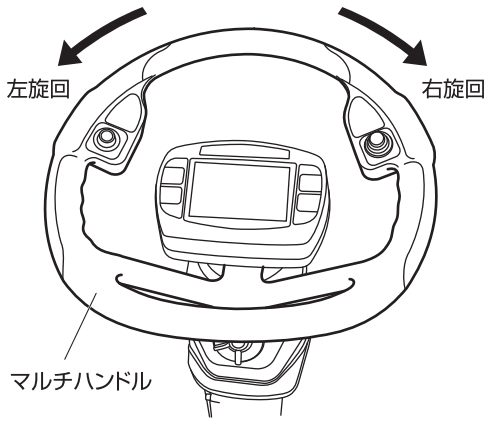
⚠警告

- 副変速レバーが「走行」位置での高速移動時に、急旋回はしないでください。必ず速度を落として旋回操作を行ってください。守らないと、接触・転倒事故のおそれがあります。

1. オールマイティシフトレバーで走行スピードを下げてください。



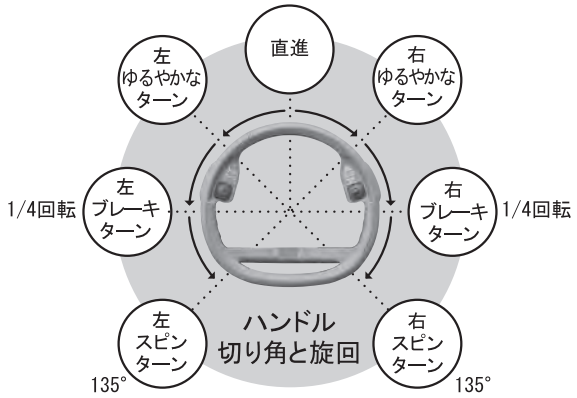
2. 旋回したい方向へマルチハンドルを回すと、その方向へ機体が旋回します。



(1) マルチハンドルの操作量と旋回角度について

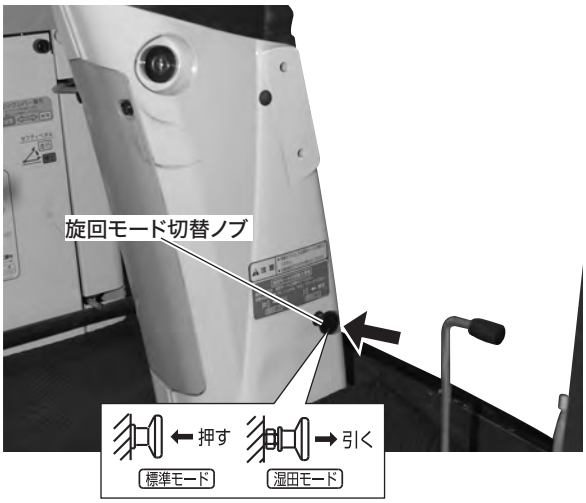
ハンドルの操作量によって、旋回角度の調節ができます。ハンドルを回した側のクローラが徐々に減速され、約 1/4 回転で、旋回内側のクローラの速度がゼロになり、ブレーキターンの状態になります。
さらにハンドルを回すと、徐々に左右のクローラの回転が逆転し始め、約135°でスピンターンの状態になります。

〈ハンドルの操作量と旋回状態〉



〈旋回モードの切り替えについて〉
旋回モード切替ノブで、旋回モードを切り替えることができます。

- 「標準モード」位置……乾田作業・移動走行時
- 「湿田モード」位置……湿田作業時



	標準モード	湿田モード
旋回時の車速	減速する	減速しない
副変速「標準」での旋回	スピンターンする（小回り）	スピンターンしない（大回り）
乾田での旋回	◎	○
湿田での旋回	○ 注意：ハンドルを切りすぎない	◎（旋回力大）
移動走行性能	◎	×（使用不可）
車庫入れ性能	◎	×（使用不可）

[参考]

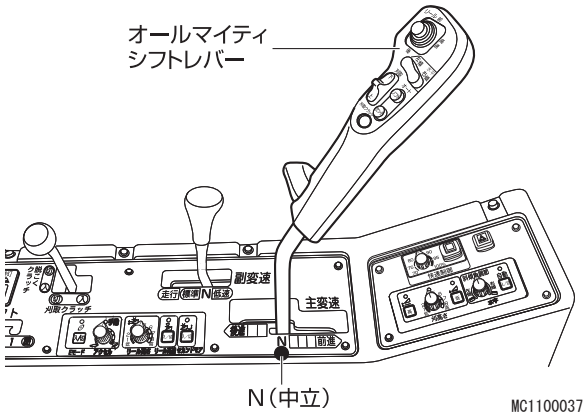
- 「標準モード」でも十分に作業は可能ですが、機体の沈下が著しい場合は、「湿田モード」に切り替えると、さらに湿田性能が向上します。

[重要]

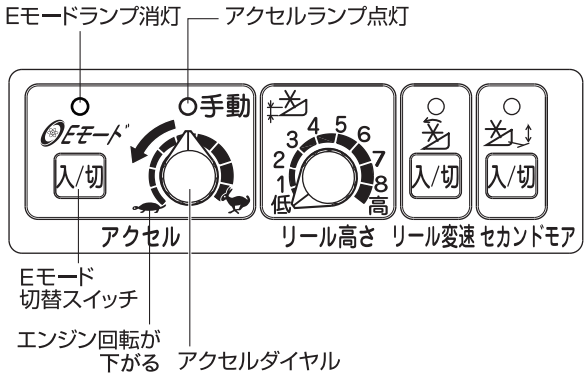
- **移動時は、必ず「標準モード」で走行してください。**

12.停車のしかた

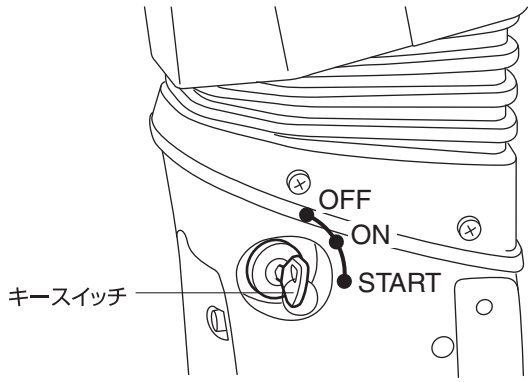
1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にしてください。機体が停止したことを確認してください。



2. 駐車ブレーキをかけてください。
(→ 46 ページ参照)
3. E モード切替スイッチを「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯) にして、アクセルダイヤルを左に回してください。エンジン回転が下がります。



4. キースイッチを「OFF」位置にしてください。エンジンが停止します。

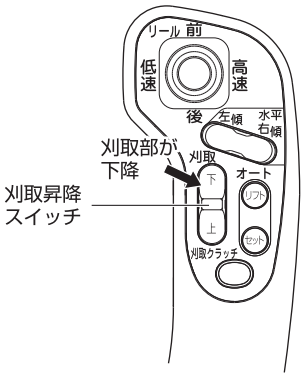


13.駐車のしかた

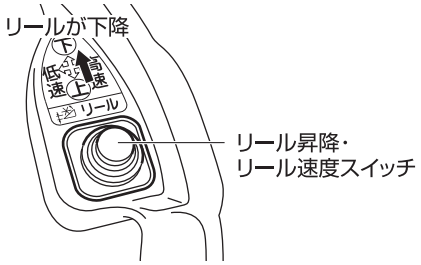
⚠注意

●やむを得ず坂道で駐車するときは、クローラに歯止めをしてください。

1. 平坦で安全な場所に機体を移動してください。
2. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押してください。
   刈取部が地面に接地します。



3. リール昇降・リール速度スイッチを「下降」側にしてください。リールが下降します。

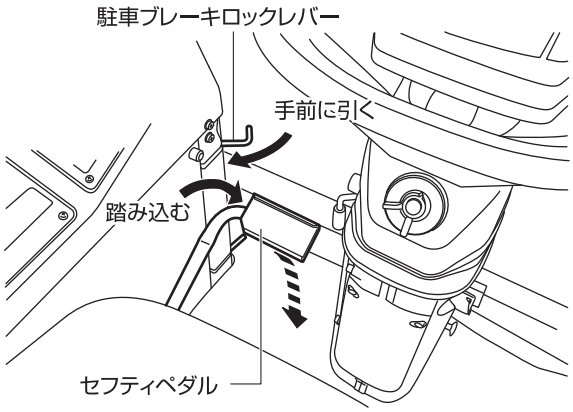


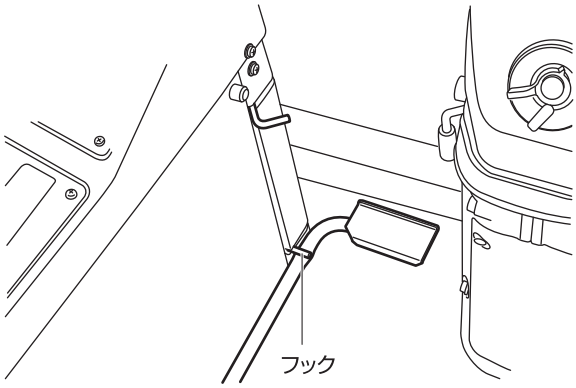
4. エンジンを停止してください。
(→ 67 ページ参照)
5. セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。

[参考]

●セフティペダルをいっぱいまで踏み込むと、オールマイティシフトレバーは「N」(中立) 位置に戻ります。

6. 駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけると、駐車ブレーキがかかります。





7. 運転席から離れる場合は、安全のためにキーを抜いてください。

[参考]

●駐車ブレーキを解除するときは、セフティペダルをいっぱいに踏み込んでください。駐車ブレーキロックレバーが前方に戻り、フック部が外れて解除できます。

14.移動走行のしかた

⚠危険

●グレンタンク内にこく粒が入っていると、本機の重心が高くなり、転倒のおそれがあり大変危険です。必ずグレンタンクは、空にしてください。

●排出オーガは、必ずオーガレストに収納してください。

⚠警告

●発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。

●運転者の他に、人を乗せないようにしてください。

●前後・左右とも 10 度を越える傾斜地は走行しないでください。転倒・ケガをするおそれがあります。

●安全のために、ヘルメットを着用してください。

●狭い農道や傾斜地、路肩に草がおいしげっている所は、路肩に十分注意して、スピードを落として走行してください。

⚠注意

●デバイダヘッドを外して、サイドデバイダを収納してください。破損したり、当たってケガをするおそれがあります。

●傾斜地の走行、および積み・降ろしをするときは、リール、セカンドモア (オプション)、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。

●移動時は、ヘッダ底の高さを地面より 20cm 程度上げてください。

●移動走行するときは、旋回モード切替ノブを「標準モード」に切り替えてください。守らないと、旋回時に自動減速しないため、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

●移動走行するときは、E モード切替スイッチを「切」（E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。E モード切替スイッチを「入」にしたままでは、アクセルレバーでのエンジン回転調節ができないため思わぬ事故の原因になります。

[重要]

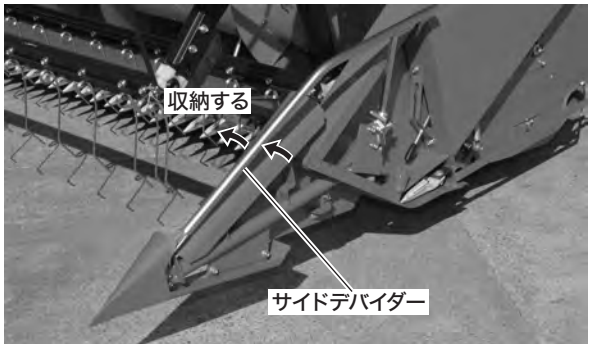
●移動走行するときは、乗降ステップおよびセンサソリを収納してください。乗降ステップおよびセンサソリの破損・変形を防ぐことができます。

(1) 本機の走行姿勢について

1. デバイダヘッドを、ボルトM8（2本）を外して取り外してください。



2. サイドデバイダを収納してください。

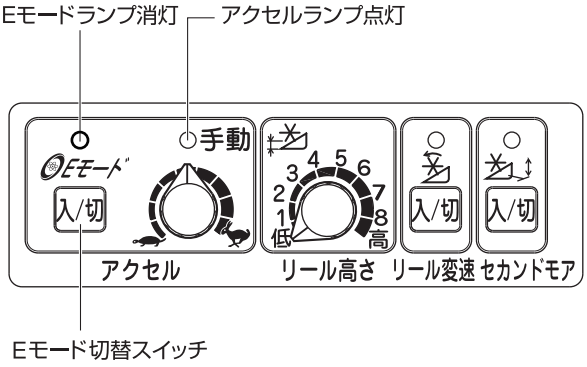


3. グレンタンク内のこく粒を全て排出してください。(→ 112 ページ参照)

4. 排出オーガをオーガレストに収納してください。(→ 111 ページ参照)



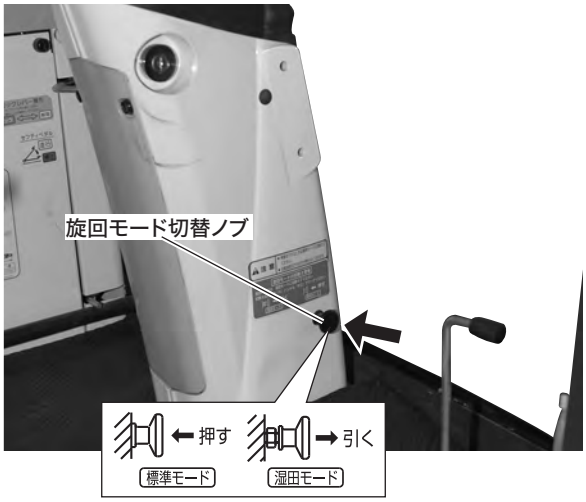
5. E モード切替スイッチを「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にしてください。また、リール、セカンドモア(オプション)、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」(ランプ消灯)にしてください。



[参考]

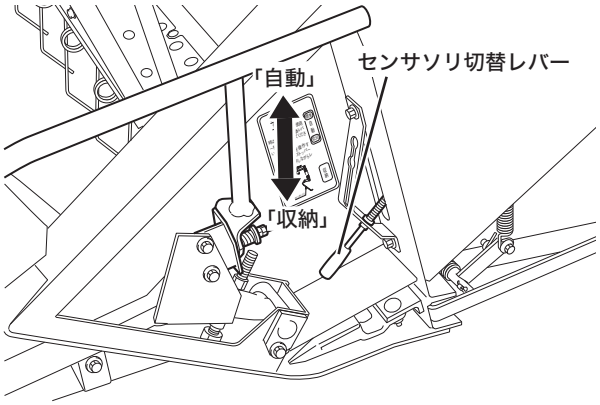
●E モード切替スイッチが「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、E モードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転（グリーンゾーン）になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできなくなります。

6. 旋回モード切替ノブを「標準モード」にしてください。

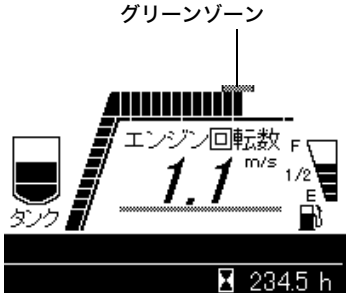


(2) 移動走行操作のしかた

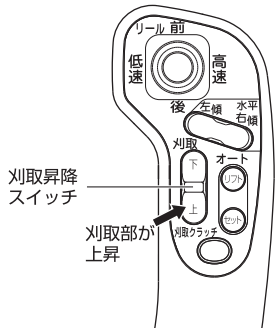
1. センサソリ切替レバーを「収納」位置にして、センサソリを収納してください。



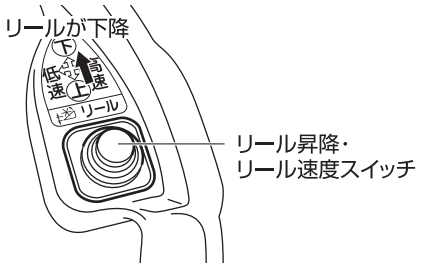
2. 乗降ステップを収納してください。
(→ 58 ページ参照)
3. エンジンを始動してください。
(→ 64 ページ参照)
4. 駐車ブレーキを解除してください。
(→ 46 ページ参照)
5. エコモード切替スイッチを「切」(エコランプ消灯・アクセルランプ点灯)にし、アクセルダイヤルを右に回してください。エンジン回転が上がります。(エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置に調節してください。)



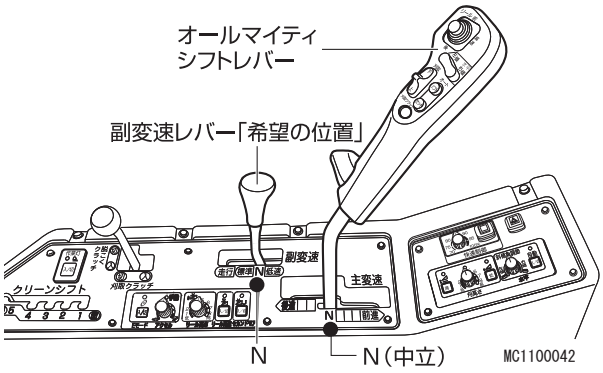
6. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押して、刈取部を地面から 20cm 程度上げてください。



7. リール昇降・リール速度スイッチを「下降」側にしてください。リールが下降します。



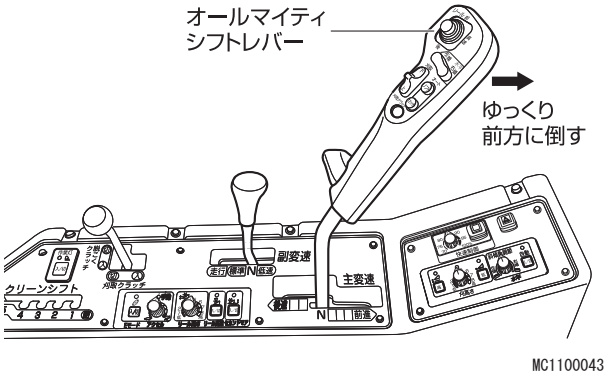
8. オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして、副変速レバーを希望の位置にしてください。



[参考]

- このとき、セフティペダルを踏み込む必要はありません。

9. オールマイティシフトレバーを少しずつ前進方向に倒して､ゆっくりと発進し､徐々にスピードを上げてください。



[重要]

- 走行スピードは、オールマイティシフトレバーで調節してください。
- エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置を保ってください。
- 進路変更するときは、ウインカスイッチで方向指示器を点滅させ、旋回方向を他の車に知らせてください。
- バックミラーで後続車に注意して、追い越しの妨害にならないようにしてください。また、移動中に作業灯を点灯すると､他の交通の妨害になりますので、点灯しないでください。

15.トラックでの運搬のしかた

⚠ 警告

- 長距離の移動などでトラックを使用されるときは、安全のため、必ず最寄りの販売店までご連絡ください。
- ほ場間の移動でトラックを使用される場合は、十分な強度のあるトラック（積載荷重 6t 以上）を使用してください。
- 積み・降ろしをする場所は、平坦で安定した、交通などの危険がない場所を選んでください。守らないと思わぬ事故の原因になります。
- 積み込むトラックは、歯止めなどで動かないように処置してください。守らないと、思わぬ事故の原因になります。
- アユミ板は､基準に合ったものを使用してください。守らないと、転落事故の原因になります。
- 積み・降ろしの機体方向は､「(3) 本機の積み込みかた」（→ 76 ページ参照）の表に従い行ってください。守らないと、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因になります。
- アユミ板の上では、進路変更を絶対に行わないでください。クローラがアユミ板から外れて、転倒するおそれがあります。
- アユミ板の上では、副変速の操作をしないでください。守らないと、機械が不意に動き出し、事故の原因になります。また、バランスをくずして転倒し、傷害事故の原因になります。
- 機械が不意に動いたときに危険なので、本機の直前・直後には、絶対に立たないでください。
- 本機がアユミ板とトラックの継ぎ目を越えるときは、急に重心が変わるので、十分に注意してください。特に、スピードの速いときは、転倒のおそれがありますので、必ず遅いスピードで行ってください。
- トラックの荷台に積み込んだ機体は、エンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。また、機体は丈夫なロープで確実に固定してください。守らないと、転落事故の原因になります。

⚠注意

●移動走行時およびトラックなどの積み・降ろしをするときは、必ず作業クラッチレバーを「切」、E モード切替スイッチを「切」（E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。また、リール、セカンドモア（オプション）、刈高さ、水平の各自動スイッチを必ず「切」（ランプ消灯）にしてください。刈取部が急に傾いて転倒し、ケガをするおそれがあります。

(1) アユミ板について

アユミ板は、下記の基準に合ったものを使用してください。

〈アユミ板の基準〉

●長さ…トラックの荷台の高さの 4 倍以上
●幅…55cm 以上
●強度…1 枚が機械の重量に十分耐えられるもの（本機質量約 5000kg（MCH1100-WSMU））
●表面…すべらないように処理してあるもの
●トラックの荷台に引っ掛けるためのフックが付いているもの

(2) トラックの準備

1. トラックは、平坦で安定した場所で、交通などの危険がなく、作業が十分に行える広さの場所に停車してください。
2. トラックの変速は「P」または「1 速」・「R」位置に入れ、駐車ブレーキをかけてください。
3. タイヤに歯止めをしてください。
4. トラックの荷台に、アユミ板のフックを段差ができないように、確実に掛けてください。

最大積載荷重	荷台長さ	荷台幅	荷台高さ
6t 以上	5300mm 以上	2400mm 以上	1050mm 以下

●デバイダヘッドは外して移動してください。
●トラックの荷台に、ダンプ機構が付いていない場合は、基準に合ったアユミ板を使用してください。

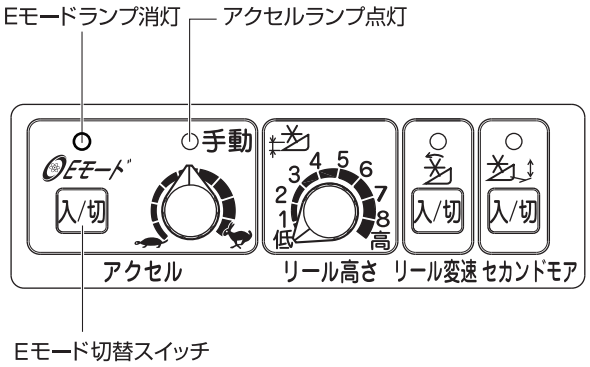
(3) 本機の積み込みかた

1. ワイドヘッダの場合は、ヘッダ部を外してください。（→125ページ参照）
2. 本機は、移動走行時の走行姿勢と同じ状態にしてください。
   （→ 73 ページ参照）

[重要]

●乗降ステップは、必ず収納してください。セットしたまま行うと、ステップの破損・変形の原因になります。

3. E モード切替スイッチを「切」（E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。

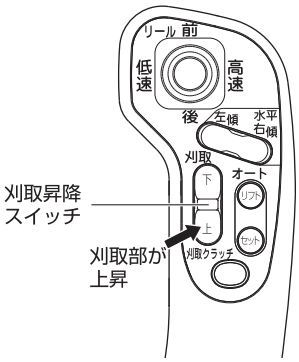


[参考]

●E モード切替スイッチが「入」（E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯）のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、エンジン回転が急に上がり、アクセルダイヤルでエンジン回転の調節はできません。

4. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、本機の方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めてください。

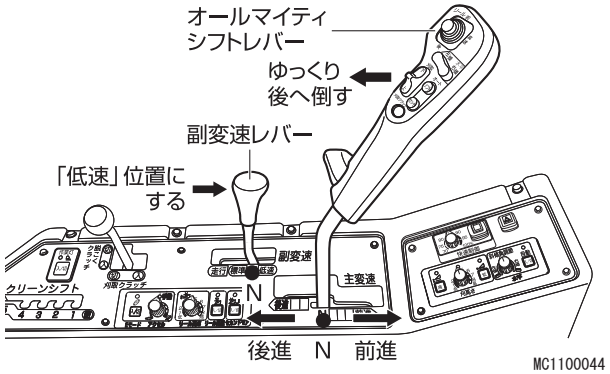
5. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押してください。刈取部がアユミ板に接触しないように上げます。



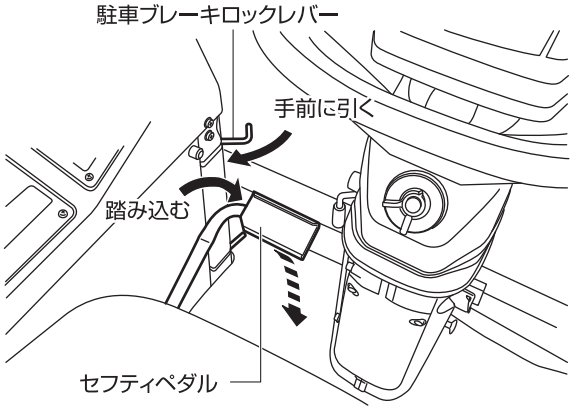
6. 本機の積み込み方向は、下記の表を参照してください。

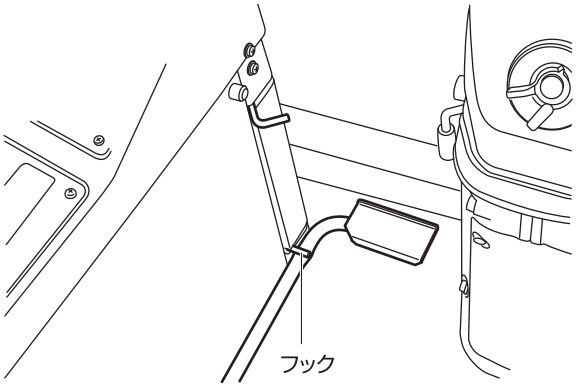
進行方向	積み込み	後　進
	降ろし	前　進

7. 副変速レバーを「低速」位置にして、オールマイティシフトレバーをゆっくり後進位置にしてください。機体はゆっくり動き始めます。



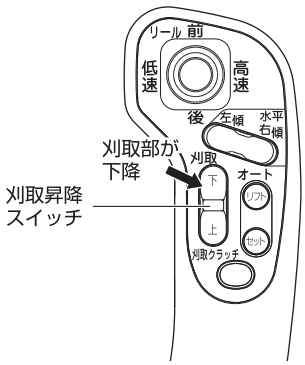
8. 本機をトラックに積み込んだら、セフティペダルをいっぱいまで踏み込み、駐車ブレーキロックレバーを手前に引いて、セフティペダルにフック部をかけ、駐車ブレーキをかけてください。





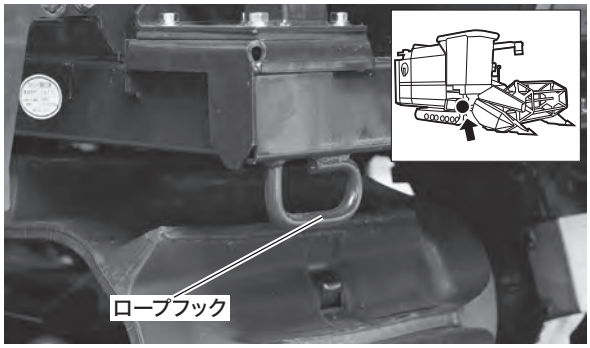
(4) トラックに積み込んだら

1. 刈取昇降スイッチを「下降」側を押してください。刈取部をトラックの荷台に接地させます。

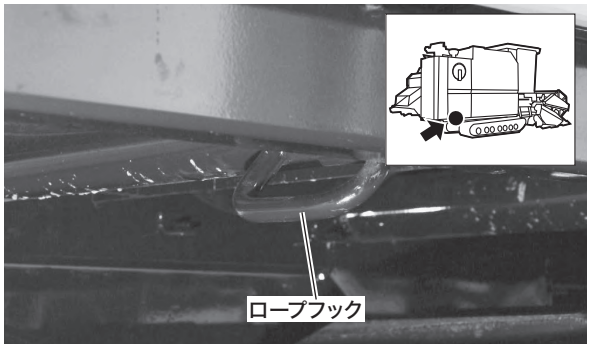


2. エンジンを停止してください。
   (→ 67 ページ参照)
3. 機体左右のロープフック(4 か所)に、十分に強度のあるロープを掛けて、機体を確実に固定してください。

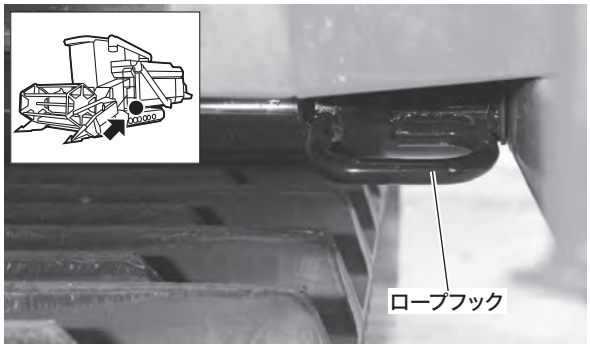
〈本機左前〉



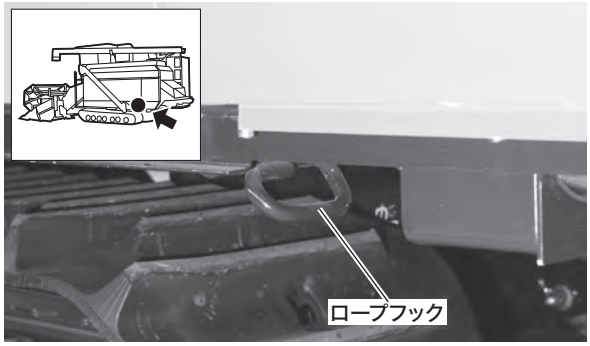
〈本機左後〉



〈本機右前〉



〈本機右後〉

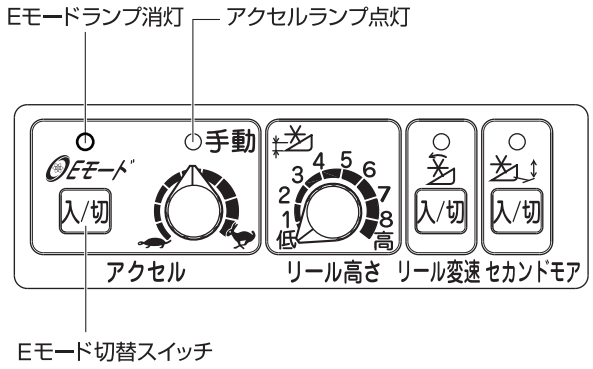


[重要]

- ロープフック以外には、ロープを掛けないでください。破損するおそれがあります。
- ロープを強く締めすぎないでください。変形などのおそれがあります。

(5) 本機の降ろしかた

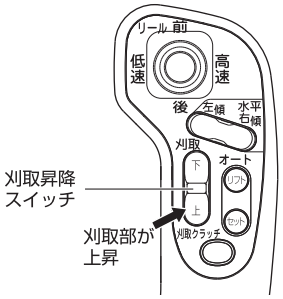
1. 機体を固定しているロープを外してください。
2. エンジンを始動してください。
   (→ 64 ページ参照)
3. E モード切替スイッチを「切」(E モードランプ消灯・アクセルランプ点灯)にし、アクセルダイヤルを右に回してください。エンジン回転が上がります。(エンジン回転は、センターディスプレイの回転計の目盛が示す「グリーンゾーン」位置に調節してください。)



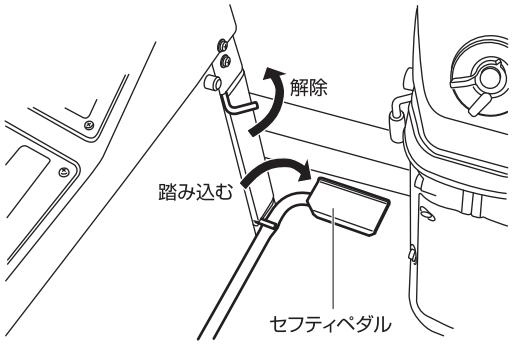
[参考]

●E モード切替スイッチが「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯) のときに、オールマイティシフトレバーを操作すると、E モードが働き、瞬時にエンジン回転が定格回転 (グリーンゾーン) になります。そのとき、アクセルダイヤルでのエンジン回転の調整はできなくなります。

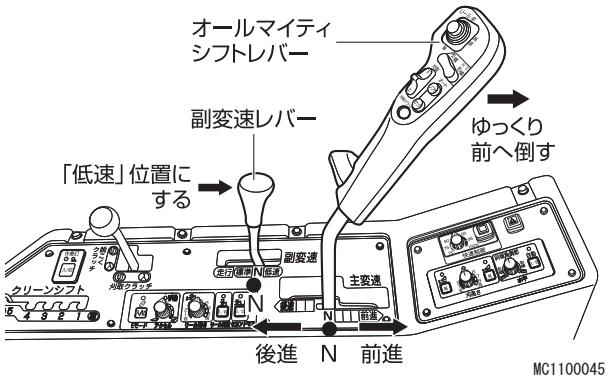
4. 刈取昇降スイッチの「上昇」側を押してください。刈取部が上昇します。



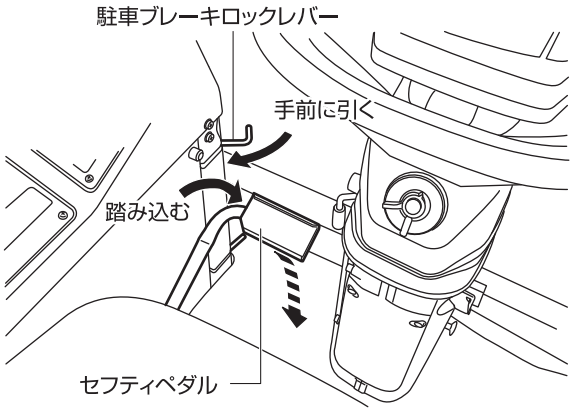
5. セフティペダルを踏み込んで、駐車ブレーキを解除してください。



6. 副変速レバーを「低速」位置にして、オールマイティシフトレバーをゆっくり「前進」位置にしてください。機体がゆっくりと動き始めます。



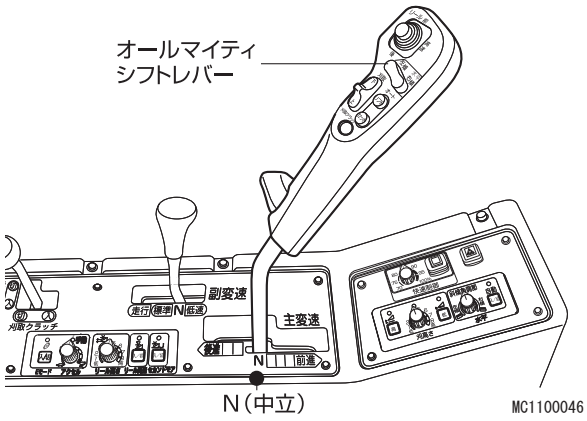
7. アユミ板の上で進路変更をしなくてよいように、本機の方向を、アユミ板に対してまっすぐに定めてください。
8. 機体が完全にトラックから降ろせたら、オールマイティシフトレバーを「N」(中立)位置にして、機体を停止し、駐車ブレーキをかけてください。



9. エンジンを停止してください。
   (→ 67 ページ参照)
10. 外したヘッダ部(ワイドヘッダ)を取り付けてください。各部の取り付けは、取り外しの逆手順で行ってください。

(6) 積み・降ろし中の機体の停止・発進のしかた

1. オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にして、機体を停止します。

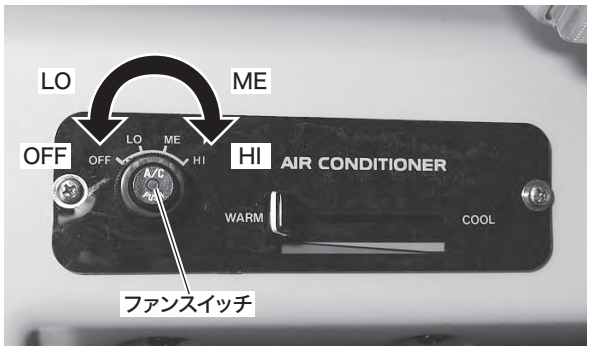


2. 再度動かすときは､オールマイティシフトレバーを操作して､機体をゆっくりと動かしてください。

16.エアコンの使いかた

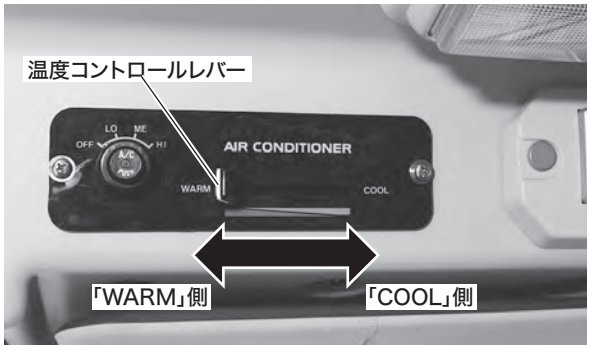
(1) 暖房・冷房・除湿のしかた

1. エンジンを始動してください。
2. ファンスイッチを希望の風量位置にセットしてください。



- 「LO」位置 …… 弱風
- 「ME」位置 …… 弱風と強風の中間
- 「HI」 位置 …… 強風

3. 温度コントロールレバーとエアコンスイッチで「暖房」「冷房」「除湿」の選択をしてください。





エアコンスイッチを押すことにより、コンプレッサの運転・停止が切り替わります。

- 「ON」(ランプ点灯) … コンプレッサ運転
- 「OFF」(ランプ消灯) … コンプレッサ停止

暖房にするとき
レバーを「WARM」側に動かし、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。

冷房にするとき
レバーを「COOL」側に動かし、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。

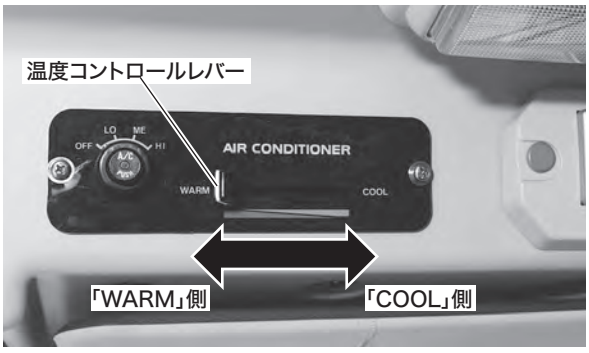
除湿にするとき
レバーを「WARM」と「COOL」の中間位置にし、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。

[重要]

- **エアコンスイッチは、コンプレッサなどに無理な力をかけないために、エンジンを始動してから「ON」（ランプ点灯）にしてください。**
- **エアコンスイッチ「ON」（ランプ点灯）の状態で、風が出ない、風力が弱い状態が続く、または冷房不良の場合は、エアコンスイッチを「OFF」（ランプ消灯）にしてください。異常な状態での連続運転は、ブロアモータやコンプレッサの損傷につながります。お買い上げいただいた販売店または、JA で点検を受けてください。**

(2) 温度調節のしかた

キャビン内の温度を高くしたいときは、温度コントロールレバーを「WARM」側に、低くしたいときは「COOL」側に動かしてください。



(3) エアコン吹出口の風力調節のしかた

吹出口の風向きグリルを矢印の方向に回転すると風量が少なくなり、反対の方向に回転すると風量が多くなります。



1. 刈取りできる作物の条件について

作物の状態やほ場の広さなどの条件により、刈取方法が多少異なります。作業に入る前に作物の状態やほ場の広さを確認して、能率よく作業を行ってください。

作物の水分

作物にツユが付いていたり、葉がぬれていると、選別が悪くなることがあります。ツユが完全に落ち、葉や茎も乾いてから刈取ってください。
やむを得ず、ぬれている作物を刈取る場合は、作業の状態を見ながら下記の調節を行ってください。

- 送塵の調節（送塵調節レバー）（→47ページ参照）
- クリーンシフトの調節（クリーンシフトレバー）（→40ページ参照）

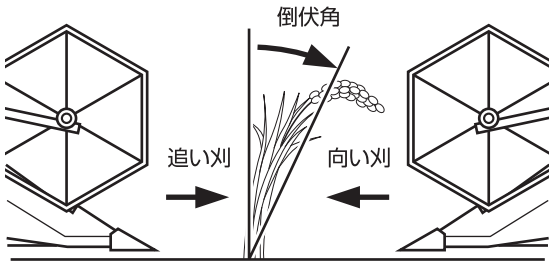
作物が病虫害にかかっている場合

病虫害にかかっている作物は、脱こく処理がしにくい場合がありますので、刈取速度は、副変速レバーを「低速」位置にして作業してください。

作物の刈取り方向

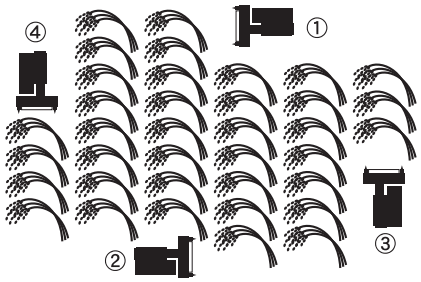
作物の倒伏状態によっては、刈取り方向が限定されます。

- 向い刈り…… 倒伏角70°まで
- 追い刈り…… 倒伏角85°まで



（副変速「低速」）

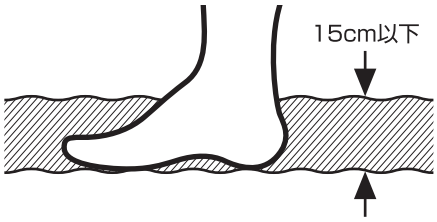
倒れぐあい 刈る方向は	完全倒伏の場合	中倒伏の場合	やや倒伏の場合
①追い刈り	△	○	◎
②向い刈り	×	△	○
③左倒伏刈り	△	△	○
④右倒伏刈り	×	△	○



◎…刈取りOK
○…注意しながら刈取る
△…注意しながらゆっくりと
×…刈取困難
※速度の選定は、作物の状態によって決めてください。

2. 刈取り作業ができるほ場の条件について

足の沈み（15cm）までのぬかるみであれば作業できますが、一度通ったクローラ跡は、できるだけ通らないようにしてください。



3. ほ場の準備と刈取方法について

⚠危険

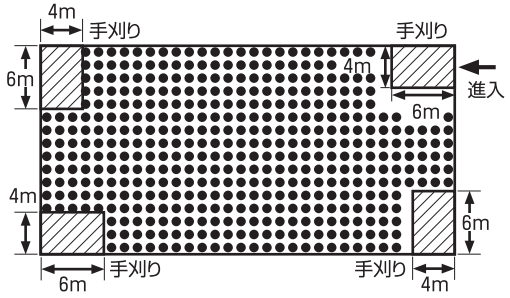
- 刈取作業をするときは、周囲に十分注意をはらい、特に子供を近寄らせないでください。回転物に巻き込まれたり、旋回時の接触事故など大変危険です。

⚠警告

- 後進するときは、後方の安全確認をし、低速で移動してください。
- 異常が発生したときは、すぐにエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてから点検してください。
- ワラクズを取り除く場合や、排ワラが詰まった場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて、作業関係レバー・スイッチを全て「切」位置にしてください。
- 二人以上の共同作業では、ホーンなどでお互いに合図しあってから行ってください。思わぬ傷害事故の原因になります。

ほ場の準備

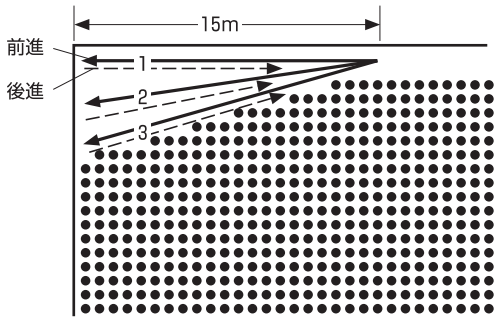
全面刈りで能率よく作業を進めるためには、図のように四隅（旋回できる範囲）を手刈りしてください。



〈手刈りを少なくするには〉

コンバインに慣れてきたら、隅を3～4回ほど斜め刈りしてください。手刈りをほとんどしなくてすみ、能率的な作業ができます。

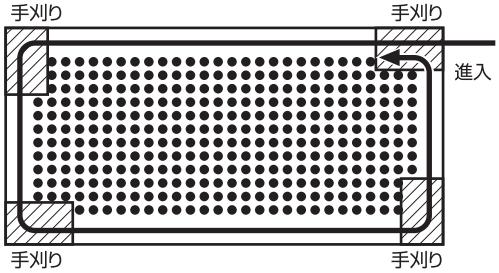
また、進入路の傾斜地が緩い場合は、微速で刈取りながら進入できます。



刈取方法

ほ場を痛めずに、作業能率を上げるため4方向刈りを基本とし、次の要項で刈取ってください。

1. あぜぎわから、左回りで刈取ってください。



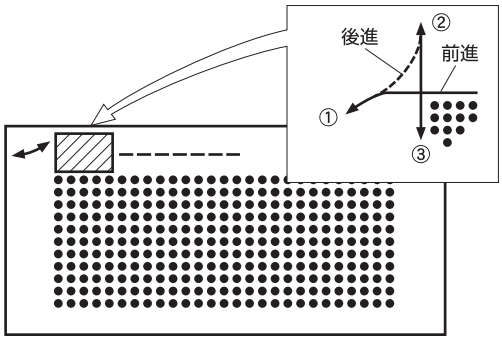
[参考]

- 手刈した作物は、未刈稈の上に均等にバラまき、刈取ってください。

⚠警告

- 手刈りした作物を、プラットフォームに投げ込んで処理しないでください。
  回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

2. 切り返しを行い、左回りで刈り続けてください。



3. ほ場終盤で横刈りする長さがなくなってきたら、2方向刈りでも作業ができます。

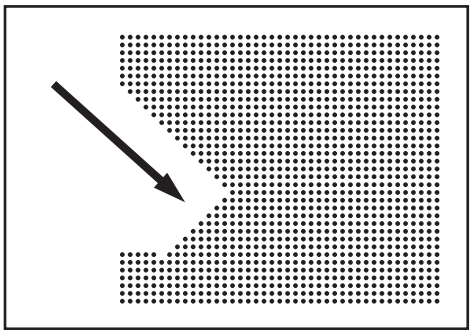
[重要]

- あぜぎわ刈りのときは、デバイダヘッドを突込んだり、サイドデバイダやオプションのセカンドモアをあぜにぶつけないように注意してください。
- 回行中もエンジン回転を下げないでください。下げると、選別が悪くなったり、詰まることがあります。

横刈り時の刈取方法

横刈り時は、高速で作業すると刈刃に高負担がかかるので、下記の要領で作業してください。

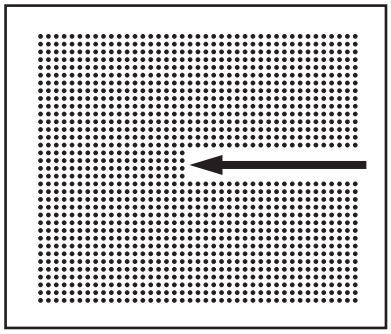
1. 横刈り時は速度を落としてください。
2. 高速作業をする場合は、横刈りではなく、斜め刈りをしてください。
3. 高刈りをしてください。



広いほ場の刈取方法

能率よく刈取作業をするために、広いほ場などは、中割り作業をしてください。

中割り



4. コンバインの準備のしかた

⚠警告

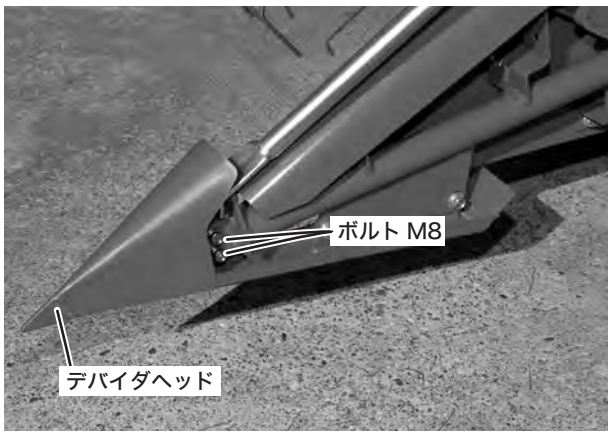
● 各部の準備・調節を行うときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

● 取り外したカバー類は、調節後、必ず元通りに取り付けてください。

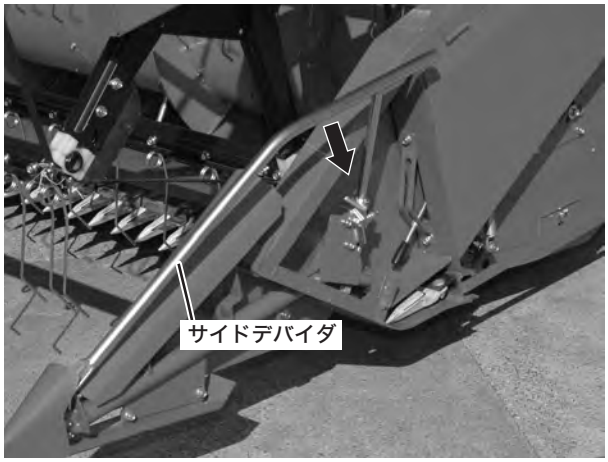
デバイダヘッドの取り付け

デバイダヘッドを取り付けてください。



サイドデバイダの準備

サイドデバイダを作業位置まで倒してください。



刈刃･チェンへの注油

⚠注意

●回転部などに注油するときは、必ずエンジンを停止して、駐車ブレーキをかけてください。守らないと、ケガをするおそれがあります。

作業前は、刈刃や各チェンに「4. 各部の注油のしかた」(→137ページ参照) に従って注油してください。

[参考]

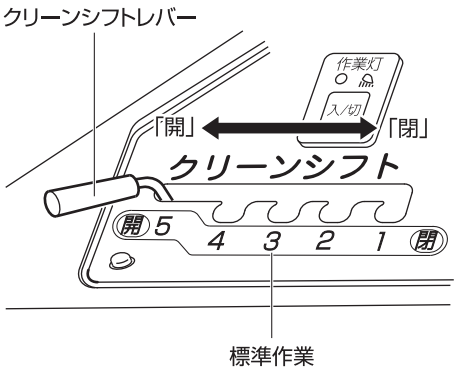
●刈刃やフィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。

品　名	オプション部品
食品機械用潤滑スプレー	部品コード:NX127

●低温時（5 ℃以下）には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

クリーンシフトレバーの調節のしかた

ロスをなくし、良い選別を得るために行います。



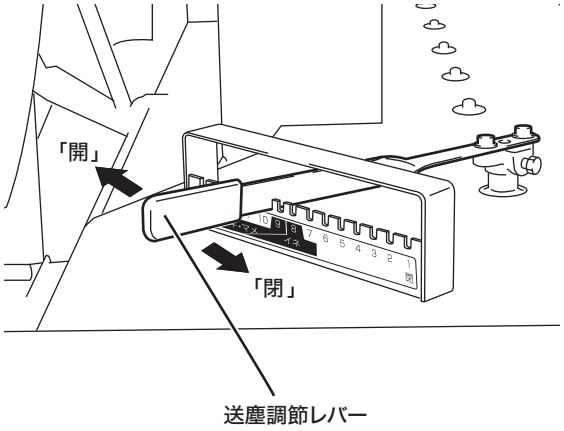
作業条件	レバーの位置
標準作業	「3」
枝梗が多いとき	「1」･「2」(閉側)
作物が湿材のとき	「4」･「5」(開側)

[重要]

●クリーンシフトレバーの調節を誤ると、詰まりやロスの原因になりますので、特に注意してください。

送塵調節レバーの調節のしかた

刈取る作物の種類に応じて、作物別の標準位置にセットし、作業を開始します。



レバー位置の銘板



標準的な作物の調節位置

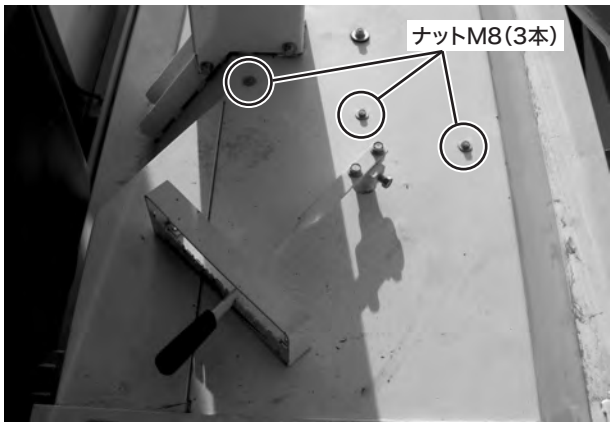
麦・大豆　・・・・・・・「9」
稲　・・・・・・・・・・「8」
そば・ハト麦など　・・・「10 ～ 13」

作物の条件により下記の目安で上手に使用してください。

稲・ロスがでないかぎり ➡「開」
稲：こぎ残し枝梗付きが目立つ ➡「閉」側へ動かす
大豆：ロスがでない限り ➡「開」側へ動かす
そば：水分の多いとき ➡「開」側へ動かす
ハト麦・その他 ➡「開」から順次「閉」側へ動かす

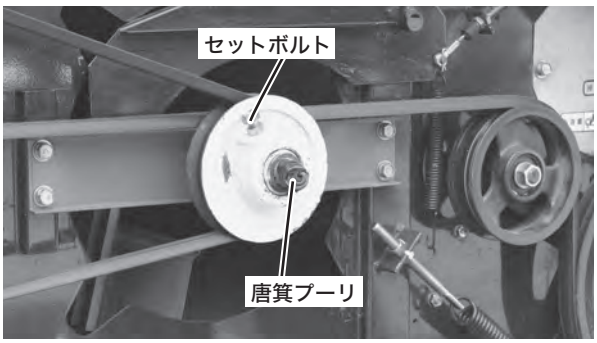
[重要]

- 「閉」側にしすぎると、ロータにワラクズなどがたまりやすくなり、ロータから異音が出る場合があります。又、コーンケーブ、ロータカバー等の（摩耗）消耗が早くなります。
- 送塵調節レバーを「5」以下にするときは、ロータカバー上面のナットM8（3本）を外し、送塵弁の固定弁を取り外してください。



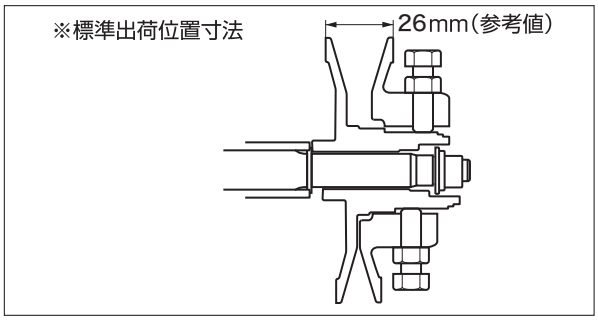
唐箕回転数の調節のしかた

ロスや脱ぷが多く唐箕回転数を下げたい場合、セットボルトを緩めて可動プーリを締めてください。唐箕回転数が下がります。また、小屑が多く、選別が悪い時は、ゆるめて回転を上げてください。

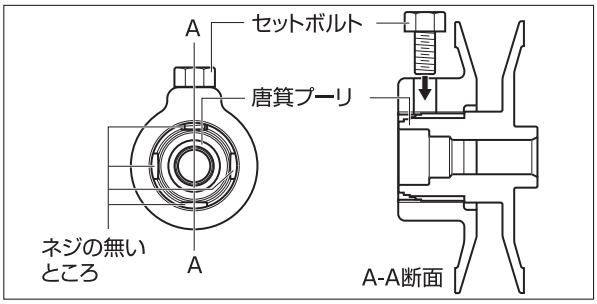


[参考]

- 出荷時は、約1015～1045rpmにセットされています。



- セットボルトによるプーリの固定は、ネジの無い部分（4ヶ所）で行ってください。



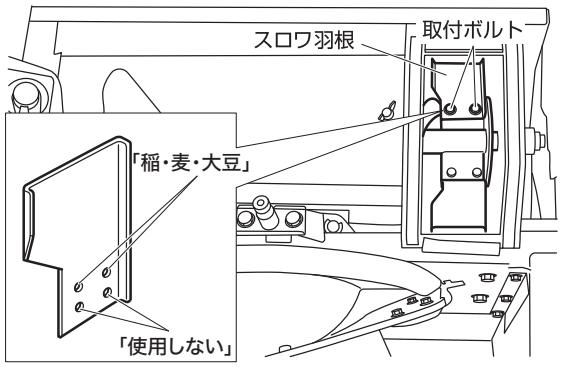
- プーリを 1 回転すると、約 100rpm 変化します。（プーリを1/4回転すると、約25rpm変化します）チェッカ機能（→ 209 ページ参照）のその他メニュー 3 の唐箕回転センサで唐箕の回転数を確認してください。

[重要]

- 回転を変更した時は、テンションバネを95± 2mmに調節してください。調節をおこたるとベルトがスリップし、機械の破損や火災の原因となります。
- 唐箕のプーリ幅（26mm）は 30mm 以上にしないでください。

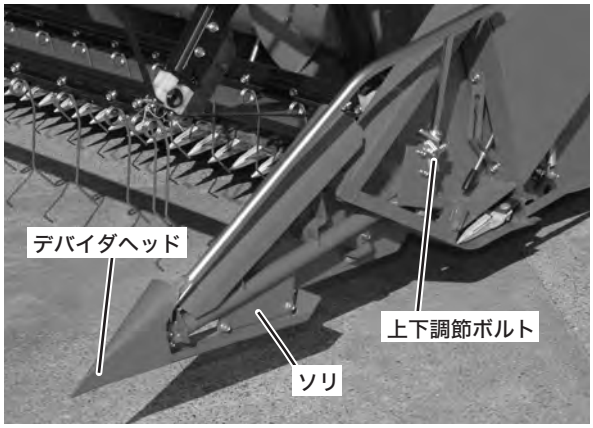
2番スロワ羽根の高さ調節のしかた

1. スロワ羽根の取付ボルトの位置を確認してください。
2. スロワ羽根の下側の穴にボルトを取り付けている場合は、取付ボルトを取り外しスロワ羽根の上側の穴にボルトを取り付けてください。



デバイダヘッド高さの調節のしかた

作物の倒伏状態と、ほ場の状態によって、左右とも同じ高さに調節してください。
調節は上下調節ボルトで行います。



〈立毛時〉
雑草が引っかからない程度に、刈株よりやや高めに調節してください。
〈倒伏時〉
デバイダヘッドが軽く接地する程度に、ソリは前上がりで接地させ、デバイダヘッドの底が少し前上がりになるように調節してください。

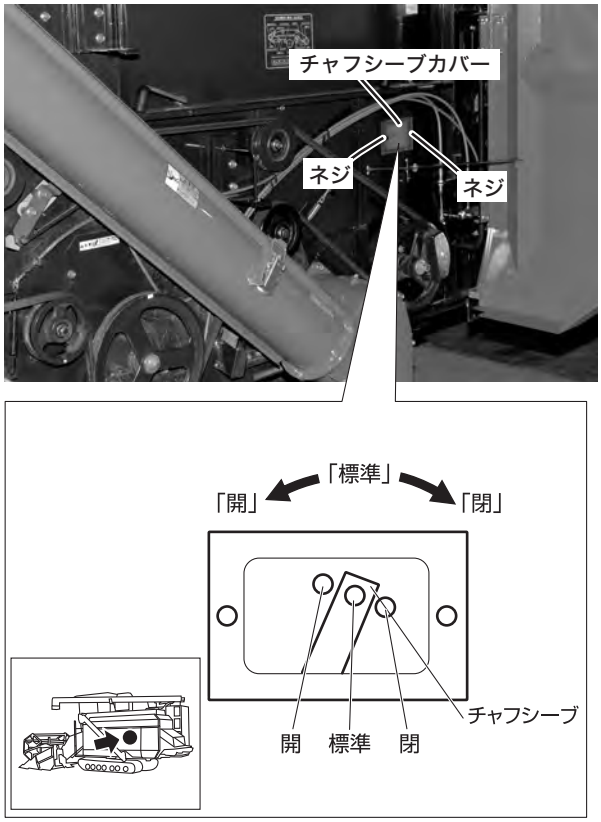
チャフシーブ後の調節のしかた

チャフシーブは、脱こくされたこく粒とワラクズを選別します。作物の種類や脱こく状態に応じて、チャフシーブの角度を調節してください。

1. 脱こく左後カバーをオープンしてください。



2. ネジ2本を外し、チャフシーブカバーを取り外してください。



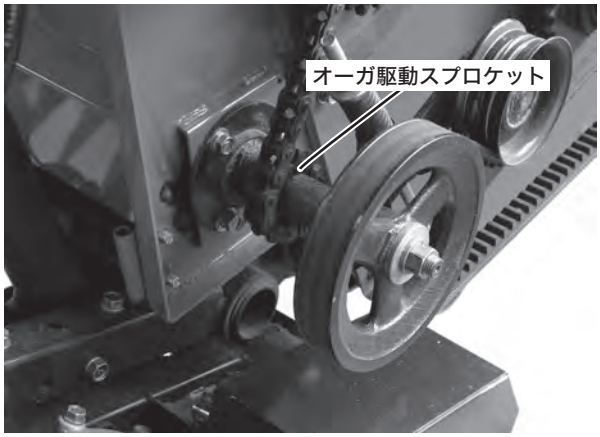
3. チャフシーブの角度を調節してください。
●「開」位置…… 稲・麦（ロスが多いとき）
●「標準」位置…… 大豆
●「閉」位置…… 2番に詰まりやすいとき

[参考]
●出荷時は、「開」位置に調節されています。

4. 調節終了後、カバーを元通りに閉じてください。

プラットホームオーガ回転数の調節のしかた

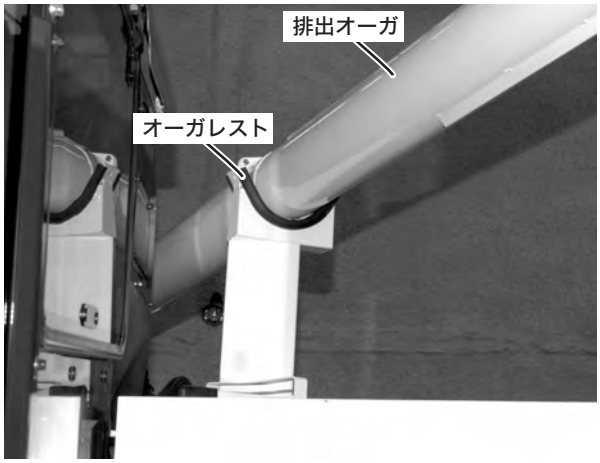
麦の高速作業などで、プラットホームオーガ部に稈（稲）が滞留する場合は、オーガ駆動スプロケットを組み替えて、オーガの回転数を調節してください。



刈取作物	オーガ駆動スプロケット
稲・麦（標準）	14T
大豆	12T（オプション）

グレンタンクの準備

1. 排出オーガをオーガレストに、確実に収納してください。（→109ページ参照）



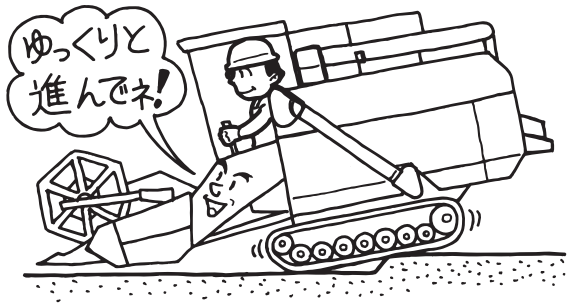
[重要]

- 排出オーガがオーガレストから浮き上がった状態での作業は、絶対にしないでください。排出オーガ取付部が破損するおそれがあります。

2. 排出オーガクラッチスイッチを「切」にしてください。

5. ほ場への出入りのしかた

- 副変速レバーを「低速」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にしてください。
- Eモード切替スイッチを「切」（Eモードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。
- あぜに対して直角に出入りしてください。
- 20cm 以上の高いあぜの場合は、アユミ板を使用してください。



〈急な坂道の場合〉

●進行方向

進行方向	登　り	後　進
	降　り	前　進

●移動速度

副変速レバー「低速」位置、オールマイティシフトレバーは最低速にして、ゆっくり登り降りしてください。

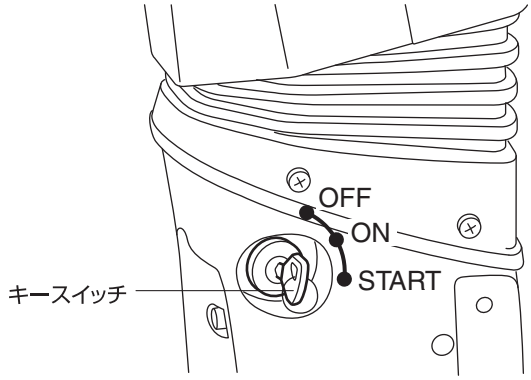
⚠警告

- 急な坂道の場合は、進行方向や速度を誤ると、転倒してケガをするおそれがあります。必ず上記の方法に従ってください

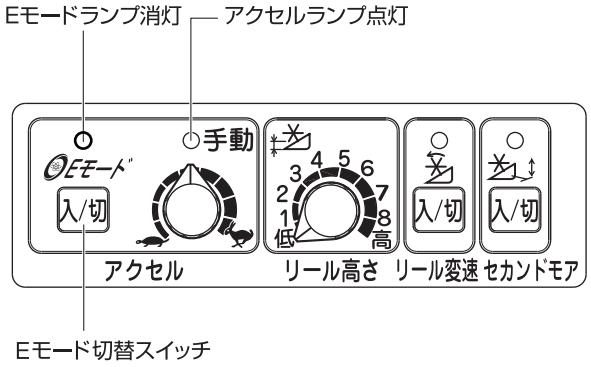
1. 刈取操作のしかた

作業の手順

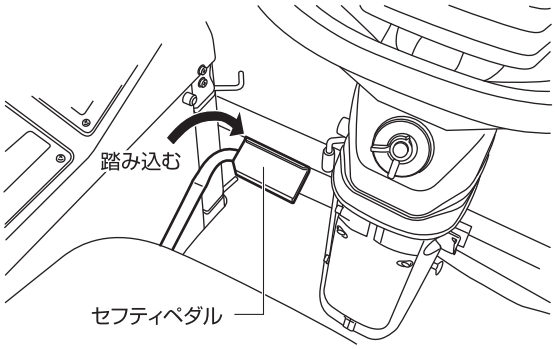
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認してください。(→46ページ参照)
2. キースイッチにキーを差し込んで、「ON」位置にしてください。



3. Eモード切替スイッチを「入」(Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。



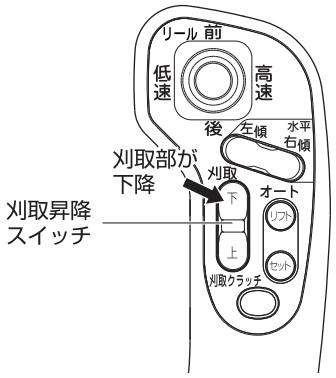
4. セフティペダルをいっぱいに踏み込んで、キースイッチを「始動」位置に回してください。



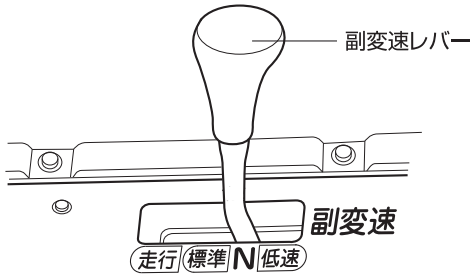
5. 刈取昇降スイッチの「下降」側を押してください。刈取部が下がります。

[参考]

● 刈取部を低くし、刈り残しのない刈り高さにセットします。



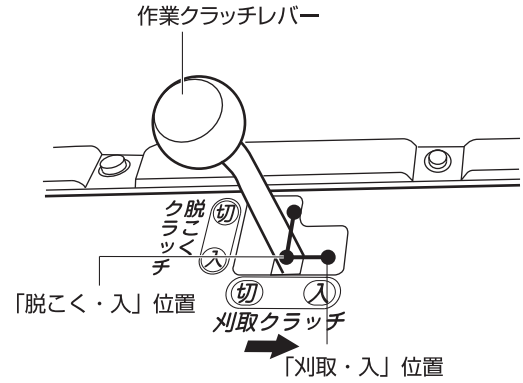
6. 副変速レバーを作物条件に合わせて、「低速」「標準」位置のどちらかに入れてください。



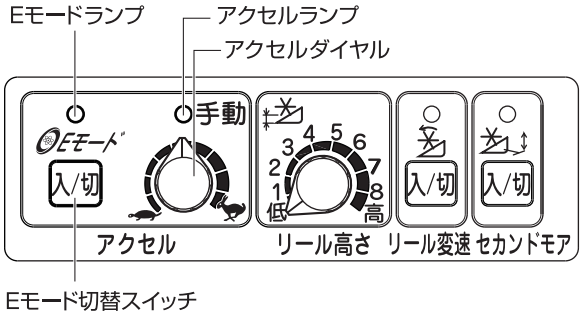
作業速度の選びかた

副変速レバー位置	使　用　条　件
低速	●全倒伏 ●半倒伏 ●周囲刈りで低速作業をする場合
標準	●直立

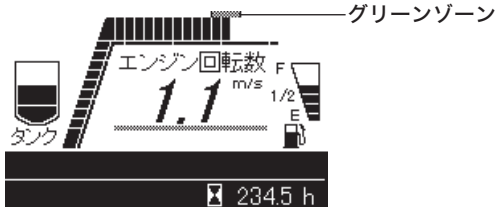
7. 作業クラッチレバーを「脱こく・入」→「刈取・入」位置にしてください。



8. 作業中のエンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛りが「グリーンゾーン」位置を指すように、アクセルダイヤルで調節してください。または、Eモードスイッチを「入」にしてください。(→35、36ページ参照)



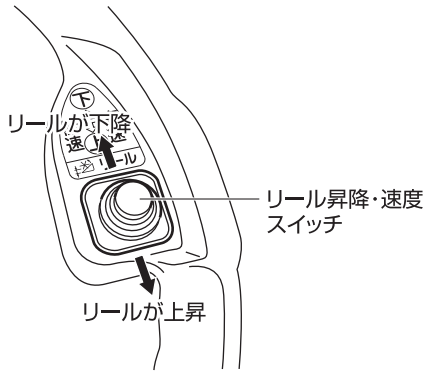
●アクセルダイヤルを右に回す
……エンジンの回転が上がる
●アクセルダイヤルを左に回す
……エンジンの回転が下がる

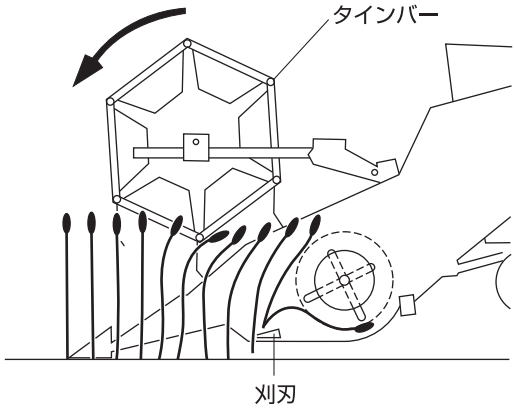


[重要]
●エンジン回転がアイドリング状態では、刈取作業を行わないでください。詰まりの原因になります。

[参考]
●Eモード「入」(Eモードランプ点灯)でエンジン回転が定格回転の時に、作業クラッチレバーを「脱こく・入」にすると伝達ベルトを保護する目的で、一旦エンジン回転を低下させてからクラッチが入るようにしています。
●Eモード切替スイッチ「切」の状態で作業クラッチを「脱こく・入」にするときは、ベルトを保護するため、アイドリング状態で行い、その後アクセルダイヤルで定格回転にして、作業を行ってください。

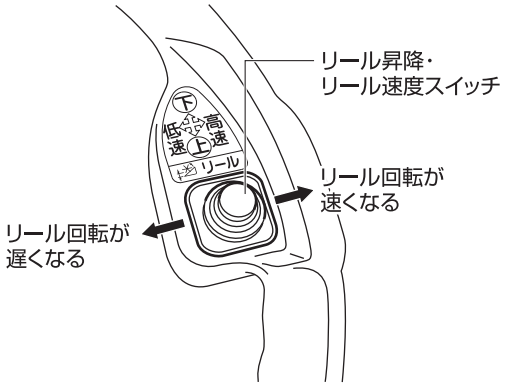
9. リール昇降・リール速度スイッチで、稈が刈刃で切断されるときに、タインバーが穂首に当たり、作物を捕らえる位置へ、リールをセットしてください。

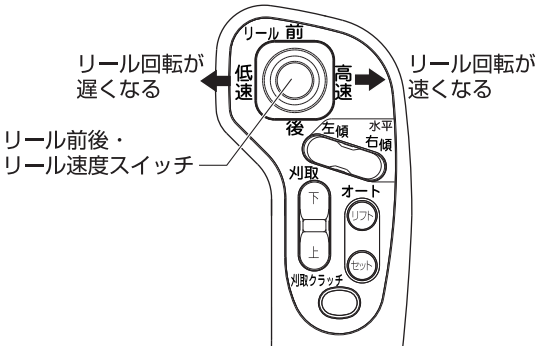




[重要]
●向い刈り時は、リールが穂先を押しつけないようにしてください。押しつけすぎると、刈刃で穂先を切ることがあります。

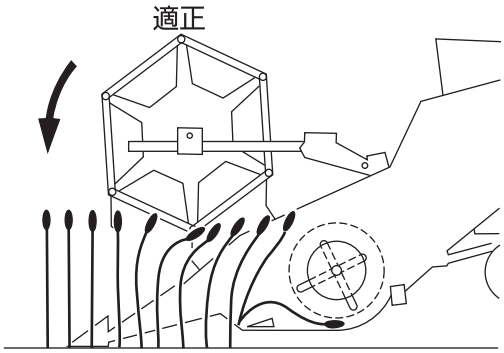
10. オールマイティシフトレバーまたはマルチハンドルでリール速度を調節してください。





[参考]

- 稲作業のリール速度は、コンバインの走行速度よりもわずかに速くなるように調節してください。（走行速度の1.2～1.5倍）
- 麦で、取り込み稈長が80cm以上の場合は、リール速度を走行速度よりわずかに遅くなるように調節してください。

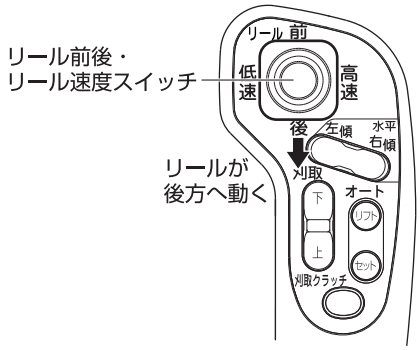


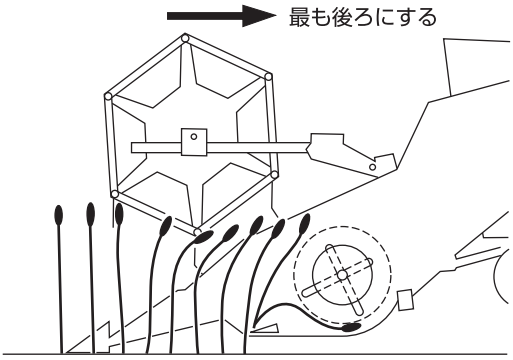
- 刈取部が作動していないときは、リール前後・リール速度スイッチを操作しても、速度は変わりません。

[重要]

- リール速度が速すぎると、リールの衝撃で、こく粒損失が発生します。

11. オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチで、リールの位置を最も後ろにしてください。

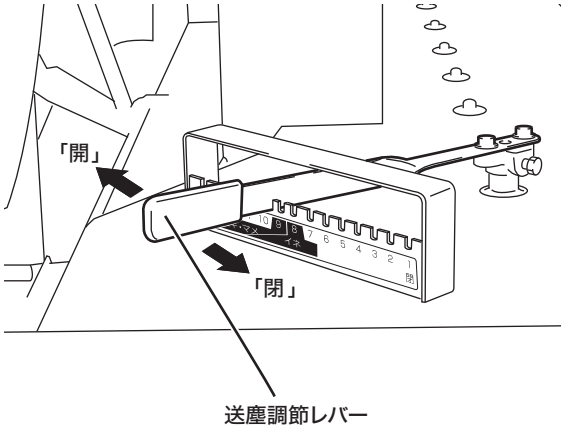




[重要]

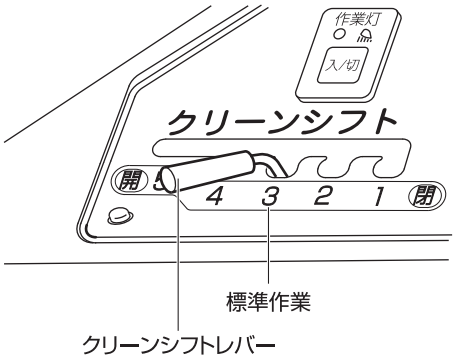
- リールの位置が前すぎると、こく粒損失が増加します。また、取り込み不良が発生し、プラットホームオーガによるフィーダハウスへの送り込みが断続的になり、過負荷の原因になります。

12. 送塵調節レバーで刈取るそれぞれの作物に応じた位置にセットしてください。

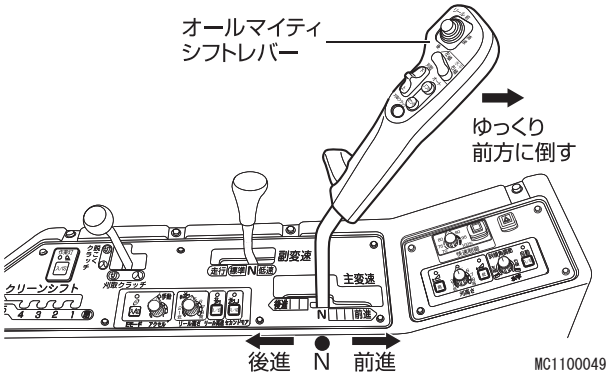


標準的な作物の調節位置	
麦・大豆	・・・・・・・「9」
稲	・・・・・・・・・・「8」
そば・ハト麦など	・・・「10～13」

13. クリーンシフトレバーを「3・標準」位置にセットしてください。



14. オールマイティシフトレバーを前進位置にゆっくり動かして、ゆっくり刈り始めてください。



15. 作業状況に合わせて、オールマイティシフトレバーで作業速度を調節してください。

16. 刈り終ったら、以下の操作をしてください。

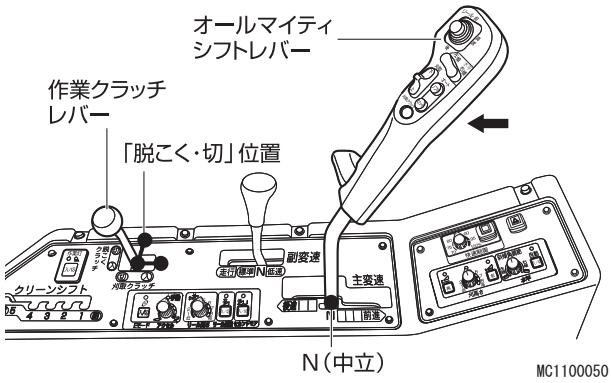
1) オールマイティシフトレバーを「N」(中立) 位置にしてください。

2) 駐車ブレーキをかけてください。
(→46ページ参照)

3) 刈取クラッチレバーを「切」位置にしてください。

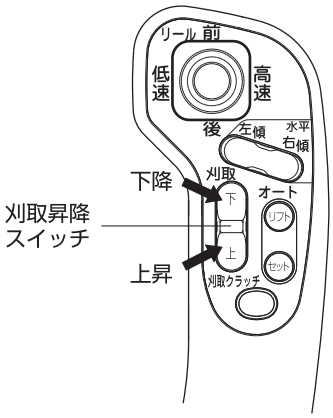
4) ロータでの作物の処理が終わってから、作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。

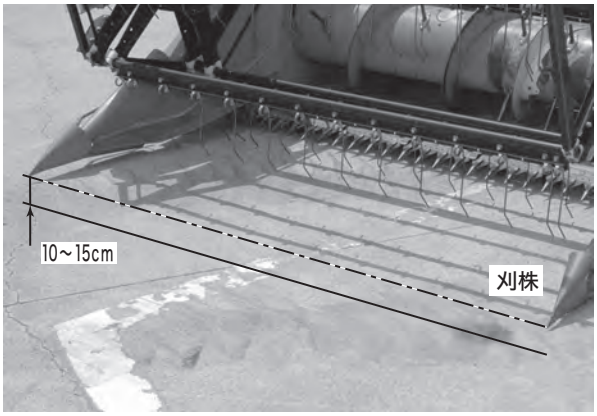
5) エンジンを停止してください。(→67ページ参照)



作業中の方向転換

刈取っている条が終り、機体を方向転換する場合は、オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、刈取部が刈株や排ワラを引っかけない程度（10～15cm）に上げてください。





[重要]

- 刈取りが終了しても旋回中は、作業クラッチレバーを「脱こく・切」にして、エンジン回転を下げないでください。脱こく部では、作物の処理が続いています。
- 刈取オートリフトを使用すると、設定している刈高さに、刈取部が自動的に上昇します。(→99ページ参照)
- セカンドモア（オプション）装着時は、刈取部（刈刃高さ）を地面より 50cm 以上、上げてください。上げ高さが不足していると、セカンドモアが収納位置に上昇せず、機械が破損する原因になります。
- 刈取作業の最終工程などで、刈幅に満たない条数を、セカンドモア（オプション）を使用して刈取ると、セカンドモアの刈取りを行っていない部分が排ワラを押し、セカンドモアが変形するおそれがあります。
  このようなときには、刈取水平制御装置を切って、手動操作で刈取りを行っていない側を上方に傾け、セカンドモアで排ワラを押さないようにして作業を行ってください。

作業速度の選びかた

作物の状態などや使用条件に合わせて、副変速レバーとオールマイティシフトレバーを調節し、最適な状態で作業してください。

湿田ほ場の刈取りかた

機体が後傾する場合は、デバイダヘッドを下げて使用してください。(→88ページ参照)

[重要]

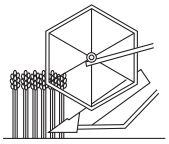
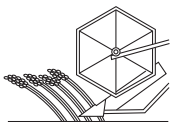
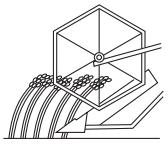
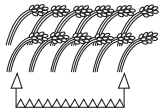
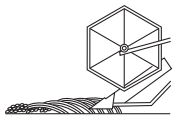
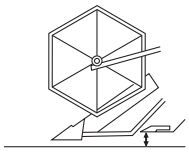
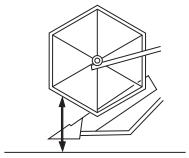
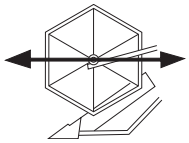
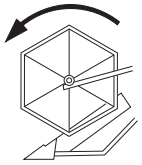
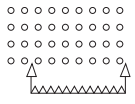
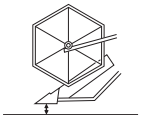
- 超湿田作業で旋回しにくいときは、マルチハンドルを切りすぎていることが考えられますので、ハンドルの切る角度を小さくして、旋回半径を大きくとってください。
- スピンターン状態になると、思うように旋回できません。
- 湿田作業で機体の沈下が著しく、旋回しにくいときは、旋回モード切替ノブを「湿田モード」に切り替えてください。旋回半径が大きくなり、旋回しやすくなります。

リールヘッダの取扱いポイント

本機では通常（立毛時）、穂先から60～70cmの位置に刈り高さを合わせると、ロスなく取り込むことができます。

[重要]

- 70cmより長い位置で取り込んだ場合、所要動力が増加して能率が低くなったり、ロータ内で塵が多く発生して揺動部がいっぱいになり、こく粒損失の増加や、選別が悪くなることがあります。
- 60cmより短い位置で取り込んだ場合、ロータの揉み作用が損なわれ、こく粒損失が増加する場合があります。このとき、送塵調節レバーを「閉」側にすると、損失は減少します。

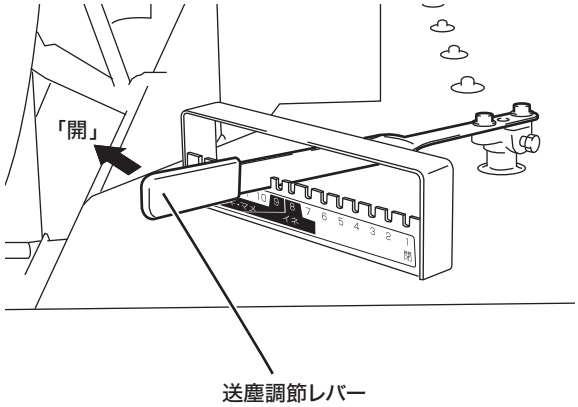
作物の状態	立毛時	追刈時	向刈時	横刈時	完全倒伏
刈取部					
刈高さ 	希望する高さに合わせて作業を始めてください。（穂先から60～70cmが適当です。）	土に突っ込まない高さに、作業しながら調整してください。	穂を切り落とさない範囲で、できるだけ高く調整してください。		
リール高さ 	タインバーが穂首のやや下を通るように調整してください。	いっぱいまで下げてください。	タインが作物の穂先を櫛ですくうように調整してください。（ハンドルを左右に細かく動かすと効果的です。）	いっぱいまで下げてください。	
リール前後位置 	リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。	リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。	リールの中心が刈刃の真上か、やや前あたりに調整してください。	リールが作物を拾い残さない高さになるまで前方に出してください。	リールが作物を拾い残さず、土に突っ込まない高さになるまで前方に出してください。
	※リールを前方に出しすぎると、稈こぼれやオーガ部でムラ搬送の原因になります。				
リール速度 	タインバーが作物に分け入るとき、作物が揺れ動かないように調整してください。（リール速度は作業速度の2～5割増にしてください。）	走行速度より、かなり速くしてください。（作業速度を遅くしてください。）	作業速度と同じか、やや速めにしてください。	作業速度よりやや速めにしてください。	
	※土に突っ込んでいないときにリールが止まるのは、タイン1本にかかる作物の重量が大きすぎるからです。走行速度を遅くするか、リールを速く回転させてください。				
デバイダ位置 	既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。	未刈部の作物をデバイダで押し倒さないように株の間を通してください。	既刈側の作物を刈り残さないように、右デバイダを合わせてください。		
デバイダ高さ 	雑草が引っかからない程度（刈株よりやや高め）に調整してください。	先端が土に軽く触れる程度に調整してください。低すぎると株抜けします。			

2. 作物や作業条件に合わせた各部の調節のしかた

実際に作業を行っていて、次のような現象がでた場合は、説明に従って各部を調節してください。

倒伏した作物や、ロータ内で常時ゴトゴト音がする場合

送塵調節レバーを「開」側に、1ノッチずつ動かしてください。



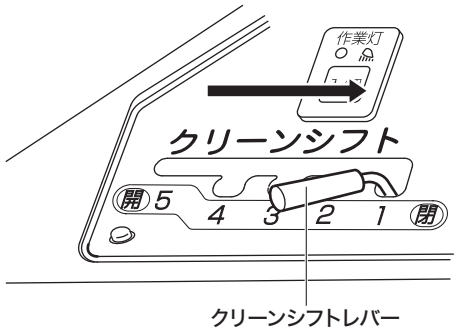
レバー位置の銘板



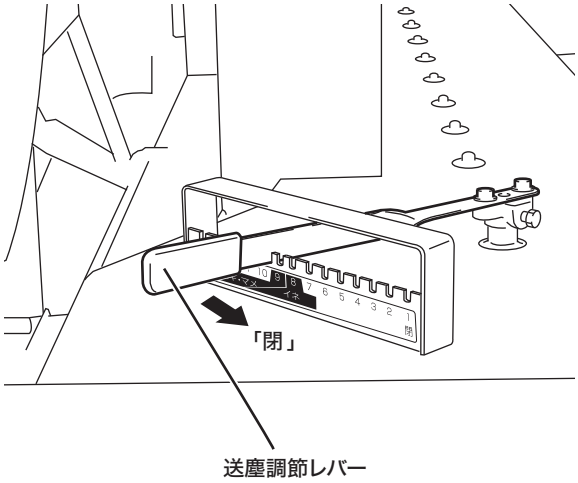
● ロスが少ない場合は開側に 1 ノッチずつ動かしてください。

籾に枝梗付きが多い場合

● クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にしてください。



● 送塵調節レバーを「閉」側に、1 ノッチずつ動かしてください。

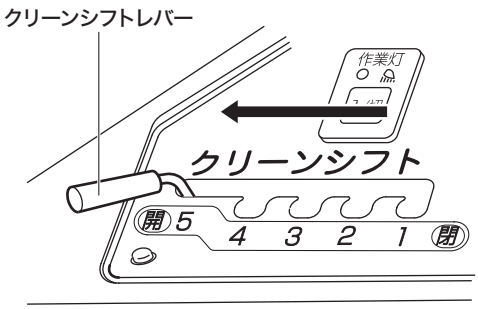


レバー位置の銘板



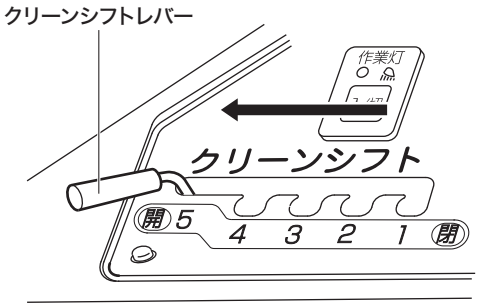
作物が湿材の場合

● クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にしてください。



3番ロスが多い場合

● クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にしてください。



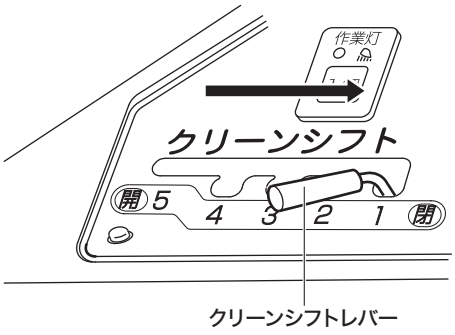
乾材などで、3番ロスが目立って多いときは、唐箕回転を調節してください。（→87ページ参照）

[重要]

●唐箕プーリのセットボルトをゆるめて調整してください。

選別が悪い場合

●クリーンシフトレバーを「1」・「2」位置（閉側）にしてください。

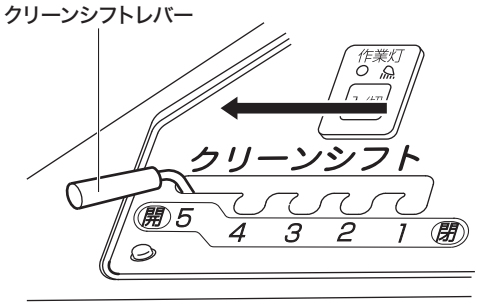


[参考]

●クリーンシフトレバーを調節しても選別が悪い場合は、唐箕の回転を調節してください。(→87ページ参照)

飛散・脱ぷなどが多い場合

●クリーンシフトレバーを「4」・「5」位置（開側）にしてください。



●唐箕の回転を下げてください。目安は、50～100回転でプーリを半回転～１回転締め込んでください。（P87参照）

3. 警報装置が作動したときの処置のしかた

⚠警告

- 詰まりなどを除去する場合は、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- コンベア部・チェン部に手を入れないでください。ケガをするおそれがあります。

運転中の各部の状態に異常があった場合は、異常箇所をセンターディスプレイとブザーで知らせます。また画面上部の警報表示ランプが点灯します。「12 章 不調診断のしかた」（→ 196 ページ参照）に従って確認し、処置をしてください。



4. 自動装置について

自動装置について説明します。自動装置を使って、能率の良い作業を行ってください。

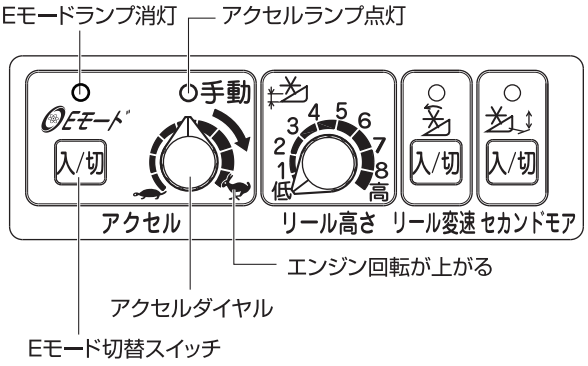
（1）自動定回転制御装置

⚠注意

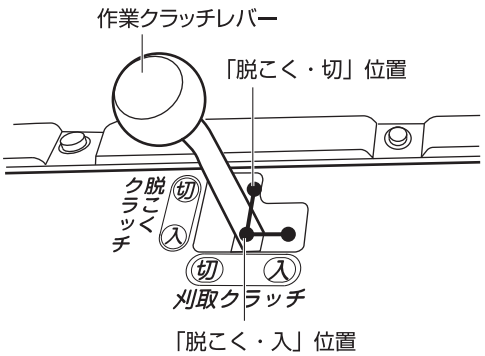
- 移動走行時・あぜ越え・刈取部の脱着・トラックなどへの積み・降ろしの場合は、必ず作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にし、E モード切替スイッチを「切」（Eモードランプ消灯・アクセルランプ点灯）にしてください。車速が急に変化することがあり危険です。
- 自動定回転装置は、自動的にエンジン回転をセンターディスプレイの回転計の目盛が「グリーンゾーン」位置（定格回転：2,500rpm）に保つ制御装置です。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. Eモード切替スイッチを「入」（Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）にしてください。



3. 作業クラッチレバーを「脱こく・入」位置にしてください。エンジン回転が、自動的に定格回転になります。



下記の状態でも、Eモード切替スイッチが「入」（Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）位置のときは、自動定回転制御は作動します。

- 作業クラッチレバーが「脱こく・切」位置のときに、前進または後進した場合でも、自動的に定格回転になります。
- オーガ自動旋回装置のオートセット・オートリターンの作動中でも、自動的に定格回転になります。
- 排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押して、排出オーガクラッチが入ると、自動的に定格回転になります。
  （排出オーガクラッチは、オーガレスト位置では入りません。）

[参考]

- Eモード切替スイッチが「入」（Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）位置のときは、作業クラッチレバーが「脱こく・切」位置の場合でも、機体が停止してから5秒間は定格回転のままです。5秒後に、自動的にローアイドリング（低回転）に戻ります。

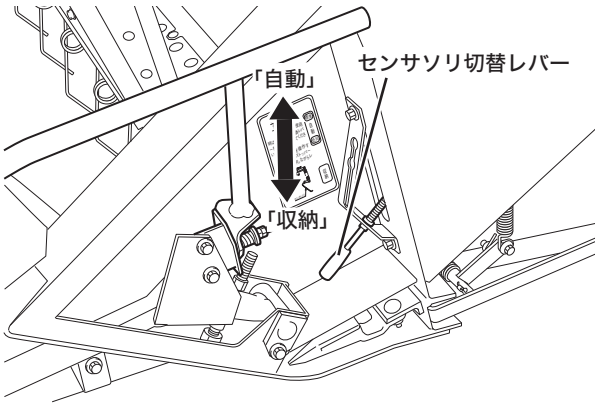
（2）刈取オートリフト・オートセット装置

⚠注意

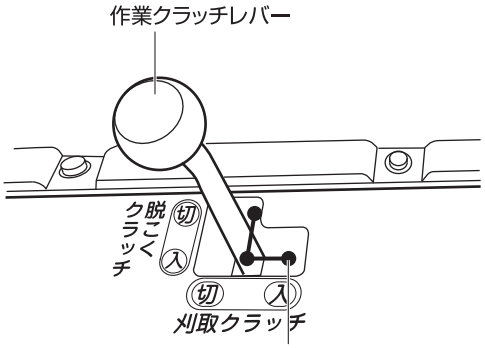
- 作業クラッチレバーが「刈取・入」位置のときは、機体が停止していても、オートリフトボタンを押すと、刈取部が上昇します。また、オートセットボタンを押すと、刈取部が下降します。
  周囲の安全を確認してから、オートリフトボタンおよびオートセットボタンを押してください。
- 刈取オートリフト装置とは、作業クラッチレバーが「刈取・入」位置のときに、オートリフトボタンを押すと、刈取部を設定高さまで上昇させ、リール高さを最下げ位置まで下降させる装置です。
- 刈取オートセット装置とは、作業クラッチレバーが「刈取・入」位置のときに、オートセットボタンを押すと、刈取部を刈高さ調節ダイヤルの設定位置まで下降させ、リール高さをリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇させる装置です。
- 刈取オートリフト・刈取オートセットで刈取部が昇降中に、刈高さ調節レバーを操作すると、手動操作が優先します。再度刈取オートリフト・刈取オートセットを行う場合は、オートリフトボタン・オートセットボタンのいずれかを押してください。（自動復帰なし）

〈操作のしかた〉

1. センサソリ切替レバーを「自動」位置にして、センサソリをセットしてください。

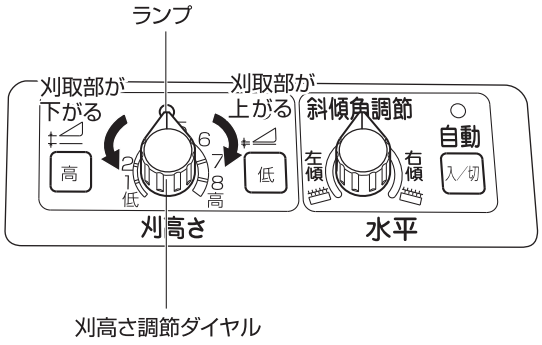


2. エンジンを始動してください。
   （→64ページ参照）
3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。

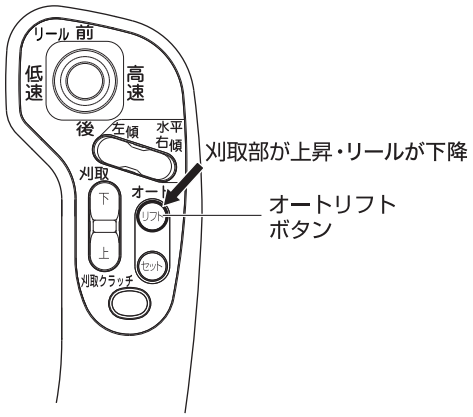


「刈取・入」位置

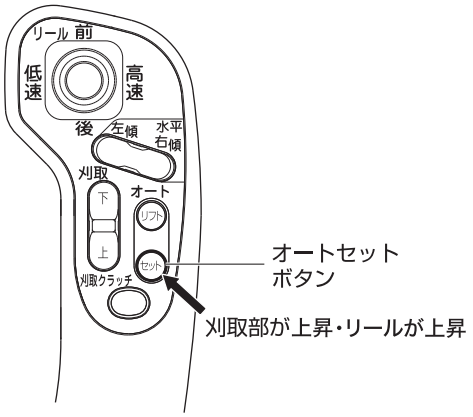
4. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定してください。



5. オートリフトボタンを押してください。
刈取部がオートリフト高さまで上昇します。
リールが最下げ位置まで下降します。

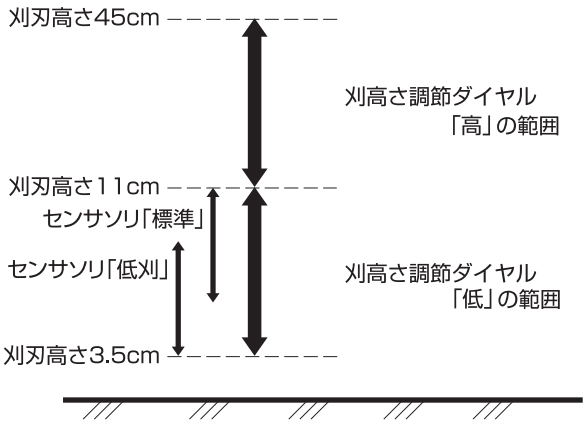


6. オートセットボタンを押してください。
刈取部が下降します。
リールがリール高さ調節ダイヤルの位置まで上昇します。



[参考]

- 刈高さ自動切替スイッチが「低」または「高」（ランプ点灯）のときに、刈高さ調節ダイヤルで設定したオートセット高さが、下図のように異なります。ただし、「低」の場合センサソリの接触する地面や、切株の状態により刈高さが異なる場合があります。

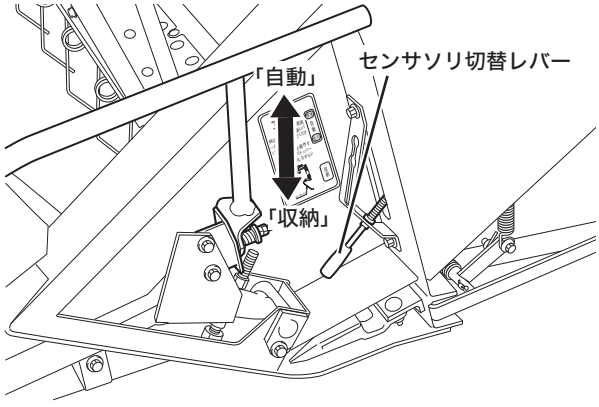


- 刈高さ自動切替スイッチが「OFF」（刈高さ自動切替スイッチの「低」および「高」ランプ消灯）のときは、「高」位置の刈高さ調節ダイヤル位置の高さまで下降します。

〈オートセット高さの設定のしかた〉

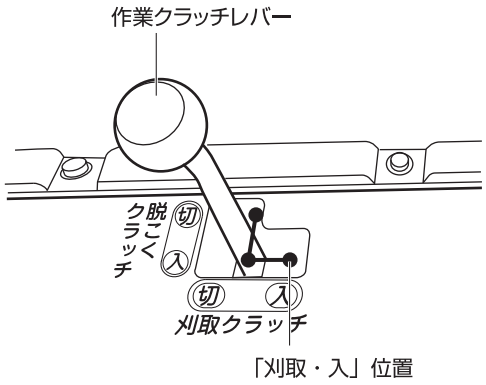
オートセットで、下降する刈取部の高さを設定することができます。

1. センサソリ切替レバーを「自動」位置にして、センサソリをセットしてください。

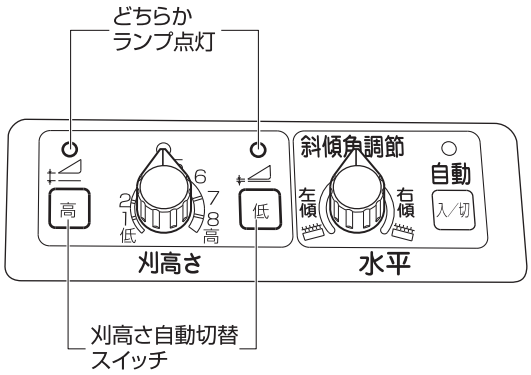


2. エンジンを始動してください。
（→64ページ参照）

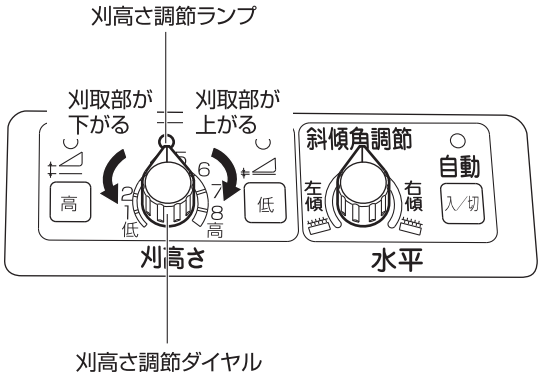
3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。



4. 刈高さ自動切替スイッチを「低」または「高」位置（ランプ点灯）にしてください。



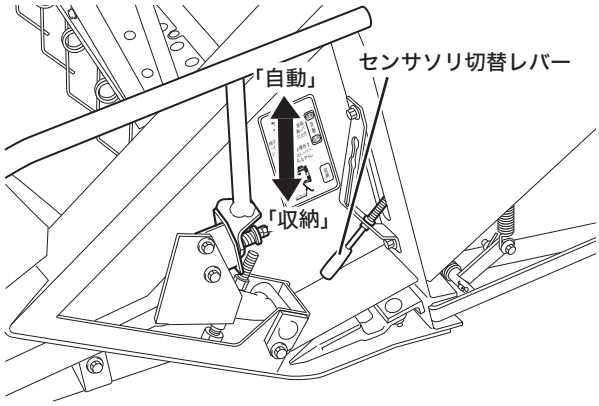
5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくり回して、希望の刈高さに設定してください。



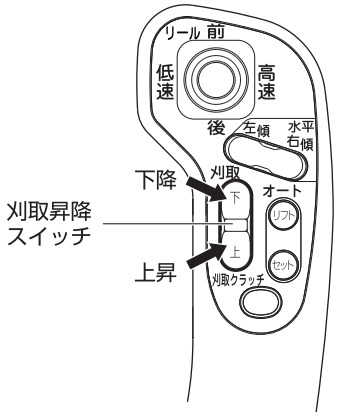
〈オートリフト高さの設定のしかた〉

オートリフトボタンで、上昇する刈取部の高さを設定することができます。（設定した刈高さは、キースイッチを「切」位置にしても記憶されています。）

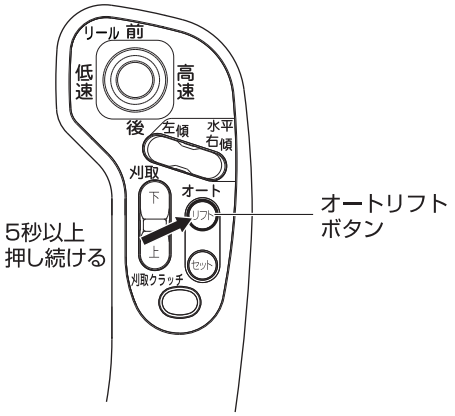
1. センサソリ切替レバーを「自動」位置にして、センサソリをセットしてください。



2. エンジンを始動してください。
（→64ページ参照）
3. オールマイティシフトレバーの刈取昇降スイッチで、設定したい高さまで刈取部を昇降させます。



4. オートリフトボタンを 5 秒以上押し続けてください。最初にブザーが断続で鳴り、設定が完了すると連続で鳴ります。



5. オートリフトボタンから指を離してください。設定が完了し、ブザーは鳴り止みます。

[参考]

- 工場出荷時は、地面から刈刃までの高さが 70cm に設定されています。
- 設定可能な高さは、地面から刈刃までの高さが65cm以上です。65cm未満の高さに設定しても、65cmに設定されます。
- 走行しながら設定はできません。必ず停止した状態で行ってください。
- 作業クラッチレバーが「脱こく・入」位置のときは、オートリフト高さの設定はできません。作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてから設定してください。

(3) 刈高さ自動制御装置

⚠ 警告

- **移動走行時、および、トラックへの積込み・積降しの場合には、必ず作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および、刈高さ「低」スイッチを「切」にし、刈高さ「高」ランプおよび刈高さ「低」ランプが消灯しているのを確認してください。また、センサソリ切替レバーが「収納」側にあることを確認してください。作業クラッチ、刈高さ「高」スイッチ、および、刈高さ「低」スイッチが「入」になっていると、刈取部が不意に上下し、けがをしたり、機械を壊すおそれがあります。**

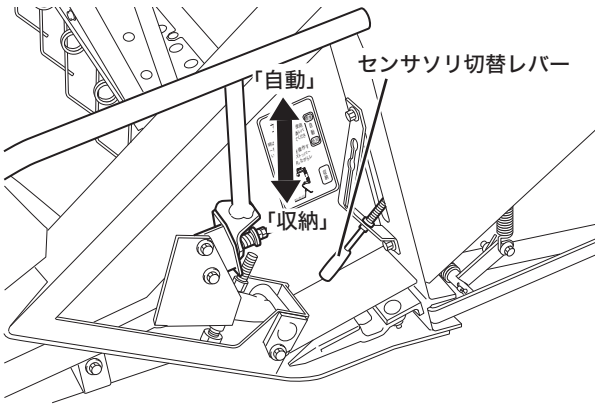
刈高さ自動制御装置とは、希望の刈高さをセットすると、刈取部のセンサソリ、およびフィーダハウス回動支点のセンサによって、刈取部の高さを検知し、ほ場の条件が変化しても希望の刈高さに自動調節する装置です。

〈低刈モード〉

刈取部のセンサソリが、地面に接地する高さで作業を行うときに使用します。

刈刃高さは、地面から3.5～11cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバーを「自動」位置にして、センサソリをセットしてください。

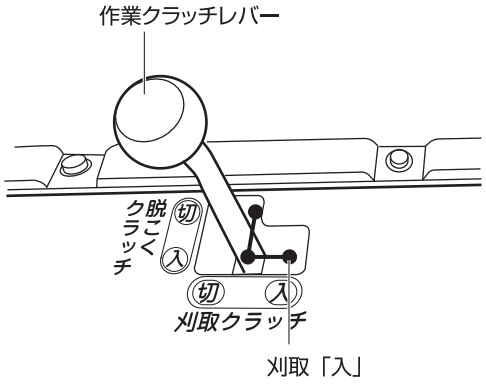


[参考]

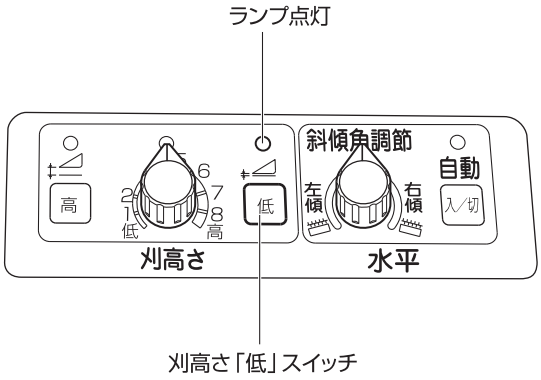
- センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御が働きません。

2. エンジンを始動してください。

3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。



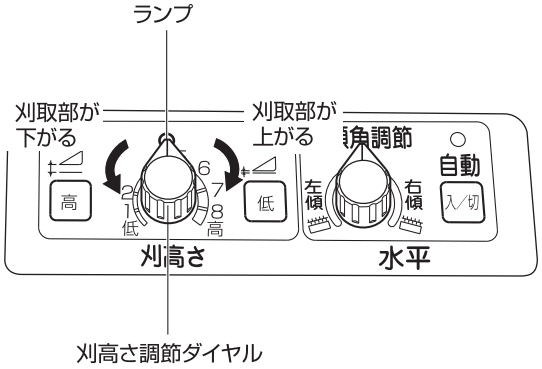
4. 刈高さ「低」スイッチを押してください。刈高さ「低」ランプが点灯し、自動的に刈取部のセンサソリが地面に接地するまで下がり、自動制御が働きます。



[参考]

●刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御が働かない場合は、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで刈取部を下げてください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御が働きます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくりまわして、刈取部を希望の刈高さに設定してください。
刈取作業を始めると刈取部の高さを地面に対して、一定の高さに自動的に調節されます。

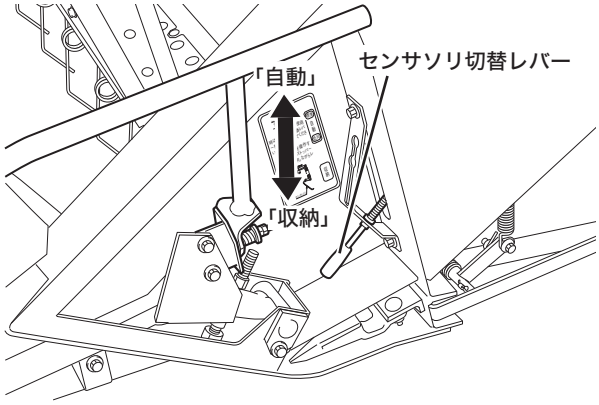


〈高刈りモード〉

刈取部のセンサソリが、地面に接地しない高さで作業を行うときに使用します。

刈刃高さは、地面から11～45cmの範囲です。

1. センサソリ切替レバーを「自動」位置にして、センサソリをセットしてください。

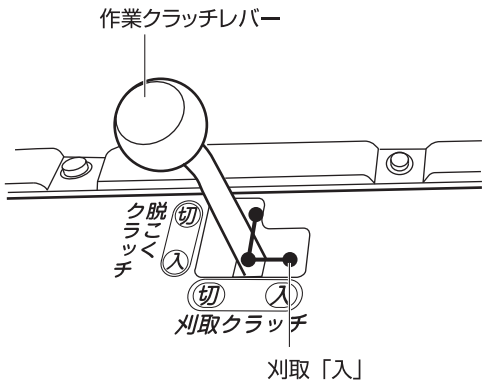


[参考]

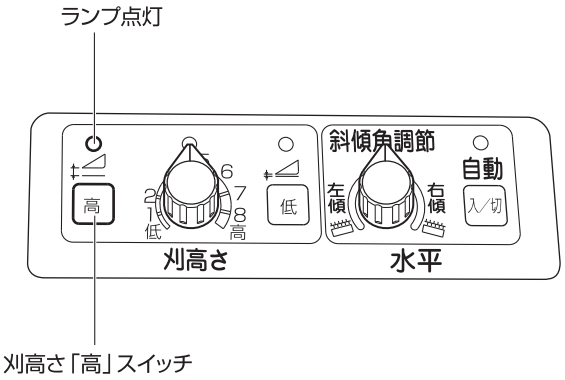
●センサソリ切替レバーは、必ず「自動」位置にしてください。センサソリが収納されていると、刈取部を下げても、自動制御が働きません。

2. エンジンを始動してください。

3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。



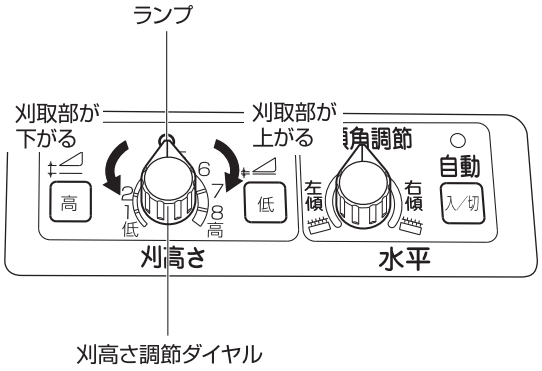
4. 刈高さ「高」スイッチを押してください。刈高さ「高」ランプが点灯し、自動的に刈取部が刈高さ調節ダイヤルで設定した高さになり、自動制御が働きます。



[参考]

- 刈高さ調節ランプが点滅し、自動制御が働かない場合は、オートセットボタンを押してください。刈高さ調節ランプが点灯し、自動制御が働きます。

5. 刈高さ調節ダイヤルをゆっくりまわして、刈取部を希望の刈高さに設定してください。
刈取作業を始めると刈取部の高さが自動的に調節されます。



[参考]

- 刈高さ自動制御中（刈高さ「高」ランプ、または刈高さ「低」ランプが点灯し、刈高さ調節ランプが点灯）のときに刈取昇降スイッチを操作すると、手動優先装置が働き、刈取部の昇降が行えます。
- 低刈モードのとき、制御中に刈取部のセンサソリが接地からフリー状態（地上から離れる）になると、自動制御は中断されますが、30cm 走行後に自動復帰します。手動操作で刈取部のセンサソリがフリー状態になったときは、センサソリが地面に接地するまで自動復帰しません。自動制御に戻すためには、オートセットボタンを押すか、刈取昇降スイッチで、刈取部のセンサソリが接地するまで、刈取部を下げてください。
- 高刈モードのときに、刈取部のセンサソリが強く地面に押し付けられると、突っ込み防止が働き刈取部は自動的に上昇します。（クイックリフト）
- 高刈モードで刈高さ調節ダイヤルの調節が低く突っ込み防止が作動する頻度が高い場合は、刈高さ調節ダイヤルの調節を高く調節するか、低刈モードで作業してください。

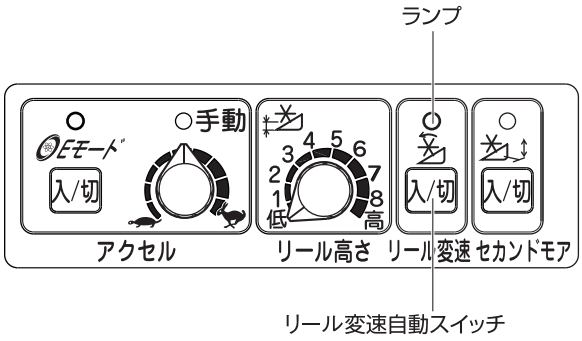
(4) リール自動制御装置

〈リール同調制御装置〉

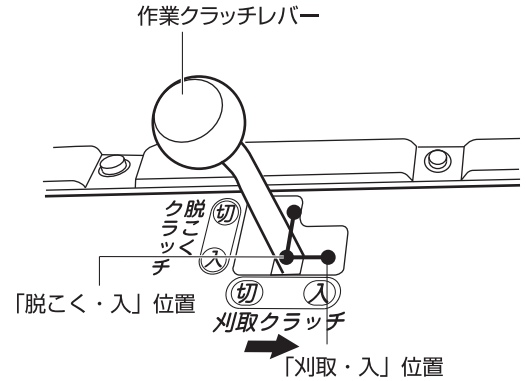
リール同調制御装置とは、作業速度に同調して、リールの回転速度が自動的に変速される制御です。また、作業速度に対して、リール回転速度の同調の割合がリール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチで調整できます。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
2. リール変速自動スイッチを押してください。
   リール変速自動ランプが点灯します。

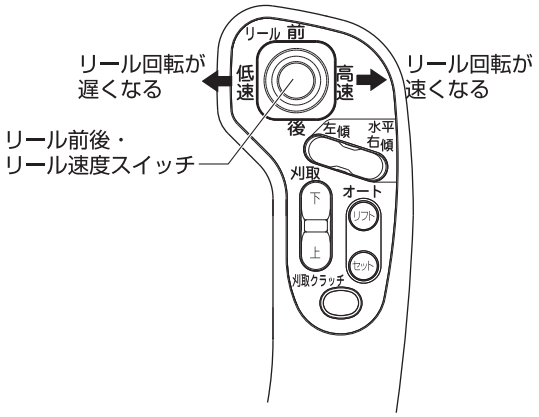


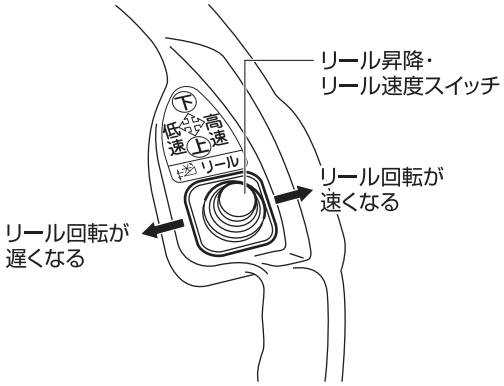
3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。リールが低速回転します。



4. 刈取作業を始めてください。
   刈取速度を速くするとリール回転速度も速くなり、刈取速度を遅くするとリール回転速度も遅くなります。

5. リール回転速度は、作物の状態を見ながら、オールマイティシフトレバーのリール前後・リール速度スイッチ、またはマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチにより調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。





[参考]

- 自動制御中でも、リール前後・リール速度スイッチやリール昇降・速度スイッチの手動操作によりリール回転速度を任意に調節できます。
  手動調節以降は、任意に調節した回転速度に同調してリール回転速度を制御します。
  キースイッチを一度「切」にすると、標準の同調速度に復帰します。
- 刈取作業速度に関係なくリール回転速度を一定にしたい場合は、リール変速自動「切」（ランプ消灯）にして刈取作業を行ってください。

〈リール高さ自動制御装置〉

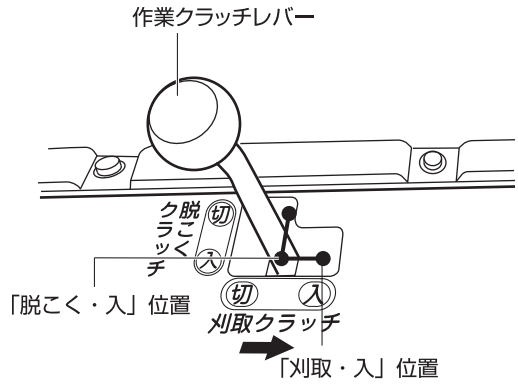
リール高さ自動制御装置とは、刈取作業時にリール高さダイヤルで設定したリール高さを保ち刈取作業ができます。

刈取オートリフトボタンを押すと、刈取部が設定高さまで上昇すると同時に、リールが最下点まで下降して、刈取物の脱落を防止します。

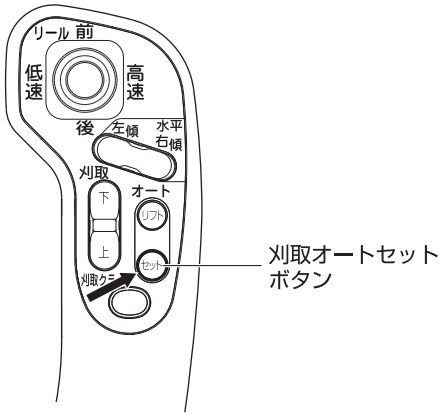
また、次の工程で刈取オートセットボタンを押すと、刈取部が下降して設定高さになると同時に、リールが設定したリール高さ調節ダイヤル位置になって刈取作業が行えます。

〈作業のしかた〉

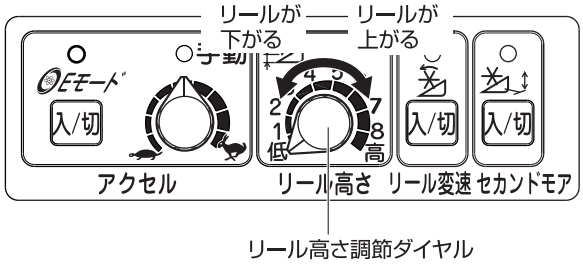
1. エンジンを始動してください。
2. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。



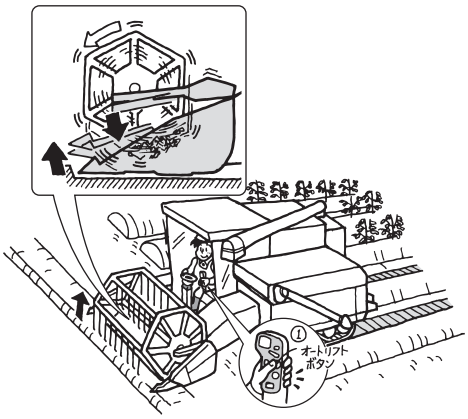
3. 刈取オートセットボタンを押してください。
   刈取部が下降し、地面から一定の高さで停止します。同時に、リールがリール高さ調節ダイヤル位置まで上昇し停止します。



4. リール高さ調節ダイヤルを操作して、リール高さを希望の位置に設定してください。



5. 刈取作業を始めてください。
6. 作物の状態を見ながら、リール高さ調節ダイヤルを操作して、リールの高さを調節してください。
7. 刈取オートリフトボタンを押してください。
   リールが最下点まで下降すると同時に、刈取部が設定高さまで上昇します。



8. 次工程で刈取オートセットボタンを押してください。刈取部が設定高さに下降すると同時に、リール高さも設定高さになって、刈取作業が行えます。

[参考]

- リール高さ制御装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動制御中でもマルチハンドルのリール昇降・速度スイッチでリール高さが調節できます。
- 手動操作後は、自動制御が切れるので、再び自動制御にする場合は、刈取オートセットボタンを押してください。

(5) 刈取バックアップ装置

刈取バックアップ装置とは、機械の破損を防止するための補助的な装置です。
作業クラッチレバー「刈取・入」位置、自動刈高さスイッチ「低」または「高」位置で（ランプ点灯）のときは、機体を後進すると、センサソリがフリー状態になる位置まで刈取部が上昇し、その後30cm後進すると、オートリフト高さまで上昇します。

[重要]

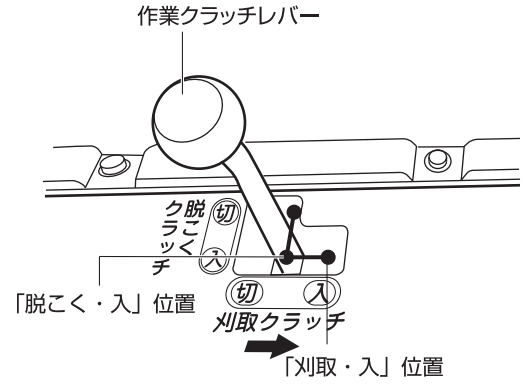
- **後進するときは、周囲の状況に注意して、刈取部を上昇させてから後進してください。**

(6) 刈取水平制御装置

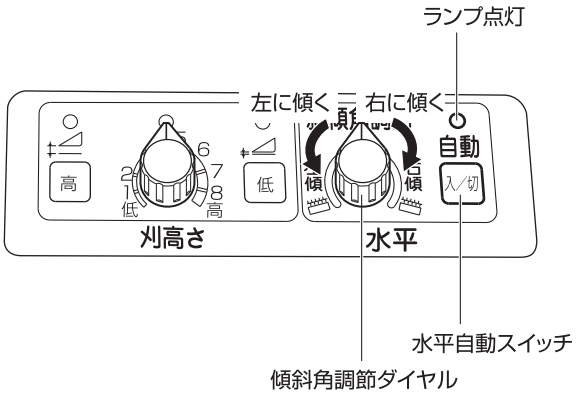
刈取水平制御装置とは、ほ場の条件が変化しても、地面に対して常に刈取部を水平に保つ装置です。
刈取部がオートリフト状態または刈取部の高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時 64cm）以上の時は、刈取水平制御は制御しません。

〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。
   （→64ページ参照）
2. 作業クラッチレバーを「脱こく・入」位置にしてください。



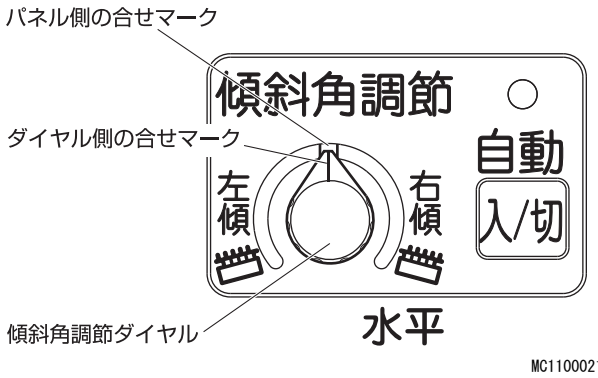
3. 水平自動スイッチを押して「入」（ランプ点灯）にしてください。刈取部を傾斜角調節ダイヤル位置に制御します。



4. 刈取部を左に傾斜させたいときは、傾斜角調節ダイヤルをゆっくり左側（🐢）へ回し、右に傾斜させたいときはゆっくり右側（🐇）へ回してください。本機が傾斜しても、合わせた角度に制御します。

[参考]

- 刈取水平制御装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動制御中でも水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できます。
- 刈取水平制御中に手動操作をすると、刈取水平制御は中断しますが、2秒後に再び水平制御が働きます。
- 作業クラッチレバーが「脱こく・切」位置では、刈取部の刈刃高さがセカンドモア収納高さ（工場出荷時 64cm）より高くなると、水平自動スイッチの「入」「切」にかかわらず、本機に対して刈取部を水平に保ちます。
  このとき、水平手動スイッチを操作すると、刈取部の傾きを調節できますが、2秒後に再び本機に対して刈取部が水平になります。
- 傾斜角調節ダイヤルの合せマークがパネル側と合っていないと、水平になりません。



（7）快速制御装置

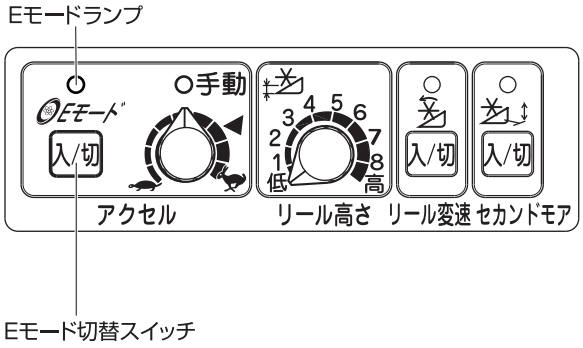
[重要]

- **快速制御装置は刈取作業を補助する装置です。急発進や急加速などの作業状態では詰まりが発生する場合があります。**
- **快速制御スイッチランプ点灯中は快速制御による車速制御中です。快速制御により車速が増減速する場合がありますので、オールマイティシフトレバーから手を離さないでください。**

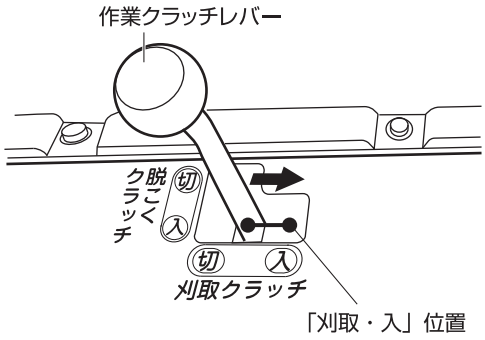
快速制御装置は、ほ場条件が変化してエンジンが過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷に戻れば、車速を元のオールマイティシフトレバーの位置の速度に戻す制御装置です。

〈操作のしかた〉

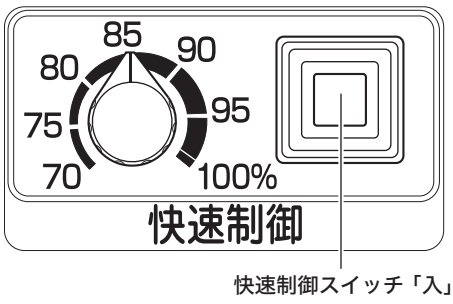
1. エンジンを始動してください。
2. Eモード切替スイッチを「入」（Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）にしてください。



3. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。



4. 快速制御スイッチを押して「入」にしてください。快速制御スイッチランプが点滅します。



5. 快速調節ダイヤルで快速制御が作動するエンジン負荷率を設定してください。
   （標準はグリーンゾーン）
6. 刈取作業を 0.5m/s 以上の速度で行ってください。エンジン負荷率が快速調節ダイヤルで設定した値を超えると快速制御スイッチランプが点灯し、車速が自動的に減速されます。
   （オールマイティシフトレバーは動きません。）
7. エンジン負荷が軽くなると、徐々に元の速度に戻ります。
   （オールマイティシフトレバーは動きません。）

[参考]

- 刈取作業はオールマイティシフトレバーでゆっくりと車速をあげ、快速制御が作動した位置でオールマイティシフトレバーを固定すると最適な作業速度になります。
- 快速制御が作動しても、オーバーロード警報が頻発する場合は、オールマイティシフトレバーで車速を少し落としてください。
- 快速制御中（快速スイッチランプ点灯中）はオールマイティシフトレバーでの増速操作はできません。
- 快速制御中(快速スイッチランプ点灯中)でもオールマイティシフトレバーでの減速操作は優先して行えます。

(8) 脱こく制御装置

脱こく部のこく粒量が増加し、排稈口に設置した排稈口センサが一定以上の排稈量を検出したとき、あらかじめクリーンシフトレバーにて設定したチャフシーブ角度・唐箕風量より、さらにチャフシーブ角を開き、唐箕風量を増加させます。この制御により、より選別を向上させて、ロスの低減を図ります。また、回行時は、脱こく部のこく粒量が減少するため、チャフシーブ角を開け側に制御しないようにしています。

(9) オーガ自動旋回装置（オーガオートセット・オーガオートリターン装置）

⚠警告

- **移動走行時、およびトラックなどへの積み・降ろしの場合は、オーガ自動旋回スイッチに触らないでください。オーガが動き出し、非常に危険です。オーガマルチリモコンのランプが消えていることを確認してください。**

オーガオートセット装置

排出オーガをスイッチ2つで、右方と後方に、合計4か所の位置に自動的に旋回させることができます。

〈操作のしかた〉

[重要]

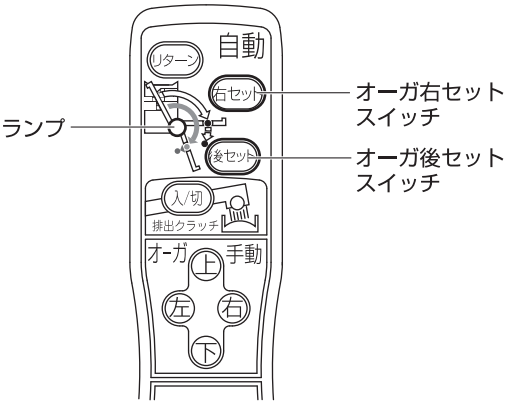
- **オーガ自動旋回装置の作動中や、排出オーガがオーガレストに収納されていない状態で、高速走行をしたり、急旋回をしないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。**
- **刈取作業中や移動走行時、またはトラックなどへの積み・降ろしのときは、必ず排出オーガをオーガレストに収納してください。**

1. エンジンを始動してください。

[参考]

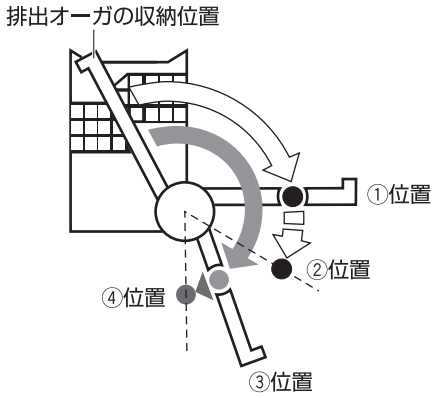
- 安全のため、エンジンがかかっていない場合は、オートセット装置は作動しません。

2. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ、またはオーガ後セットスイッチを長押ししてください。



[参考]

●安全のため、スイッチは長押し（0.2 秒以上）しないと装置は作動しません。



●排出オーガが最上昇位置まで上昇し、「右セット」の場合は右旋回して機体右側（ランプ（赤）点灯）①の位置に、「後セット」の場合は右旋回して機体真後ろ（ランプ（橙）点灯）③の位置に自動的に旋回します。
自動旋回中や①または③の位置で停止した後、再度、同じスイッチを押すと、ランプが点滅に切り替わり、排出オーガの旋回方向はそのままで、「右セット」の場合は②の位置に、「後セット」の場合は④の位置まで旋回します。
さらに、もう一度同じスイッチを押した場合は、ランプが消灯し自動旋回が停止します。

●オーガオートセット装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動旋回中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作することができます。また、手動操作をするとオーガオートセット装置は切れます。

●オーガオートセット装置が作動中、異なる位置のオーガ右・後セットスイッチを押すと、排出オーガは止まります（ランプは消灯します）。

●オーガオートセット装置が作動中に、オーガリターンスイッチ、および排出オーガクラッチスイッチを押した場合、または、作動中のオートセット動作と異なる位置のセットスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります（ランプは消灯）。この場合は、排出オーガクラッチは作動しません。排出オーガが停止した状態で、再度排出オーガクラッチスイッチを押してください。

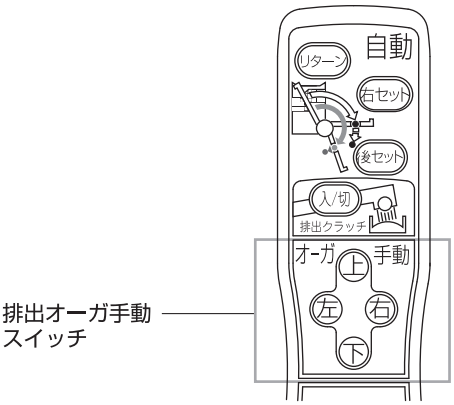
●オーガオートセット中断後、再度オーガ右・後セットスイッチを押すと、動きだします。

●Eモード切替スイッチが「入」（Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）のときには、オーガオートセット装置が働いている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数（グリーンゾーン）になります。

●排出オーガクラッチが「入」（ランプ（緑）点灯）の状態で、オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」（ランプ（緑）消灯）になり、5秒間は低速で上昇します。5 秒後には、通常速度で指示した位置に移動します。

●オーガ自動旋回中にリール昇降操作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降操作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

3. 排出オーガを排出オーガ手動スイッチで、こく粒排出位置まで下降させて、こく粒を排出してください。



[重要]

●オーガ右セットスイッチ、およびオーガ後セットスイッチを操作すると、排出オーガは自動的に旋回しますので、補助者・障害物などには十分注意してください。

オーガオートリターン装置

排出オーガをスイッチひとつで自動的にオーガレストに収納します。

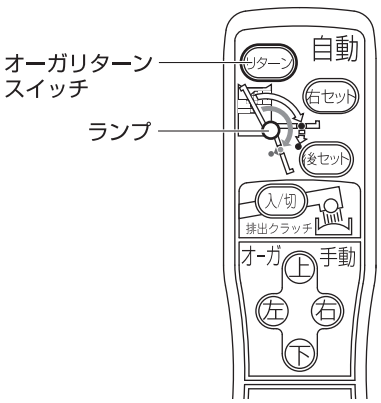
〈操作のしかた〉

1. エンジンを始動してください。

[参考]

●安全のために、エンジンがかかっていない場合には、オートリターン装置は作動しません。

2. 籾を排出後、オーガリターンスイッチを長押ししてください。
   排出オーガが自動的にオーガレストに収納されます。



[参考]

●オートリターン装置で排出オーガを戻すと、排出オーガは自動または手動でセットしたときの旋回方向の反対方向に旋回します。(左旋回)

●オートリターン装置には、手動優先回路が組み込まれていますので、自動収納中でも排出オーガは、排出オーガ手動スイッチで操作することができます。また、手動操作をするとオートリターン装置は切れます。再びオートリターンスイッチを押すと動き出します。

●オートリターン装置が作動中に、オーガ右・後セットスイッチ、オートリターンスイッチ、または排出オーガクラッチスイッチを押した場合は、排出オーガは止まります（ランプ（緑）消灯）。再度オートリターンスイッチを押すと、最初の動作から動きだします。

●Eモード切替スイッチが「入」(Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯）のときには、オートリターン装置が働いている間は、エンジン回転数が自動的に定格回転数（グリーンゾーン）になります。

●排出オーガクラッチが「入」(ランプ（緑）点灯）の状態で、オートリターンスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」(ランプ（緑）消灯）になり、５秒間は低速で上昇します。その後は連続で上昇します。

●オーガ自動旋回中にリール昇降動作をすると、オーガ自動旋回が一時停止し、リール昇降動作をやめると、オーガ自動旋回を続けます。

[重要]

●オーガ自動旋回装置が作動中に、高速走行や急旋回をしないでください。排出オーガがオーガレストに収納されなかったり、排出オーガ取付部などの破損につながります。

⚠注意

●オーガ自動旋回装置は、屋内や木の下などで使用しないでください。
オーガ自動旋回装置は、排出オーガを最上昇位置まで上昇させるため、障害物に当たりケガや破損のおそれがあります。

●移動走行時やトラックなどへの積み、降ろしのときは、絶対にオーガ右・後セットスイッチ、およびオーガリターンスイッチを押さないでください。

●作動油温度が低い場合、オートリターンで排出オーガがオーガレストの収納位置まで下降しない場合があります。

5. こく粒の排出のしかた

⚠危険

●こく粒がタンクに入った状態で、あぜ越え、トラックなどへの積み・降ろし、急旋回、坂道（前後左右各10度以上）での作業、および移動走行は絶対にしないでください。転倒するおそれがあります。

⚠警告

●排出作業時は、脱こく部を必ず停止させた状態で行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれてケガをするおそれがあります。

[重要]

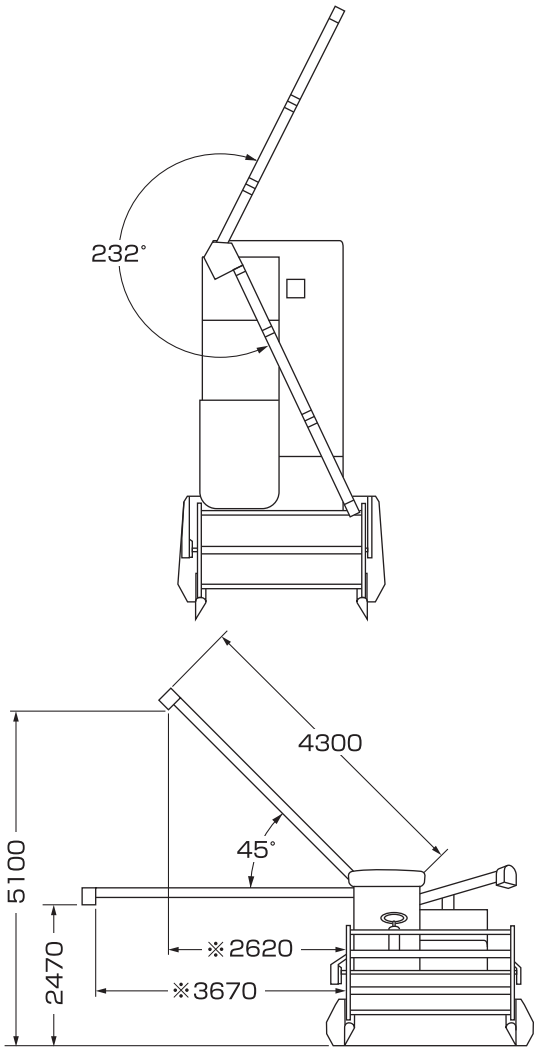
●オーガを昇降・旋回させるときは、コンバインが停止した状態で行ってください。破損の原因になります。

●オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないか確認してください。破損の原因になります。

●排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。

排出オーガの作業範囲

（単位：mm ）



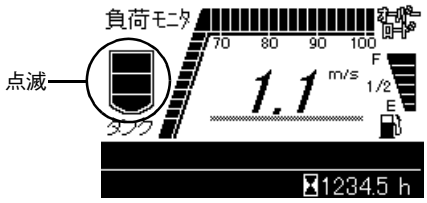
※グレンタンク側面からの寸法です。

排出作業のしかた

タンク内が満タンになると、下記の状態となります。手順に従って排出作業をしてください。

[重要]

- ブザー（警報装置）が断続で鳴る。
- グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画面を交互に表示します。



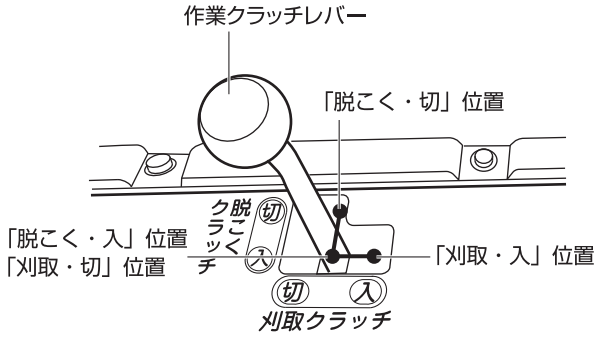
籾満量画面



1. もみ満量のブザーが鳴ったら、ただちに刈取作業を停止してください。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーを止めることができます。

[重要]

- 機体を停止したときは、必ず作業クラッチレバーを「刈取・切」位置にして、脱こく部での作物の処理が終ったのを確認してから、「脱こく・切」位置にしてください。作業クラッチレバーを「脱こく・入」で、脱こく部が回った状態にしておくと、穀粒ロスや損傷（脱ぷ）・稈切れ混入等の選別不良が発生します。

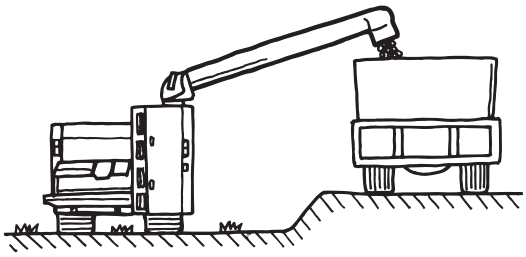


- もみ満量ブザーが鳴っているのに作業を続けていると、こく粒があふれて、故障の原因になります。

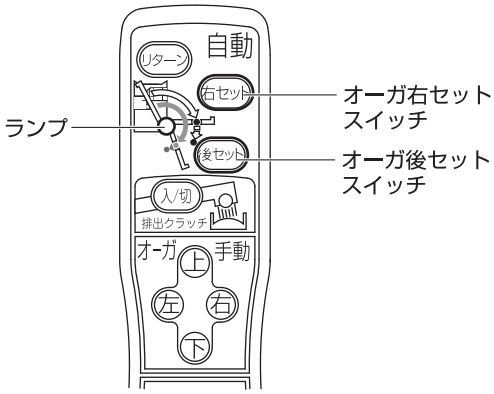
2. トラックへの排出が可能な所まで、コンバインを移動させてください。

[重要]

- コンバインは、できるだけ水平な状態にしてください。本機の傾斜が大きいと、排出時に排出オーガがずれるおそれがあります。



3. 作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。
4. オーガ自動旋回スイッチのオーガ右セットスイッチ、またはオーガ後セットスイッチを押してください。ランプ（右セット:赤、後セット:橙）が点灯し、自動的に旋回します。



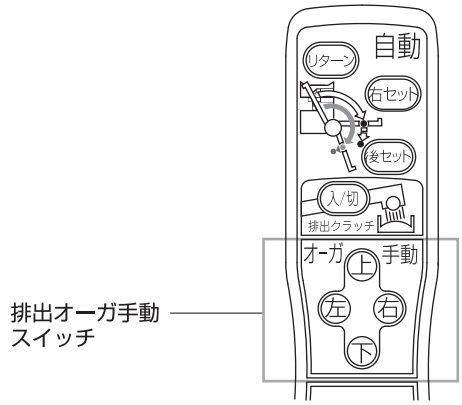
[重要]

- オーガマルチリモコンは、有線（コード）です。万一、コードを傷つけると、作動不良の原因になりますので、コードを傷つけないように注意してください。

[参考]

- 排出オーガ手動スイッチを操作しても、排出オーガの旋回は行えますが、排出オーガを旋回するときは、最上昇位置にして行ってください。

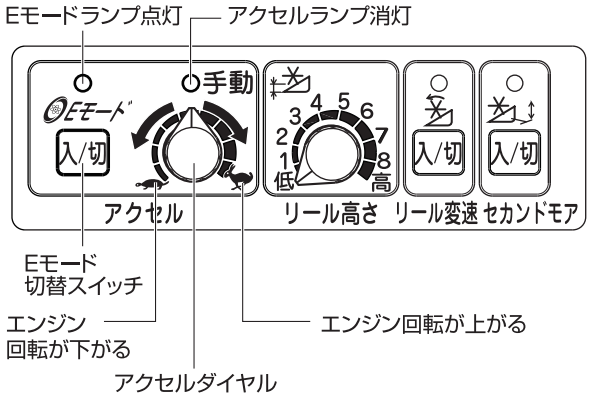
5. 排出オーガ手動スイッチで、排出オーガをこく粒排出位置まで下降させてください。

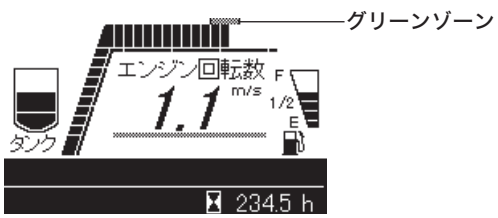


[重要]

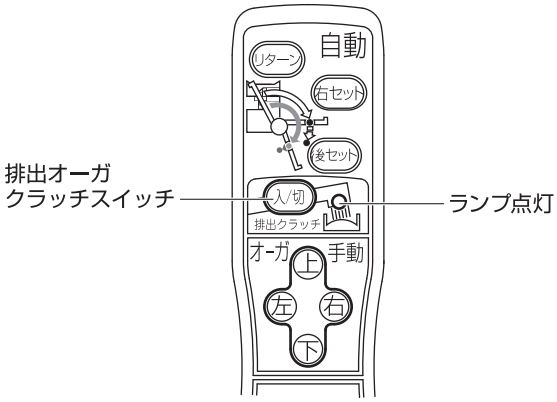
- オーガを昇降・旋回させるときは、周囲に障害物がないか確認してください。破損の原因になります。

6. 駐車ブレーキをかけてください。
(→46ページ参照)
7. アクセルダイヤルでエンジン回転を調節し、センターディスプレイの回転数が「グリーンゾーン」位置を示すように調節してください。または、Eモード切替スイッチを「入」(Eモードランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。



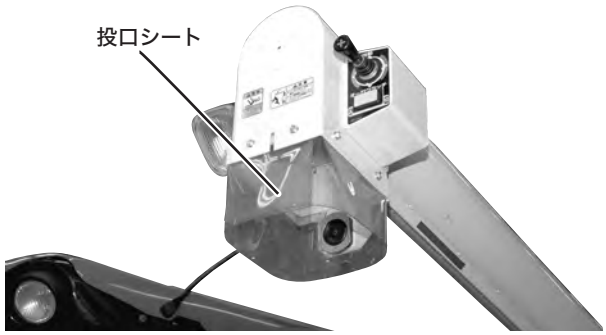


8. 排出オーガクラッチスイッチを長押しして、ランプを点灯させてください。こく粒が排出されます。



⚠注意

- 排出中は、排出口に手を入れないでください。オーガ内部でコンベアが回転しているので、ケガをするおそれがあります。
- 投口シートが破損した場合は、速やかに交換してください。



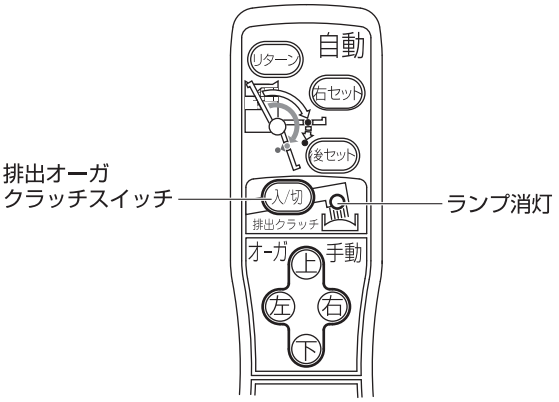
- オーガの昇降・旋回操作は、コンバインが停止した状態で行ってください。

[重要]

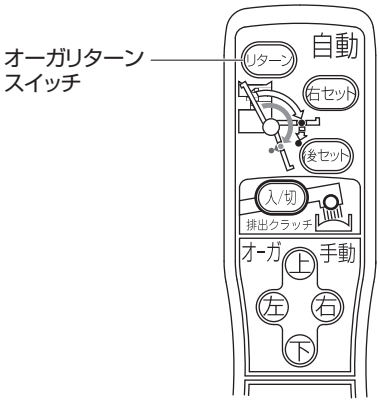
- こく粒排出中は、排出口をこく粒がふさがないように注意し、排出位置を変更しながら行ってください。



9. 排出が終了したら、排出オーガクラッチスイッチを押して、ランプを消灯させてください。



10. ランプが消灯した後、オーガリターンスイッチを長押してください。排出オーガは、自動的にオーガレストに収納されます。



[重要]

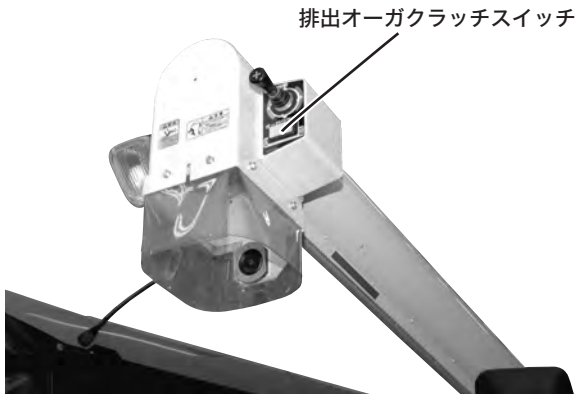
- オーガリターンスイッチを押すと、排出オーガは最上昇位置まで上昇してから回動して収納されます。周囲に障害物がないか、確認してから操作してください。破損の原因になります。
- 排出オーガクラッチが「入」（ランプ点灯）の状態でオーガリターンスイッチを押すと、排出オーガクラッチが「切」（ランプ消灯）になり、5秒間は低速で上昇します。その後は連続で上昇します。(→109ページ参照)
- 刈取作業中は、排出オーガをオーガレストに必ず収納してください。
- 排出オーガをオーガレストに収納しない状態で、高速走行したり、急旋回しないでください。排出オーガ取付部などの破損につながります。
- 屋内や木の下などでは排出オーガを使用しないでください。

排出オーガクラッチスイッチ(排出オーガ先端)

排出オーガクラッチスイッチは、排出オーガ先端にもあります。こく粒排出時にはトラック荷台上から、排出オーガの「入」、「切」ができます。

〈操作のしかた〉

排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押すと排出オーガ先端からこく粒が排出されます。
スイッチの「切」側を押すとこく流の排出がとまります。



[重要]

- オーガ先端と、運転席の排出オーガクラッチスイッチを同時に操作すると、オーガクラッチの「切」側の操作が優先して働きます。

[参考]

- 排出オーガが収納位置付近にある場合は、排出オーガクラッチスイッチを「入」状態にしても誤作動防止のため、オーガは回転しません。
- Eモードが「入」の時はオーガクラッチが「入」になると、エンジン回転数が自動的に定格回転数になります。オーガクラッチが「切」になると、アイドリング回転数に戻ります。

オーガクロスレバースイッチ(排出オーガ先端)

こく粒排出時に、トラックの荷台から排出オーガの微調整ができます。

〈操作のしかた〉
排出オーガクロスレバーを操作して、希望の位置に調節してください。



●「上」側…… 排出オーガが上昇する
●「下」側…… 排出オーガが下降する
●「右」側…… 排出オーガが右に旋回する
●「左」側…… 排出オーガが左に旋回する

[参考]

●排出オーガクロスレバーの操作は、キャビン内の排出オーガクロススイッチで操作するより、排出オーガはゆっくり動きます。

[重要]

●運転席の排出オーガクロススイッチとオーガ先端の排出クロスレバーを同時に操作したときは、下記のように排出オーガは作動します。

〈操作方向が同じ場合〉

●オーガ先端の操作が優先になります。排出オーガはゆっくり昇降・旋回を行います。
●同時操作中から、運転席の操作をやめたときは、オーガ先端の操作をやめるまで、作動が継続されます。
●同時操作中から、オーガ先端の操作をやめたときには、運転席から操作をしていても、排出オーガの作動は停止します。

〈操作方向が異なる場合〉

●排出オーガは動きません。オーガ先端、および運転席ともに操作をやめるまで、排出オーガを動かすとことはできません。

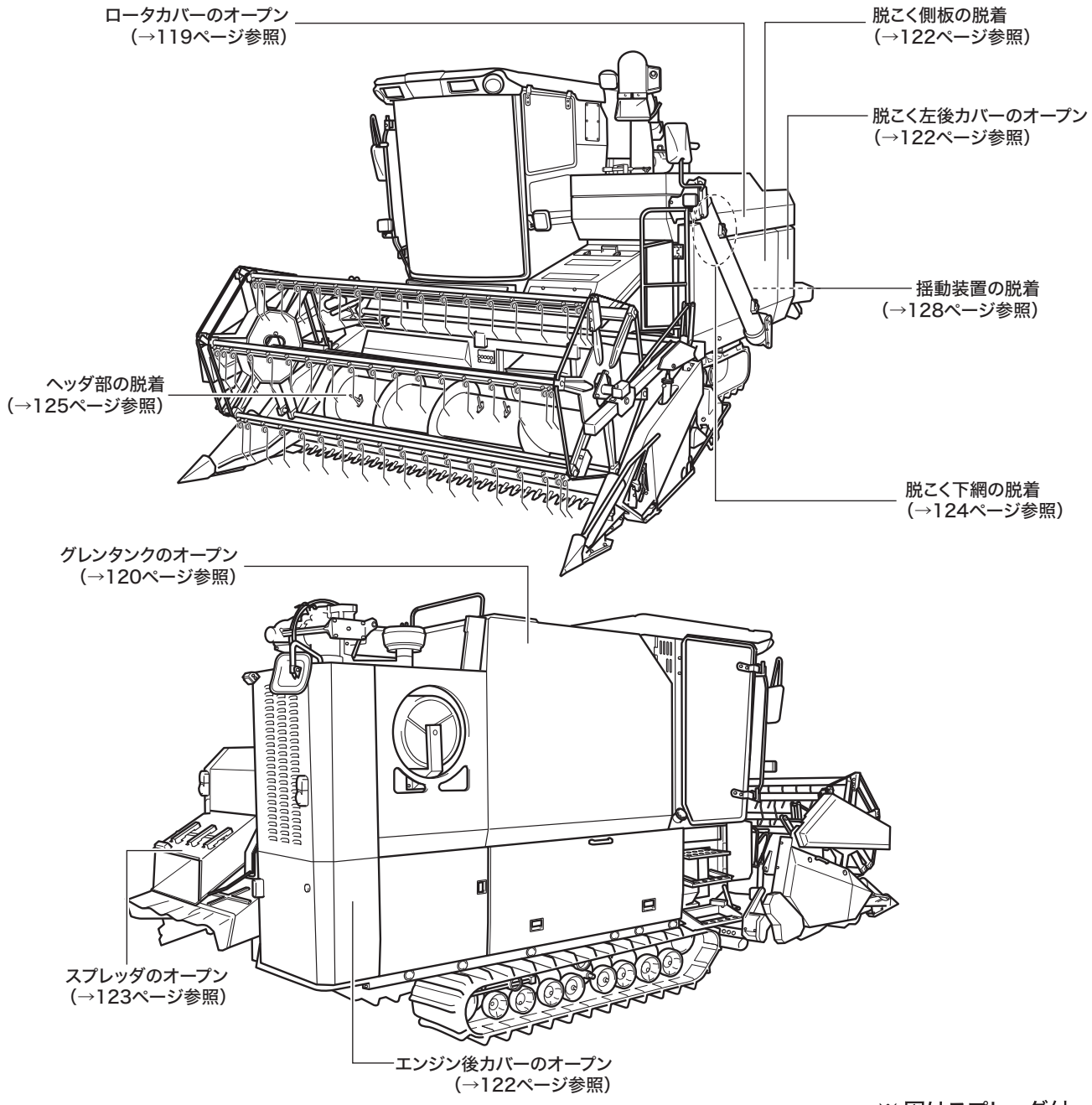
9章　各部の脱着・オープンのしかた

⚠警告

●各部の脱着・オープンをするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。ケガをするおそれがあります。

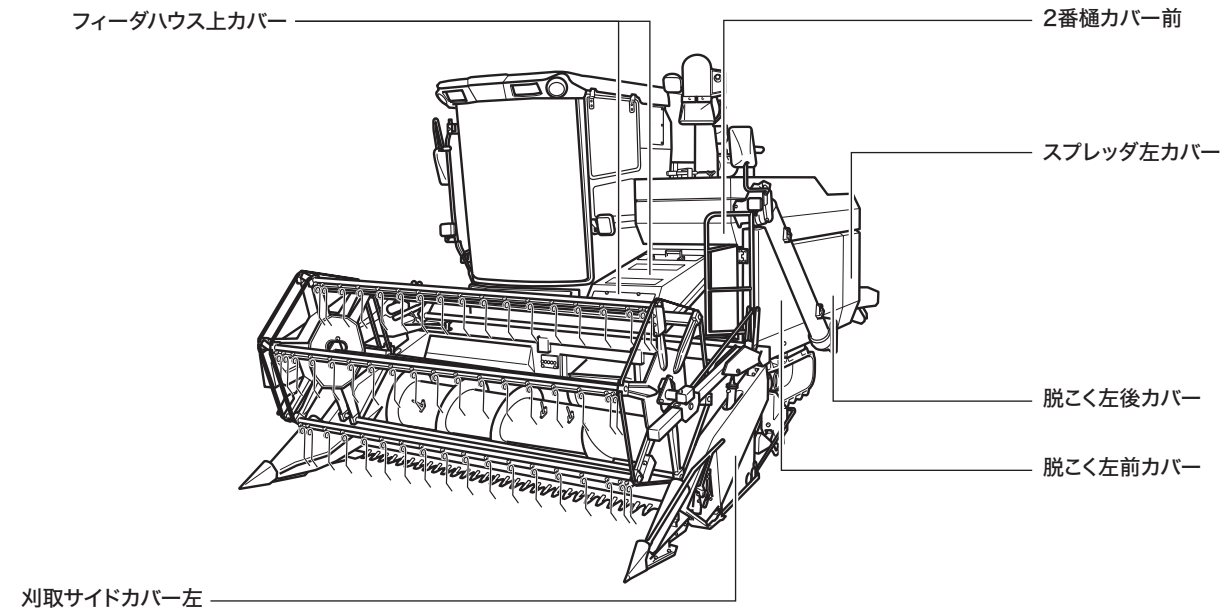
●取り外したり、オープンしたカバー類は、必ず元通りに取り付けてください。外したままで運転すると、ケガをするおそれがあります。

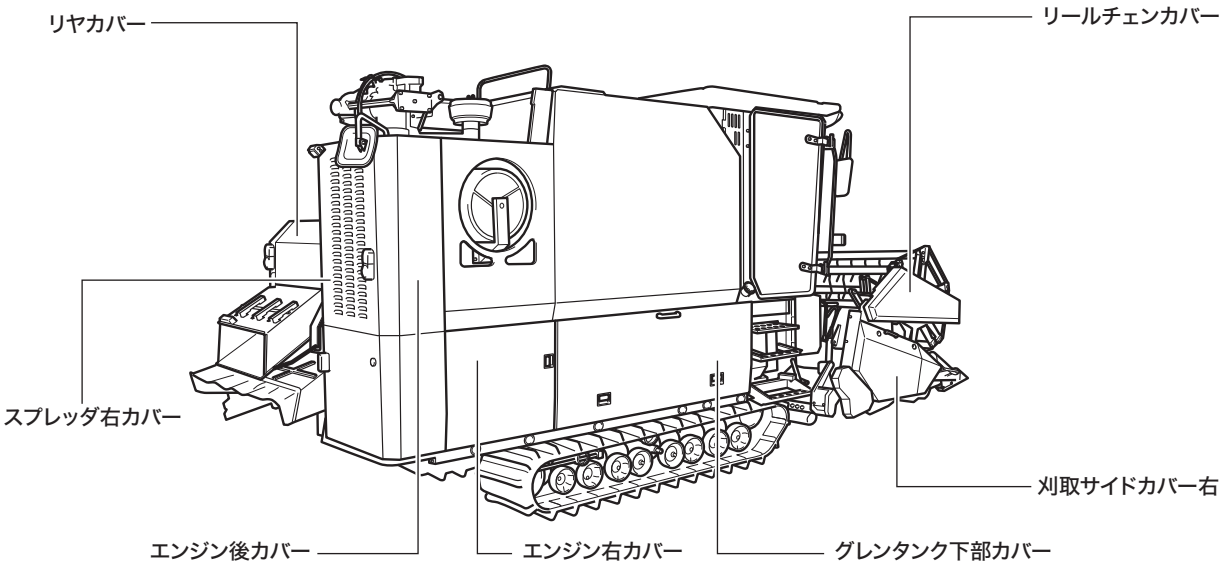
1. 各部脱着・オープン一覧



※ 図はスプレッダ付

2. 主なカバーのなまえ







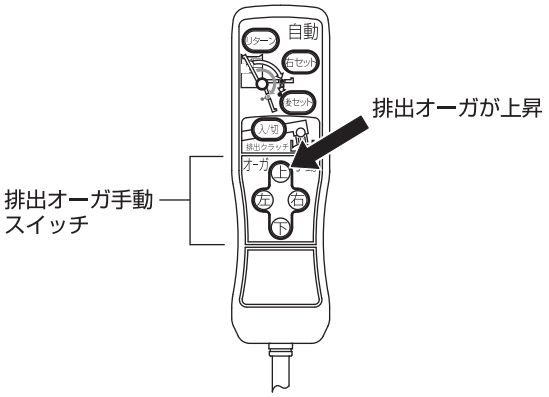
※ 図はスプレッダ付

3. ロータカバーのオープンのしかた

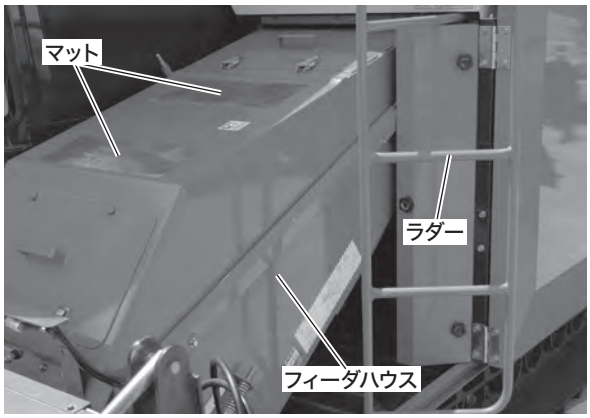
⚠注意

●脱こくクラッチレバーを「切」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後30秒間は、絶対にカバーをオープンしないでください。

1. エンジンを始動してください。
   (→ 64 ページ参照)
2. 排出オーガ手動スイッチを操作して、排出オーガをオーガレストから 50cm 以上上昇させてください。



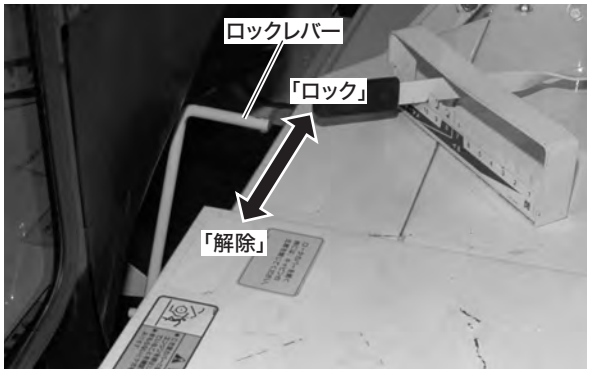
3. 刈取部を下げます。(→ 42 ページ参照)
4. エンジンを停止してください。(→ 67 ページ参照)
5. ラダーにのぼってフィーダハウスの上に乗ってください。

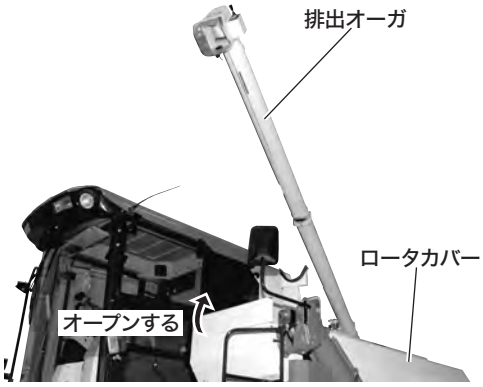


[重要]

●フィーダハウスの上では、マットの上に乗ってください。

6. ロックレバーを「解除」位置(手前に引く)にして、ロックを解除した状態のまま、ロータカバーをいっぱいまでオープンしてください。

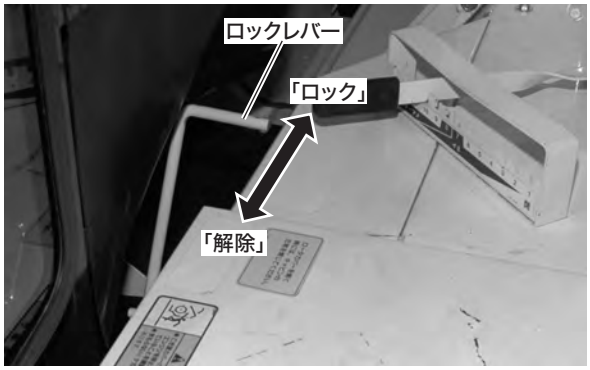




7. ロータカバーを閉めるときは、支持棒を手前に折りながら閉めてください。



8. ロックレバーを「ロック」位置にして、確実にロックしてください。



4. グレンタンクのオープンのしかた

⚠警告

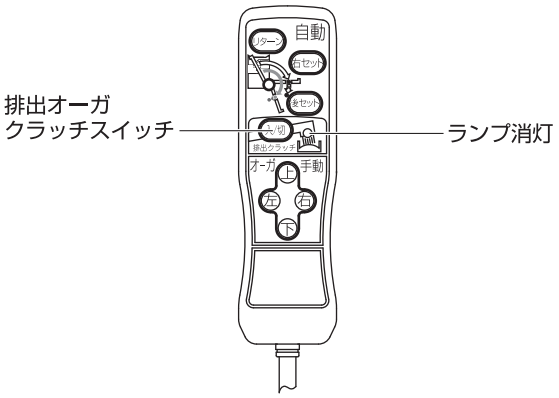
グレンタンクをオープンするときは、以下の事項を必ず守ってください。

- **エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。**
- **グレンタンク内を空にしてください。**
- **機体を水平な状態にしてください。**
- **高温部分が十分に冷めてから行ってください。**
- **グレンタンクをオープンする際は、周囲の安全を確かめながら、必ず二人以上で行ってください。**

[重要]

- **グレンタンク内にこく粒が入っている状態では、絶対にオープンしないでください。グレンタンク回転部の破損の原因となります。**

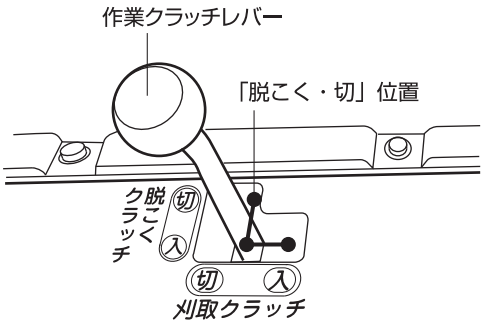
1. グレンタンク内にこく粒が入ってるときは、こく粒をすべて排出してください。
   (→112ページ参照)
2. 排出後は、排出オーガクラッチスイッチを押して「切」(ランプ消灯)にしてください。



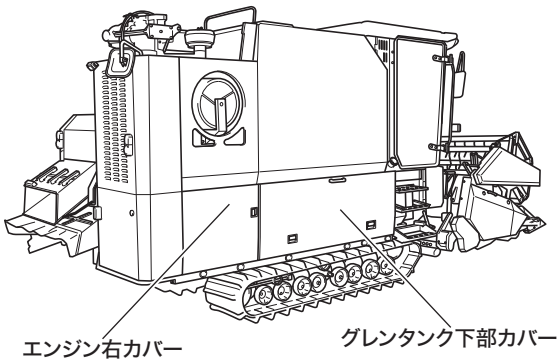
3. 排出オーガをオーガレストに収納してください。



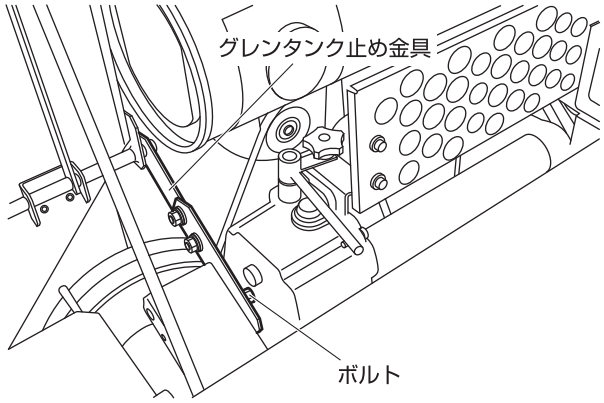
4. 作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。



5. 駐車ブレーキをかけてください。
6. エンジンを停止してください。
7. エンジン右カバーをオープンにし、グレンタンク下部カバーを外してください。

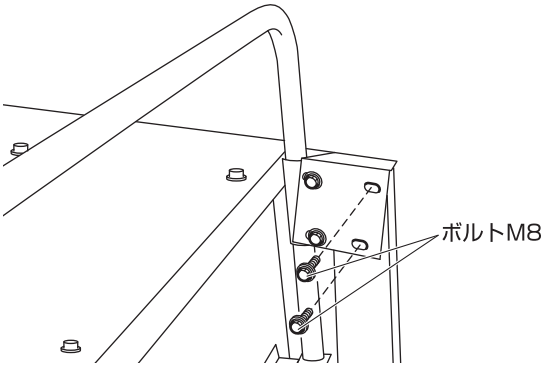


8. グレンタンク止め金具(前)(後)のボルト M8(各1本)を外してください。

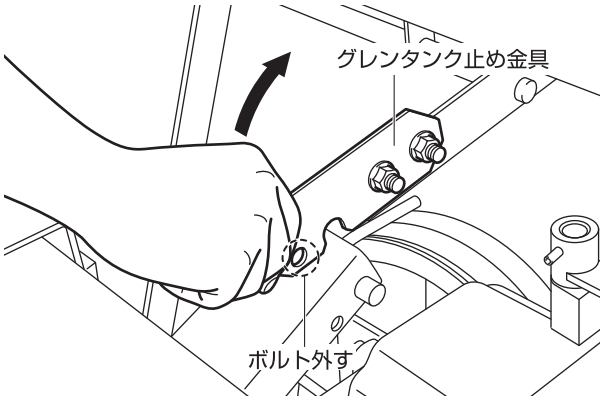


※この図は、グレンタンク止め金具(後)です。

9. グレンタンク右後方のパイプガード部とエンジンルーム枠上部の連結ステー部を固定しているボルト M8(2本)を外してください。



10. グレンタンク止め金具を上へ引き上げてください。

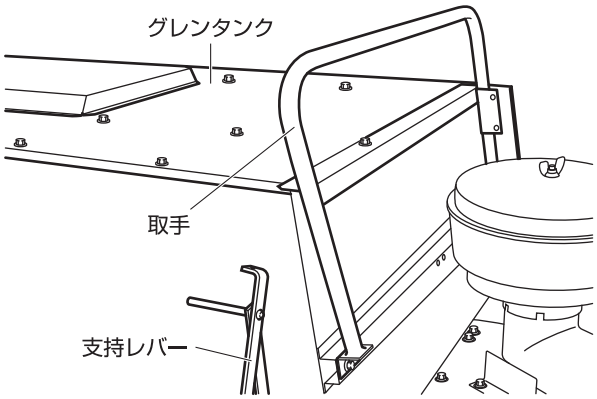


※この図は、グレンタンク止め金具(後)です。

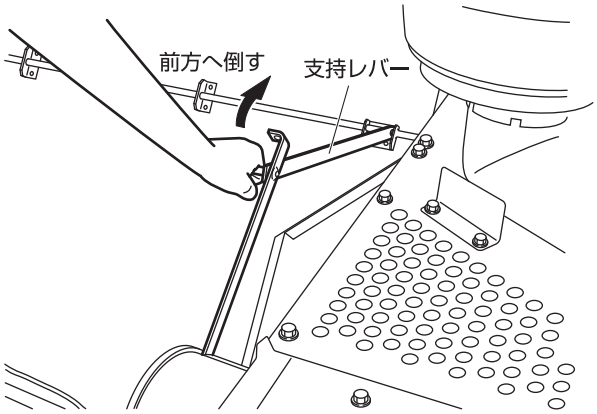
⚠警告

●グレンタンク止め金具(後)の操作付近にマフラーがありますので、マフラーに触れないよう注意してください。

11. グレンタンク上部の取手をしっかり持ち、グレンタンク支持レバーを持ちながら、ゆっくりとグレンタンクを前方へ押し出してください。



12. グレンタンク上部の取手をゆっくりと離し、グレンタンク支持レバーを持って、少しづつゆっくりと前方へ倒してください。



⚠注意

●グレンタンク回動時に、グレンタンク支持レバーで手をはさまないように注意してください。

13. グレンタンクを収納するときは逆の手順で行い、カバーを元通りに収納してください。

5. 脱こく左前・左後カバーのオープンのしかた

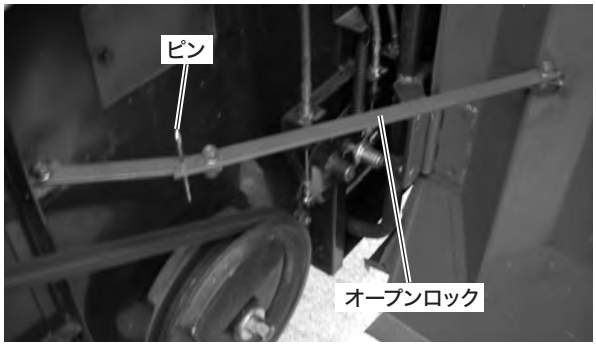
1. 脱こく左後カバーを開けてください。



2. 脱こく左前カバーを開けた後はオープンロックレバーのフックを掛けて脱こく左前カバーを固定してください。



3. 脱こく左後カバーを開き、オープンロックのピンを差し替えて、脱こく左後カバーを固定してください。



4. 脱こく左後カバーを閉める時は、カバーの固定を解除してから閉めてください。

[重要]

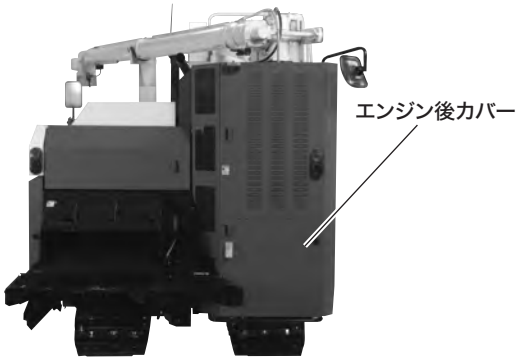
- **オープンロックが効いた状態で脱こく左後カバーを閉じると、オープンロックが破損しますので注意してください。**

[参考]

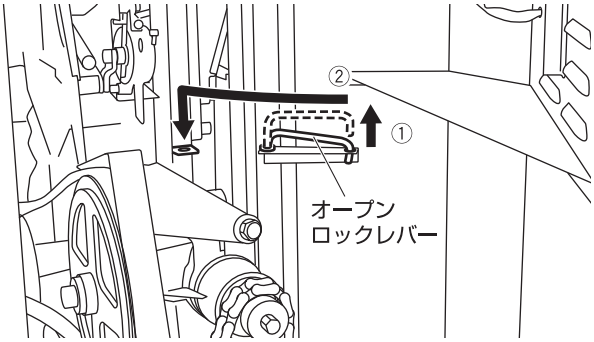
- スプレッダ左カバーのオープンのしかたも上記と同じです。

6. エンジン後カバーのオープンのしかた

1. エンジン後カバーを開けてください。

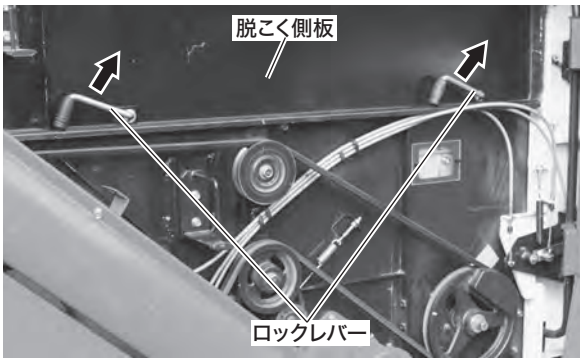


2. エンジン後カバーを開けた後は、オープンロックレバーをフックに掛けて、エンジン後カバーを固定してください。



7. 脱こく側板の取り外しかた

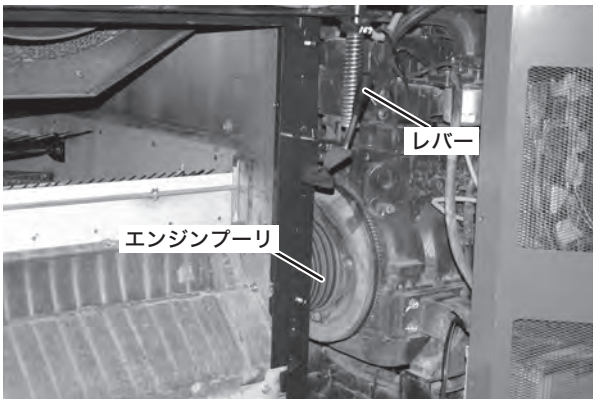
1. 脱こく左後カバーをオープンしてください。
2. ロックレバーを矢印方向に解除してください。



3. 脱こく側板を手前に引き出してください。
4. 取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。

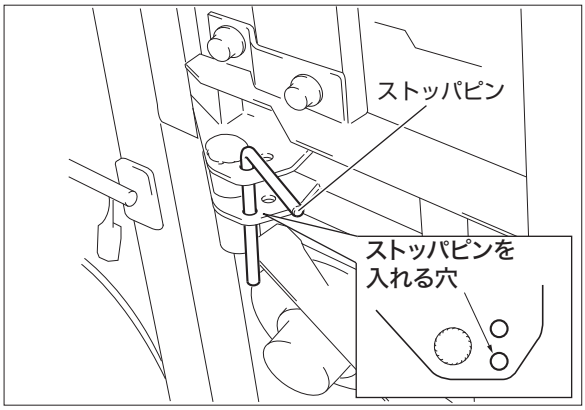
8. スプレッダ（オプション）のオープンのしかた

1. エンジン後カバーをオープンしてください。
   (→122 ページ参照)
2. エンジンプーリのベルトを外してください。
3. スプレッダ右側面のレバーを押し上げて､ロックレバーを解除してスプレッダをオープンしてください。

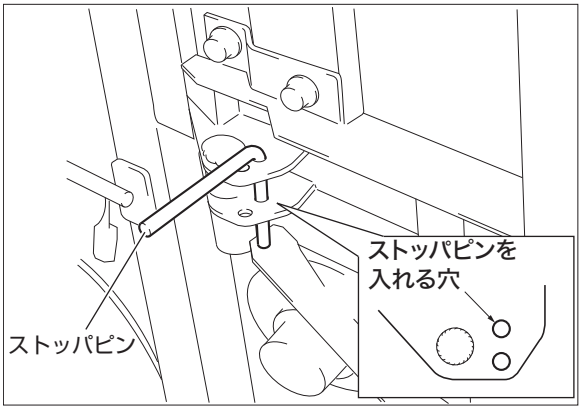


4. ストッパピンでスプレッダを固定してください。

〈90度オープンの場合〉



〈130度オープンの場合〉



● ９０度オープン ……一般の点検作業に使用します。
● １３０度オープン… 揺動装置を脱着する時に使用します。

[参考]

● １３０度オープンをする時は、コンバイン本機のスプレッダ左カバーを取り外してください。閉じた後は、コンバイン本機のスプレッダ左カバーを元通りに取り付けてください。

⚠注意

●必ずストッパピンでスプレッダを固定してください。スプレッダ本体が動きだし、ケガをするおそれがあります。

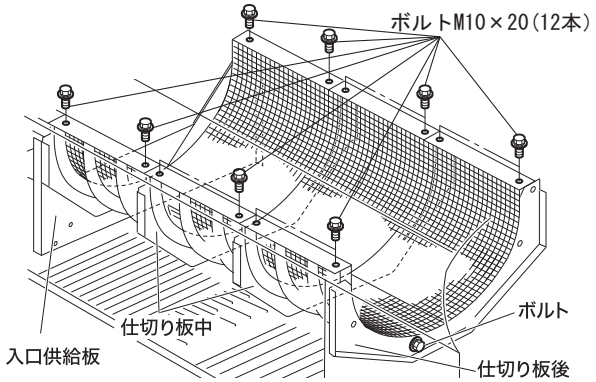
5. スプレッダを収納するときは逆の手順で行い、カバーを元通りに収納してください。

9. 脱こく下網の脱着のしかた

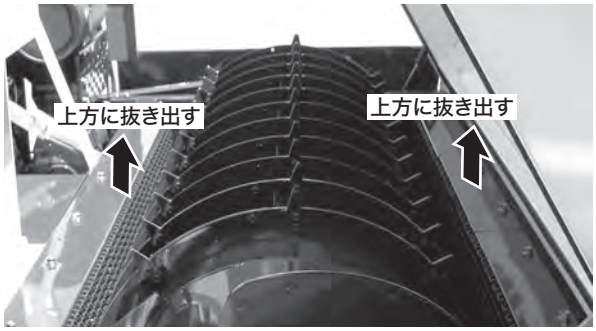
⚠注意

●作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にして、エンジンを停止した直後は、慣性でロータが回転していますので、クラッチ「切」後ロータが回転している間は、絶対にカバーをオープンしないでください。

1. ロータカバーをオープンしてください。
   (→119ページ参照)
2. 下網(6枚)を固定しているボルト M10 × 20(12本)を外してください。
3. 脱こく側板を取り外してください。
   (→ 122 ページ参照)
4. 仕切り板後のボルト M10 × 30(1 本)を外してください。



5. 下網を上方に抜き出してください。

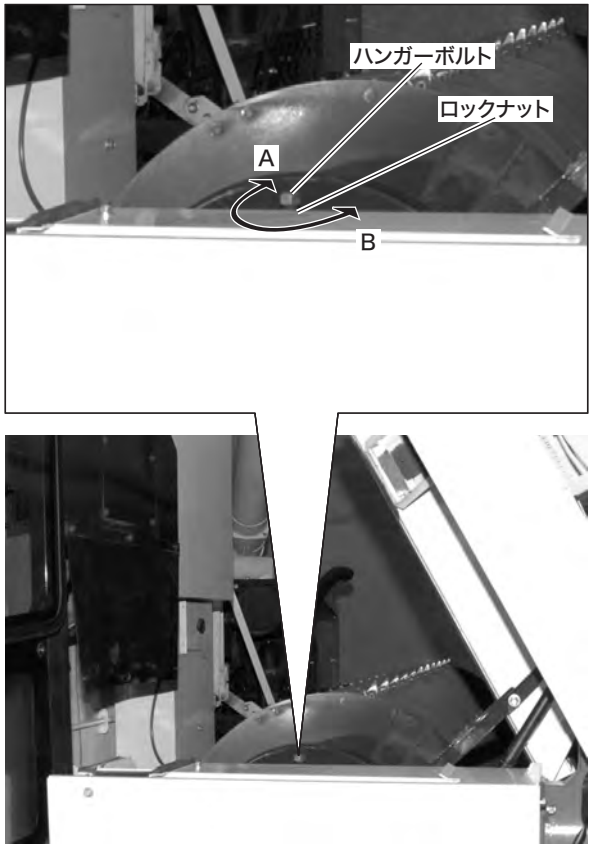


6. 下網の取り付けは、逆の手順で行い、最後に必ずロータカバーを閉めてください。

〈作物が詰まっていて下網が抜けないとき〉

作業中に、ロータが詰まったときにも下記の要領で取り除くことができます。

1. ロックナットをゆるめてください。
2. ハンガーボルトをA方向に回らなくなるまで、回してください。ロータの前側が上がり、ロータが回りやすくなります。
3. 詰まっている稈を取り除いてください。この状態で、ロータが持ち上がり、すき間ができるので、下網が抜きやすくなります。
4. ハンガーボルトをB方向に回らなくなるまで、回してロータを下げ、ロックナットをしめてください。



10.ヘッダ部の脱着のしかた

⚠警告

●ヘッダ部を外すと、本機は後重心になります。走行するときは、低速で行ってください。また、急な坂道を走行したり、あぜ越えをするときは、登りは後進、下りは前進で行ってください。

⚠注意

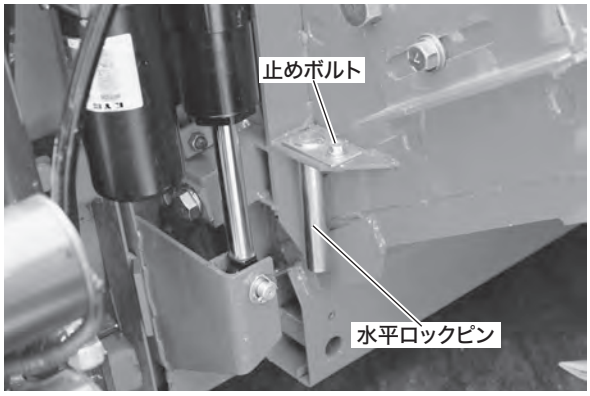
●ヘッダ部の脱着を行なうときは、地面が水平な場所に本機を止めて行ってください。

●フィーダハウス下部の固定ボルトを外すときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定していないと、刈取部が下がってケガをするおそれがあります。

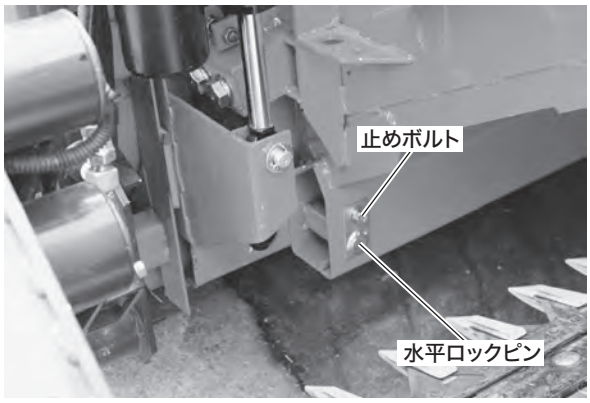
[参考]

● 作業は、二人以上で行ってください。

1. エンジンを始動して（→64ページ参照）、刈取部を地面から10cm以上上げてください。
2. エンジンを停止してください。(→67ページ参照)
3. フィーダハウス前方左下にある水平ロックピンを、止めボルトを外して、取り外してください。



4. 水平ロックピンを回動枠下部の穴に差し込んで、止めボルトで固定してください。

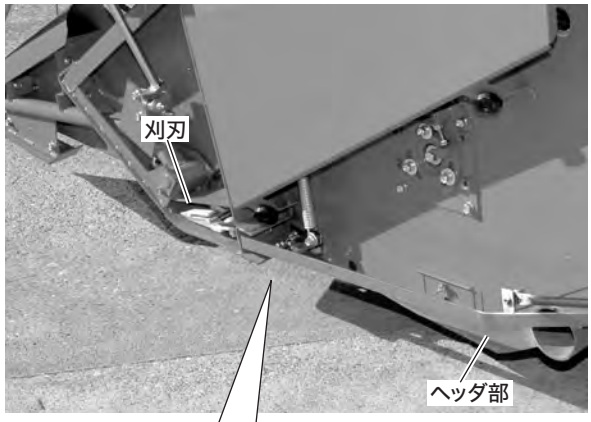


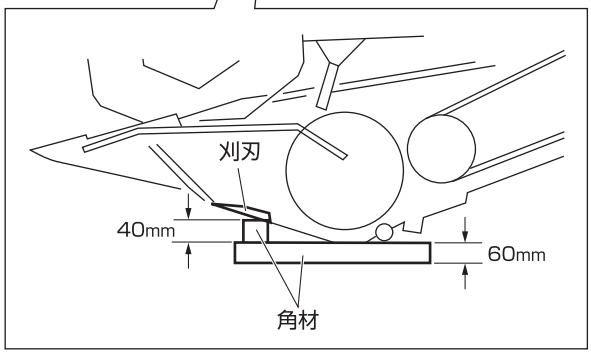
[参考]

● 回動枠下部の穴が合わないときは、以下の手順で合わせてください。

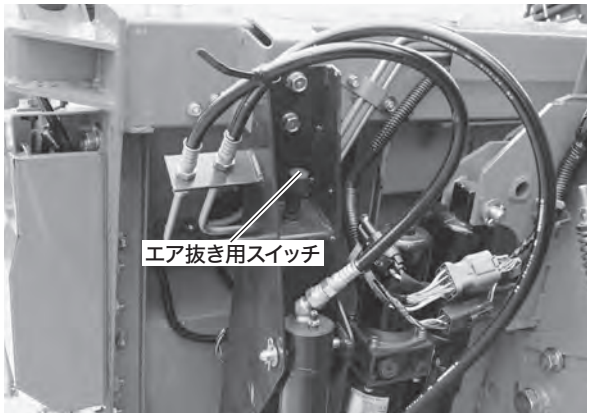
1) 水平ロックピンを差し込んでいる場合は、ピンで抜く。
2) キースイッチを「ON」位置にする。
3) 水平自動スイッチを「切」(ランプ消灯) にする。
4) 水平手動スイッチで穴を合わせる。

5. ヘッダ部と刈刃の下に角材を入れてください。

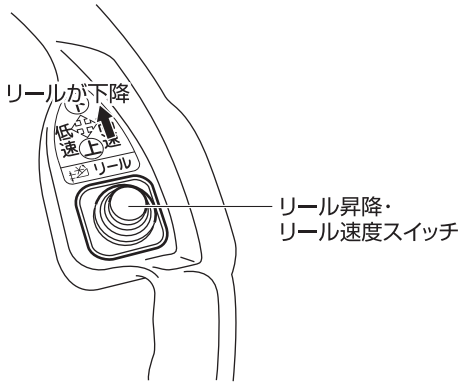


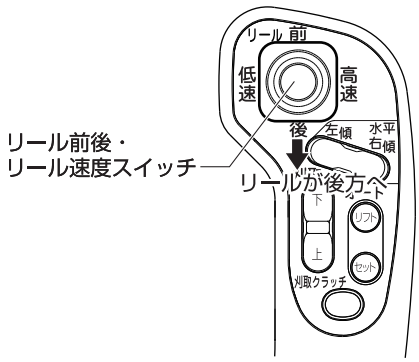


6. セカンドモア(オプション)を装着しているときは、エンジンを始動し、エア抜き用スイッチで、セカンドモアを下げて、地面に接地させてください。



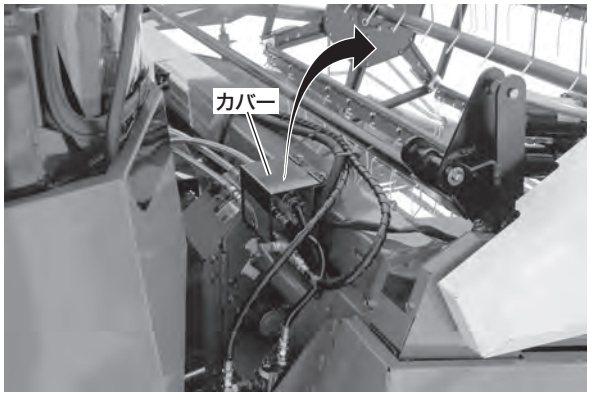
7. エンジンを始動して、刈取部を角材の上に降ろしてください。
8. リールを最下げ・最後方位置にしてください。

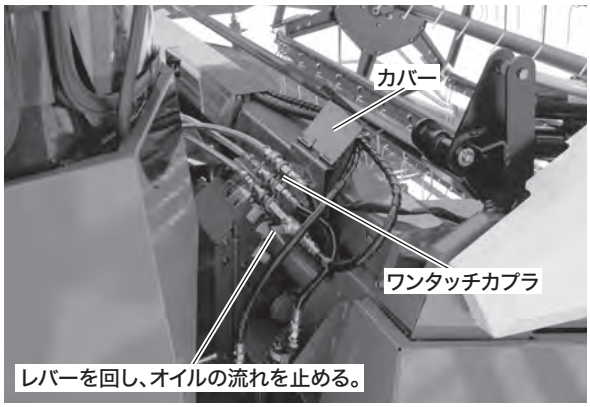


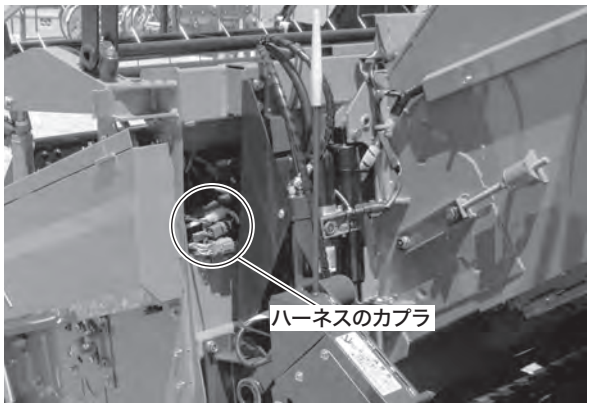


9. エンジンを停止してください。
(→ 67 ページ参照)

10. カバーを上方に開き、油圧配管のワンタッチカプラ(3本)、ワイヤーハーネスのカプラ(3個)を外してください。



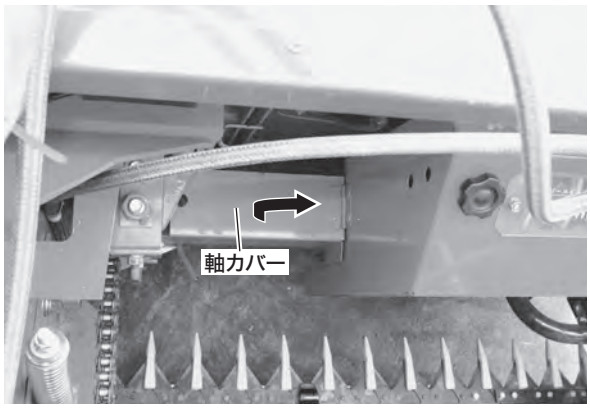




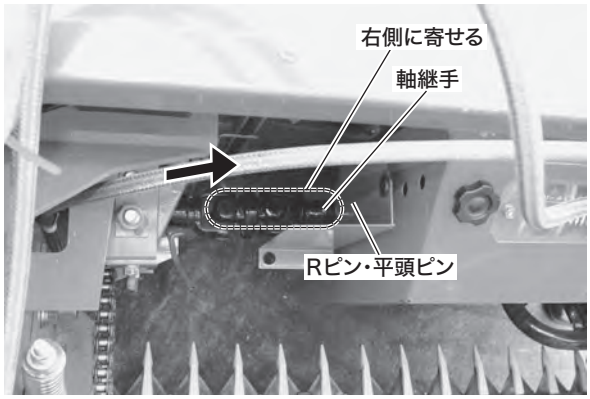
[参考]

- ワンタッチカプラを外した後、オス・メスともにカバーを装着してください。

11. 軸カバーを上方に開いてください。



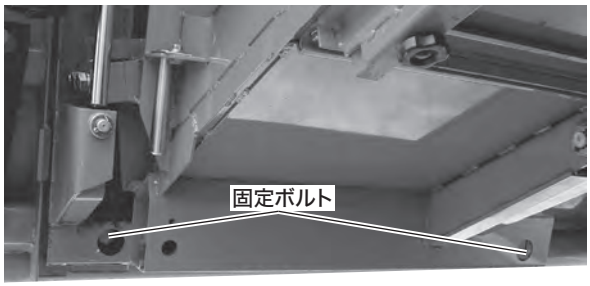
12. 軸継手のRピン・平頭ピンを外し、軸継手は右側に寄せてください。(R ピン・平頭ピンは紛失しないように保管してください。)



[重要]

●軸継手は、必ず刈取部に付けておいてください。

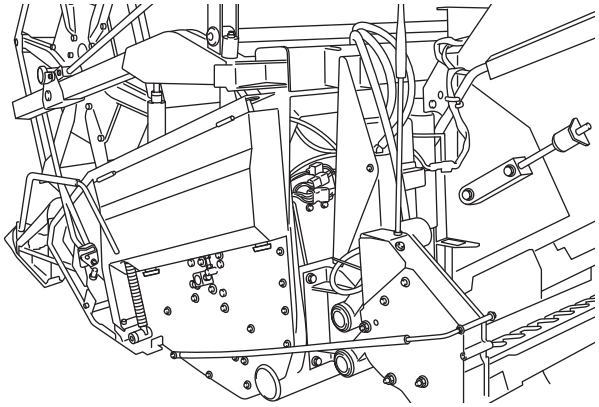
13. エンジンを始動して、刈取部を上げて、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。
(→ 132 ページ参照)
14. フィーダハウス下部の固定ボルト M16(2本)を外してください。



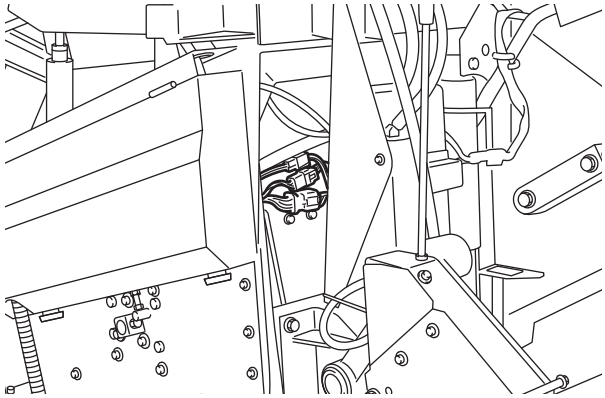
[参考]

● 固定ボルトを外すと、当て板が抜けるので、固定ボルトと一緒に紛失しないように保管してください。

15. 刈取部の固定を解除してください。
16. フィーダハウスを下げてください。



17. カプラ類が完全に切り離されているか確認した後、本機をゆっくり後進させてください。



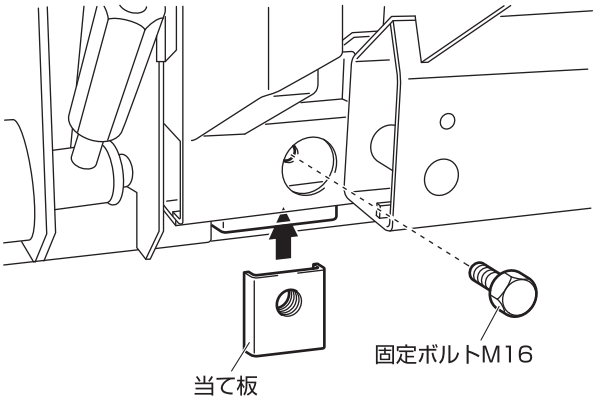
18. 以上でヘッダ部の取り外しは完了しました。ヘッダ部を装着する場合は、以上の逆の手順で行ってください。

[重要]

●ヘッダ部を取り外している状態で、リール昇降スイッチを操作すると、カプラ内の圧力が高圧になり、カプラが入りにくくなることがあります。入りにくい場合は、カプラをきれいなウエスで包み、カプラ先端の凸部をハンマーでたたいてください。オイルの圧力が抜けてカプラが入りやすくなります。

〈装着時の注意事項〉

フィーダハウス下部の固定ボルトM16(2本)を取り付けるときは、当て板を下方から差し込んで、固定ボルトを締め付けてください。

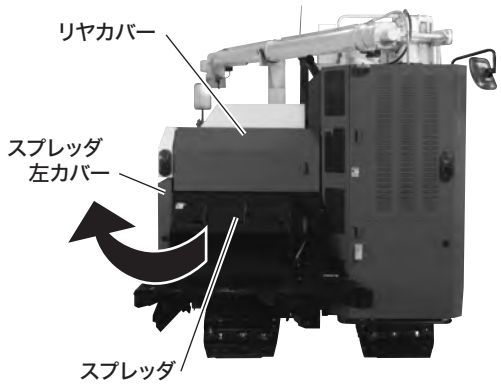


11.揺動装置の脱着のしかた

⚠注意

●揺動の質量は、約60kgあります。
機体から取り外すときは、2人以上で作業を行ってください。

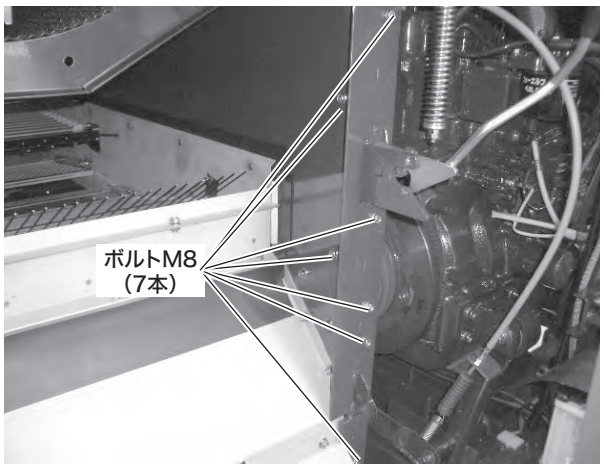
1. スプレッダが装着されている場合は、スプレッダ左カバーを取り外してください。
2. リヤカバーをオープンし、スプレッダを 130 度オープンしてください。
(→ 123 ページ参照)



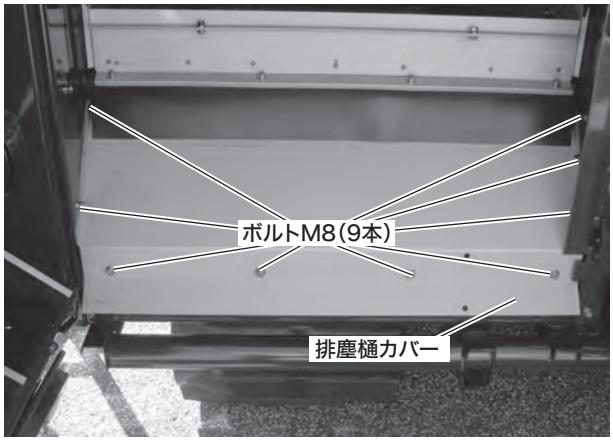
[重要]

●スプレッダが装着されている場合は安全カバーをセットし、ストッパピンでスプレッダを固定していることを確認してください。

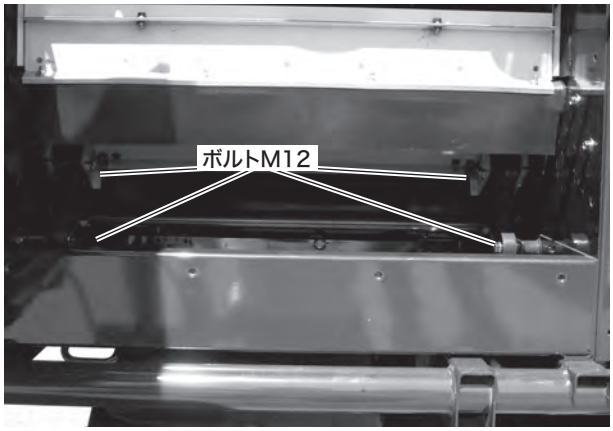
3. ボルト M8(7 本)を外し、スプレッダロックレバーガイドを取り外してください。



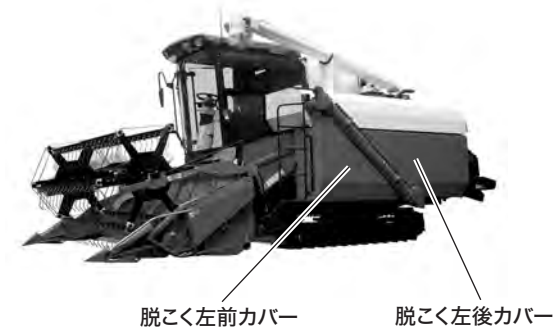
4. スプレッダ駆動ベルトのベルト押えのボルト M8(2 本)を外してください。
5. ボルト M8(9 本)を外し、排塵樋カバーを取り外してください。



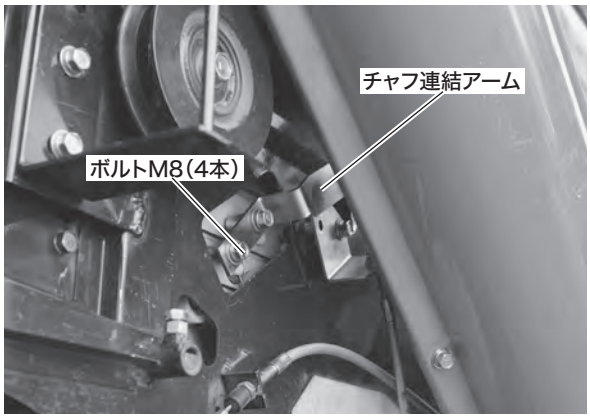
6. 揺動 ASY 後部からボルト M12(左右各 2 本)を外してください。



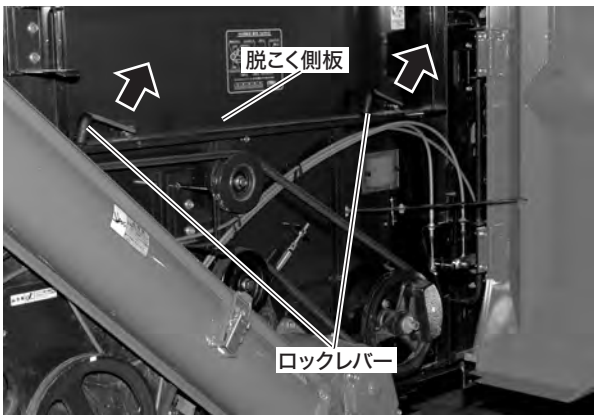
7. 脱こく左前･左後カバーをオープンしてください。(→ 122 ページ参照)



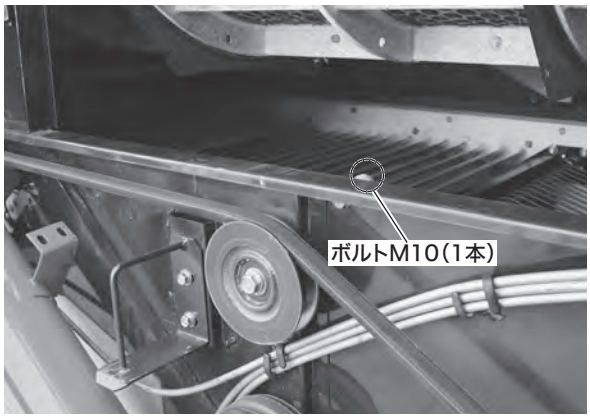
8. ボルト M8(4 本)を外し、チャフ連結アームを取り外してください。



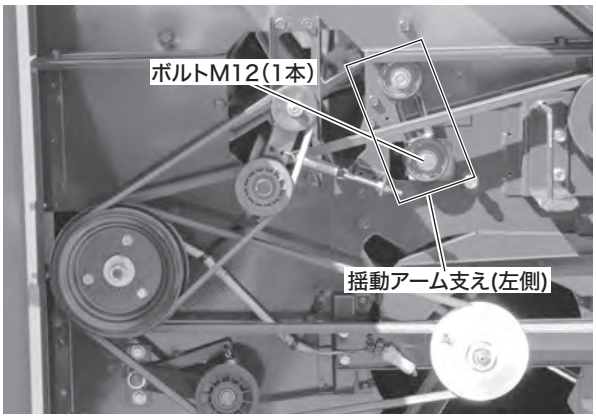
9. ロックレバーを矢印方向に解除し、脱こく側板を取り外してください。



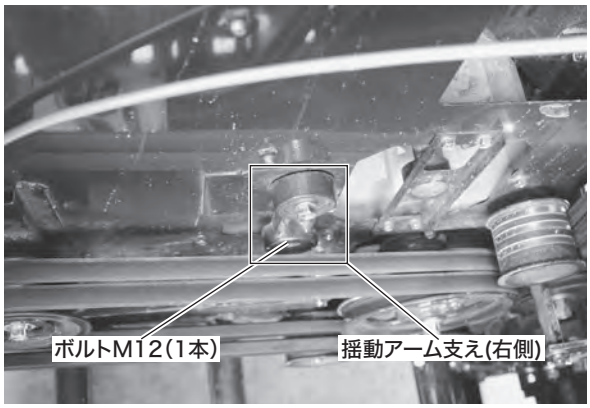
10. ボルト M10(1 本)を外し、スイングセレクターのアームを脱こく側板から切離してください。



11. 揺動アーム支え (左側) のボルト M12(1 本)を外してください。



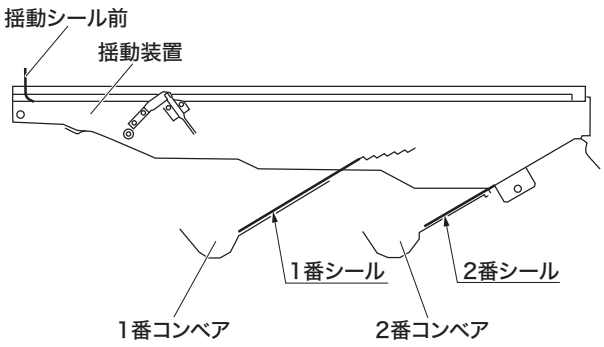
12. グレンタンクをオープン(→120ページ参照)し、揺動アーム支え(右側)のボルト(M12× 1本)を外してください。



13. 二人以上で、揺動ASYをしっかりと持ち、ゆっくり取り外してください。
14. 揺動 ASY を装着する場合は、逆の手順で行い、終わったらカバー類を元通りに収納してください。

[重要]

- こく粒のもれを防止するため、下図の通りセットしてください。1 番シール・2 番シールは各樋の上、揺動シール前は揺動装置の上にあることを確認してください。



10章 作業後の手入れと格納について

⚠危険

●エンジン回転中やエンジンが熱い間は、燃料を抜いたり、注油・給油を絶対にしないでください。燃料などに引火して、火災の原因になります。

●燃料補給や燃料を抜くときは、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こすおそれがあります。

●燃料補給や燃料を抜いた後は、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

●エンジンが熱い間は、シートなどを絶対にかけないでください。火災の原因になります。

⚠警告

●点検・整備をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。機械に巻き込まれてケガをするおそれがあります。

●点検・整備をするときは、平坦で安定した場所で行ってください。本機が転倒するなど思わぬ事故の原因になります。

⚠注意

●点検・整備をするときは、過熱部分が十分冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。

●高い所の手入れをするときは、脚立などを用いて行ってください。エンジンルームなどの上に直接登ると、高温の場所もあり危険です。

1. 機体の洗浄のしかた

その日の内に本機を水洗いし、水洗い後は下記に従って、掃除を行ってください。

●回転部に巻き付いているごみを取り除く。

●水分をよくふき取る。

●油をしみこませた布で清掃する。

●刈刃の先端など、サビやすいところや、チェン・ワイヤー類、および回転部や摺動部に注油・グリスアップする。(→ 139 ページ参照)

[重要]

●水洗いをするときは、エンジン部・電装品に水がかからないようにしてください。故障の原因になります。



2. 刈取部ストッパ（刈取部固定）のセットのしかた

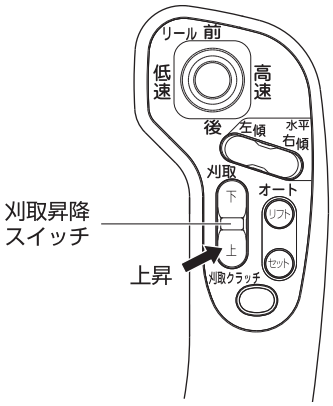
⚠警告

●刈取部の下で点検・整備をするときは、必ず刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がってケガをするおそれがあります。

固定のしかた

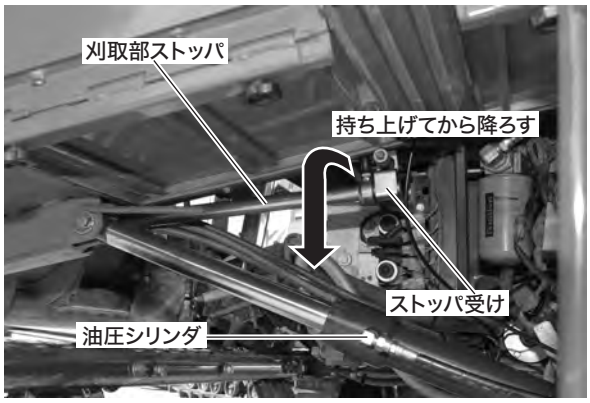
1.エンジンを始動してください。

2.オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチの「上昇」側を押して、刈取部を最上位置にしてください。



3.エンジンを停止してください。

4.ストッパ受けから刈取部ストッパをおろしてください。



5.油圧シリンダ側のフックに刈取部ストッパをはめて固定してください。

6.エンジンを始動して、刈取部が固定されるまで刈取部を下げてエンジンを停止してください。

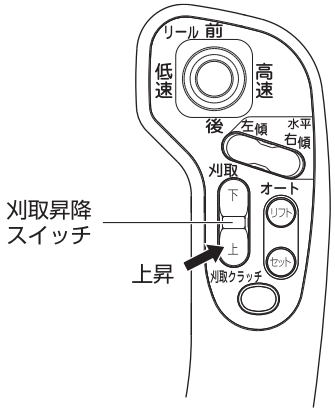
[重要]

●刈取部ストッパが固定位置に確実に掛かっているか確認してください。

固定の解除のしかた

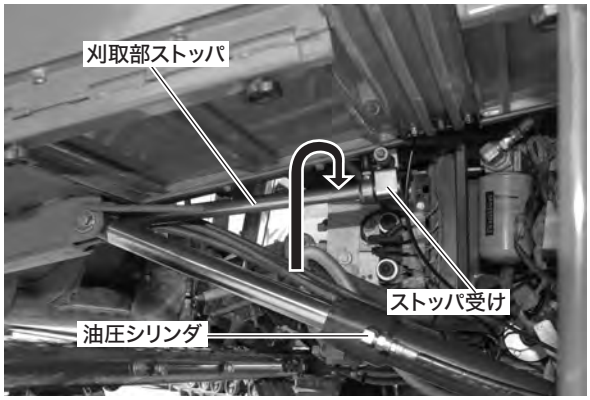
1.エンジンを始動してください。

2.オールマイティシフトレバー部の刈取昇降スイッチの「上昇」側を押して、刈取部を最上位置にしてください。



3.エンジンを停止してください。

4.刈取部ストッパを持ち上げて、ストッパ受けに刈取部ストッパをのせてください。



5.エンジンを始動して、刈取部を下げてください。

[重要]

●移動走行時は、刈取部ストッパを使用しないでください。
刈取部を上昇させて輸送する場合は、必ず刈取部ストッパを使用してください。

3. 各部の掃除のしかた

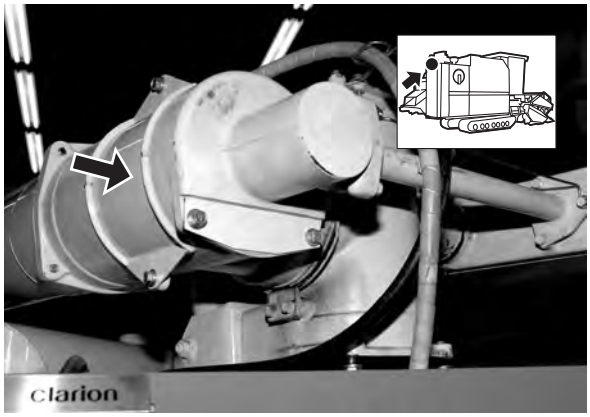
⚠警告

- ●掃除するときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- ●エンジンをかけたまま手入れをすると、刈刃などで手をはさまれ、ケガをするおそれがあります。

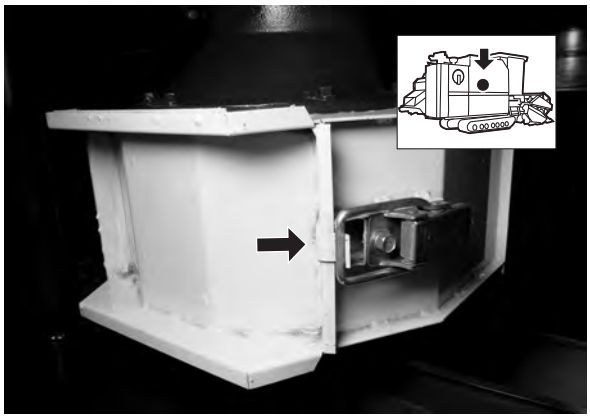
掃除口による掃除箇所

異品種や稲・麦の混種を防ぎ、脱こく内部に残留しているこく粒を取り除くために、各部の掃除口を開き、きれいに掃除してください。

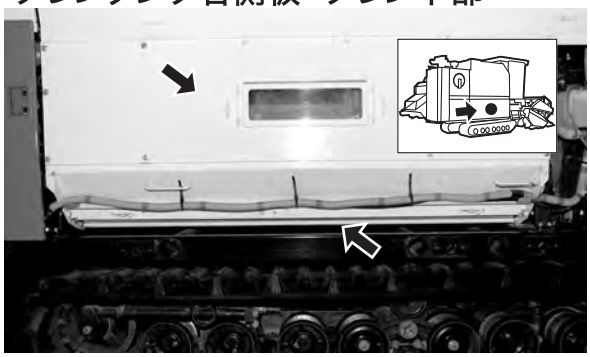
グレンタンク上部受継



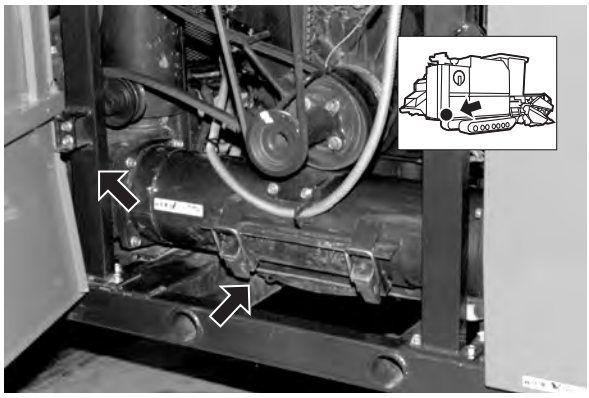
バケット掃除口（昇降機底蓋）



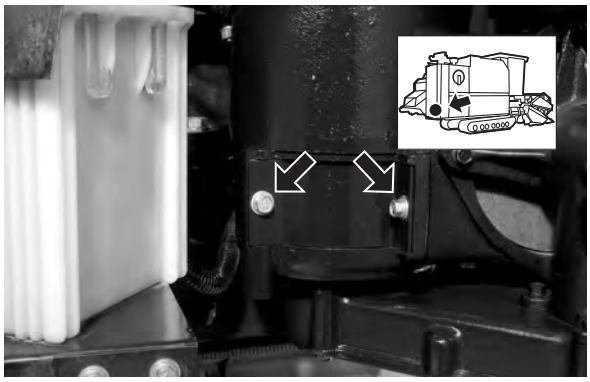
グレンタンク右側板・グレン下部



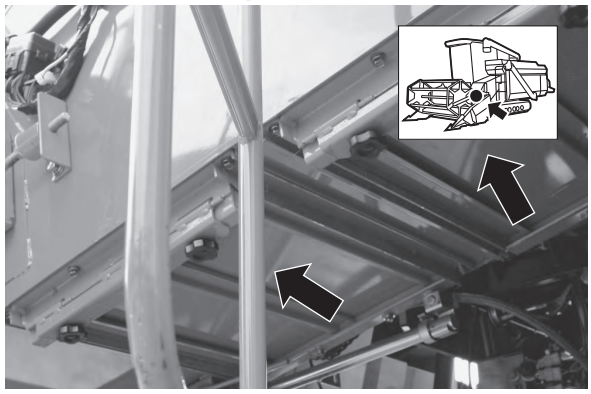
グレン下部パイプ
グレン下部受継



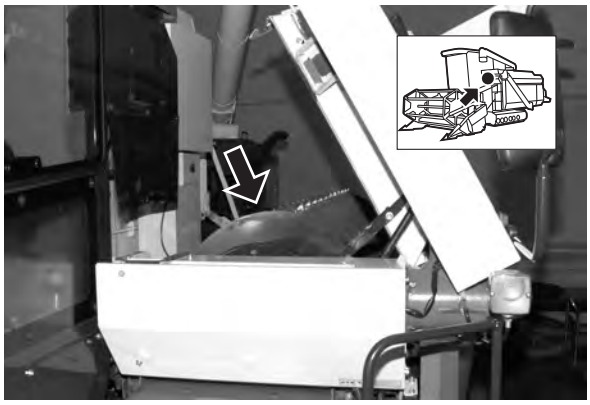
グレン下部受継ケース



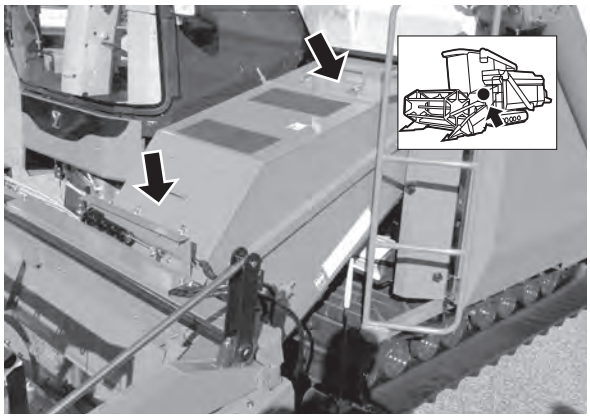
フィーダハウス下



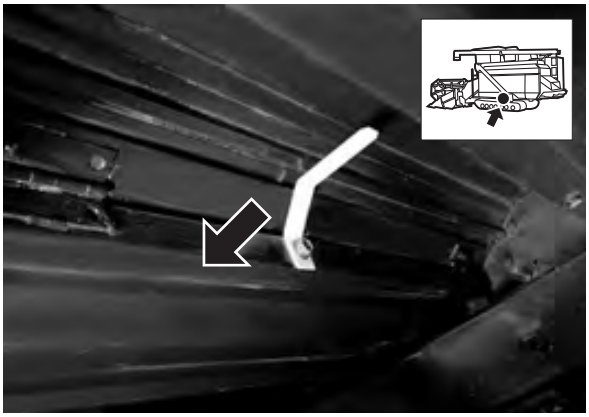
ロータカバー



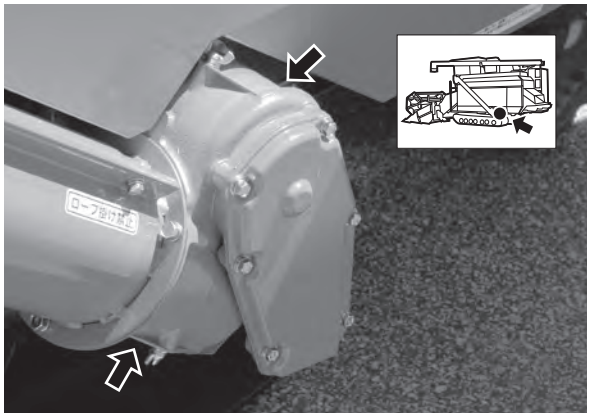
フィーダハウス



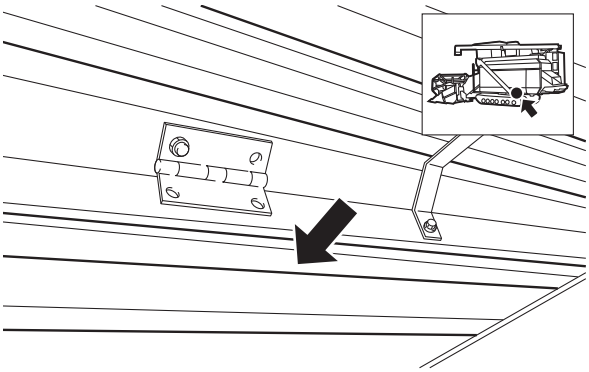
1番樋



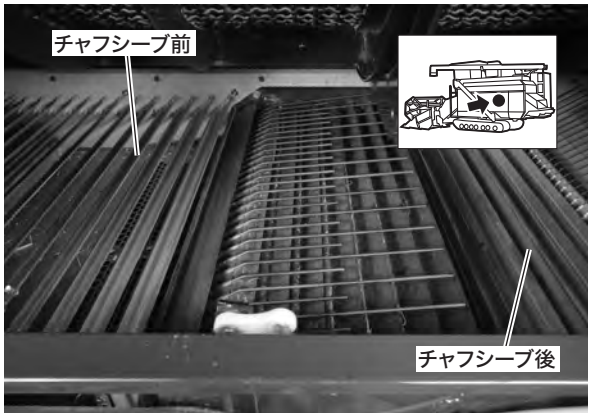
2番受継下部



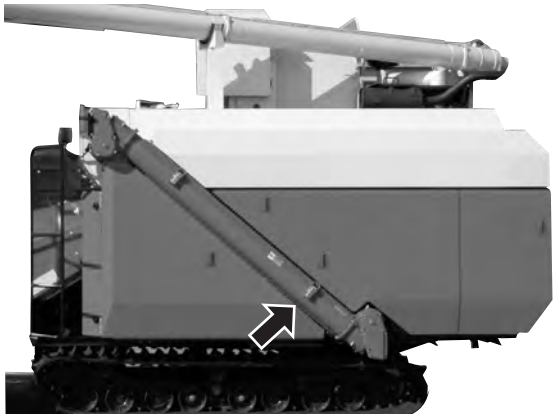
2番樋



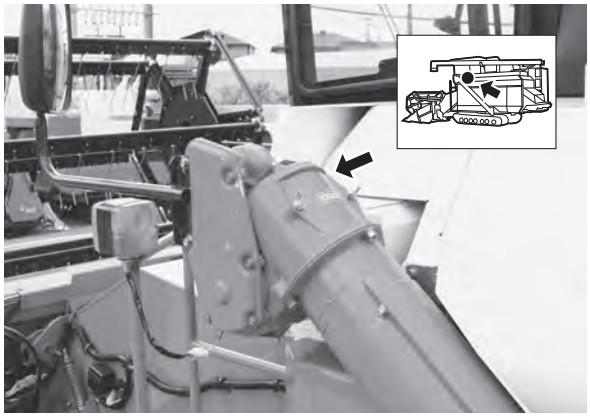
揺動装置

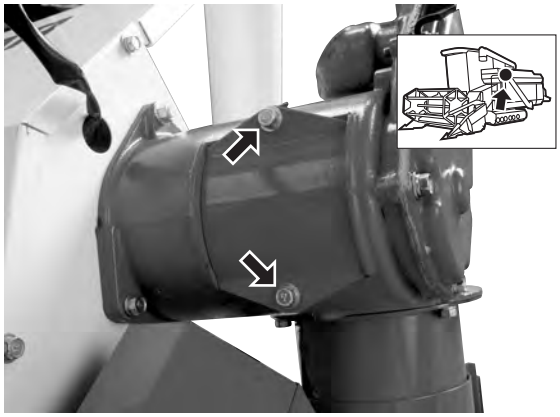


2番縦コンベアパイプ

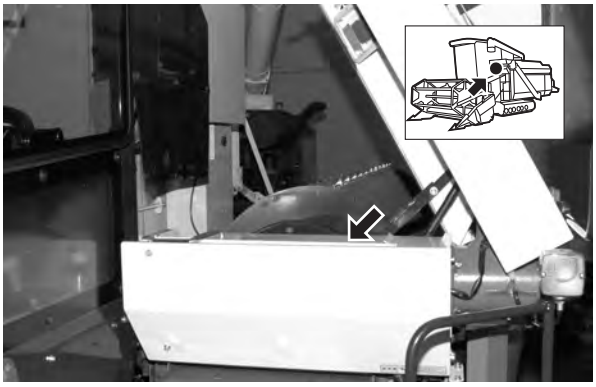


2番受継上部

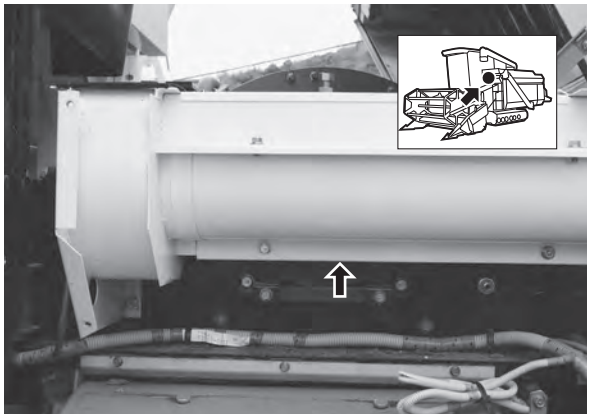




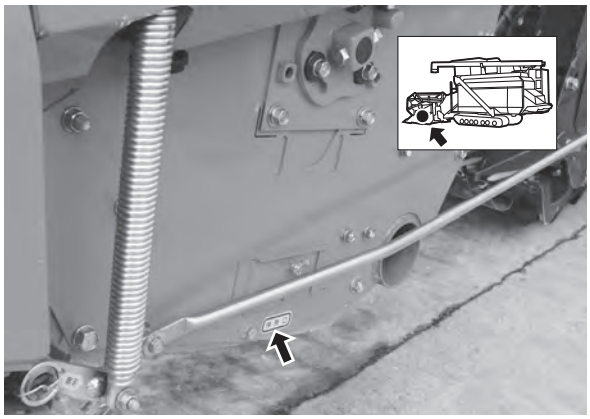
2番コンベア（上）



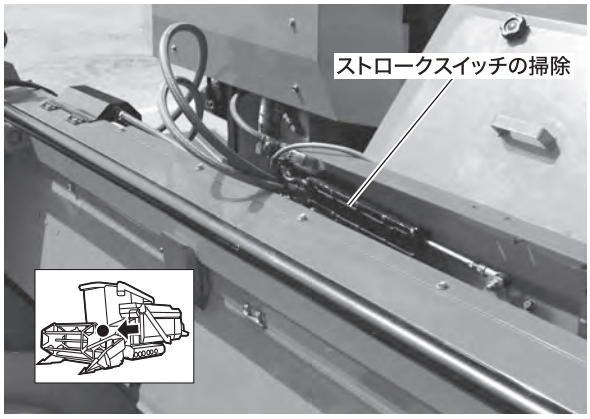
2番コンベア樋（上）



プラットホーム横



フィーダハウス前部



[重要]

- ガイド板にこく粒・塵などが付着していると、電動シリンダのリミットクラッチが働き、水平制御が作動しないことがあります。

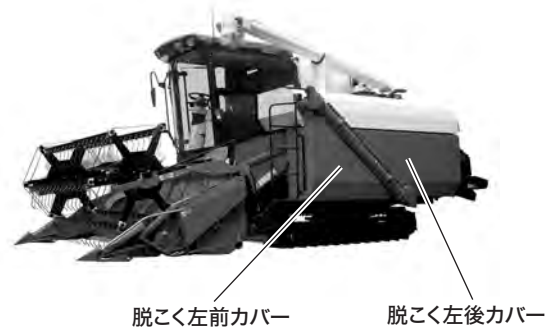
グレンシーブの掃除のしかた

グレンシーブの清掃には、揺動装置を本機に装着した状態と本機から取り外した状態と、いずれでも清掃を行うことができます。

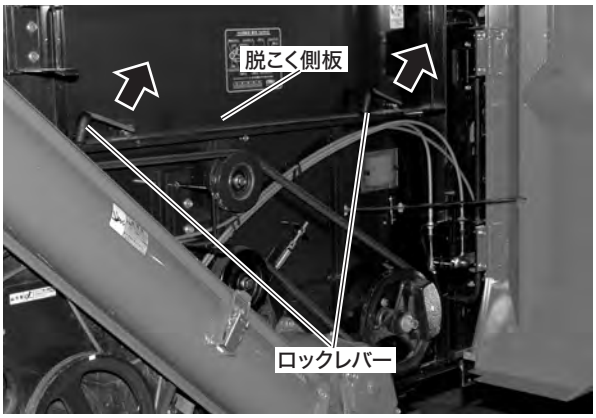
本機に揺動装置を装着した状態で行なう時には、ボルト等を落とさないように注意してください。

〈揺動装置を本機に装着した状態〉

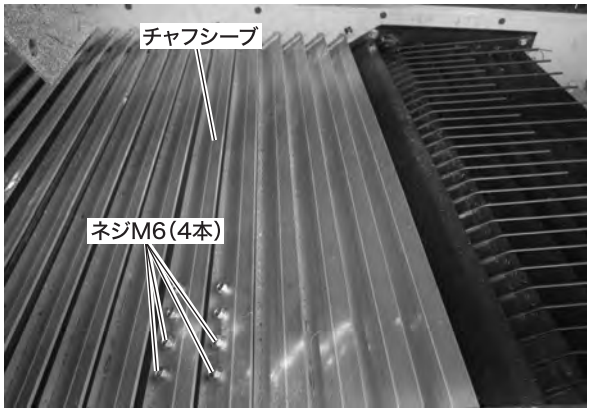
1. 脱こく左後カバーをオープンしてください。

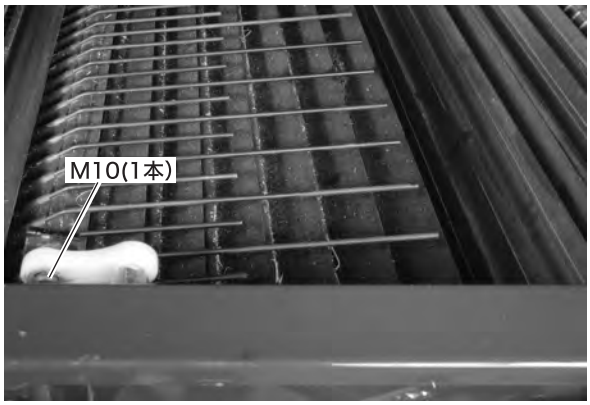


2. ロックレバーを矢印方向に解除し、脱こく側板を取り外してください。



3. ネジ M6(4 本)を外し、チャフシーブ 2 枚を取り外してください。
4. ネジ M8(4 本)、M10(1 本)を外し、スイングセレクタを外します。

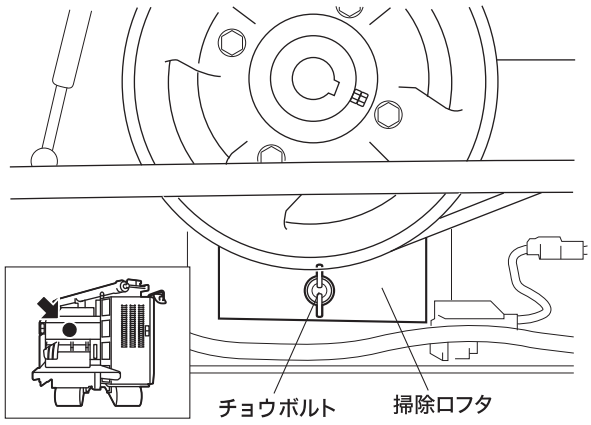




5. チャフシーブ 2 枚を揺動装置から取り外したら、ボルト M8(左右各 1 本)を外し、グレンシーブを取り外してください。
6. グレンシーブに溜まったこく粒を掃除してください。

ロータ後端部の掃除のしかた

1. リヤカバーをオープンしてください。
2. チョウボルトを外し、掃除ロフタを取り外してください。



3. 毎日の作業前に清掃してください。

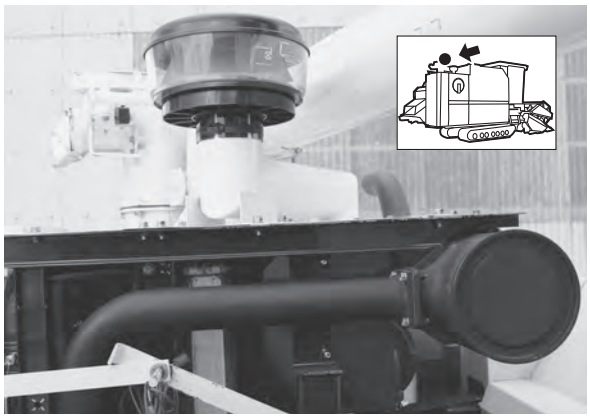
掃除および清掃について

1. エアガンまたはブロアで、機内に残ったこく粒・塵などを除去します。搬送部・選別部を重点的に掃除してください。
2. 各部を圧水洗浄します。洗浄後、エアコンプレッサで、付着した水を除去してください。

マフラーおよび連結パイプの掃除のしかた

1.エンジン後カバーおよびグレンタンクをオープンしてください。(→ 122・120 ページ参照)

2.マフラーおよび連結パイプ付近の高温部にある、ワラクズなどの堆積や付着を掃除してください。



⚠注意

●高温部分が十分に冷めてから行ってください、守らないと、ヤケドをするおそれがあります。

4. 各部の注油のしかた

⚠注意

●注油をするときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。ケガをするおそれがあります。

注油: 

※刈刃・フィーダチェンには、食品機械用潤滑スプレーを使用してください。(→86 ページ参照)

食品機械用潤滑スプレー: 

[参考]

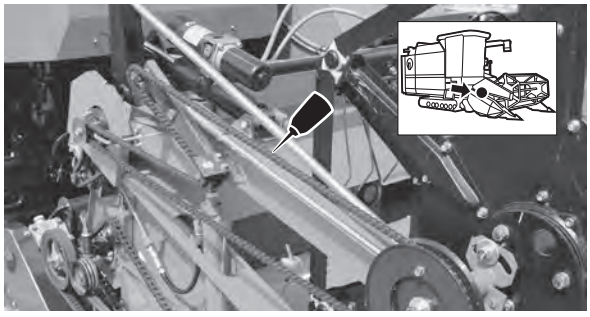
●低温時(5 ℃以下)には、オイルの一部が固体になり、分離しているような状態になる場合があります。分離しているときは、常温に戻してから使用してください。

リール駆動チェン

リールチェンカバーを外してください。

(→ 118 ページ参照)

注油作業後、元通りに取り付けてください。

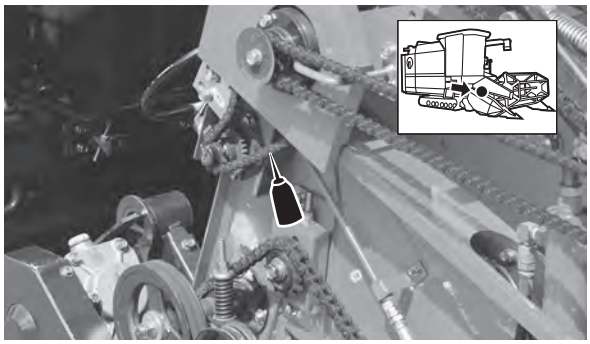


リールカウンタチェン

刈取サイドカバー右を外してください。

(→ 118 ページ参照)

注油作業後、元通りに取り付けてください。

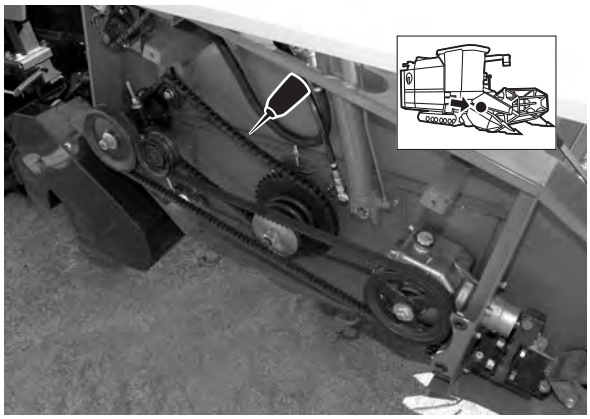


プラットホームオーガ駆動チェン

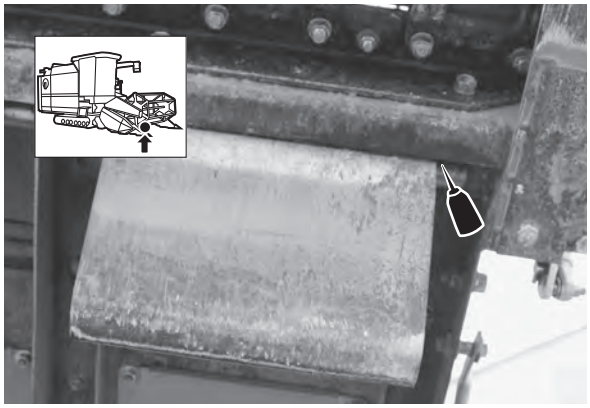
刈取サイドカバー右を外してください。

(→ 118 ページ参照)

注油作業後､元通りに取り付けてください。



センサソリ

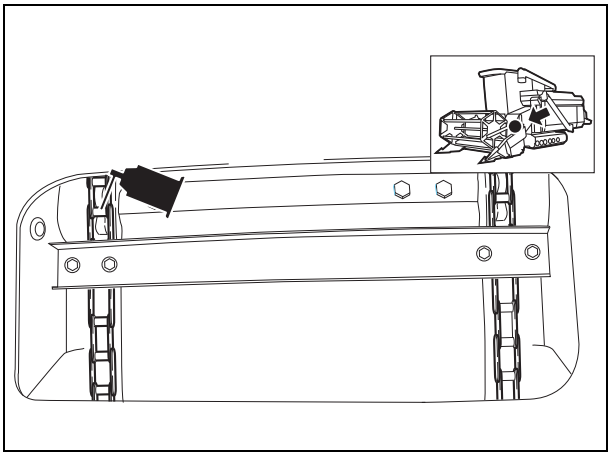


フィーダチェン

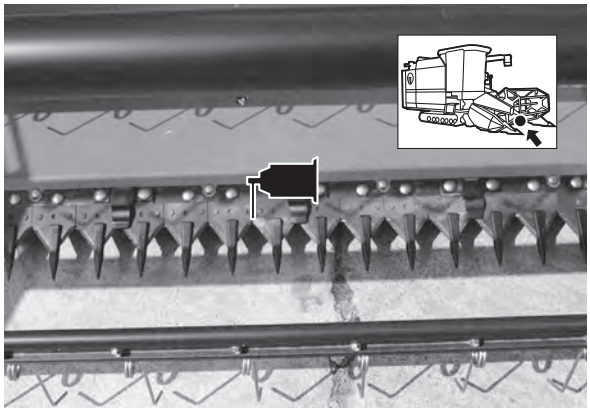
フィーダハウス上カバーを外してください。

(→ 118 ページ参照)

注油作業後､元通りに取り付けてください。

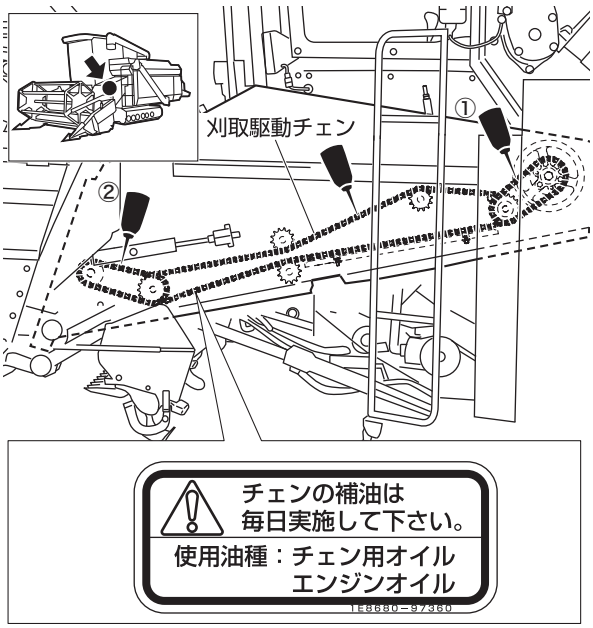


刈刃



刈取駆動チェン

刈取駆動チェン①、②の注油は、チェン用オイルまたはエンジンオイル 10W-30 を使用し、毎日実施するようにしてください。

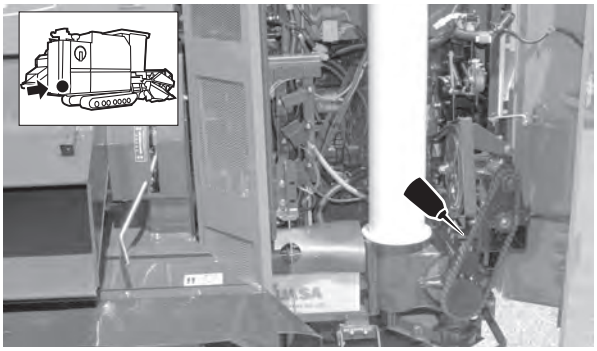


下部コンベア駆動チェン

エンジン後カバーをオープンしてください。

(→122ページ参照)

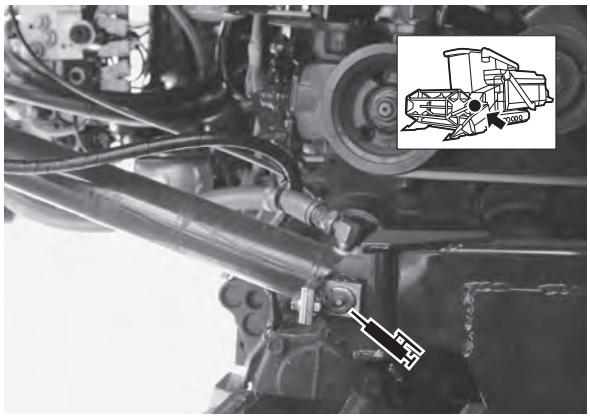
注油作業後、元通りに閉じてください。



5. グリスアップのしかた

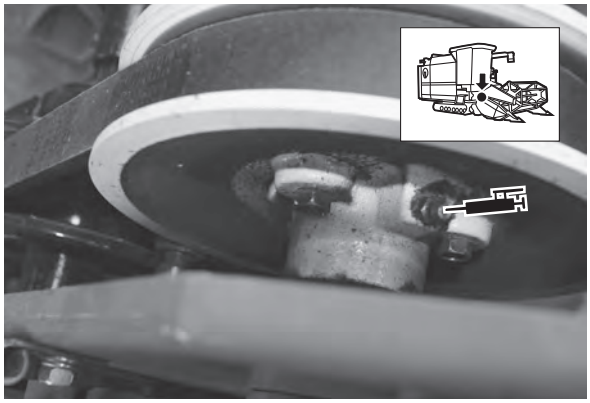
掃除をした後、下図の位置にグリスアップを行ってください。

PF シリンダ支点ピン



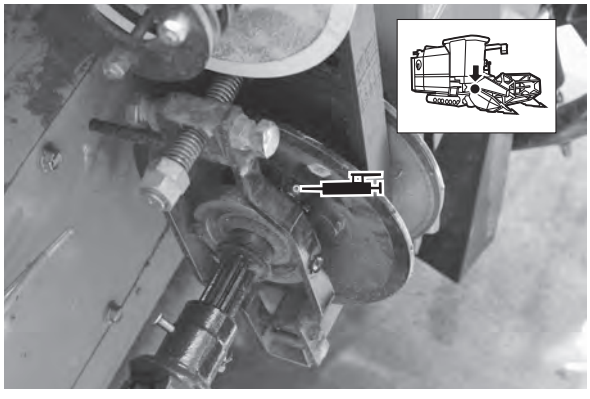
リール変速プーリ（上）

リール変速ベルトカバーを外してください。
グリスアップ後、元通りに取り付けてください。

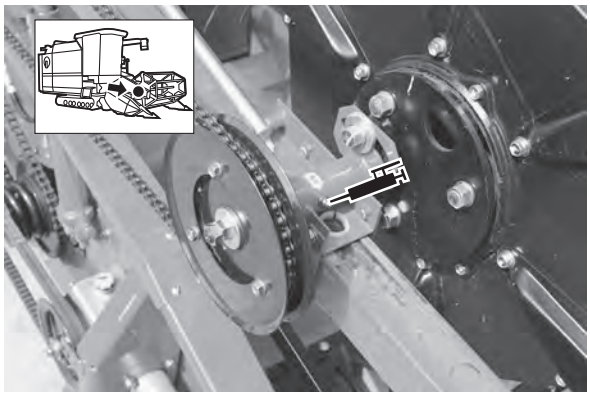


リール変速プーリ（下）

リール変速ベルトカバーを外してください
グリスアップ後、元通りに取り付けてください。

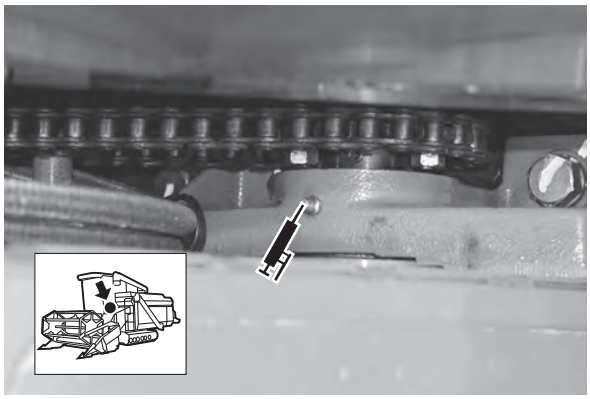


リールセンターシャフト右部・左部



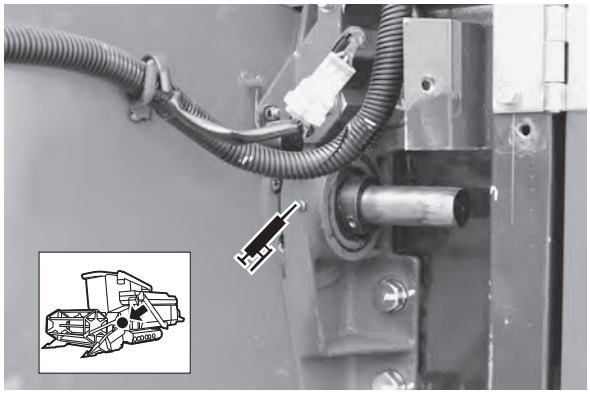
フィーダハウス回動支点右部

脱こく左前カバーを取り外してください。
（→ 122 ページ参照）
グリスアップ後、元通りに取り付けてください。



フィーダハウス回動支点左部

フィーダハウス右後カバーを外してください。
グリスアップ後、元通りに取り付けてください。

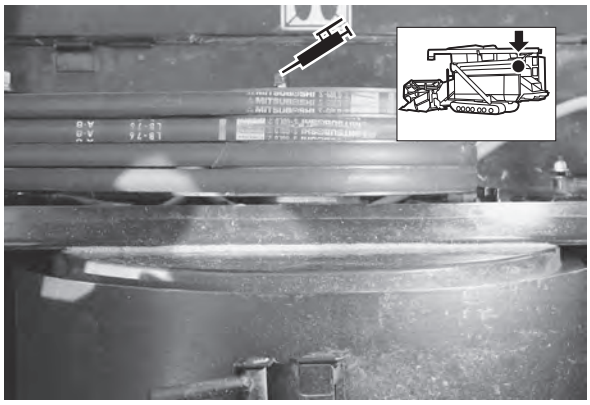


ロータ軸受部後部

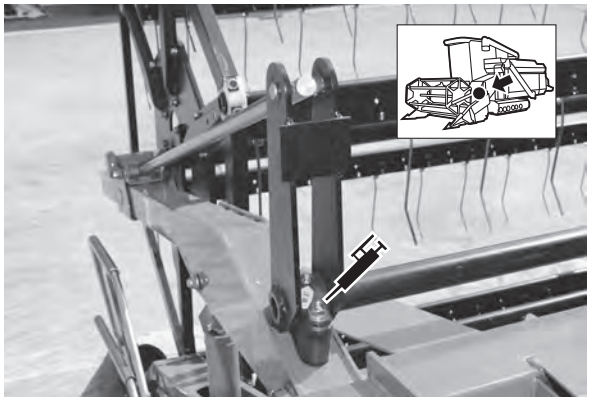
ロータカバーをオープンしてください。

(→ 119 ページ参照)

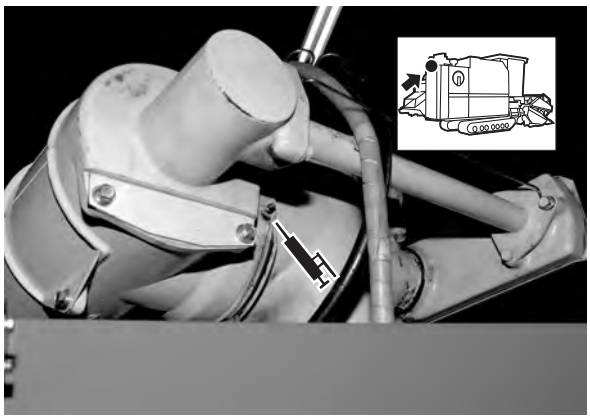
グリスアップ後、元通りに閉じてください。



リール前後回動支点右部・左部



縦オーガ回動部(上)

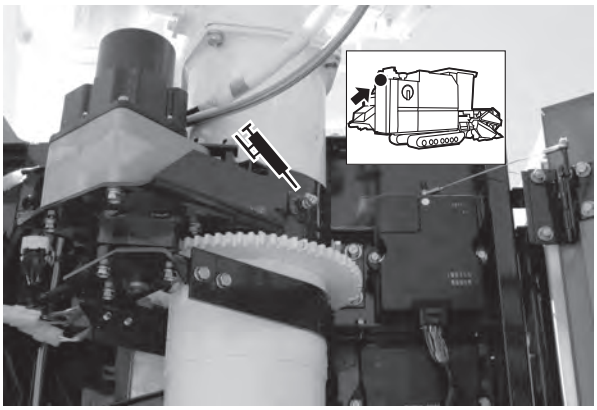


縦オーガ回動部(中)

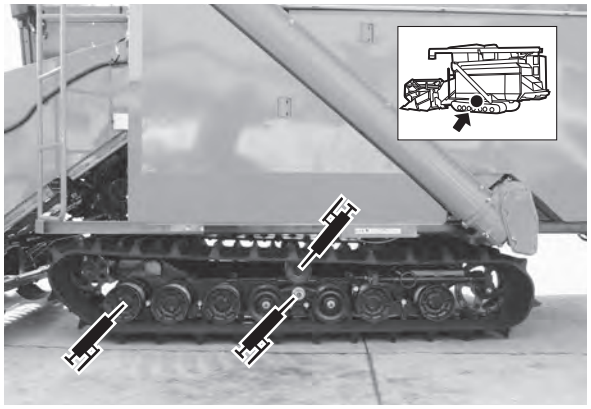
エンジン後カバーをオープンしてください。

(→ 122 ページ参照)

グリスアップ後、元通りに閉じてください。



トラックローラ・イコライザ・キャリアローラ
(左右各 2 箇所)

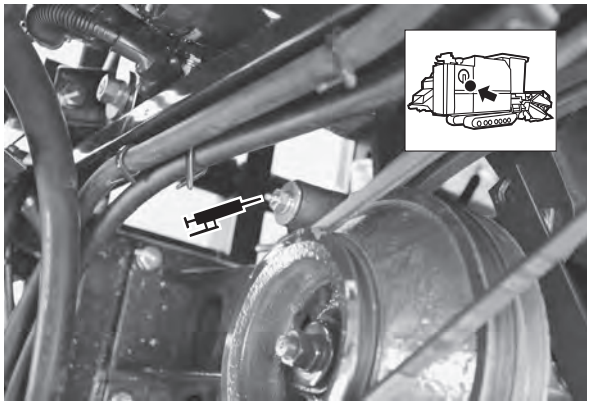


カウンタテンションアーム軸

グレンタンクをオープンしてください。

(→ 120 ページ参照)

グリスアップ後、元通りに閉じてください。

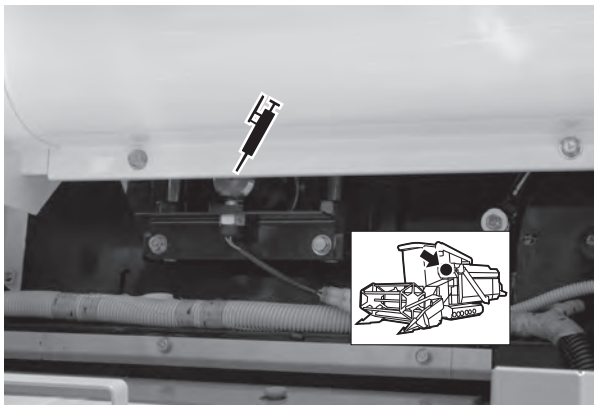


ロータ軸受部前部

2 番樋カバー前を取り外してください。

(M8 ボルト× 4 本)(→ 118 ページ参照)

グリスアップ後､元通りに取り付けてください。



6. 格納のしかた

⚠警告

- 格納するときは、バッテリを本機から取り外し、キーを抜いて保管してください。守らないと、事故を起こすおそれがあります。
  (→170ページ参照)

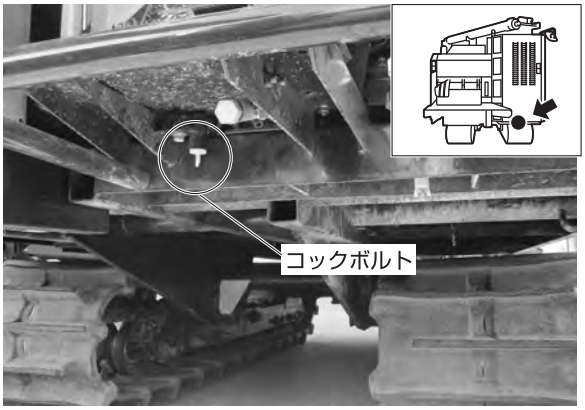
[重要]

- 各部にこく粒やワラクズが残っていると、ネズミの巣になったり、配線部をかじられて、次の年の作業に差し支えますので、きれいに掃除してください。
- 直射日光や雨水のあたらない、風通しのよい屋内に置いてください。



- 床が汚れないように本機の下に板を敷いてください。
- 各操作スイッチ・レバーを「切」位置、または「N」(中立) 位置にしてください。
- サイドデバイダを収納してください。
- 刈取部をいっぱいまで下げてください。
- 外部のサビやすい部分には、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗ってください。
- エアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないように、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。
- 燃料タンクに燃料を規定量入れてください。
  空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
- エアコンの冷媒 (クーラーガス) を規定量入れてください。
- キースイッチのキーは、必ず抜き取って保管してください。

●エンジン後カバーをオープンし、冷却水のドレンから冷却水を完全に抜き取ってください。
(→122ページ参照)



[参考]

● 工場出荷時の不凍液濃度は－ 15 ℃対応ですが、1年以上経過すると効力が低下しますので、「不凍液混合率表」を参考に入替えます。
(→ 158 ページ参照)

[重要]

●整備等でエンジンを運転する場合は、規定量の冷却水を給水して行ってください。守らないとエンジンが破損します。

格納中の整備のしかた

格納期間中は、下記のような整備を行ってください。

● 1 か月に一度はエンジンをかけて、機械を動かしてください。各潤滑部に新たな油膜ができ、格納中の油膜切れが防げます。

●バッテリは、使用しなくても自然に放電します。1 か月に一度は、充電してください。
(→ 170 ページ参照)

●２～３週間ごとに１～２回は、エンジンをローアイドリング(低回転)で、エアコンを10分以上作動させてください。

〈作業装置を作動させるときは〉

油圧シリンダロッドに塗った防錆油を拭き取ってください。

運転再開のしかた

長期間格納した後、本機を使用するときは、下記のようにしてください。

●油圧シリンダのピストンロッドに塗った防錆油を拭き取ってください。

●長期格納のためにエアクリーナー・マフラ・エンジンオイル給油口にかけた袋は、必ず取り外してください。

●各部の給油・給脂箇所に、十分オイル・グリスを給油・給脂してください。

●エンジン始動後は、暖機運転(15分以上)を行い、各部を十分になじませてください。

⚠警告

- コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた販売店・特約店・JAまでご連絡ください。守らないと、整備不良による機械の故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。
- 点検・整備・調節をするときは、交通の危険がなく、平坦で安定した場所で行ってください。守らないと、機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。
- 点検・整備・調節をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部の停止を確認してから行ってください。守らないと、回転部に巻き込まれたり、重大な事故の原因になります。
- 刈取部を上げて点検・整備・調節をするときは、必ず刈取部ストッパを「固定」位置にして、刈取部を固定してください。
- 室内で点検・整備・調節をするときは、換気を十分に行ってください。エンジンの排気ガスで中毒を起こすおそれがあります。

⚠注意

- 点検・整備をするときは、過熱部分が十分に冷めてから行ってください。ヤケドをするおそれがあります。
- カバーを取り外して点検・整備したときは、必ずカバーを元通りに取り付けてください。元通りに取り付けないと、回転部に巻き込まれたり、傷害事故を起こす原因になります。

[重要]

- 廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他の有害物は、地面へのたれ流しや川・沼への廃棄を絶対にしないでください。捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。
- オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。
- 複数で作業するときは、安全を確保するために、キースイッチのキーを抜いてください。

1. 定期点検・整備の時期について

定期点検や整備は、農閑期に行われることをお勧めします。農閑期に行いますと、農繁期には機械の性能が十分に発揮され、安全で快適な作業が行えます。機械の整備不良による事故を未然に防止するため、1シーズンごとに整備工場での定期点検・整備を受け、各部の安全を確保してください。



重要保安部品の点検･交換時期

下記の部品は、保安上、非常に重要な部品ですので、定期的に点検・交換をしてください。

	点検	交換
燃料ホースおよび結合部	1年ごと	2年ごと
電気配線	1年ごと	ー
油圧ホース	1年ごと	2年ごと

〈燃料ホースおよび結合部の点検〉

●燃料ホースおよび結合部からの燃料もれやにじみがないか、点検してください。ある場合は、きれいに拭き取ってください。

●燃料ホース結合部のホースバンドが、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、締め付けてください。

●燃料ホースにひび割れ・硬化・膨張がないか点検し、ある場合はホースを交換してください。

〈電気配線の点検〉

●電気配線の接続部が、ゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。

●電気配線に損傷がないか、また、クランプにゆるみがないかを、目視などで点検してください。
損傷がある場合は、適切な修理や交換をしてください。

〈油圧ホースおよび結合部の点検〉

●油圧ホース・パイプおよび結合部より、オイルのもれ・にじみがないか点検してください。もれ・にじみがある場合は、きれいに拭き取ってください。

●油圧ホースの接続部がゆるんでいないか点検してください。ゆるんでいる場合は、しっかり取り付けてください。

●油圧ホースにひび割れ･キズがないか点検し､ある場合はホースを交換してください。

2. 定期点検一覧表

◇:点検、○:補給、●:交換、□:調整(掃除)、△:給油脂

点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	200時間ごと	300時間ごと	600時間ごと	参照ページ
総体部	部品脱落・破損の点検	◇						−
	各部のボルト・ナットのゆるみ点検・増締	◇						−
	エンジンの調子	◇						−
	清掃	□						−
燃料系統	燃料タンクの油量点検	○						151
	ウォータセパレータの水抜き	◇						160
	燃料フィルタの交換					●		160
	燃料タンク混入水・沈殿物などのドレン抜き			□				161
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・破損・ゆるみの点検※					◇(1年ごと)	●(2年ごと)	−
冷却系統	冷却水の点検・交換	◇			●(1年ごと)			157
	エンジン防塵装置の点検・掃除	□						163
	ラジエータ冷却フィンの点検・掃除	◇						164
	オイルクーラフィンの点検・掃除	◇						164
	インタークーラフィンの点検・清掃	◇						164
	燃料クーラフィンの点検・清掃	◇						164
	コンデンサフィンの点検・掃除	◇						164
エアクリーナー	エアクリーナーの清掃・交換	□			●			162
潤滑油	エンジンオイルの点検・交換	◇	●1回目	●				152
	エンジンオイルエレメントの交換		●1回目			●		159
	走行ミッションオイルの交換		●1回目			●(2年ごと)		154
	吸入ストレーナの洗浄		□			□		−
	PTO駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		157
	ロータ駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		157
	刈刃駆動ケースオイルの交換		●1回目			●		156
油圧系統	作動油タンクオイルの点検・補給・交換	◇				●1回目	●	165
	油圧タンク吸入フィルタの洗浄					□1回目	□	−
	HSTフィルタの交換					●1回目	●	167
	油圧ホースの亀裂・破損有無点検※	◇					●(2年ごと)	−
給脂	フィーダハウス回動支点の点検・給脂			△				139
	リール部の給脂		△					139・140
	ロータ部の給脂		△					140・141
	排出オーガ部の給脂		△					140
	クローラ部の給脂		△					140
足廻り	クローラの張り点検・調整	◇			□			192・193

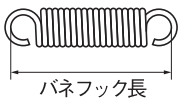
※の箇所は、保安上の重要な箇所です。

◇:点検、○:補給、●:交換、□:調整(掃除)、△:給油脂

点検整備項目		毎日	50時間ごと	100時間ごと	300時間ごと	400時間ごと	500時間ごと	参照ページ
操縦装置	アクセルの作動	◇						36
	オールマイティシフトレバーの作動	◇						41
	マルチハンドルの作動	◇						31
	副変速レバーの作動	◇						39
	セフティペダルの作動	◇						46
	リール昇降スイッチの作動	◇						31
	刈取昇降スイッチの作動	◇						42
	リールクロススイッチの作動	◇						41
	排出オーガ手動スイッチの作動	◇						44・45
	作業クラッチレバーの作動	◇						40
	排出オーガクラッチスイッチ	◇						43・45
電装品関係	作業灯	◇						37
	アワメータの作動	◇						35
	回転計・燃料計の作動	◇						34
	配線の断線・ショート・ターミナルのゆるみ点検・増締※	◇						–
	バッテリ液量の点検・補給	◇						168
	バッテリ液比重点検・補充電	◇必要時						168
	警報モニター	◇						198
	ヒューズの点検・交換	●必要時						171
走行部	冷却ファンベルトの点検・調整		◇	□		●		187
	HST駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		189
	PTO駆動ベルとの点検・調整		◇	□		●		190
	カウンタベルトの点検・調整		◇	□		●		190
	コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		191
	ジェネレータ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		187
刈取部	刈刃のすき間の点検・調整		◇	□	●			173
	リールカウンタチェンの点検・調整		◇	□			●	180
	リール変速ベルトの点検・調整		◇	□		●		174
	プラットホームオーガチェンの点検・調整		◇	□			●	180
	刈取駆動チェンの点検・調整		◇	□			●	181
	フィーダチェンの点検・調整	◇	◇	□			●	176
	刈刃駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		184
	刈取駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		184
脱こく部	脱こく駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		185
	ロータ駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		185
	セカンドファン駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		188
	選別駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		183
	2番駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		183
	グレン駆動ベルトの点検・調整		◇	□		●		186
	チェン(グレン駆動チェン)の点検・調整		◇	□			●	181
	レベリングディスクベルトの点検・調整		◇	□		●		189
	プレファンベルトの点検・調整		◇	□		●		188

※の箇所は、保安上の重要な箇所です。

規定量一覧表



テンションバネフック長は、
両端フックの内寸法を示します。



テンションバネフック長は、
金具も含めた全長を示します。

点検・調節箇所	規定量	内容	参照ページ
刈刃のすき間調節	1.2mm	受刃と刈刃上面の最大すき間	173
	0.3～0.8mm	受刃と刈刃下面のすき間	
	0.8mm	刈刃の前後最大すき間	
プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節	稲・麦 6～8mm	プラットホーム底板とスクリューコンベヤのすき間	174
	大豆 12～15mm		
プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節	4～6mm	プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間	175
フィーダチェン	3～7mm	スラットとフィーダチェン底板のすき間	176
プラットホームオーガリミットクラッチ	63～65mm	リミットクラッチバネのバネ長	177
刈刃上面とリールタイン先端のすき間調節	10～20mm	刈刃上面とリールタイン先端のすき間	178
スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間調節	10～20mm	スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間	179
リールカウンタチェン	10～16mm	指で押したときのたわみ量	180
プラットホームオーガチェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	180
刈取駆動チェン	0～1mm	座金とカラーの間	181
バケットチェン	0～0.5mm	座金とカラーの間	181
グレン駆動チェン	14～20mm	指で押したときのたわみ量	181
2番駆動ベルト	90～94mm	テンションバネフック長	183
選別駆動ベルト	151～155mm	テンションバネフック長	183
刈刃駆動ベルト	51～55mm	テンションバネのバネ長	184
刈取駆動ベルト	213～219mm	テンションバネの金具を含む全長	184
ロータ駆動ベルト	稲・麦・大豆 163～167mm	テンションバネのバネ長	185
脱こく駆動ベルト	239～243mm	テンションバネの金具を含む全長	185
グレン駆動ベルト	122～126mm	テンションバネフック長	186
エンジンベルト	143～147mm	テンションバネのバネ長	186
ジェネレータ駆動ベルト	10～14mm	指で押したときのたわみ量	187
冷却ファンベルト	143～147mm	テンションバネフック長	187
セカンドファン駆動ベルト	178～182mm	テンションバネフック長	188
プレファン駆動ベルト	79～83mm	テンションバネフック長	188
唐箕駆動ベルト	93～97mm	テンションバネフック長	189
HST駆動ベルト	232～236mm	テンションバネの金具を含む全長	189
カウンタベルト	312～316mm	テンションバネフック長	190
PTO駆動ベルト	146～150mm	テンションバネフック長	190
コンプレッサ駆動ベルト	121～125mm	テンションバネフック長	191
ロータリースクリーン吸引駆動ベルト	63～67mm	テンションバネフック長	191
駐車ブレーキの調節	105～109mm	テンションバネフック長	192
クローラの調節	20～25mm	シャーシをジャッキアップしたとき、クローラと第3転輪のすき間	192

3. オイル・グリス・不凍液一覧表

	純正オイル	一般販売店の相当オイル	
	三菱農機（指定）純正オイル	JX日鉱日石エネルギー（ENEOS）	コスモ石油
燃料	―	ディーゼル軽油	
エンジンオイル（API分類、CF、CF-4、CI-4級）	スーパーマルチGDオイル 10W-30（CF級）	ディーゼルエンジン用SAE10W-30相当品（API分類、CF級以上）	
グリス（マルチパーパスタイプ）	―	エピノックグリースAP2またはリゾニックグリースEP2	コスモグリース ダイナマックス EP2
不凍液（JIS K2234 2種 パーマネントタイプ）	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT	アンチフリーズPT（ゴールド、シルバー）
ミッションオイル	トランスミッションフルード TF-300	―	
ミッションオイル（駆動ケース）	マルチSHPギヤオイル（90番）	ミッションオイル90番（GL-3）	
油圧作動オイル	耐摩耗性油圧作動油　VG56相当品		
食品機械用潤滑スプレー	部品コードNo.：NX127		

注）気温－5℃以下のとき、燃料は3号又は特3号軽油を使用してください。

4. 給油･給水一覧表

項　　目		給油量	種類	交換時期	参照ページ
燃料		110ℓ	ディーゼル軽油	作業前	151
冷却水	ラジエータ	12ℓ	清水･不凍液	1年ごと	157
	サブタンク	1ℓ	清水･不凍液	1年ごと	157
エンジンオイル		10.2ℓ	スーパーマルチGDオイル 10W-30	1回目　　:50時間後､または1シーズン後 2回目以降:100時間ごと､または1シーズンごと	152
ミッションオイル		8.5ℓ	トランスミッション フルードTF-300	1回目　　:50時間後､または1シーズン後 2回目以降:300時間ごと､または2年ごと	154
刈取駆動ケース		0.7ℓ	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　　:50時間後､または1シーズン後 2回目以降:300時間ごと､または2年ごと	156
ロータ駆動ケース		1.5ℓ	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　　:50時間後､または1シーズン後 2回目以降:300時間ごと､または2年ごと	156
PTO駆動ケース		1.0ℓ	ミッションオイル90番 (GL-3)	1回目　　:50時間後､または1シーズン後 2回目以降:300時間ごと､または2年ごと	156
油圧作動オイル		35ℓ	耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品	1回目　　:300時間後 2回目以降:600時間ごと	165

[重要]

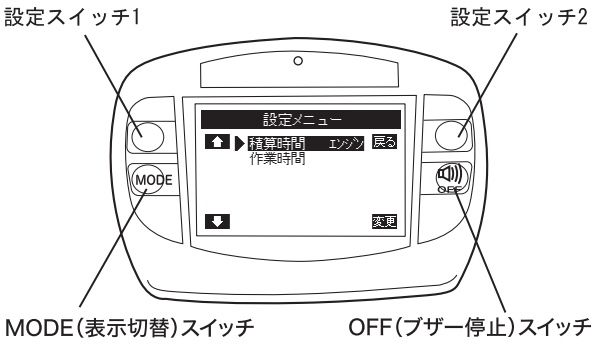
●定期点検を実施するとともに、オイルの交換は、純正（指定）オイルをご使用ください。

5. メンテナンス時間のリセットのしかた

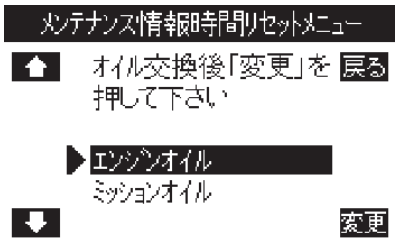
画面上に表示するメンテナンス情報は、あくまで目安です。お客様の使用状況に合わせて「4. 給油・給水一覧表」(→149ページ参照) または「5.主要消耗部品の点検・交換時期の目安表」(→219ページ参照) に従って交換してください。

オイル交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面で、必ずメンテナンス情報時間をリセットしてください。
リセットしたときから、時間の積算を開始し、規定時間に達するとメンテナンス情報が表示されます。

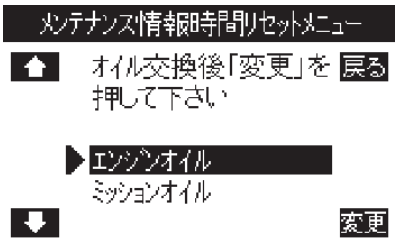
1. MODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、「設定メニュー」の画面にしてください。



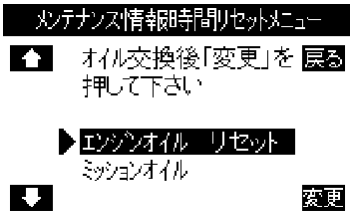
2. 「設定メニュー」の画面でMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を下に移動していくと、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面に切り替わります。

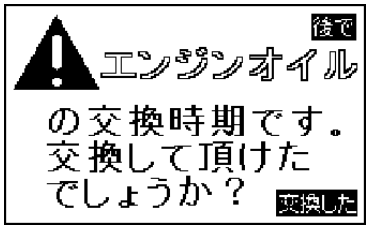


3. エンジンオイルを交換したときは、エンジンオイルの項目に、ミッションオイルを交換したときは、ミッションオイルの項目に、設定スイッチ1（⬆）とMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を移動させて、文字を反転した状態にしてください。



4. OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押してください。
OFF（ブザー停止）スイッチ（変更）を押すと、「リセット」の文字が表示され、時間のリセットが確定されますので、その時点から規定交換時間が経過すると、メンテナンス情報表示されるようになります。





[参考]

●「リセット」の文字は、数秒すると消えます。再度、OFF（ブザー停止）スイッチを押して「リセット」の文字を表示させても、時間はリセットされています。

5. 設定スイッチ2（戻る）を押すと、通常の画面に戻ります。

6. 燃料の点検･補給のしかた

⚠危険

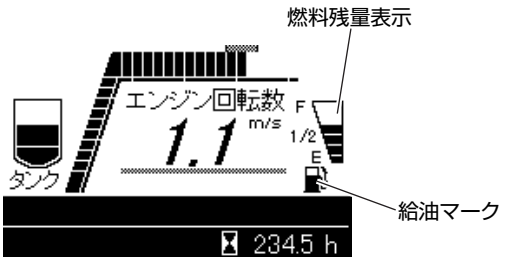
- ●燃料の点検･補給をするときは、くわえタバコや裸火照明は絶対にしないでください。燃料に引火して、火災を起こす原因になります。
- ●燃料の補給をしたときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭き取ってください。守らないと、火災やヤケドの原因になります。

燃料の残量点検のしかた

燃料の残量は、キースイッチを「ON」位置にして、センターディスプレイの燃料残量表示で確認してください。

燃料の残量が少なくなったときは、⛽マークが点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。

ブザーを止めるときは、OFF（ブザー停止）ボタンを押してください。ブザーは鳴り止みますが、⛽マークは点滅したままです。

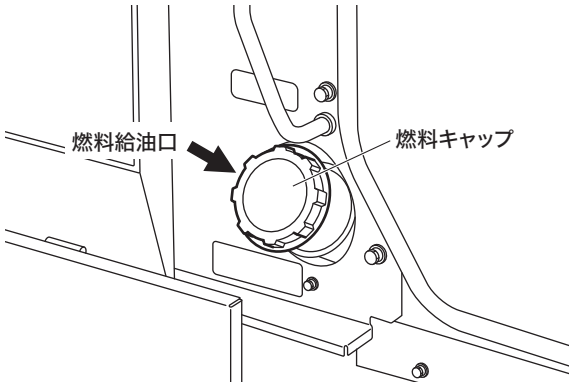


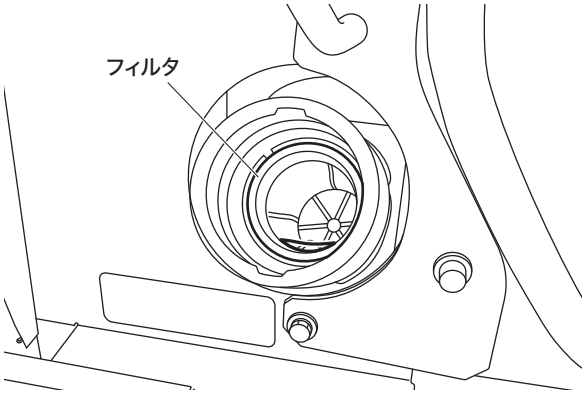
燃料の補給のしかた

⚠注意

- ●コモンレールエンジンの燃料噴射関係の部品は精密部品です。燃料補給の際には、水や異物が混入しないように注意してください。
- ●燃料を補給するときは、燃料フィルタを必ず装着してください。燃料フィルタを外したまま、燃料を補給すると、配管内で異物が詰まり、出力低下やエンジンストップの原因になるおそれがあります。

燃料キャップを取り外し、燃料を、フィルターから液面が見え始めるまで補給してください。





[参考]

●キースイッチが「ON」位置のときは、燃料給油時に満量になるとブレーキランプが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みます。

[重要]

●冬季など外気温の低い時に燃料を給油口上面まで入れると気温上昇とともに燃料が膨張し、ブリーザから燃料が漏れてくることがあります。燃料満量ランプがついたら給油をやめてください。

● この機械のエンジンは排ガス規制対応のため燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は亜鉛メッキ鋼板の容器のご使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛または鉛物質が溶け出すとエンジン不調の原因になる場合があります。

7. オイルの点検・補給・交換のしかた

[重要]

●地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

●オイルや燃料をクローラおよびエンジン防振ゴムにかけないようにしてください。もしオイルがかかったときは、十分に洗浄してください。そのままにしておくとクローラやエンジン防振ゴムの劣化や寿命が短くなるおそれがあります。

エンジンオイル

エンジンオイルの点検・補給・交換は、エンジン始動前か、エンジンが冷えているときに行ってください。作業は、エンジン後カバーをオープンしてから行ってください。（→122ページ参照）

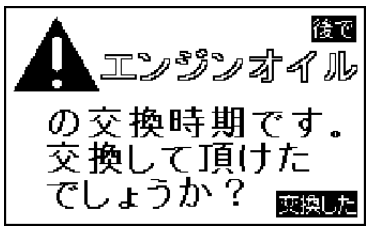
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈推奨オイル〉

推奨エンジンオイル	交換時間	規定量
スーパーマルチGDオイル 10W-30（CF級）	1回目：50時間後、または1シーズン後 2回目以降：100時間ごと、または1シーズンごと	10.2ℓ

〈交換時期について〉

「4.給油・給水一覧表」（→149ページ参照）に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

●すぐに交換しない場合

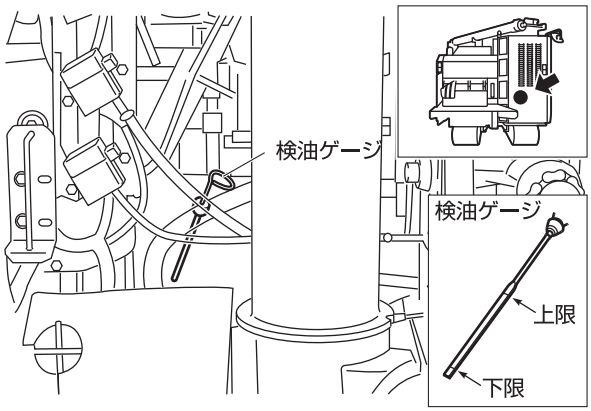
設定スイッチ2（後で）を押してください。（次にキースイッチを「入」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換）を押すまで表示されます。表示が3回されると、自動的に積算時間がリセットされます。）

〈点検のしかた〉

1. 検油ゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
2. 検油ゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
3. 点検後は、検油ゲージを元通りに取り付けてください。

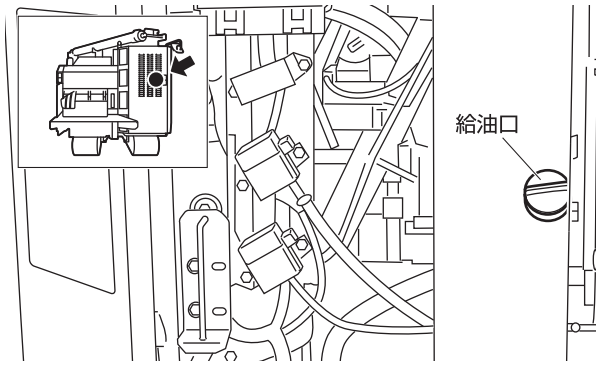
[参考]

●点検時、オイルもれのないことも確認してください。



〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。



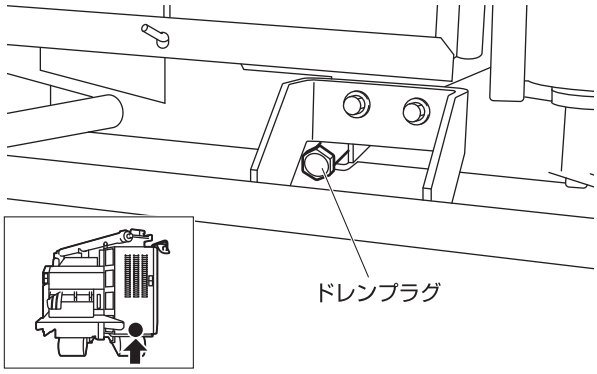
〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

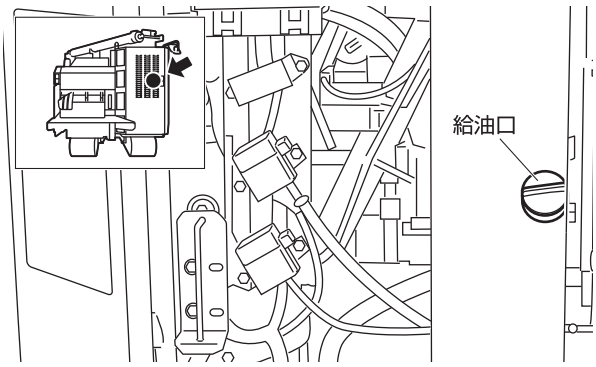
●給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。

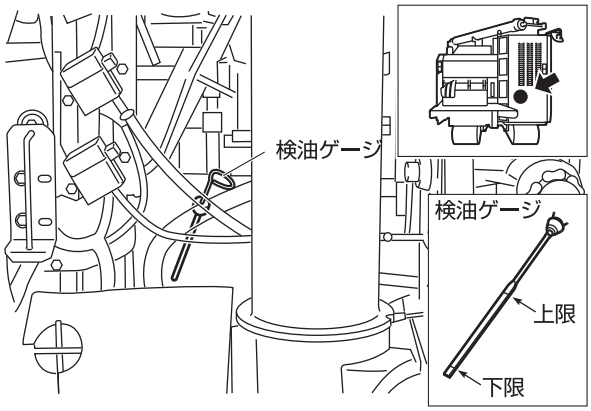


4. 給油口から、エンジンオイルを規定量まで給油してください。

5. 給油口にふたを取り付けてください。



6. エンジンを始動し、5分程度ローアイドリング（低速回転）で回してください。
7. エンジンを停止し、油圧警報が表示されることを確認し、約5分間待ってください。
8. 検油ゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。



[重要]

- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイルを交換をしたときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。（→150ページ参照）
  メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。
- エンジンオイルを交換するときは異種のオイルを混入させないでください。もし異種のオイルを入れる場合は、前のオイルを完全に抜ききってから入れてください。

ミッションオイル

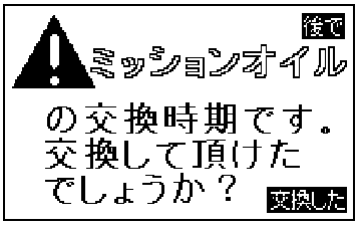
ミッションオイルの点検・補給・交換は、刈取部を最上げ状態にして、刈取部を固定してから行ってください。（→132ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈推奨オイル〉

推奨 ミッションオイル	交換時間	規定量
トランスミッション フルードTF-300	1回目：50時間後、または 1シーズン後 2回目以降：300時間ごと、 または2年ごと	8.5ℓ

〈交換時期について〉

「4.給油・給水一覧表」（→149ページ参照）に従って交換してください。使用時間が交換時期になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「OFF（ブザー停止）スイッチ」（交換した）を押してください。設定時間までの積算時間がリセットされます。

●すぐに交換しない場合

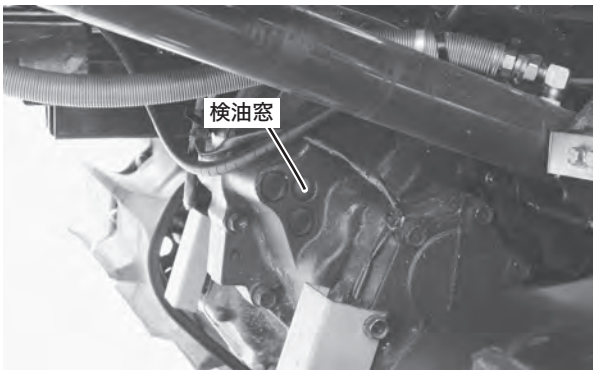
設定スイッチ2（後で）を押してください。（次にキースイッチを「入」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押すまで表示されます。）

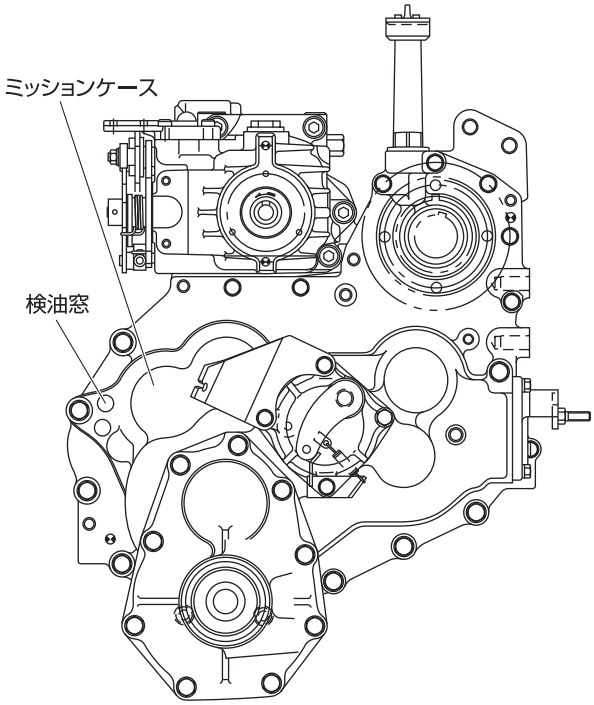
[参考]

- メンテナンス情報は、約5秒で表示が消える設定になっています。また、メンテナンス情報の表示は3回までです。3回の表示が終わると、自動的に積算時間がリセットされますので注意してください。

〈点検のしかた〉

1. 機体を水平にしてください。
2. 刈取部を最上位置にしてください。
3. 刈取部を固定してください。(→132ページ参照)
4. ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。規定量の判断は、「検油窓の見方」を参照してください。





〈検油窓の見方〉

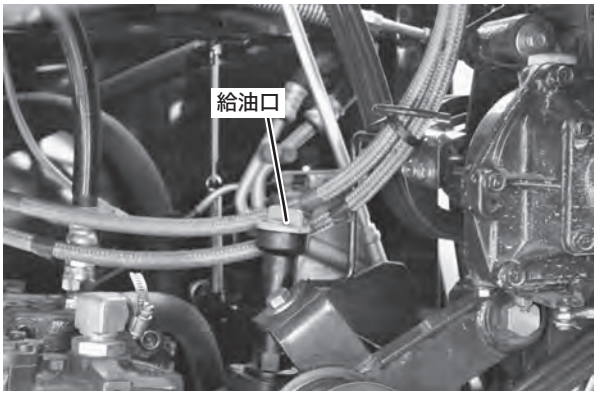
		
入れ過ぎ	規定量	不足

[参考]

●点検時、オイルもれがないか確認してください。

〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から適正範囲まで補給してください。適正範囲は、「検油窓の見方」を参照してください。



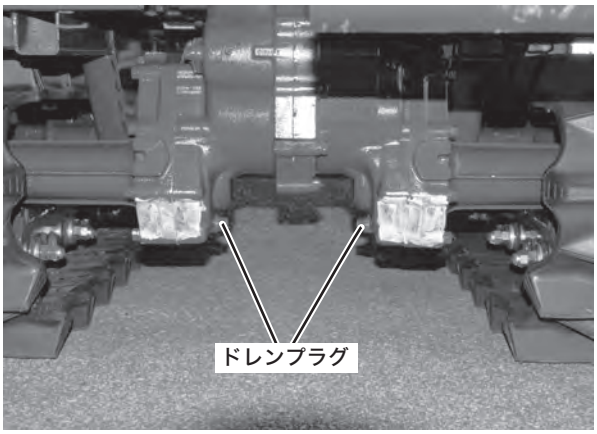
〈交換のしかた〉

1. ミッションケース下部のドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
2. 給油口のふたを外した後、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れ出てきます。

[参考]

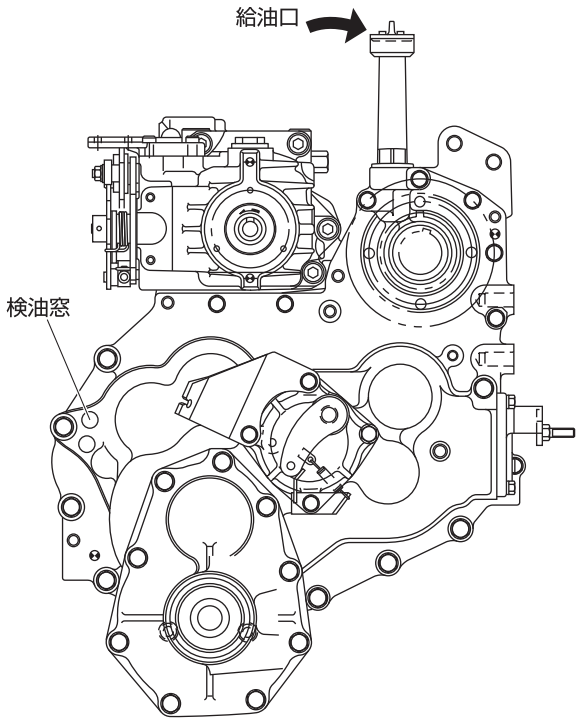
●給油口のふたを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。



4. ミッションケース左側面にある検油窓を点検してください。

5. 給油口のふたを取り付けてください。



[重要]

- センターディスプレイに、メンテナンス情報が表示される前にエンジンオイル交換したときは、「メンテナンス情報時間リセットメニュー」の画面でメンテナンス情報時間をリセットしてください。
  (→150ページ参照)
  メンテナンス情報時間は、リセットしたときから時間の積算を開始しますので、リセットしないと、規定時間前にメンテナンス情報を表示してしまいます。

その他の給油箇所

[参考]

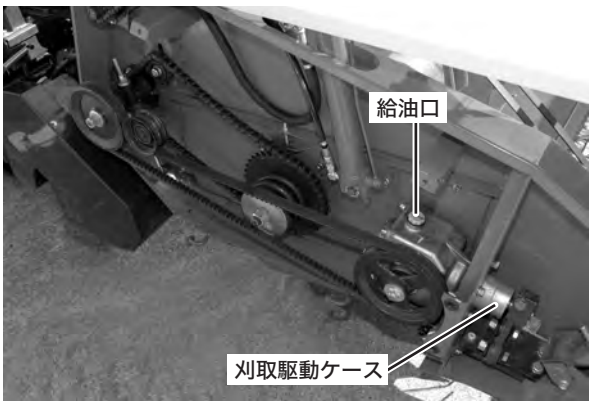
- オイルの点検・補給・交換の必要なときは、販売店にご相談ください。

〈推奨オイル〉

	推奨オイル	交換時期	規定量
刈刃駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)	1回目: 50時間ごと 2回目以降: 300時間ごと	0.7ℓ
ロータ駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)		1.5ℓ
PTO駆動ケース	ミッションオイル 90番(GL-3)		1.0ℓ

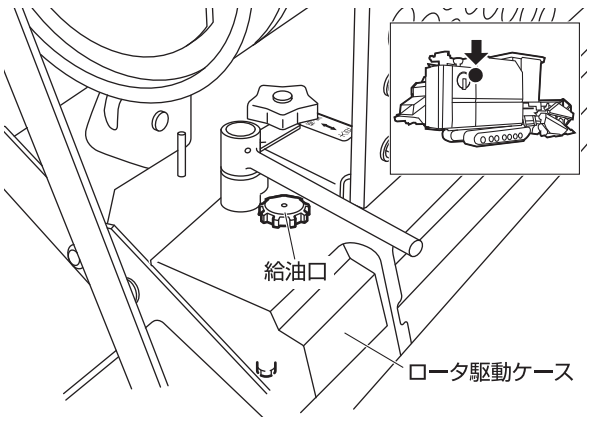
刈刃駆動ケース

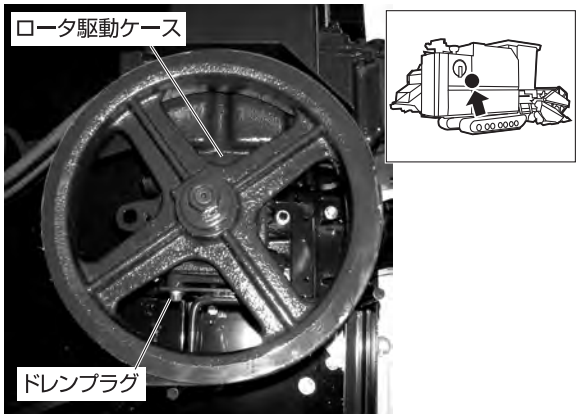
刈取サイドカバー右を外してください。
(→118ページ参照)
給油終了後、元通りに取り付けてください。

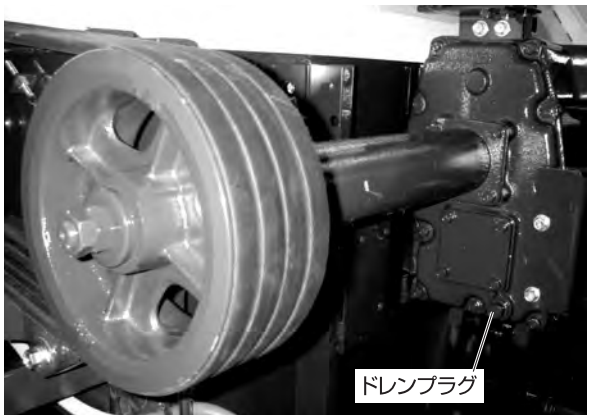


ロータ駆動ケース

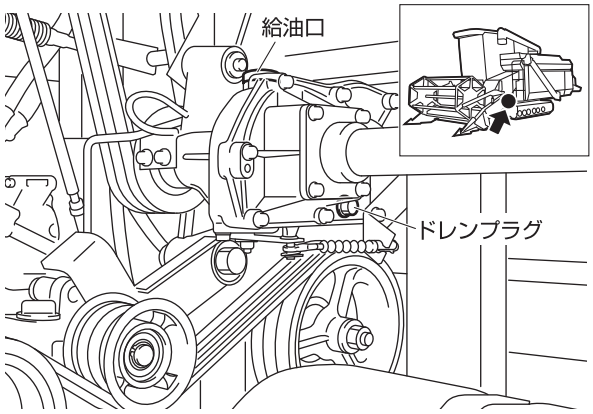
グレンタンクをオープンしてください。
(→120ページ参照)
給油終了後、元通りに閉じてください。







PTO駆動ケース



8. 冷却水の点検・補給・交換のしかた

⚠警告

● ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。開けると熱湯が吹き出し、ヤケドするおそれがあります。エンジン停止後 30 分以上経過し、エンジンが冷えてからラジエータキャップを徐々にゆるめ、蒸気の圧力を抜いてから開けてください。

⚠注意

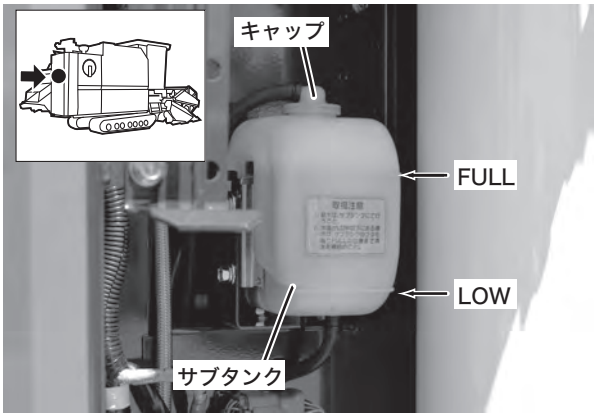
● エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。脚立などを用いて行ってください。

冷却水の点検・補給・交換は、エンジン後カバーをオープンしてから行ってください。
(→122ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉
サブタンク内の冷却水が、「FULL」「LOW」の範囲内にあるか点検してください。

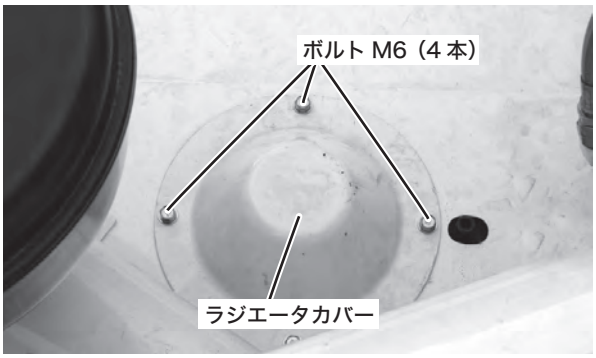
[参考]
● 点検時、水もれのないことも確認してください。

〈補給のしかた〉
冷却水が不足している場合は、サブタンクのキャップを外し、きれいな水道水を補給してください。

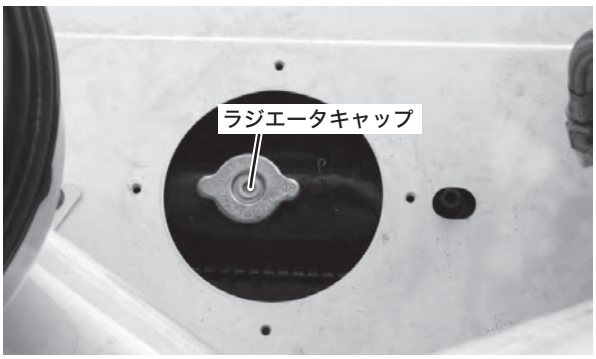


〈交換のしかた〉

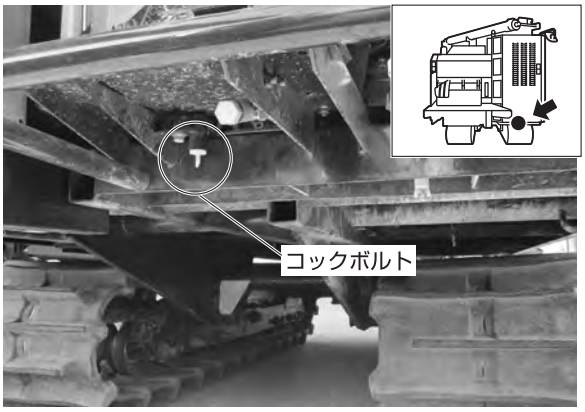
1. エンジン上部にあるラジエータカバーを、ボルトM6（4本）を外して、取り外してください。



2. ラジエータキャップを取り外してください。



3. ドレンのコックボルトをゆるめて、ラジエータ内の水をすべて抜いてください。



4. 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ内を洗ってください。

[参考]

●ラジエータ内をよりいっそうきれいにしたいときは、ラジエータ洗浄剤を混合した水をラジエータ内に入れ、15 分以上エンジンを空回転してから、水を抜き取ってください。

5. ドレンのコックボルトを元通りに締め付け、不凍液を必要量入れた後、水道水をあふれるまで入れてください。
6. ラジエータキャップを取り付けてください。
7. ラジエータカバーを取り付けてください。
8. エンジンを始動し、5分間エンジンを空運転して、不凍液の混合を早めてください。

〈推奨不凍液〉

推奨不凍液	交換時間	冷却水量
アンチフリーズPT	1年ごと	13ℓ

〈不凍液の取扱いについて〉

●不凍液は、水の凍結温度を下げる効果があります。不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯などでは下記の表を参考にして、安全な濃度で使用してください。

〈不凍液混合率表〉

外気温度(℃)		-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率	水(%)	85	75	70	65	60	55
	不凍液(%)	15	25	30	35	40	45

●出荷時には、不凍液が入っています。冷却水交換時には、新たに不凍液を入れてください。

●不凍液の混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱説明書の指示に従ってください。

●冷却水が自然に不足した場合は、水道水だけを入れてください。また、パーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して確認してください。

●不凍液の有効期限は 1 年です。毎年、新しい不凍液と交換してください。

[重要]

●地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

9. エンジンオイルエレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメントは、第1コシ器でコシきれなかった小さな異物を、コシ取るものです。カートリッジタイプですので、掃除ができません。定期的に交換してください。
作業は、エンジン後カバーをオープンしてから行ってください（→122ページ参照）
作業終了後は、元通りにセットしてください。

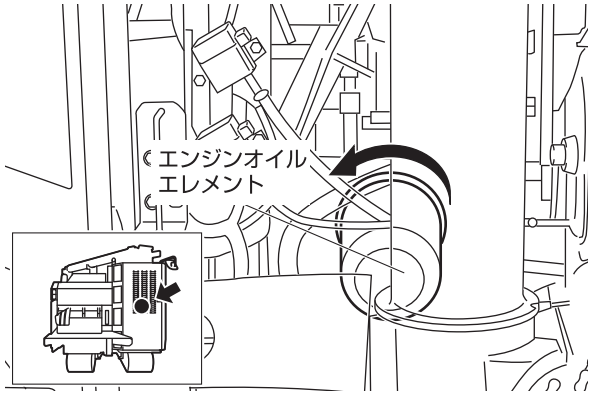
交換時期	1回目　　:50時間後 2回目以降:300時間ごと

[参考]

- エンジンオイルエレメントの交換と同時に、エンジンオイルの交換も行ってください。（→153ページ参照）

〈交換のしかた〉
エンジンオイルエレメントの交換は、エンジンオイルを抜き取った後に行ってください。

1. オイルエレメントを矢印方向に回して外してください。
2. 新しいオイルエレメントの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. オイルエレメントを、ゴムリングがエンジンケースに接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。



[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。

[重要]

- 交換後は、オイルエレメント取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- エンジンオイルエレメントは、純正部品を使用してください。他社製品を使用しますと故障の原因になります。

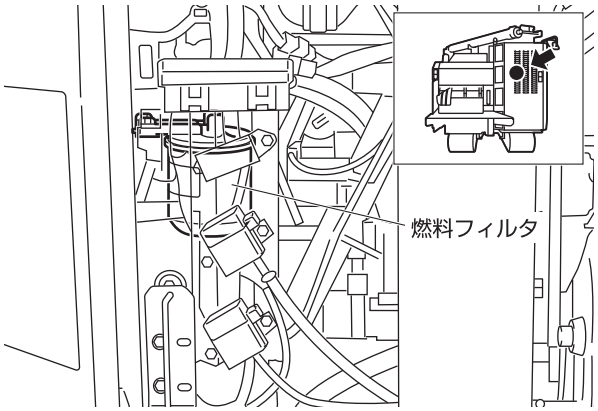
10.燃料フィルタの交換のしかた

燃料に含まれる小さなゴミを取り除きます。外部より汚れ具合が確認できませんので、定期的に交換してください。
作業は、エンジン後カバーをオープンして行ってください。(→122ページ参照)
作業終了後は、元通りにセットしてください。

交換時期	300時間ごと

〈燃料フィルタの交換のしかた〉

1. カートリッジを矢印の方向へ回して外してください。
2. 新しいカートリッジのゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. ゴムリングが接触するまで回した後、2/3回転程度手で締め付けてください。
4. フィルタ上部のエア抜きボルトを外し、燃料の噴射ポンプのプライミングポンプを押して、エア抜きを行ってください。(→161ページ参照)



[重要]

- ●締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- ●交換後は、燃料フィルタ取付面などからの燃料もれやにじみがないか、必ず点検してください。
- ●燃料フィルタは、純正部品を使用してください。他社製品を使用しますと故障の原因になります。

11.ウォータセパレータの点検・水抜き・交換のしかた

本機右後方底部にウォータセパレータ(油水分離器)があります。

実施時間	水がたまったとき

[重要]

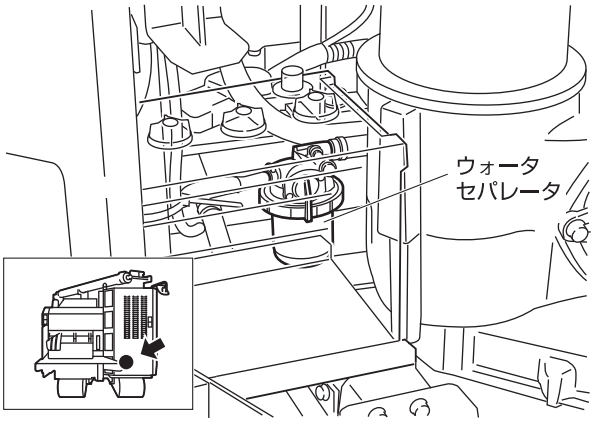
- ●ウォーターセパレータを毎日点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄をおこなってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼きつくおそれがあります。

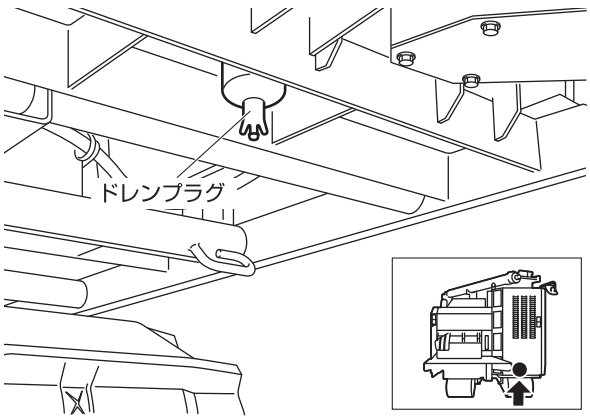
[参考]

- ●ウォータセパレータの水抜きと同時に、燃料タンクのドレン抜きも、必ず行ってください。
  (→次項参照)

〈水抜きのしかた〉

1. ウォータセパレータ底部のドレンプラグを外し、中の水を抜いてください。
2. ドレンプラグを元通りに取り付けてください。





12.燃料タンクのドレン抜きのしかた

⚠警告

●燃料ホースを確実に接続してください。燃料がもれると火災の原因になり大変危険です。

燃料タンクの底部には、水やゴミが沈殿しています。これらの沈殿物が燃料ポンプに入ると不具合の原因になりますので、定期的に取り除いてください。

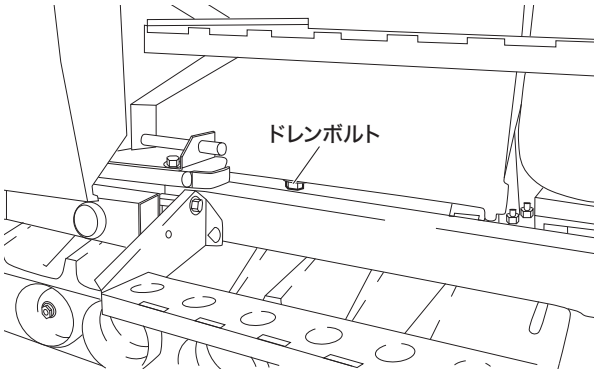
交換時期	100時間ごと

[参考]

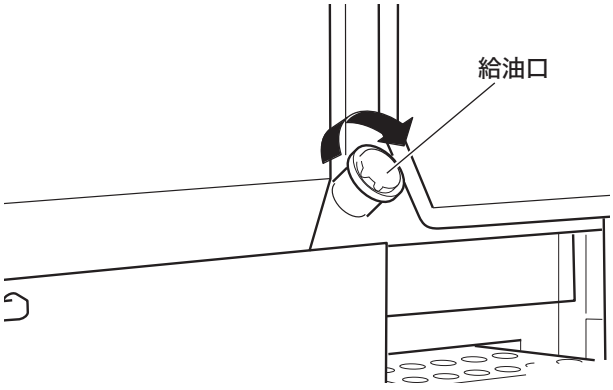
●燃料タンクのドレン抜きと同時に、ウォータセパレータの水抜きも、必ず行ってください。

〈ドレン抜きのしかた〉

1. 燃料タンク下部にあるドレンボルトの下に、燃料を受ける容器を置いてください。
2. ドレンボルトを取り外してください。燃料が流れ出て、タンク内の沈殿物が排出されます。



3. 排出後、ドレンボルトを取り付けてください。
4. 燃料キャップを取り外し、新しい燃料を補給してください。



13.燃料の空気（エア）抜きのしかた

⚠危険

●エンジン回りのベルト・防振ゴム・ホースなどに、燃料がかからないように注意してください。もし、燃料がかかった場合は、十分に水洗いしてください。燃料がかかっていると、火災の原因になり、大変危険です。

燃料タンクが空になったり、燃料系統に空気が入るとエンジンは止まります。下記の要領で空気抜きをしてください。

1. 燃料タンク満タンにしてください。
2. キースイッチを「ON」位置にしたまま20～30秒待ち、「始動」位置にしてください。
3. 自動的に空気（エア）抜きが行われ、エンジンが始動します。

以上で空気（エア）抜きは完了です。

14.エアクリーナーの掃除・交換のしかた

エアクリーナーは吸入された空気に含まれている砂塵を取り除き、シリンダやピストンリングの摩耗を防ぐ装置です。刈取作業は、ホコリがよく出ますので、毎日、作業後に掃除してください。

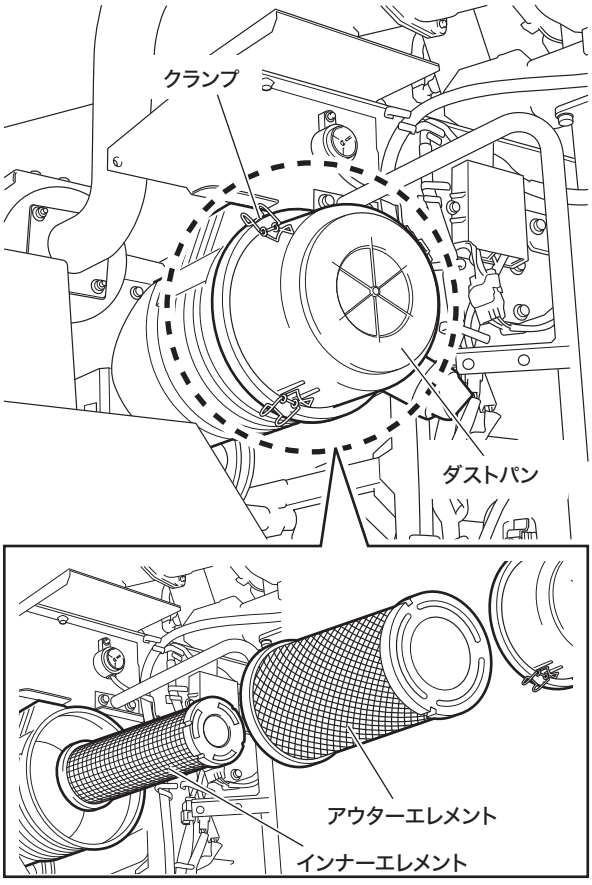
掃除時期	エレメントの交換時期
毎日	・300時間ごと ・ホコリの多い所では200時間ごと （規定時間未満でも1年間で交換）

[参考]

●エアクリーナーの掃除と同時に、プレクリーナーの掃除も行ってください。
（→163ページ参照）

〈掃除・交換のしかた〉

1. エンジン後カバーをオープンしてください。
（→122ページ参照）
2. カバークランプを外して、インナーエレメント、アウターエレメントを取り外してください。



3. エレメントは、内側から圧縮空気（7kg/cm^2 以下）を吹きつけるか、中性洗剤水溶液でザブ洗いして掃除します。（使用水圧2.8kg/cm^{2}以下）
4. 取り付けるときは、取り外しの逆手順で行ってください。
掃除・交換終了後は元通りに取り付けてください。
5. インナーエレメントはアウターエレメントを交換しても目詰まりを起こすようになったときに交換してください。

[重要]

●エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。
●エレメントを洗ったときは、完全に乾かしてください。生乾きのエレメントは、絶対に使用しないでください。エンジン作動不良の原因になります。
●中性洗剤の水溶液でザブ洗いするときは、ろ紙を傷つけないようにゆっくり洗ってください。

15.プレクリーナーの掃除のしかた

⚠注意

●エンジンルームなどの上には、直接登らないでください。高温になっている箇所もあり危険です。脚立などを用いて行ってください。

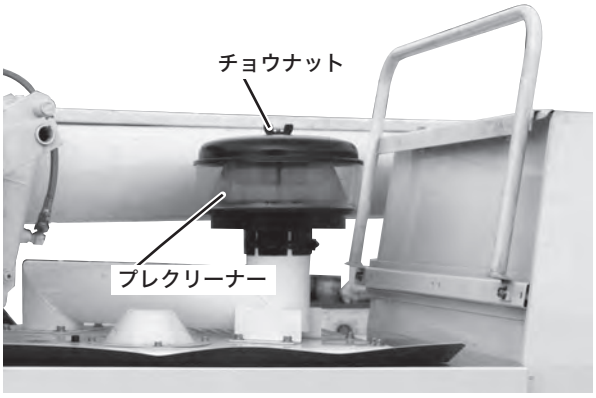
プレクリーナーの中にたまったゴミは、毎日、作業後に掃除してください。

[参考]

●プレクリーナーは、ホコリをすべて集めるものではありません。プレクリーナーの掃除と同時にエアクリーナーも掃除してください。
(→162ページ参照)

〈掃除のしかた〉

プレクリーナー上部のチョウナットを外して、たまっているゴミを取り除いてください。

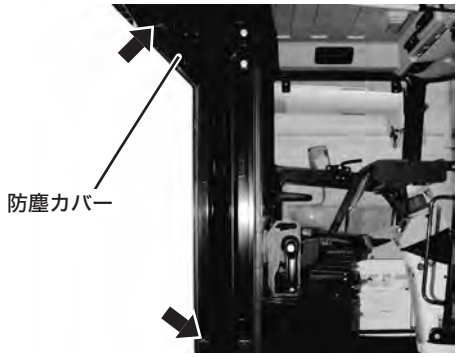


16.防塵装置の掃除のしかた

吸気口・ロータリースクリーンなどは、防塵装置です。冷却風を吸入する大切な装置ですから、作業前・後には必ず掃除をしてください。

吸気口の掃除のしかた

1. 防塵カバー取付ボルト M6（２本）を外します。



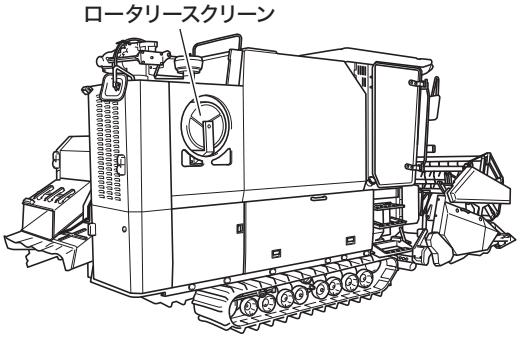
2. 防塵カバーをオープンして吸気口の網面を点検します。
   吸気口の網面にゴミが付着しているときは、エンジンを停止してから、網面をこすってゴミを落としてください。



〈ロータリースクリーン〉

[重要]

●吸気口の網面へのゴミの付着はいつも注意し、ゴミが付着していれば掃除するようにしてください。ゴミが付着したままにしておくと、エンジン冷却水、および油圧作動オイルの冷却不良の原因になります。

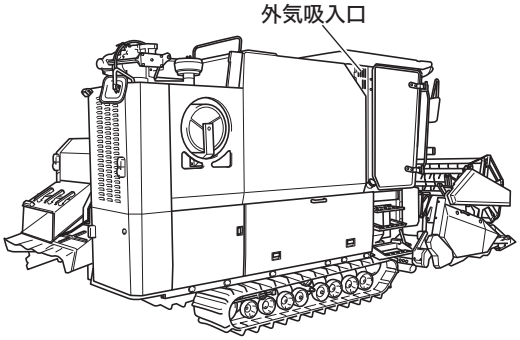


〈エアコン用コンデンサ外気吸入口〉

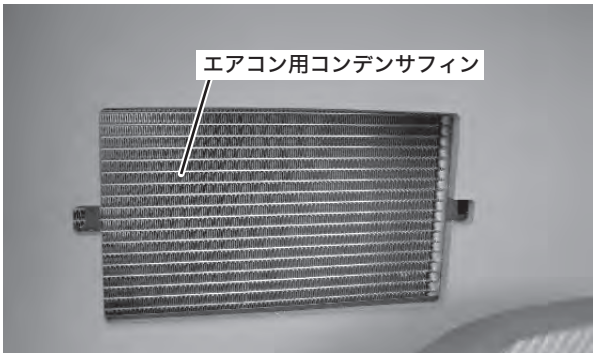
[重要]

●網面やスクリーンへのゴミの付着にはいつも注意し、ゴミが付着していれば必ず掃除してください。

●コンデンサが目詰まりすると、冷房能力が低下しますので、定期的に掃除をしてください。

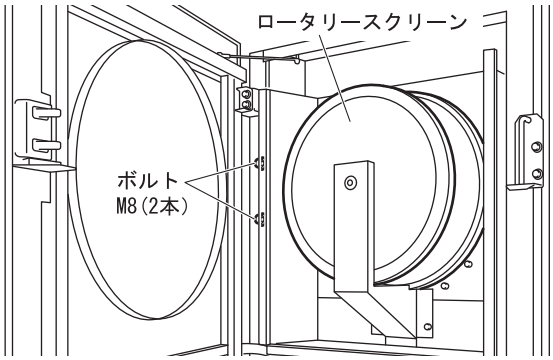


〈エアコン用コンデンサフィン(キャビン室内)〉

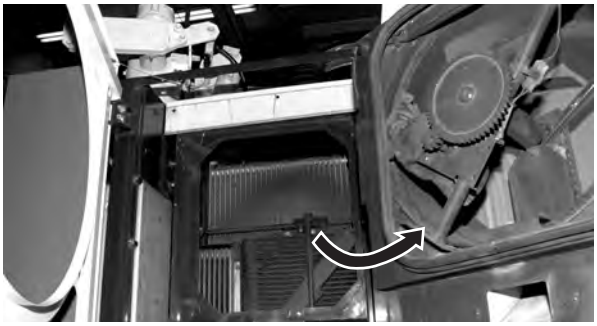


インタークーラフィン・燃料クーラフィン・オイルクーラーフィン・ラジエータ冷却フィンの掃除のしかた

1. エンジン右カバーをオープンしてください。
2. ロータリースクリーンのボルトM8（2本）を外して、ロータリースクリーンをオープンしてください。



3. エアガンあるいはブロアなどで、オイルクーラフィン、インタークーラフィン、燃料フィンに付着しているワラクズやホコリを取り除いてください。



4. ラジエータ冷却フィンの掃除はオイルクーラをエンジンルームから取外してから行ってください。
   グレンタンクをオープンし、(→120ページ参照)ボルトM8（4本）を外して、オイルクーラを前方に抜いてください。
   4本のボルトのうち1本はエンジンルーム内にあります。

[重要]

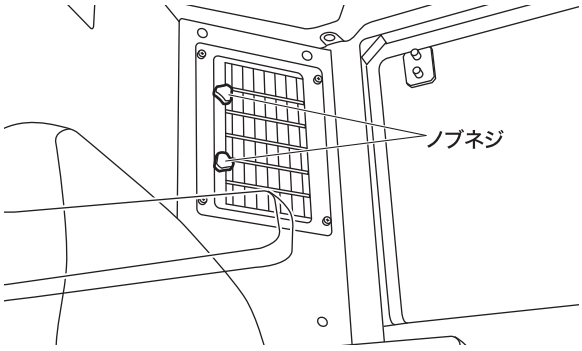
●ラジエータ冷却フィンは変形させないでください。

フィルタの掃除のしかた(キャビン室内)

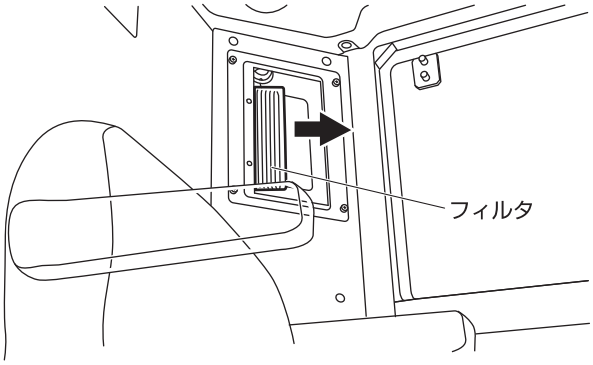
⚠警告

- フィルタの掃除や点検・整備をするときは、必ずキースイッチを「OFF」位置にしてください。
- 空気の吸い込み口や吹出口に、棒や手を入れないでください。内部でファンが回転していますので、ケガをするおそれがあります。

1. キースイッチを「OFF」位置にしてください。
2. ノブネジ（2本）を外してください。



3. フィルタを取り外して、圧縮空気で洗浄してください。



〈フィルタの汚れや詰まりが著しい場合〉

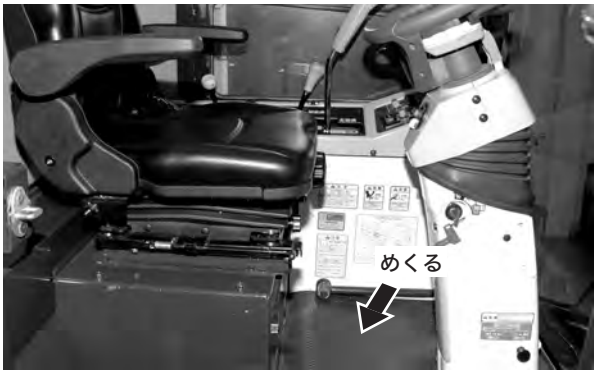
1. 中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて、上下左右に動かしながら洗浄してください。
2. 清水でよくすすいだ後、完全に自然乾燥させてください。

[重要]

- 洗浄に有機溶剤（ガソリン・シンナーなど）を使用しないでください。
- エレメントを交換するときは、純正部品をご使用ください。

17.作動油タンクオイルの点検・補給・交換のしかた

HSTは、油圧機器の中でも特に精密で、作動油の管理が性能・寿命に大きく影響します。
作動油タンクオイルの点検・補給・交換は、ステップカバーをオープンしてから行ってください。
作業終了後は、元通りにセットしてください。



〈指定オイル〉

指定オイル	交換時期	規定量
耐摩耗性油圧作動油 VG56相当品	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと	※全量35ℓ

※作動油タンクの容量は26ℓ

[参考]

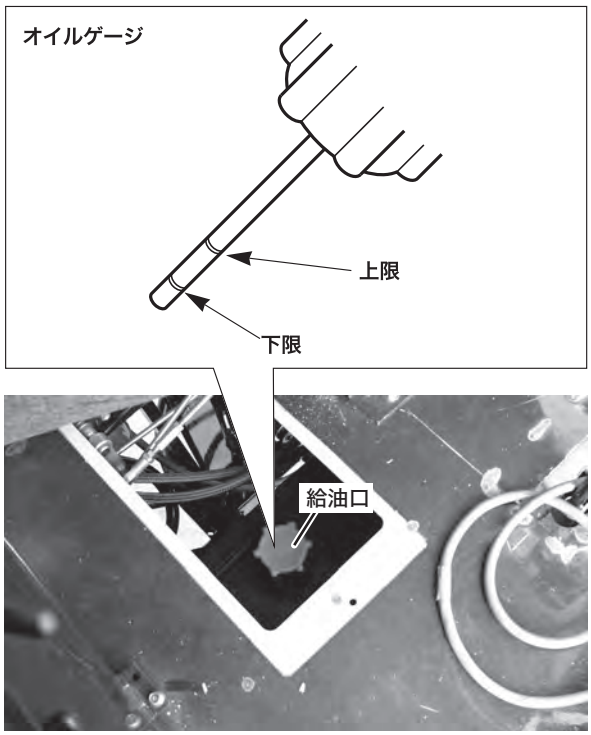
- 作動油タンクオイルの交換と同時に、HSTフィルタの交換も行ってください。
（→167ページ参照）

〈点検のしかた〉

1. オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ってください。
2. オイルゲージを元通りに差し込んだ後、もう一度抜き出して、ゲージの上限と下限の間にオイルがあることを点検してください。
3. 点検後は、オイルゲージを元通りに取り付けてください。

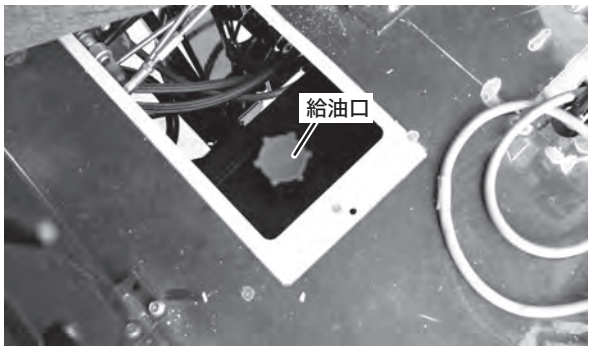
[参考]

- 点検時、オイルもれのないことも確認してください。



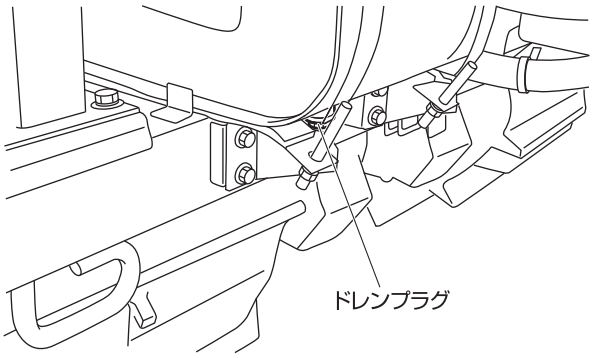
〈補給のしかた〉

オイルが不足している場合は、給油口から規定量になるまで補給してください。



〈交換のしかた〉

1. ドレンプラグの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。



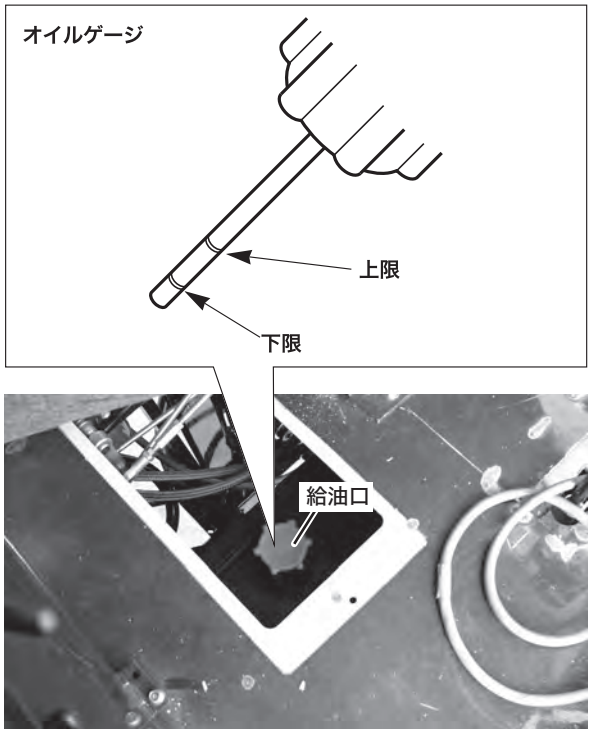
2. 作動油タンクのオイルゲージを外してから、ドレンプラグを取り外してください。古いオイルが流れでてきます。

[参考]

●給油口のオイルゲージを外すと、オイルが抜けやすくなります。

3. 古いオイルが抜け切ったら、ドレンプラグを元通りに取り付けてください。
4. 給油口から、指定オイルを規定量まで給油してください。
5. 給油口にオイルゲージを取り付けてください。
6. エンジンを始動して、ローアイドリング（低速回転）で3分程度回してください。
7. エンジンを停止して、5分間待ってください。

8. オイルゲージでオイル量を点検してください。不足している場合は、補給してください。



[重要]

- 異質のオイルを混入しないでください。作動不良の原因になります。
- オイル交換で出た廃油は、絶対に河川や下水道などに流さないでください。河川や下水道に捨てたり放置しておくと、環境汚染につながります。処分は、販売店または、産業廃棄物業者に依頼してください。

18.HST フィルタの交換のしかた

HST フィルタは、作動油中に含まれる小さな異物をコシ取ります。HSTフィルタは、カートリッジタイプになっていますので、掃除ができません。定期的に交換してください。

交換時期	1回目:300時間後 2回目以降:600時間ごと

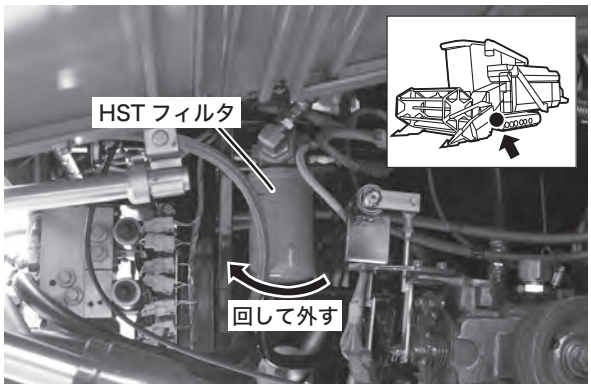
[参考]

- HSTフィルタの交換と同時に、作動油タンクオイルの交換も行ってください。
  (→165ページ参照)

〈交換のしかた〉

HST フィルタの交換は、作動油タンクのオイルを抜き取った後に行ってください。
(→165ページ参照)

1. カートリッジを矢印方向に回して外してください。
2. 新しいHST フィルタの底面にあるゴムリングに、オイルを塗布してください。
3. HST フィルタを、ゴムリングが取付部に接触する位置までねじ込んだ後、2/3回転締め付けてください。



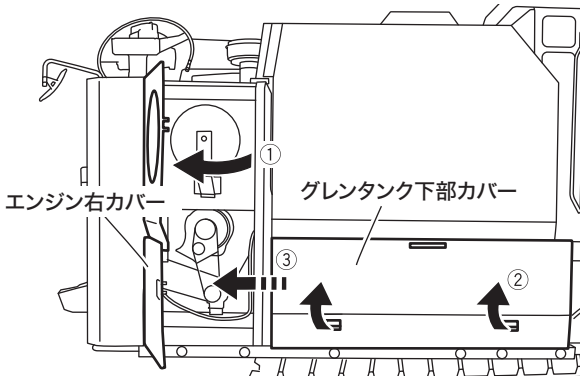
[重要]

- 締めすぎに注意してください。締めすぎると、ゴムリングを破損させオイルもれを起こす場合があります。
- 交換後は、HSTフィルタ取付面からのオイルもれやにじみがないか、必ず点検してください。
- HSTフィルタは、純正部品をご使用ください。

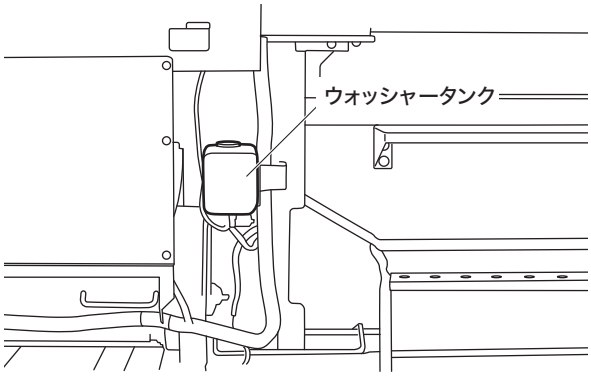
19.ウォッシャー液の補充のしかた

ウォッシャー液が無くなったときは、下記の要領で補充してください。補充後は、元通りにセットしてください。

1. エンジン右カバーをオープンしてください。
2. グレンタンク下部カバーをオープンし、左へスライドさせてカバーを取り外してください。



〈補充のしかた〉
ウォッシャータンクにウォッシャー液を入れてください。



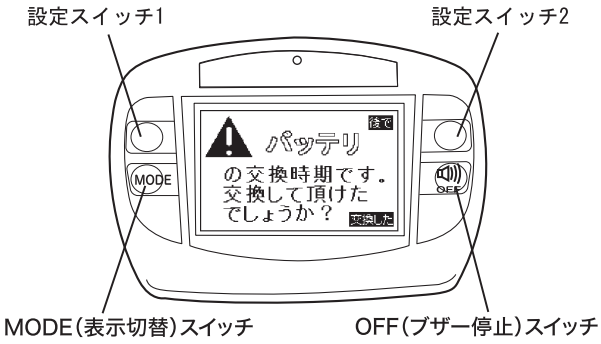
3. 作業終了後、グレンタンク下部カバーを元通りに取り付けて、エンジン右カバーを閉じてください。

20.バッテリの点検・整備のしかた

⚠危険

- バッテリの点検時には、保護メガネとゴム手袋を着用してください。
- バッテリの液槽キャップを外すときは、火気厳禁です。液槽キャップを開けると、液槽口から爆発性のあるガスが出ますので、引火してヤケドや火災を引き起こすおそれがあります。

交換時期（バッテリ電圧が10.5V以下）になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた
交換を済ませた場合は、「OFF（ブザー停止）スイッチ」（交換した）を押してください。

●すぐに交換しない場合
設定スイッチ2（後で）を押してください。（次にキースイッチを「ON」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押すまで表示されます。）

⚠警告

- バッテリ液は、「下限（LOWER）」以下にしないでください。容器内の極板接続部がバッテリ液から露出し、エンジン始動時に火花が出て、容器内のガスに引火して破裂するおそれがあります。
- バッテリの電解液は希硫酸ですので、取り扱いには注意してください。もし、皮膚や衣服についたときは、直ちに水洗いし、石けんでよく硫酸分を洗い流してください。万一、目に入ったときは、すぐに流水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

●バッテリ端子を取り付けるときは、(+) 側を先に取り付け、取り外すときは（−）側から取り外してください。守らないと、ショートしてヤケドや火災の原因になります。
●バッテリの上面および周辺は、常に清潔にしてください。排気穴をふさぐと、破損や火災の原因になります。

[重要]

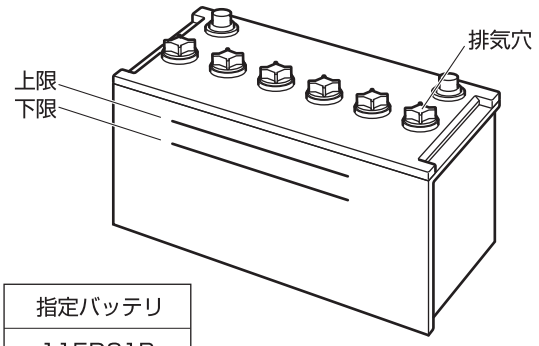
●バッテリの各槽に電解液を入れすぎると、充電時にバッテリ液が吹き出し、機械の金属部を腐蝕させます。
●急速充電はしないでください。
●バッテリを交換するときは、必ず取扱説明書の指定した型式のバッテリを使用してください。

指定バッテリ	115D31R

●地面へのたれ流しや川・沼への廃棄は絶対にしないでください。廃油・燃料・冷却水・冷媒・溶剤・フィルタ・バッテリ・その他有害物を捨てるときは、購入先または産業廃棄物処理業者に依頼してください。

バッテリ液の点検･補給のしかた

各槽のバッテリ液が、上限と下限のラインの間にあることを確認してください。不足しているときは、蒸留水を補給してください。



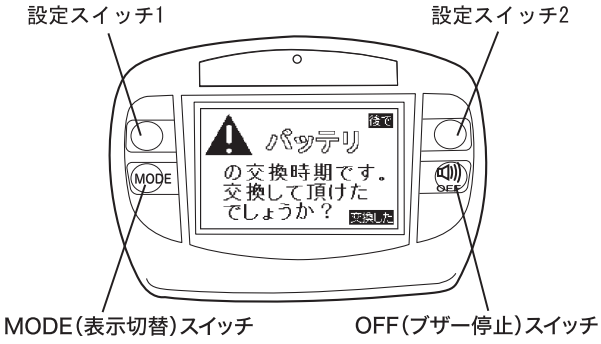
指定バッテリ
115D31R

[重要]

●バッテリ液は、常に規定量を保ってください。
●バッテリ端子がゆるんでいる場合は、確実に締め付けてください。

交換時期について

交換時期（バッテリ電圧が 10.5V 以下）になると、センターディスプレイにメンテナンス情報が表示されます。



●表示のリセットのしかた

交換を済ませた場合は、「OFF（ブザー停止）スイッチ」（交換した）を押してください。

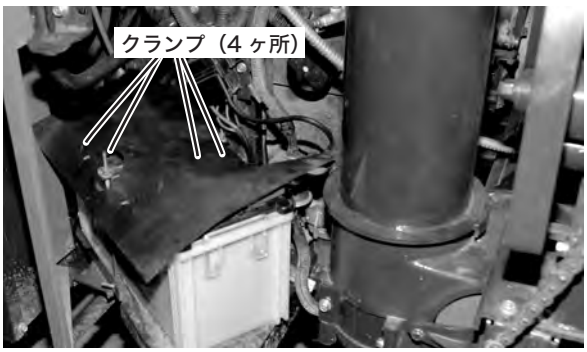
●すぐに交換しない場合

設定スイッチ2 (後で) を押してください。(次にキースイッチを「ON」位置にしたときにも、OFF（ブザー停止）スイッチ（交換した）を押すまで表示されます。)

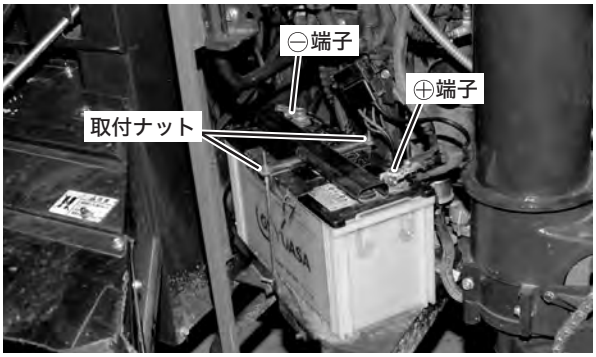
バッテリの取り外しかた

バッテリは、エンジン後方にあります。以下の要領に従って取り外してください。

1. エンジン後カバーをオープンしてください。(→122ページ参照)



2. バッテリを固定している、取付ナット（4 個）を外してください。



3. バッテリコードの㊀端子を外した後、㊉端子を外してください。
4. バッテリを抜き出してください。
5. バッテリの取り付けは、取り外しの逆の手順で行ってください。
6. 作業終了後、カバーを元通りに閉じてください。

補充電のしかた

寒冷地など気温の低い地域で使うとき、エンジンの始動がしにくくなったとき、ライトが暗くなったとき、自然放電によってセル始動ができないときは、下記の要領で補充電をしてください。

1. バッテリを取り外してください。(前項参照)
2. 液口栓を外し、バッテリの㊉を充電器の㊉に、バッテリの㊀を充電器の㊀に接続してください。
3. 3アンペア程度で8〜10時間行ってください。
4. 充電が完了したら、充電用の接続を外し、液口栓を取り付けてください。
5. バッテリを本機に、元通りに取り付けてください。

[重要]

- **急速充電はしないでください。**
- **取り付けるときは、ターミナル接触部の油分などを拭き取ってください。また、取り付け後は、ターミナル部にグリスを塗布してください。**
- **バッテリの㊉ターミナル部のゴムブーツは、必ず取り付けてください。**
- **充電完了後は、液口栓を確実に締め付けて取り付けてください。**

バッテリの自然放電について

エンジンを長期間運転しないで放置していると、バッテリは自然放電します。使用しないときでも、ときどきエンジンがかかることを点検し、必要に応じて充電してください。

21.パイプ類の点検のしかた

⚠警告

- 燃料噴射管や油圧パイプなどから高圧油のもれは厚紙や板などを使って点検してください。守らないと、油が皮膚に浸入した場合、強度のアレルギーを起こすおそれがあります。
- 作業前・作業後に、燃料パイプの老化や傷による燃料もれがないか点検し、燃料もれのある燃料パイプは交換してください。燃料もれがあると火災の原因になります。

燃料パイプやラジエータホースなどの傷みによる燃料もれ、水もれがないか点検してください。また、締付バンドがゆるんでいないか点検してください。
燃料パイプやラジエータホースは、傷みがなくても2年ごとに交換してください。
燃料パイプを交換したときは、空気（エア）抜きをしてください。（→161ページ参照）

⚠注意

燃料パイプを交換するときは、ホースやサプライポンプに異物が入らないように注意してください。

【守らないと】
サプライポンプが故障するおそれがあります。

[重要]

- 廃油チューブも必ず点検してください。廃油チューブが破損していると、エンジン焼付きの原因になります。

22.電気配線の点検のしかた

⚠警告

- バッテリや配線に付着しているワラクズやゴミは、作業前・作業後にきれいに取り除いてください。ワラクズやゴミが付着していますと、火災の原因になります。

電気配線コードが他の部品のエッジ部に接触して、被覆のはがれや傷、接続部のゆるみがないか点検してください。配線コードが傷んでいる場合は、販売店で修理してください。配線コードは、傷みがなくても50時間使用または、1年ごとに定期点検を受けてください。

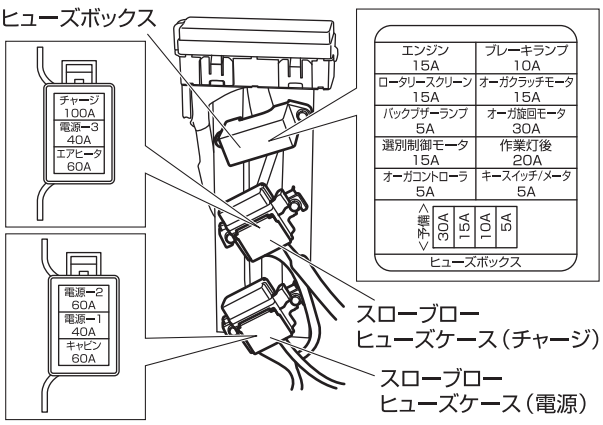
23.ヒューズの点検・交換のしかた

スローブローヒューズおよびヒューズボックス内のヒューズが切れていれば、規定のものと交換してください。交換しても切れる場合は、購入先で点検を受けてください。

⚠警告

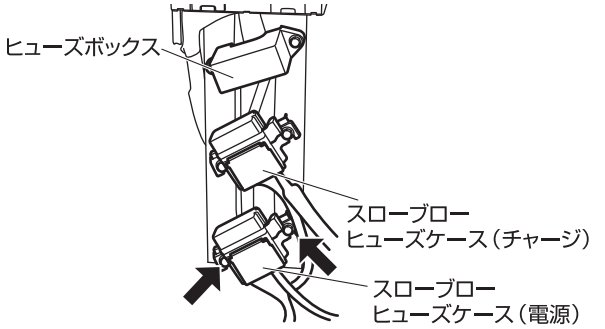
- 規定外のヒューズとは絶対に交換しないでください。火災の原因になります。

バッテリ上方
エンジン後カバーをオープンしてください。
（→122ページ参照）
点検終了後、カバーを元通りに閉じてください。

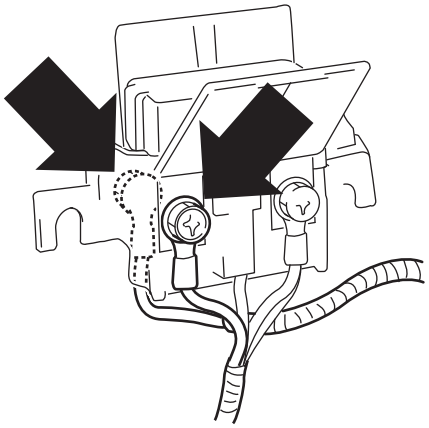


スローブローヒューズ 60A・100A の交換のしかた

1. バッテリコードの㊀端子を外してください。
2. スローブローヒューズケースを固定しているボルト２本を外してください。



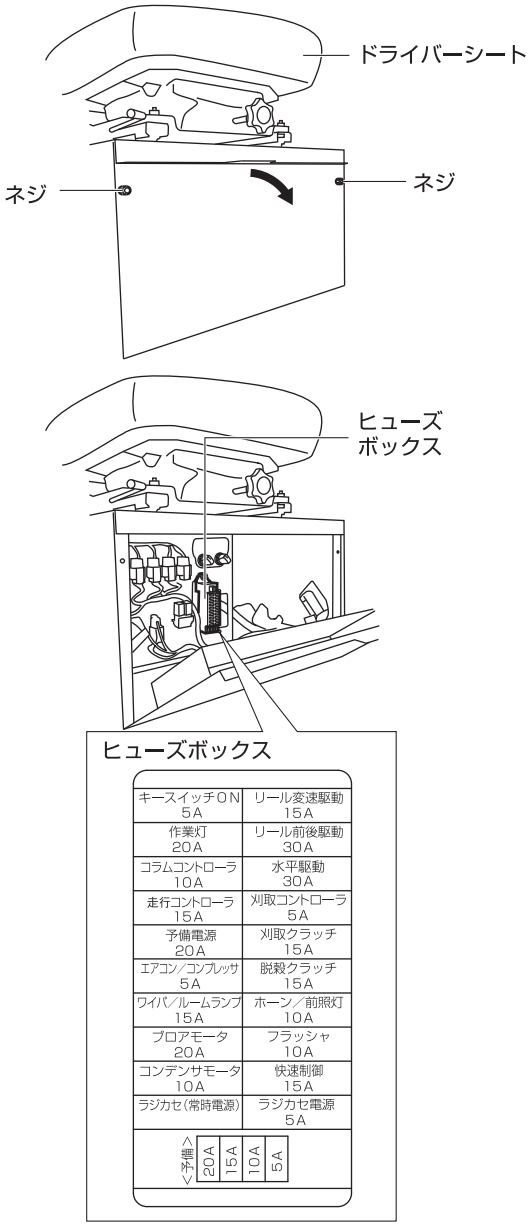
3. ヒューズケース両側面のカバーを開き、スローブローヒューズを固定しているボルト（2本）を外してください。



4. ヒューズケース上面のカバーを外し、スローブローヒューズを交換し、元通りに取り付けてください。

シート下のカバー内

ノブネジ（2本）を外し、カバーを取り外してください。



24.刈刃の調節のしかた

⚠警告

●刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

⚠注意

●刈刃の手入れや交換をするときは、厚手の手袋を着用し、刃先を触らないでください。ケガをするおそれがあります。

刈跡が揃わなくなったときは、刈刃のすき間を調節してください。

調節時期	100時間または1シーズンごと

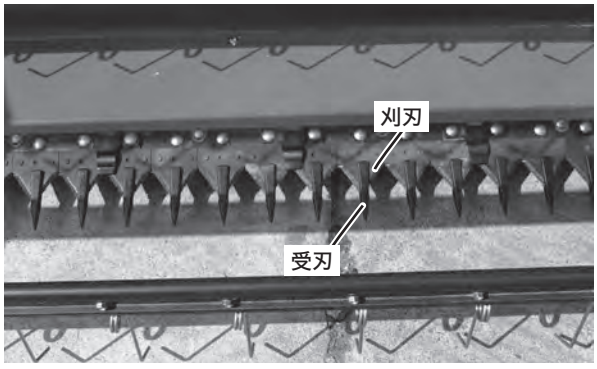
〈調節のしかた〉

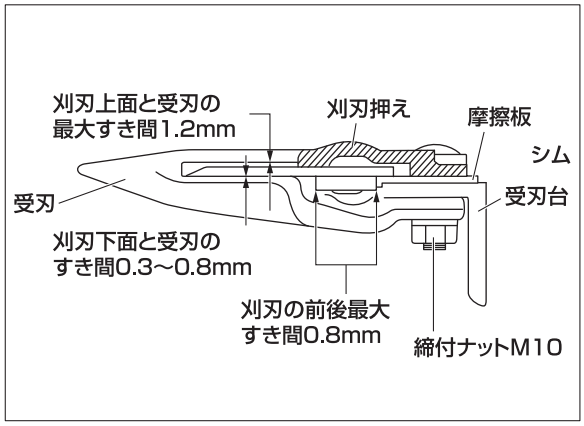
1. リールを最上げにしてください。
2. 受刃と刈刃上下面のすき間は、受刃先端を銅ハンマーで軽くたたいて調節するか、締付ナットM10をゆるめて、シムで調節してください。

[参考]

●シムの位置については、右上の図を参考にしてください。
●受刃と刈刃上面……最大すき間1.2mm
●受刃と刈刃下面……すき間0.3mm～0.8mm

3. 刈刃の前後すき間は、締付ナットM10をゆるめて、摩擦板を前後に動かして、最大0.8mmに調節してください。
4. 締付ナットM10を締め付けて固定してください。





[重要]

●締付ナットは、締め付けすぎないように注意してください。
●刈刃には食品衛生上、食品機械用潤滑スプレーを使用して、たっぷり注油してください。
シーズン終了後には、刈刃に付着した泥やワラクズを取り除き、注油してください。

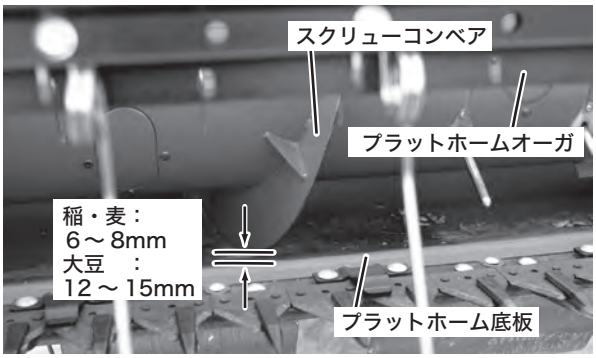
25.プラットホーム底板とスクリューコンベアのすき間調節のしかた

⚠警告

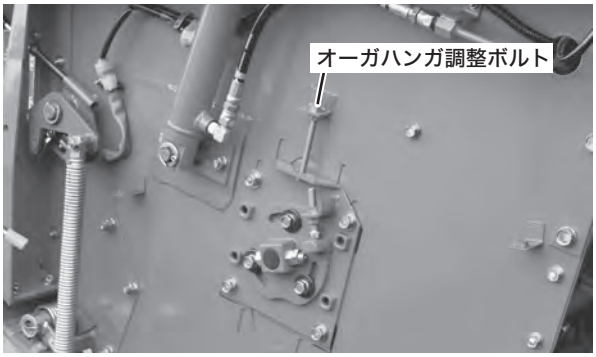
●プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

〈調節のしかた〉

1. リールを最上げにしてください。
2. プラットホーム底板とスクリューコンベアとのすき間が、稲・麦の場合は6～8mm、大豆の場合は12～15mmになるように、オーガハンガ調節ボルトで調節してください。



プラットホーム左側



プラットホーム右側



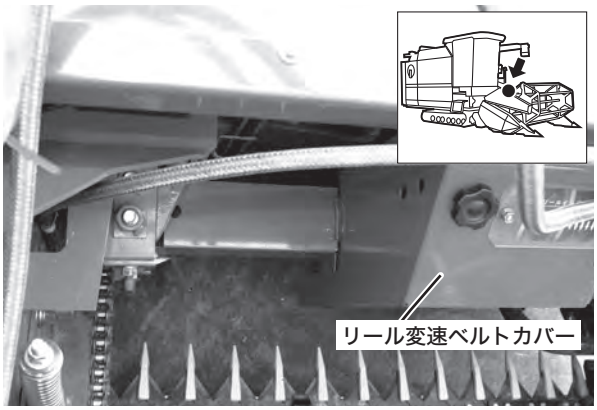
26.リール変速ベルトの交換のしかた

⚠警告

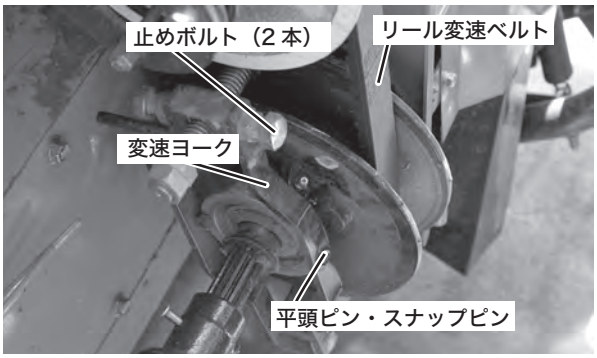
●刈取部を上げて作業するときは、刈取部ストッパで刈取部を固定してください。固定しないと、刈取部が急に下がり、ケガをするおそれがあります。

〈調節のしかた〉

1. リール変速ベルトカバーを取り外してください。



2. 軸継手のスナップピン・平頭ピンを外し、軸継手をプラットホーム側へ寄せて、軸継手を外してください。
3. 止めボルト（2本）と平頭ピン・スナップピンを外して、変速ヨークを外してください。
4. リール変速ベルトを交換してください。



5. 作業終了後、カバーは元通りに取り付けてください。

27.プラットホーム底板とオーガフィンガのすき間調節のしかた

⚠警告

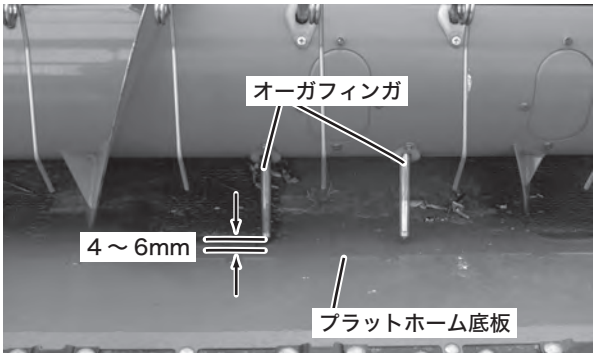
●プラットホームオーガを手で回転させるときは、刈刃やリールが動くので、十分注意してください。

〈点検のしかた〉

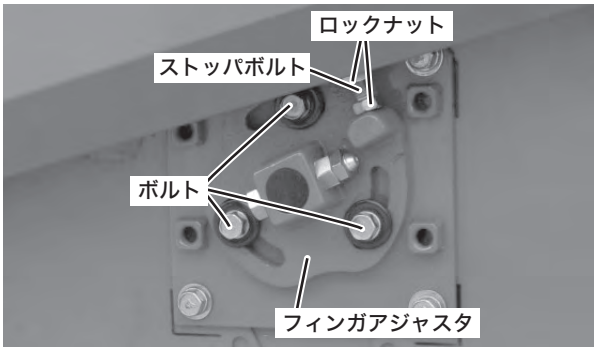
1. リールを最上げにしてください。
2. プラットホームオーガを手で回転させ、中央部のオーガフィンガが、プラットホーム底板に最も近い位置で、底板からフィンガ先端までの寸法を測定し、4～6mmになっていることを確認してください。

〈調節のしかた〉

1. 基準範囲内（4～6mm）にないときは、ボルト（3本）と左のフィンガアジャスタのロックナットをゆるめてください。
2. フィンガアジャスタを回転させて調節してください。
3. ストッパボルトで固定してください。



左側



28.フィーダチェンの張り調節のしかた

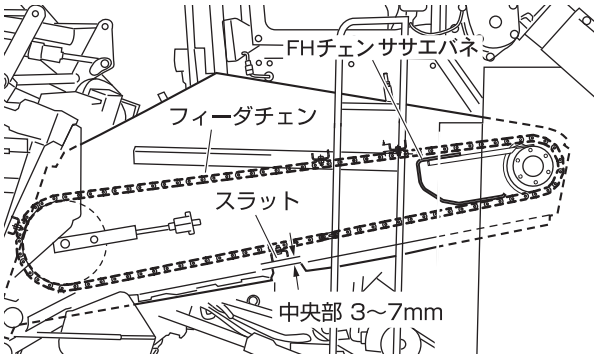
〈点検のしかた〉

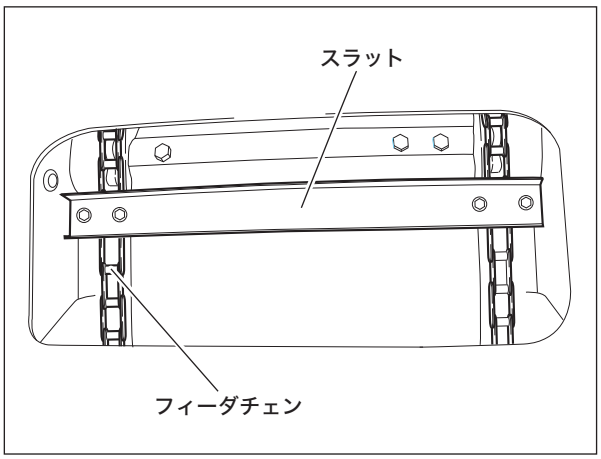
1. フィーダハウス下カバーを外してください。



2. フィーダチェンを手で回し、スラットをフィーダハウスドラム下部の位置にしたとき、スラットとフィーダハウス底板のすき間寸法を確認してください。

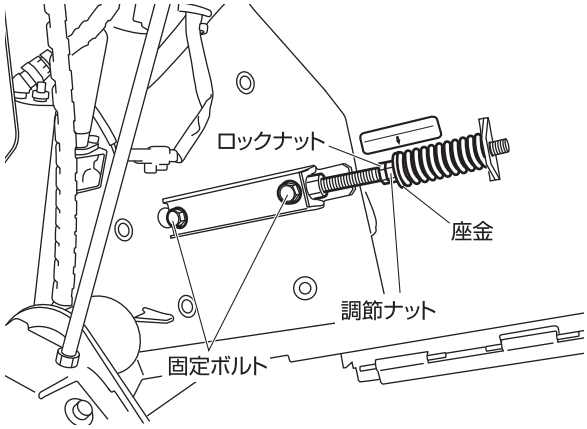
●中央部……すき間3〜7mm





〈中央部の調節のしかた〉

調節は、左右同時に行ってください。フィーダハウスドラムテンション固定ボルトをゆるめて、調節ナットで調節してください。



3. FHチェンササエバネの板厚が1mm以上であるか確認してください。
4. 基準範囲内（1mm以上）にないときはFHチェンササエバネの左右を入れ替えてください。
5. 調節終了後、カバーを元通りに取り付けてください。

29.プラットホームオーガリミットクラッチの点検・調節のしかた

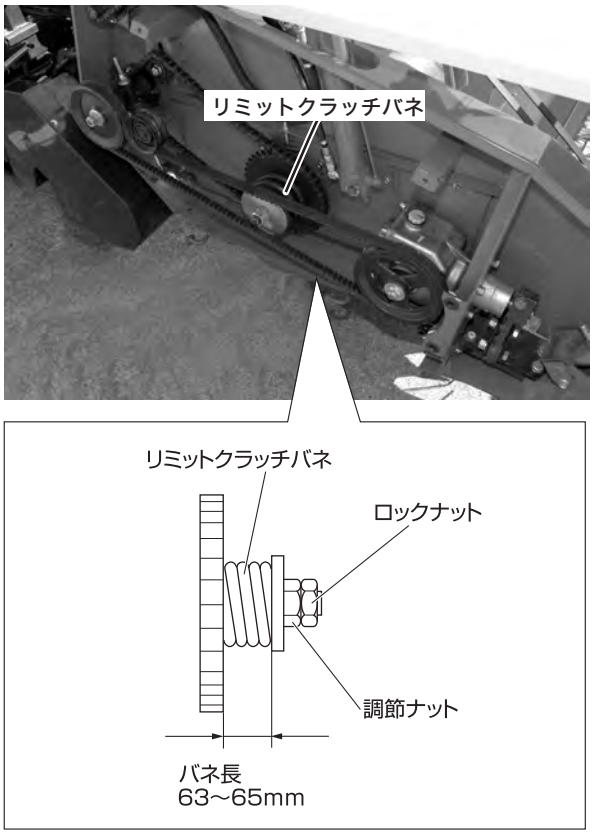
刈取サイドカバー右を取り外して（→118 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

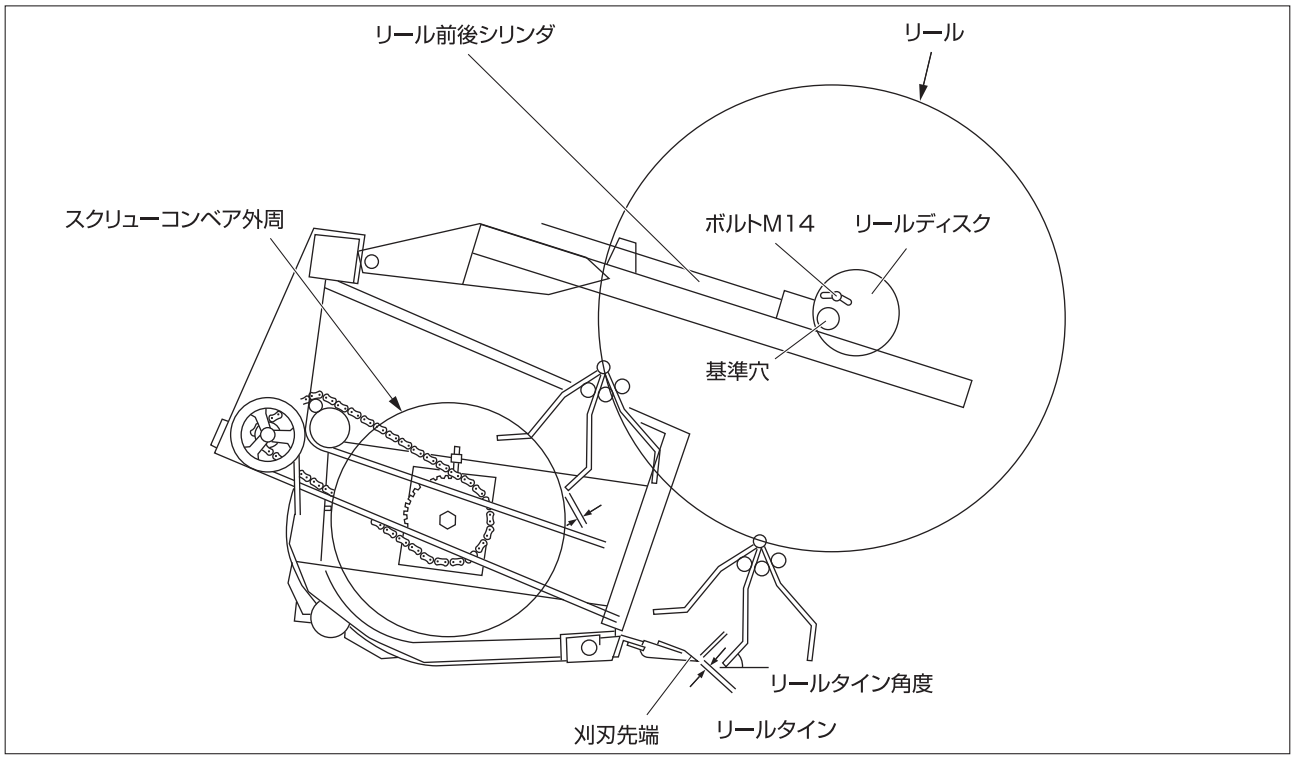
リミットクラッチバネのバネ長が63～65mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



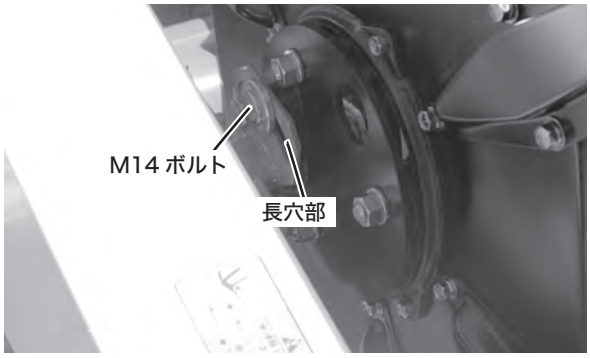
30.リール調節のしかた



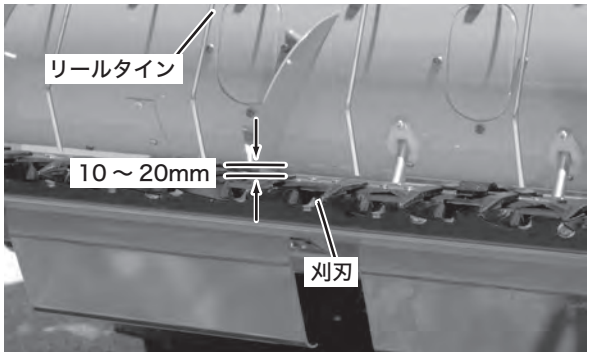
刈刃上面のリールタイン先端のすき間調節のしかた

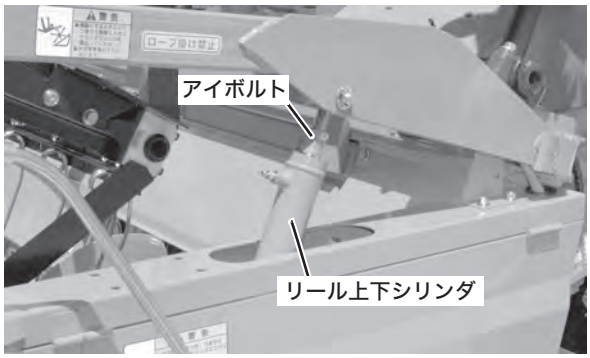
〈調節のしかた〉

1. ボルトM14をゆるめてください。
2. ボルトM14の中心とリールブラケットRの長穴部の中心が合うように、リールディスクを動かしてください。
3. ボルトM14を締め付けてください。

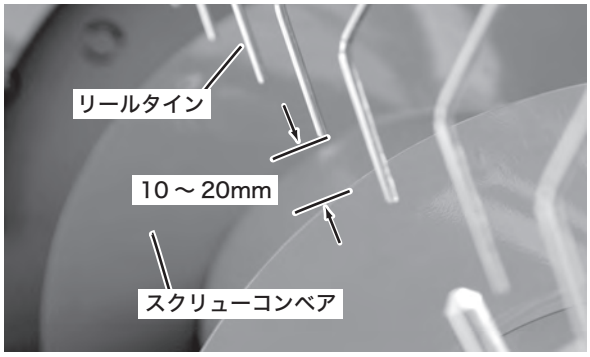


4. エンジンを始動してください。
5. リール前後・リール速度スイッチを「後」側にしてリールを後方へ移動し、リール高さ調節スイッチを「下降」側にして、リールをいっぱいまで下げてください。
6. エンジンを停止してください。
7. 刈刃上面とリールタイン先端のすき間が、刈刃先端で10～20mmになるように、リール上下シリンダのアイボルトで調節してください。





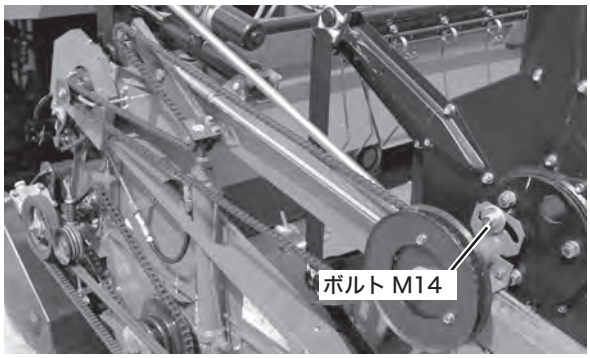
8. リールを回転させて、プラットホームオーガのスクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、10 ～ 20mm でスクリューコンベアの外周と接触しないことを確認してください。

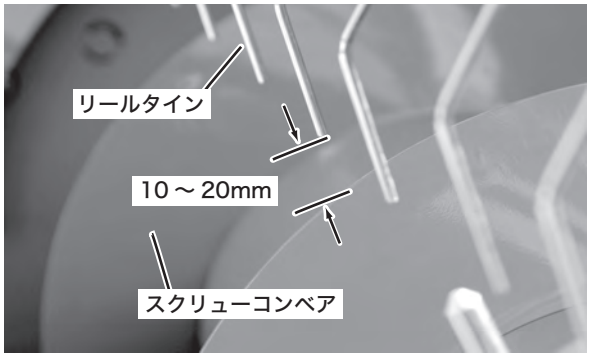


スクリューコンベアの外周とリールタイン先端のすき間が、適正でない場合の調節のしかた

〈調節のしかた〉

1. ボルトM14をゆるめ、すき間が10～20mmで、スクリューコンベアの外周と接触しないように調節してください。
2. ボルトM14を締め付けてください。





3. 再度、刈刃上面とリールタイン先端のすき間を確認してください。
   このとき、リールタインとオーガフィンガが接触し、音がでる場合は、リールタインが当たらないように、リールタインを左右方向に動かしてください。

倒伏した作物で引き起こし性能が不足する場合

〈調節のしかた〉

1. リールディスクの位置を前に動かし、タイン角度を小さくしてください。（→178ページ参照）
2. 小さくしすぎると、プラットホームオーガと当たる場合がありますが、このときはリールを少し前へ出してください。

立毛した作物で、リールの回転によりリールが稈を持ち回る場合

〈調節のしかた〉

リールディスクを後に動かし、タイン角度を大きくしてください。（→178ページ参照）

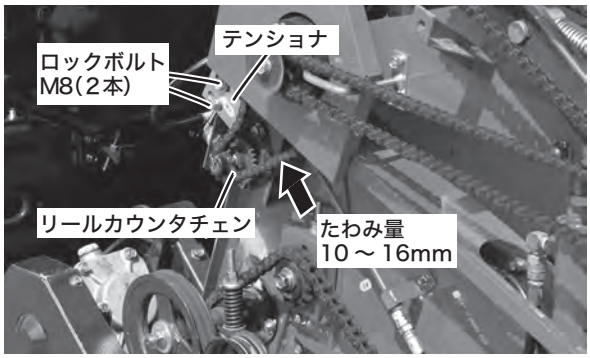
31.各部チェンの点検・調節のしかた

リールカウンタチェン

リールチェンカバーと刈取サイドカバー右を取り外して（→118ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
チェンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、10～16mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックボルトM8（2本）をゆるめてください。
2. テンショナを移動させてチェンを張ってください。
3. ロックボルトを締め付けて固定してください。

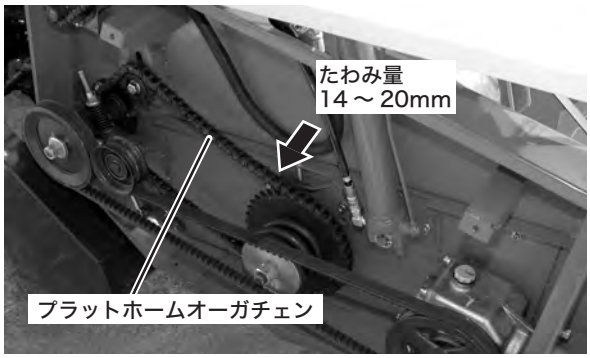


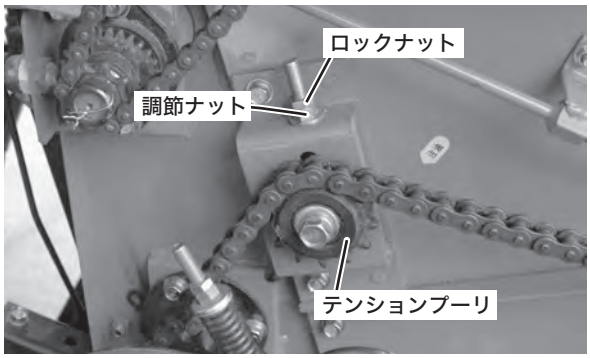
プラットホームオーガチェン

刈取サイドカバー右を取り外して（→118ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
プラットホームオーガチェンの中央を指で押したとき、たわみ量が14～20mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、テンションプーリを調節してチェンを張ってください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





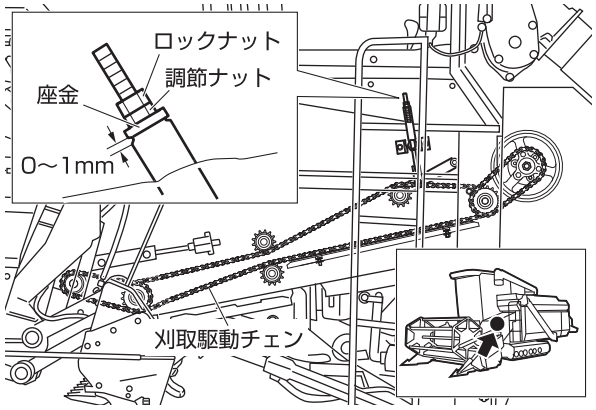
刈取駆動チェン

〈点検のしかた〉

座金とカラーのすき間が、0～1mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、座金とカラーのすき間を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



バケットチェン

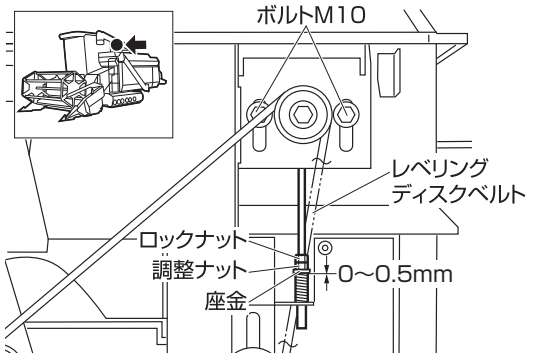
ベルトカバーを外して、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉

座金とカラーの間（A寸法）が、0～0.5mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

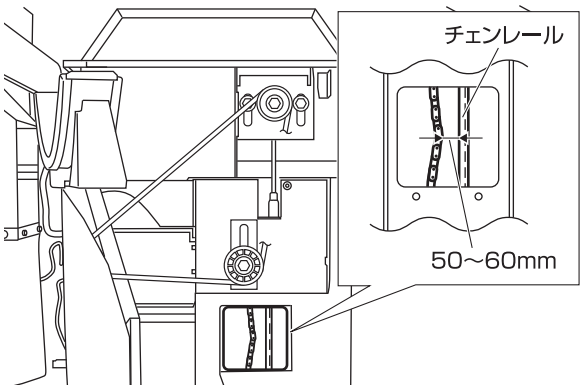
1. レベリングディスクベルトを取り外してください。
2. バケット左右のボルトM10× 20 (2本) をゆるめてください。



3. ロックナットをゆるめてください。
4. 調節ナットを左右交互に回して、チェンを引っ張ってください。
5. 座金とカラーのすき間を調節してください。
6. ロックナットを締め付けて固定してください。
7. バケット左右のボルトM10× 20（2本）を締め付けて固定してください。

[参考]

- 調節後には、バケットチェンのたわみ量を昇降機内部の点検口から確認してください。
  チェンを指で、50 ～ 60mm であるか確認してください。



グレン駆動チェン

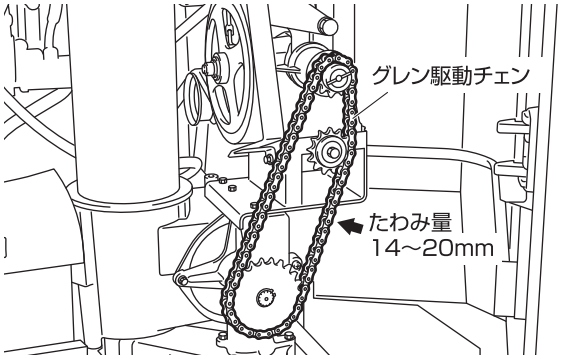
下記の点検・調節をしてください。

〈点検のしかた〉

チェンの中央を軽く指で押さえたときのたわみ量が、14～20mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックボルトM8（1本）をゆるめてください。
2. テンショナを移動させてチェンを張ってください。
3. ロックボルトを締め付けて固定してください。



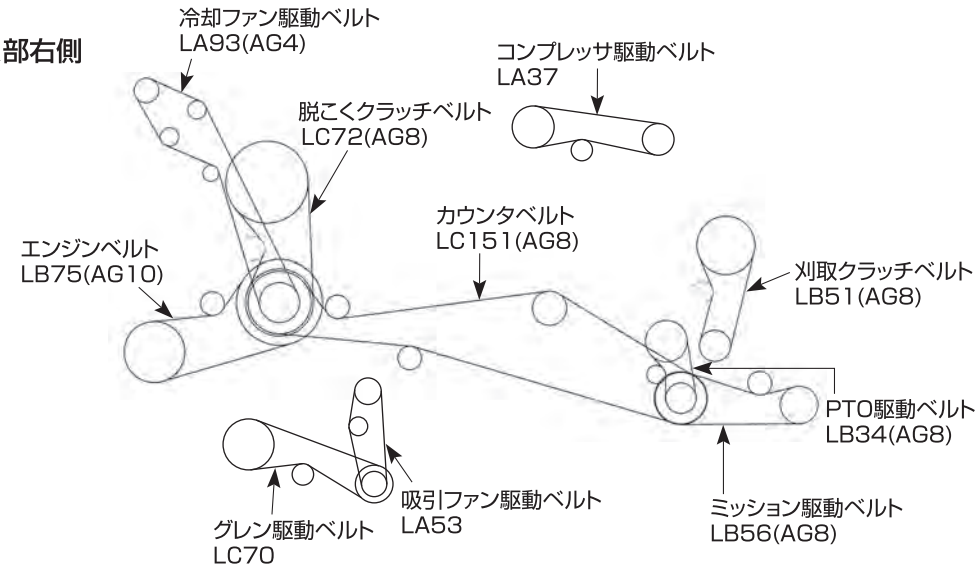
32.各部ベルトの点検・調節のしかた

ベルトにキズがあるときや切れたときは、主要消耗部品（→216ページ参照）に紹介されているベルトと交換してください。

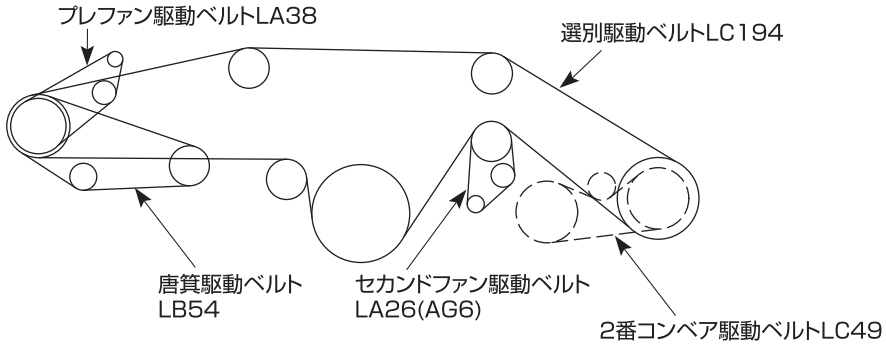
[参考]

●ベルトの位置を探すときの参考にしてください。

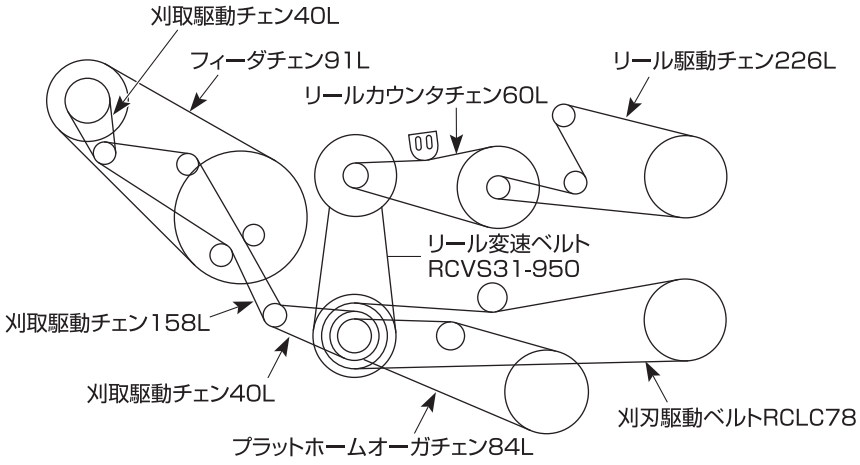
脱こく部右側



脱こく部左側



刈取部

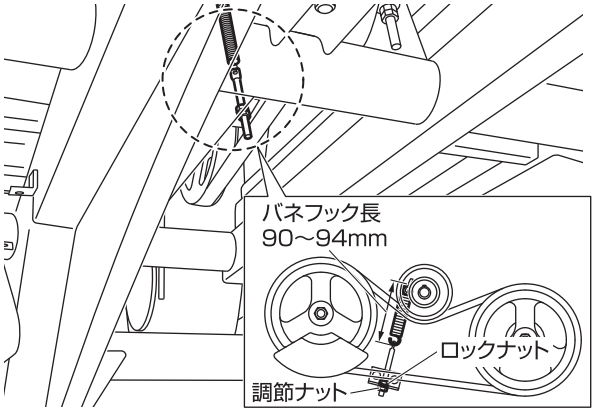


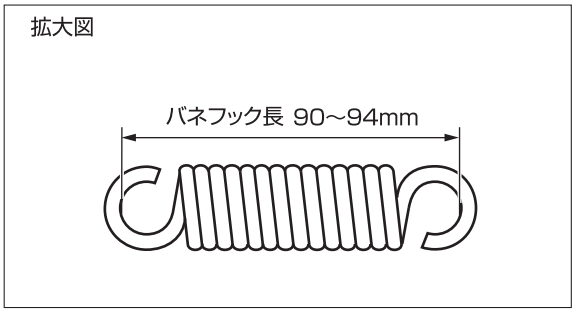
2番駆動ベルト

下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、90〜94mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



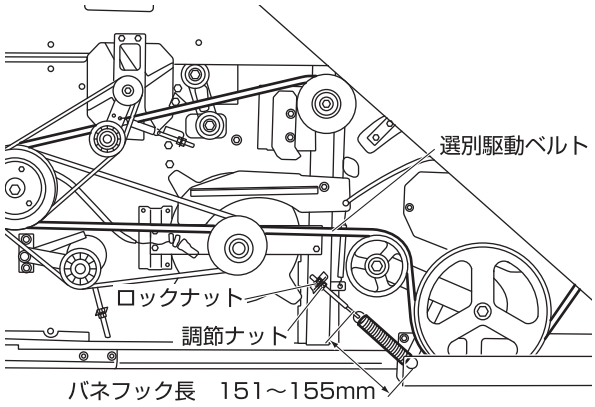


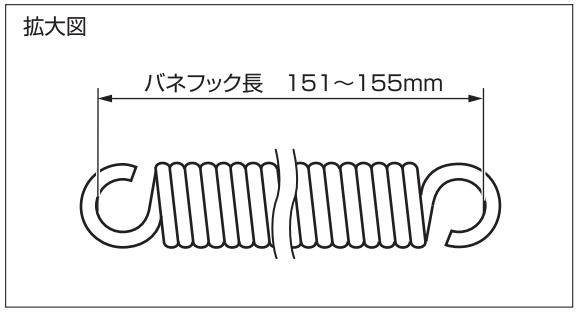
選別駆動ベルト

脱こく左前カバーを取り外して（→ 122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、151〜155mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



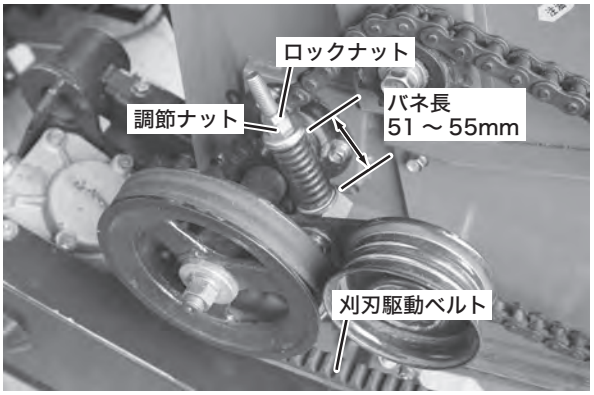


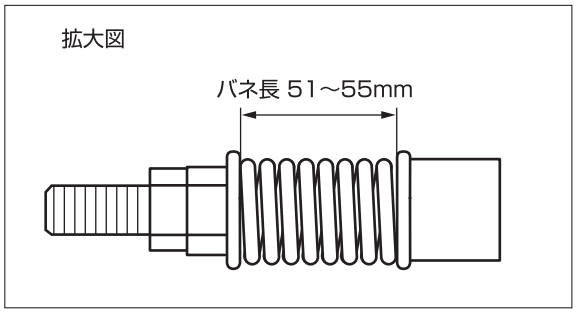
刈刃駆動ベルト

刈取サイドカバー右を取り外して（→118 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネ長が、51～55mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



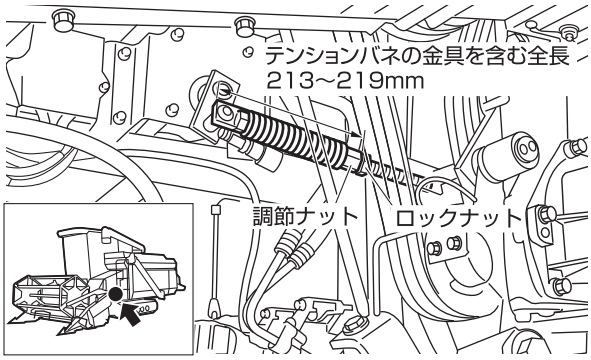


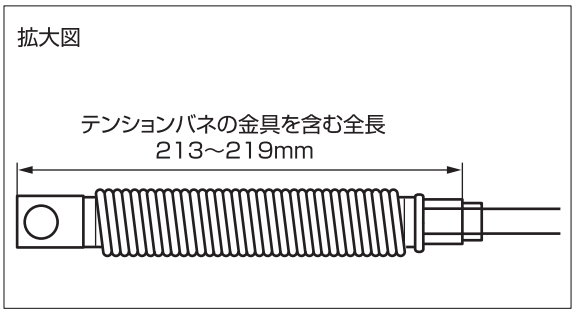
刈取駆動ベルト

刈取部を上げて刈取部ストッパで固定し、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
1. キースイッチを「ON」位置にしてください。
2. 作業クラッチレバーを「刈取・入」位置にしてください。
3. テンションバネの金具を含む全長が、213～219 mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





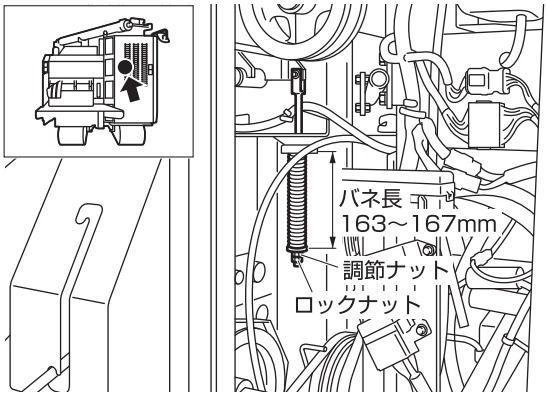
[重要]
- 点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。

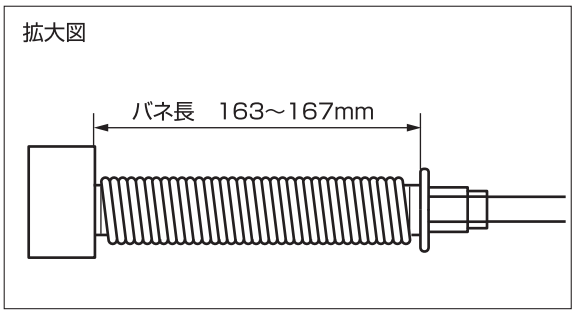
ロータ駆動ベルト

エンジン後カバーをオープンし（→122ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネ長が、下記の A 寸法であるか確認してください。
●稲・麦・大豆作業時……163～167mm

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



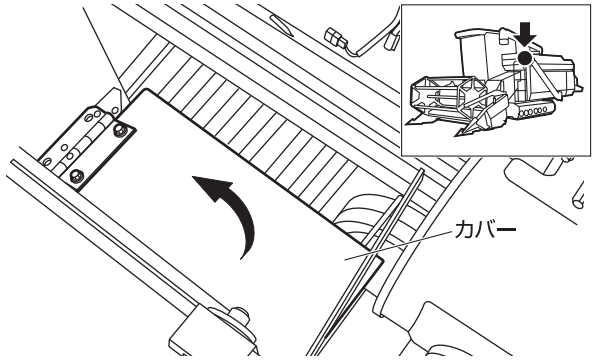


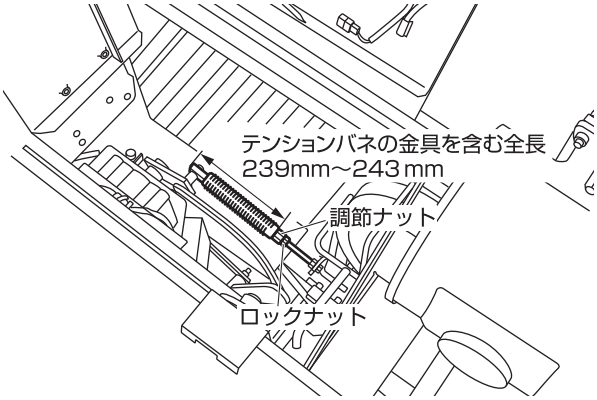
脱こく駆動ベルト

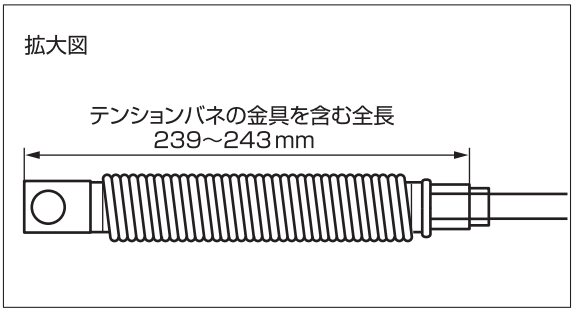
グレンタンクをオープンし、カバーを開けて、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
1. キースイッチを「ON」位置にしてください。
2. 作業クラッチレバーを「脱こく・入」位置にしてください。
3. テンションバネの金具を含む全長が、239～243 mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、テンションバネの金具を含む全長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。







[重要]
● 点検・調節後は、必ず作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。

グレン駆動ベルト

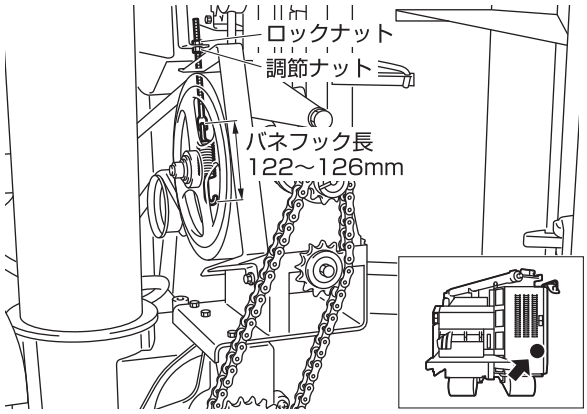
エンジン後カバーをオープンして（→ 122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに閉じてください。

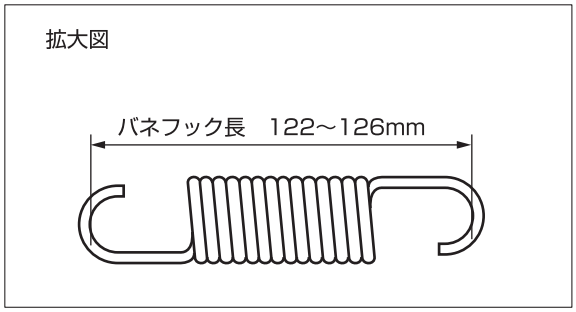
〈点検のしかた〉

1. エンジンを始動して、オーガをオーガ収納位置からキャビンを越えるまで移動させてください。(→44ページ参照)
2. 一度エンジンを停止して、再びキースイッチを「ON」位置にしてください。
3. 排出オーガクラッチスイッチを押して「入」にしてください。
4. テンションバネのバネフック長が、122～126mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナット（2か所）をゆるめてください。
2. 調節ロッドを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





[重要]

- **点検・調節後は、必ず排出オーガクラッチスイッチを「切」にして、キースイッチを「ON」位置にしてください**
- **排出オーガが、オーガレストの収納位置付近にあるときは、オーガ先端およびオーガマルチリモコンの排出オーガクラッチスイッチの「入」側を押しても、オーガクラッチは「入」になりません。**

エンジンベルト

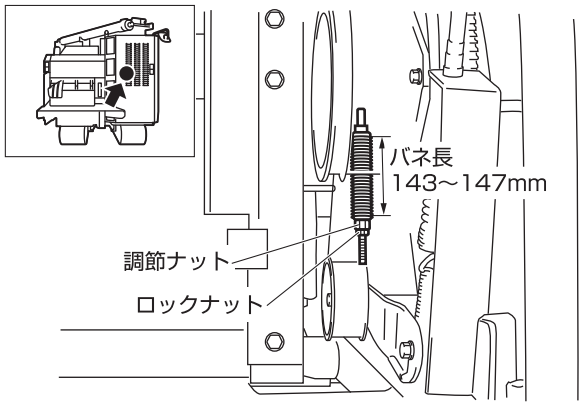
エンジン後カバーをオープンして（→ 122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りに閉じてください。

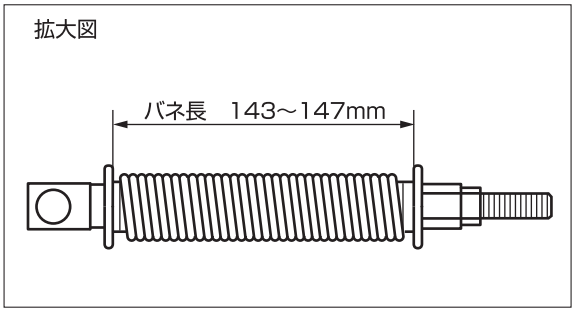
〈点検のしかた〉

テンションバネのバネ長が、143～147mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉

1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネ長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。





ジェネレータ駆動ベルト

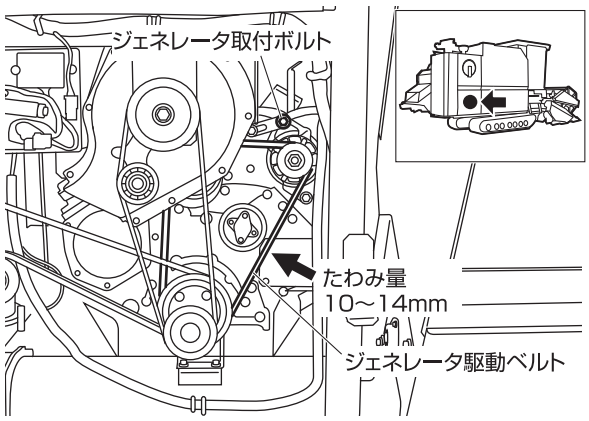
エンジン右カバーをオープンして（→118 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに閉じてください。

〈点検のしかた〉
ベルトの中央を軽く指で押さえたとき、たわみ量が10〜14mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ジェネレータ取付ボルトをゆるめてください。
2. 矢印の方向にジェネレータを引っ張って、ベルトを張り、たわみ量を調節してください。
3. ジェネレータ取付ボルトを締め付けて固定してください。

[参考]

● ジェネレータをいっぱいまで動かしても張りが不足する場合は、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後20時間・50時間目に必ず点検してください。

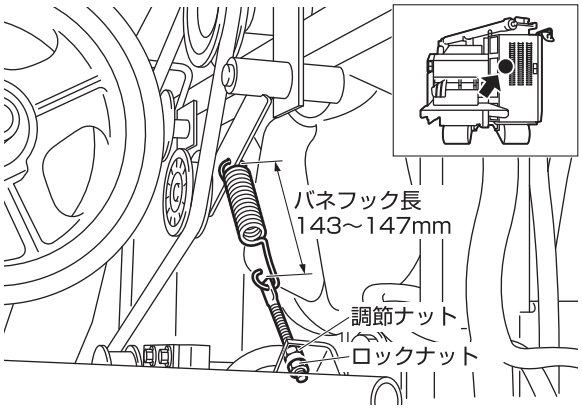


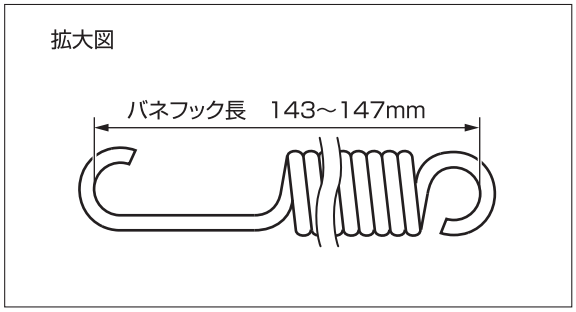
冷却ファンベルト

エンジン後カバーをオープンして（→122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに組み立ててください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、143〜147mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



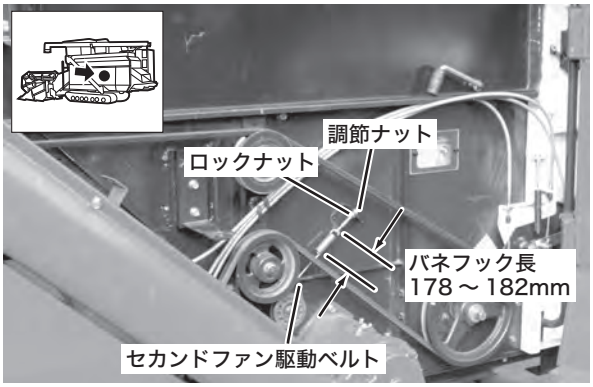


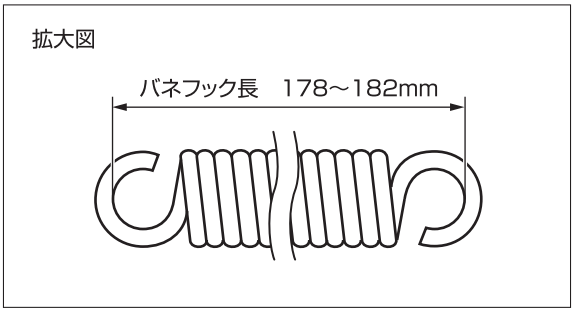
セカンドファン駆動ベルト

脱こく左後カバーをオープンして（→ 122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、178～182mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



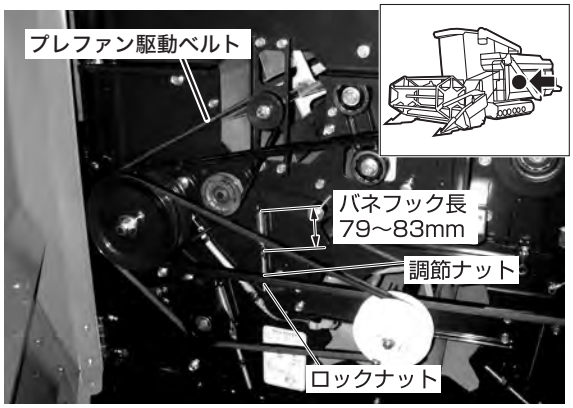


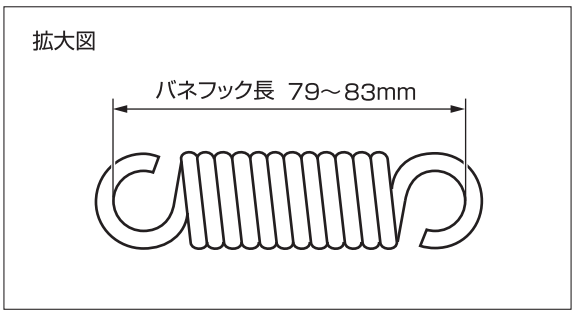
プレファン駆動ベルト

脱こく左前カバーをオープンして（→ 122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、79～83mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



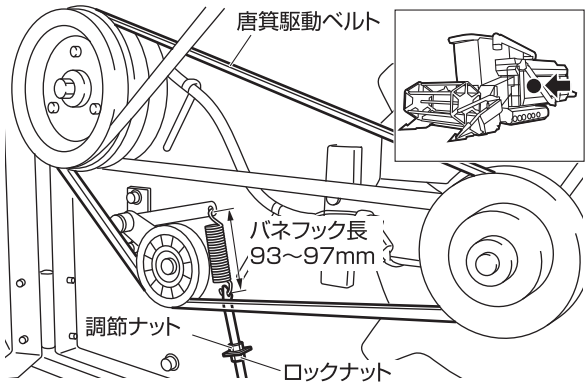


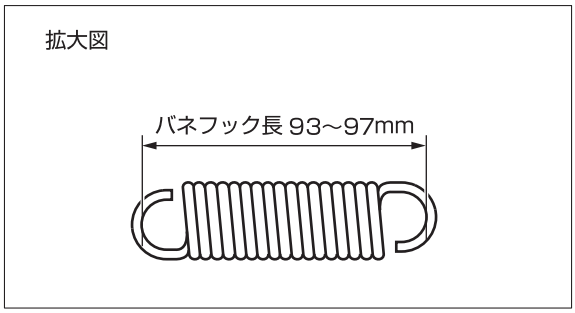
唐箕駆動ベルト

脱こく左前カバーをオープンして（→122 ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、93～97mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



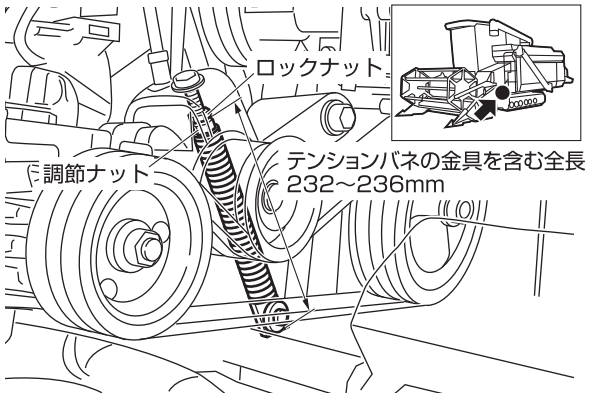


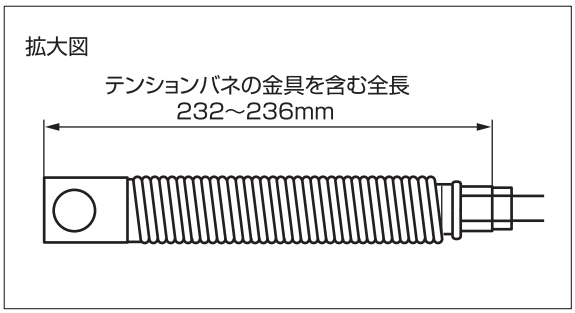
HST駆動ベルト

刈取部を最上昇位置にして、刈取部ストッパで刈取部を固定して（→132ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、元通りにセットしてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネの金具を含む全長が、232～236mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. テンションボルトを回して、テンションバネの金具を含む全長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

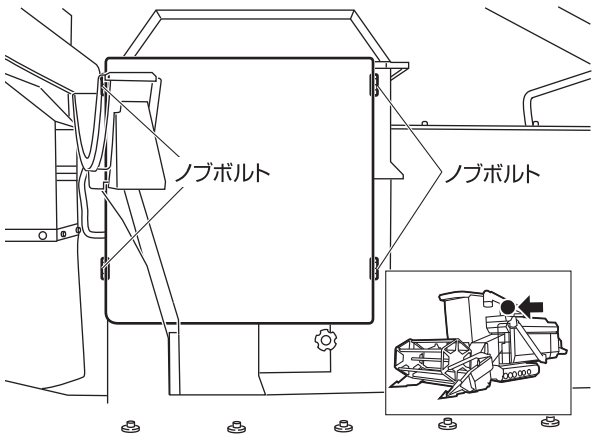




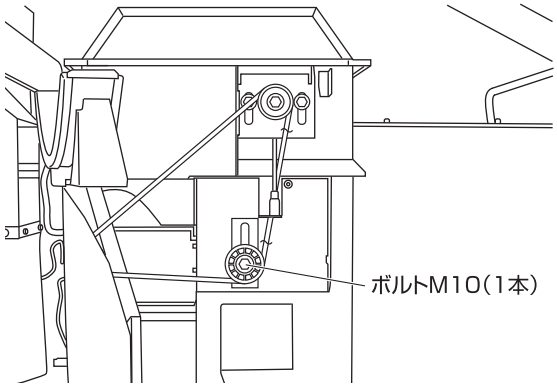
レベリングディスクベルト

コンベアカバーをオープンして、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
1. ノブボルト（4個）を外して、コンベアカバーをオープンしてください。



2. テンションプーリのボルト (M10) をゆるめてプーリを下方に押し下げてください。
3. ベルト中央部を軽く指で押さえたとき、たわみ量が 10 ～ 15mm であることを確認し、テンションプーリのボルトを締め付けて固定してください。

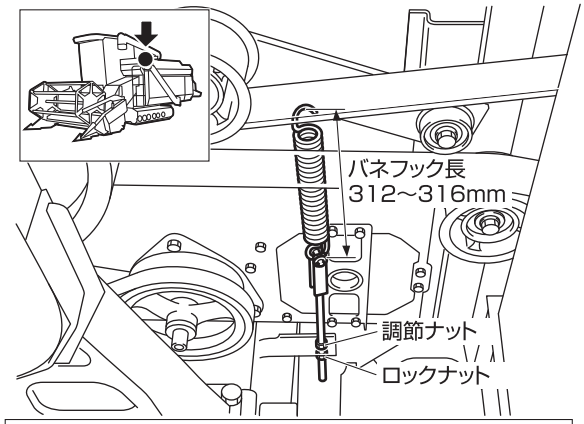


カウンタベルト

グレンタンクをオープンして（→ 120 ページ参照)、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのフック長が、312～316mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



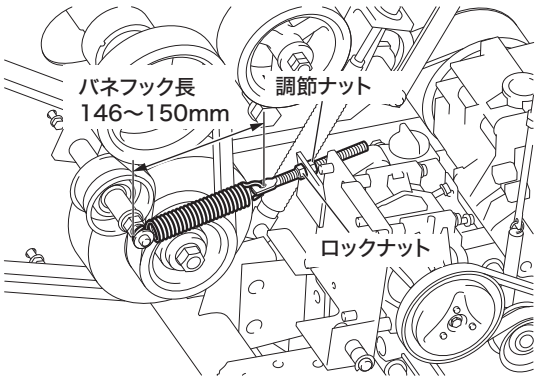


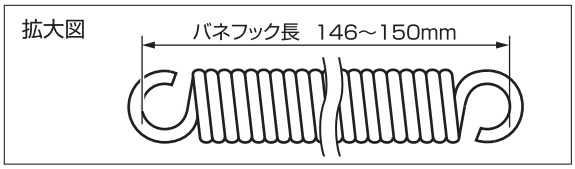
PTO駆動ベルト

グレンタンクをオープンして（→ 120 ページ参照)、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのフック長が、146～150mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



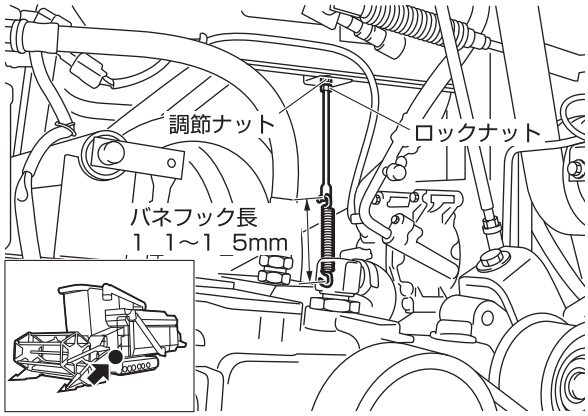


コンプレッサ駆動ベルト

刈取部を最上げ位置にして、刈取部を刈取部ストッパで固定して（→132ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りにしてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、121～125mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



拡大図

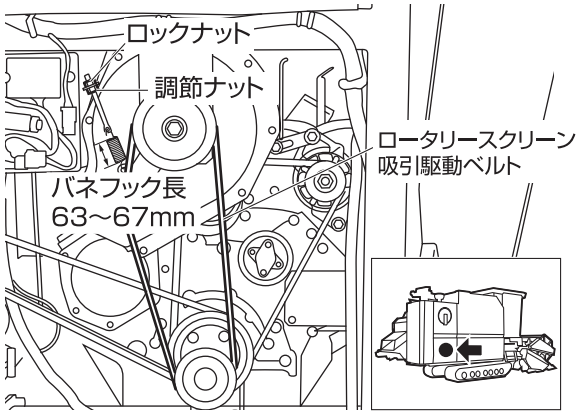


ロータリースクリーン 吸引駆動ベルト

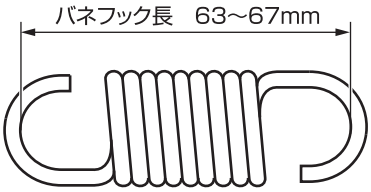
エンジン右カバーをオープンして（→118ページ参照）、下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は元通りに取り付けてください。

〈点検のしかた〉
テンションバネのバネフック長が、63～67mmであることを確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。



拡大図

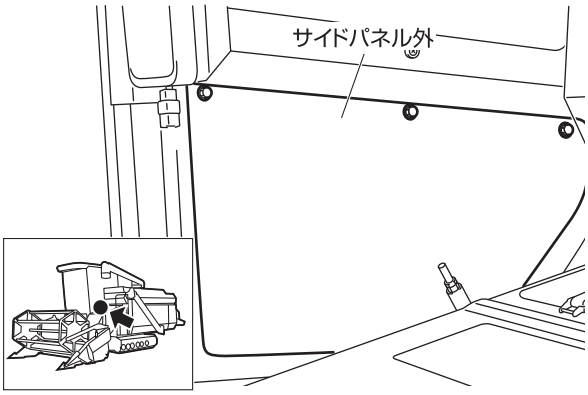


33.駐車ブレーキの点検・調節のしかた

駐車ブレーキをかけて下記の点検・調節をしてください。
点検・調節後は、駐車ブレーキを解除してください。

〈点検のしかた〉

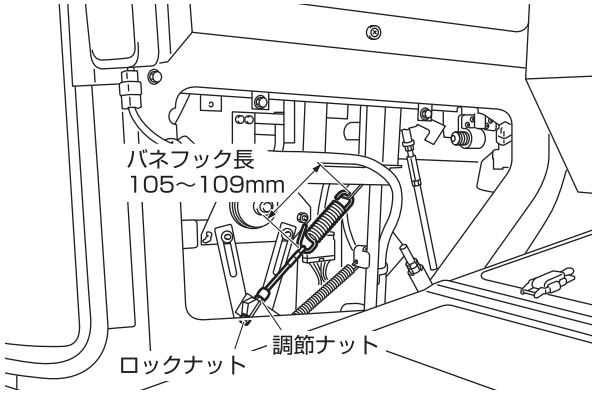
1. 刈取部を最下げ位置まで下げてください。
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. サイドパネル外を開けてください。

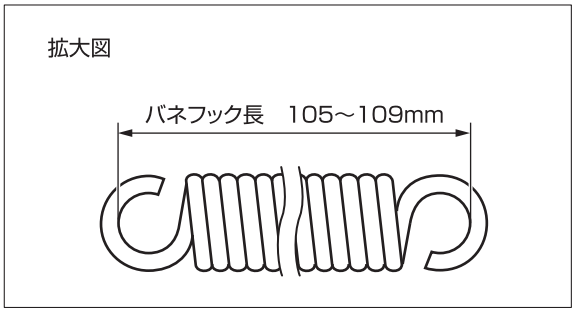


4. 駐車ブレーキバネのバネフック長が、105～109mmであるか確認してください。

〈調節のしかた〉

1. 刈取部を最下げ位置まで下げてください。
2. 駐車ブレーキをかけてください。
3. サイドパネル外を開けてください。
4. ロックナットをゆるめてください。
5. 調節ナットを回して、バネフック長を調節してください。
6. ロックナットを締め付けて固定してください。





34.クローラの点検・調節のしかた

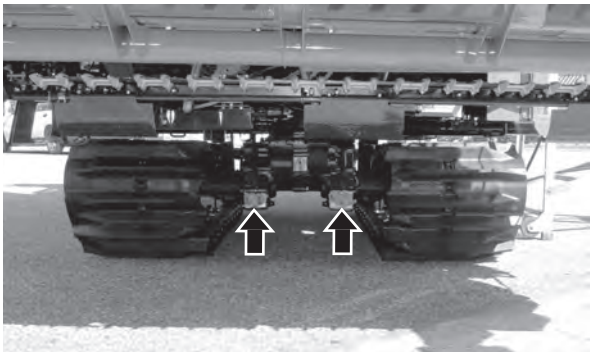
ジャッキをかける位置

以下の4ヶ所にジャッキをかけてください。

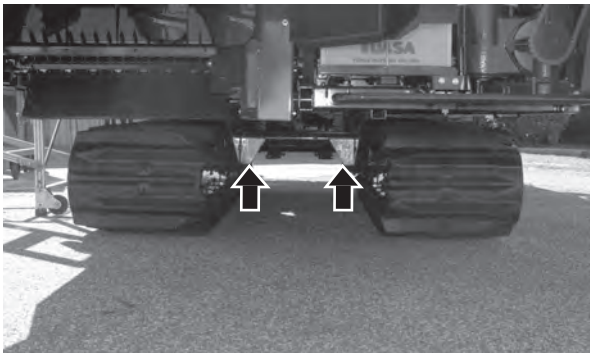
⚠警告

- ジャッキアップするときは、地面が固く、平坦な場所で、必ず５トン以上の容量のジャッキを使用して行ってください。

- ミッション下部（2か所）

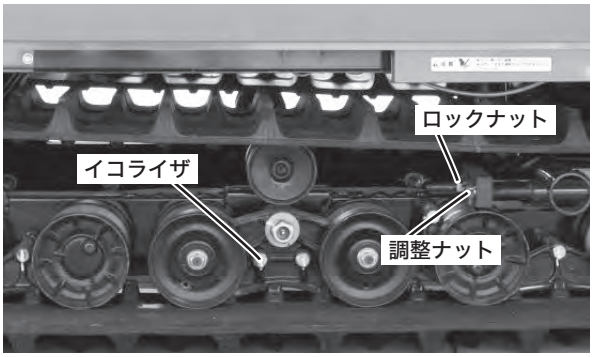


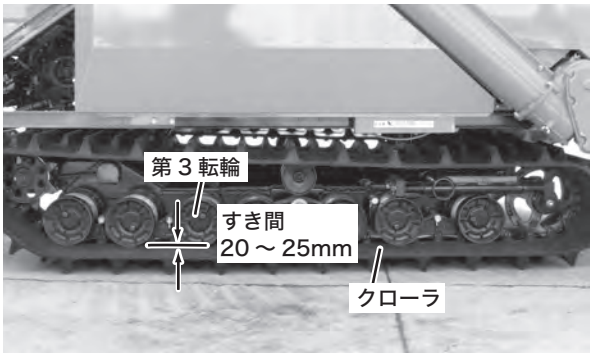
- シャーシ後方の角パイプ（2か所）



〈点検のしかた〉
イコライザ（前側）を水平にし、クローラと第3転輪のすき間が、20 ～ 25mm であるか確認してください。

〈調節のしかた〉
1. ロックナットをゆるめてください。
2. 調節ナットを回して､クローラと転輪のすき間を調節してください。
3. ロックナットを締め付けて固定してください。

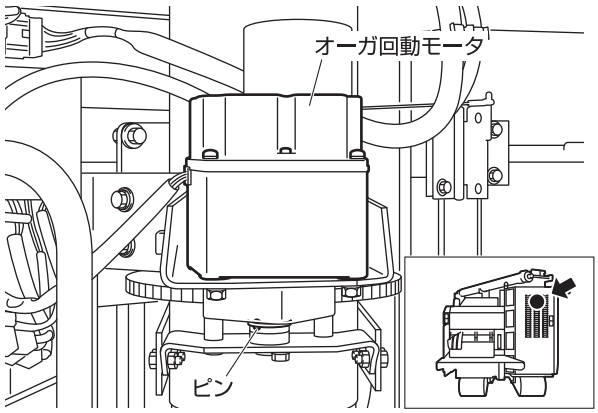




35.強力ピンの交換のしかた

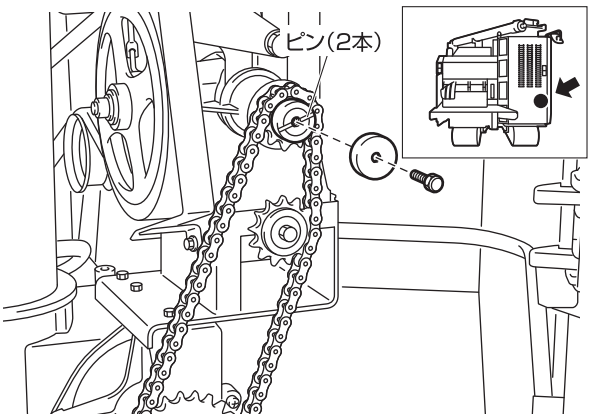
過負荷から駆動部を保護するために、オーガ回動モータおよびグレン駆動チェンには強力ピンを設けています。
万一切れたときは、販売店にご相談ください。コントローラの初期設定が必要です。初期設定を正しく行わないで、オーガを自動旋回すると、オーガが思わぬ方向に動き、機械を破損したりケガをするおそれがあります。

オーガ回動モータ



※図は、エンジンルーム後カバーをオープンしています。

グレン駆動チェン



※図は、エンジンルーム後カバーをオープンしています。

36.排気ガスの色について

エンジンの始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。
黒色……燃料が濃すぎるための不完全燃焼。
白色……エンジンオイルが燃焼しています。ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

黒色・白色の排気ガスが、エンジンに負荷をかけなくてもでるときは、販売店、またはJAで整備してください。

37.クーラーガス（冷媒）の点検のしかた

クーラーガス（冷媒）が不足していると、冷房性能が低下します。
整備工場で点検・補充を受けてください。

⚠警告

- クーラーガスは、液が目に入ったり、手にかかると、失明したり凍傷にかかるおそれがあります。冷媒回路の部品はゆるめないでください。
- エンジン回転中は、エンジンや回転部に手を触れないよう十分に注意してください。

[重要]

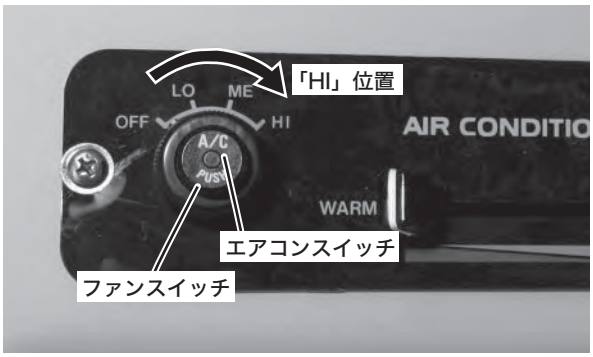
- クーラーガスはR-134aを使用しています。これ以外のクーラーガスは、絶対に使用しないでください。

使用冷媒（クーラーガス）	フロン　R-134-a
充てん量	730g

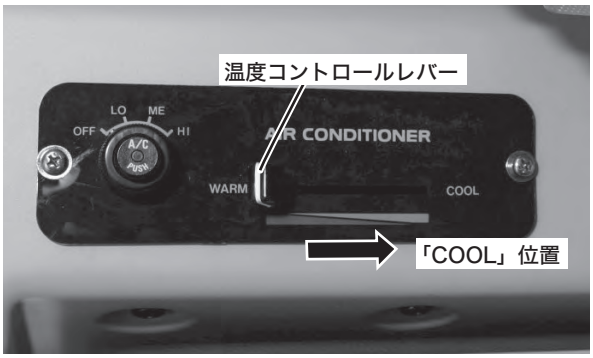
- フロン類をみだりに大気中へ放出することは、法律で禁じられていますので、絶対にしないでください。

〈点検のしかた〉

1. エンジンを始動し、エンジン回転数を定格回転にしてください。
2. ファンスイッチを「HI」位置（最大風量）にしてください。

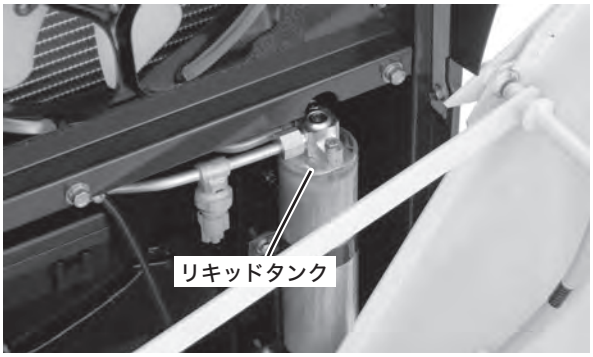


3. 温度コントロールレバーを「COOL」位置（強冷）にしてください。

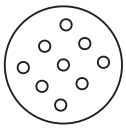
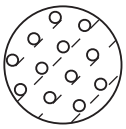
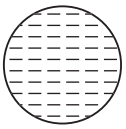
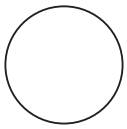


4. エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしてください。

5. リキッドタンクのサイトグラス（点検窓）から、クーラーガスの気泡の流れを見て、ガス量の点検をしてください。（→191ページ参照）



クーラーガス量チェック表

クーラーの状態	異常なし	異常あり		
高･低圧パイプの温度	高圧パイプは熱く、低圧パイプは冷たい。温度差がはっきりある。 ●コンプレッサ吐出側温度70℃ ●コンプレッサ吸入側温度5℃	高圧パイプは暖かく､低圧パイプはやや冷たい。温度差はあまりない。	高圧パイプ､低圧パイプにほとんど温度差が感じられない。	高圧パイプは熱く､低圧パイプはやや暖かい。温度差はあまりない。
サイトグラスの状態	ほとんど透明｡気泡の流れが見えても､エンジン回転を上げたり下げたりすると透明になる。 ※1 	気泡の流れるのが見える｡透明または白泡のときもある。 	霧のようなものが流れているのがわずかに見える。 	ドアを全開にして､ファンを最大風量にし､アイドリングで回しても気泡が見えない。 ※2 
パイプ接続部の状態	異常なし。	油が汚れている所がある。	油の汚れが著しい所がある。	異常なし。
このクーラーの状態は	ガス量も不足なく異常はない。	少しガスがもれている所がある。	ガスがほとんどもれてなくなってしまった。	ガスが過充てんになっている。

※1 外気温度が低いときには､ガス充てん量が適正でも気泡が見えることがあります。
※2 クーラーガスがない場合があるので､高･低圧パイプの温度差がないことを確認してください。
この場合､全く冷えない状態にあります。

[重要]

- **連続した気泡が見えるときは、冷媒が不足していますので､販売店ですぐに補充を受けてください。冷媒不足の状態で運転を続けると、コンプレッサの破損の原因になります。**
- **点検窓に全く冷媒が確認できず、エアコンスイッチを「ON」（ランプ点灯）にしても冷えないときは、冷媒が入っていませんので、次の処置を行ってください。**

1. 販売店で､冷媒もれ箇所のチェックをしてもらってください。
（配管ジョイント部、ホースなど）
2. 冷媒を規定量補充してください。
（点検窓でチェック）
3. ND-8オイルを120cc、低圧側より追加してください。（コンプレッサ内・低圧ホース内など）

- **冷媒もれによって、サイクル内のオイルが不足していると、そのまま冷媒だけを追加してもコンプレッサロックの原因になります。**

冷媒ガス（フロン類）の処理について

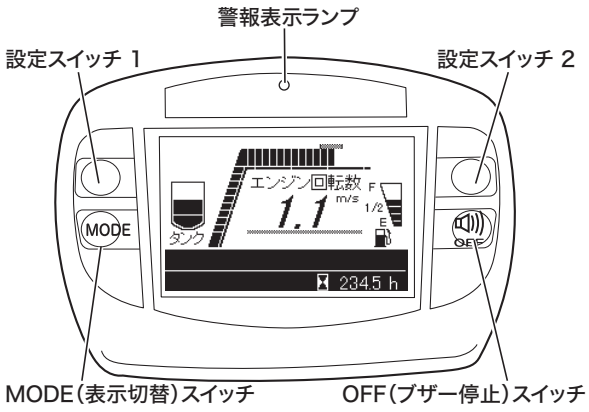
- **フロン類をみだりに大気中に放出することは禁じられていますので絶対にしないでください。**
- **冷媒ガス（フロン類）は回収が必要です。廃棄する場合は、専門の業者に引き取ってもらってください。**

⚠警告

●機械の調子が悪いときは、必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてから診断してください。守らないと、回転物にはさまれて傷害事故の原因になります。

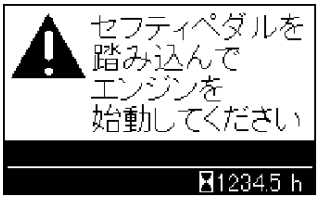
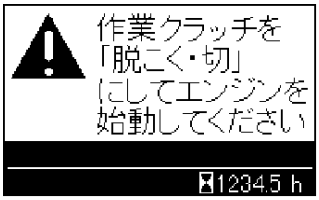
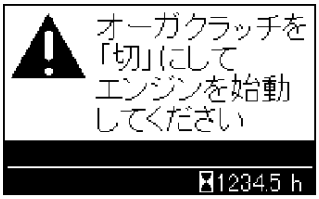
下記の処置をしても改善されないときは、最寄りの販売店に連絡してください。

1. センターディスプレイの注意画面について



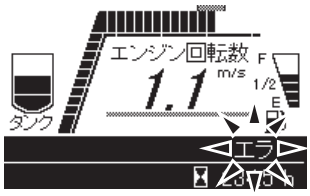
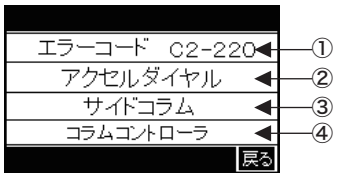
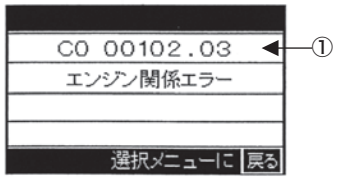
(1) エンジン始動時に表示された画面

キースイッチを「START」位置にしても、以下の条件の場合はエンジンの始動ができません。表示された注意画面に従って再度エンジンを始動させてください。

表示画面	警報の種類	処置	参照ページ
	–	セフティペダルを踏まずにキーを回した場合は、セフティペダルをしっかりと踏み込んでから、再度キーを回してください。	64
	–	作業クラッチレバーが「脱こく・入」、または「刈取・入」位置になっている場合は、作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてから、再度キーを回してください。	64
	–	排出オーガクラッチスイッチが「入」(ランプ点灯)になっている場合は、排出オーガクラッチスイッチを「切」(ランプ消灯)にしてから、再度キーを回してください。(この注意画面が表示された場合は、排出オーガクラッチが故障している可能性があります。点検をしてください。)	64

(2) エラーの表示

エラーが発生した場合は、画面隅に「エラー」の文字が点滅します。OFF（ブザー停止）スイッチを５秒以上押し続けると画面表示が切り替わり、エラーの発生した部品の名称とその部品のある場所、その部品の信号を処理しているコントローラ名称が表示されます。もう一度OFF（ブザー停止）スイッチを押すと元の画面表示に戻ります。

表示画面	画面表示切替後 （ブザー停止スイッチを5秒以上押す）	警報の種類	備考・処置	参照ページ
	 ①エラーコード ②エラー発生部品 ③エラー発生部品のある場所 ④信号を入力処理している コントローラ	–	チェッカ機能で各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックを行ってください。	209
	エンジン関係のエラーが発生した場合  ①エラーコード	–	お買い上げいただいた特約店・販売店・JAへエラーコードをご連絡ください。	

(3) その他の注意

表示画面	警報の種類	備考・処置	参照ページ
燃料残量表示 	○ ブザーは断続音	燃料の残量が少なくなったときに、給油マークが点滅し、ブザーが断続で鳴ります。 OFF（ブザー停止）スイッチを押すとブザーが鳴り止みますが 給油マークは点滅したままです。 燃料を補給してください。 満量になると、ブレーキランプが点滅し、ブザーが断続でなります。 OFF（ブザー停止）スイッチを押すと、ブザーは鳴り止みます。	151
タンクシグナル 	○ ブザーは断続音	グレンタンク内がほぼ満量になると、ブザーが断続に鳴り、グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量の画面を交互に表示します。 ブザーを停止する場合は、OFF（ブザー停止）スイッチを押すか、作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にしてください。ただし「3／3」のタンクシグナルランプは点滅したままです。 **[重要]** ●グレンタンク内に、こく粒がほとんど満量に充てんされています。できるだけ早く排出してください。 **[参考]** ●グレンタンク内のこく粒が無くなると、センサが感知し、ブザーが断続で数秒鳴ります。	112

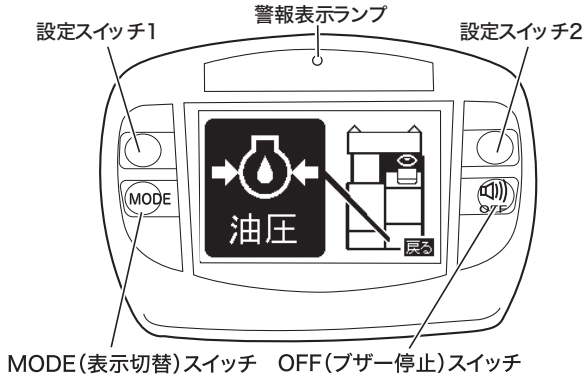
2. センターディスプレイの異常表示と処置のしかた

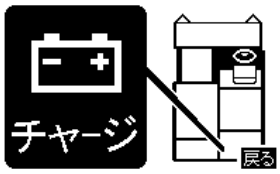
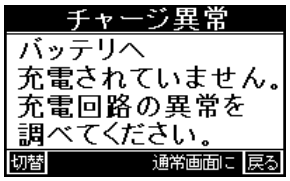
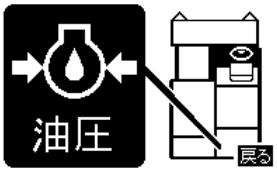
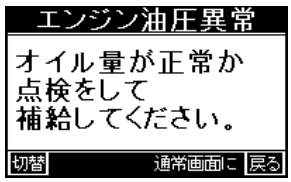
⚠警告

●移動走行中に、警報画面が表示された場合は、安全な場所に停止してから点検・処置を行ってください。

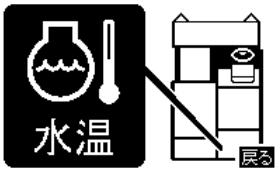
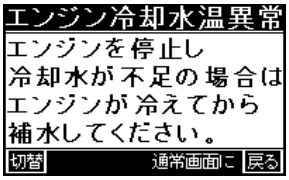
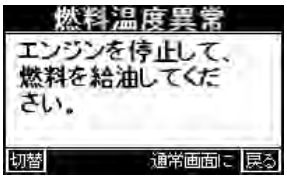
警報が発生した場合は画面が切り替わり、異常箇所が文字とグラフィックで表示されます。

異常が発生したときのスイッチ操作

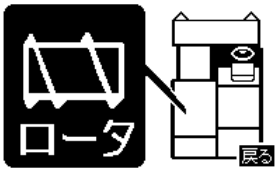
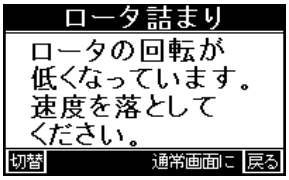
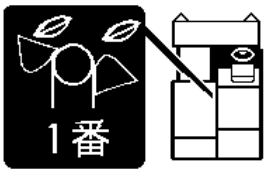
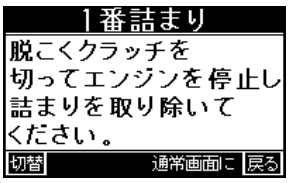


表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
チャージ警報表示 		◎	エンジン回転中にバッテリに充電されません。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	168
	ジェネレータ駆動ベルトのゆるみ、または破損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	187
	ジェネレータが故障していませんか。		ジェネレータ故障の場合はサービス工場で修理してください。	−
油圧警報表示 		◎	エンジン潤滑油の油圧が低下しています。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	−
	エンジンオイル量が少なくなっていませんか。		オイルを規定量まで補給してください。	152〜
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。		適正粘度のオイルと交換してください。	
	油圧スイッチ（プレッシャスイッチ）が故障していませんか。		油圧スイッチが故障の場合は、サービス工場で修理してください。	−
	オイルポンプが故障していませんか。		オイルポンプが故障の場合は、サービス工場で修理してください。	−

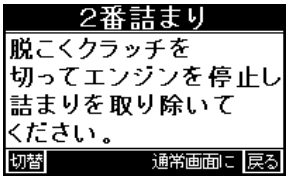
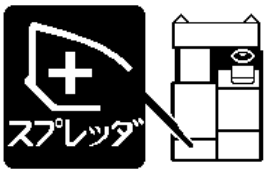
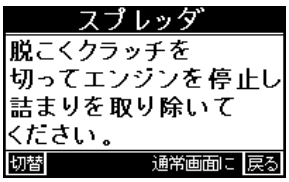
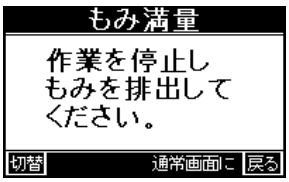
◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
水温警報表示 			エンジンの冷却水温が異常(オーバーヒート)です。すみやかに本機を停止し、作業クラッチを「切」、E モード切替スイッチを「切」(アクセルランプ点灯)にして、エンジン回転をローアイドリング(低回転)に下げ、冷却運転をしてください。「警報表示画面」の表示が消えてからエンジンを停止し、エンジンが十分に冷えてから適正な処置を行ってください。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。	−
	冷却水が不足していませんか。	◎	冷却水を補給してください。	157〜
	水漏れしていませんか。		水漏れの場合は、修理を依頼してください。	−
	冷却ファンベルトがゆるんでいませんか、また破損していませんか。		ベルトの張り調整、または交換してください。	187
	吸気口・ロータリスクリーン・ラジエター冷却フィンが目詰りしていませんか。		掃除してください。	162〜
	作業中、ロータリスクリーンは作動(回転)していますか。		ロータリスクリーンが不具合の場合はサービス工場で修理してください。	−
	エンジンオイルが不足していませんか。		オイルを補給してください。	152〜
	過負荷運転をしていませんか。		負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。	90〜
燃料温度警報表示 			燃料温度が異常です。すみやかに燃料を給油しエンジン回転をローアイドリング(低回転)に下げ、冷却運転を行ってください。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すとブザーは鳴り止みますが、警報表示画面は表示したままです。 燃料温度警報判定に 1 分間かかります。1 分以上冷却運転を行い、警報が発生しないことを確認してください。 ロータリスクリーンが不具合の場合はサービス工場で修理してください。 燃料クーラーが不具合の場合はサービス工場で修理してください。	
	冷却ファンベルトがゆるんでいませんか。また破損していませんか。 燃料クーラーフィンが目詰まりしていませんか。	◎		

◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
ロータ警報表示 			ロータの回転が、規定回転より低下しました。 刈取速度を下げて作業してください。 「脱こく・切」位置にするとブザーは停止しますが、画面表示はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。	ー
	ロータ内に作物がいっぱいで過負荷になっていませんか。	◎	車速を落とすなど負荷を軽くしてください。(作物の状態に応じて、適切な作業速度を選んでください。	90〜
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●ロータ駆動ベルト ●脱こく駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	185
	ロータ回転センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		サービス工場でセンサを適正位置に取り付けを行ってください。 または交換してください。	ー
1番警報表示 			1番コンベア部に詰まりが発生しました。 「脱こく・切」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。処理画面に従って点検処理をしてください。	ー
	バケットコンベア部に詰まりがありませんか。	◎ (エンジン停止)	詰まりを取り除いてください。	134
	チェン、ベルトがゆるんでいませんか。 ●バケットチェン ●選別駆動ベルト ●レベリングディスクベルト		チェン、ベルトの張りを適正に調整してください。	181、 183、 189
	1番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		1番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。 籾満量警報(ブザー音連続)後1番警報表示が出た場合は、こく粒を排出してください。	ー

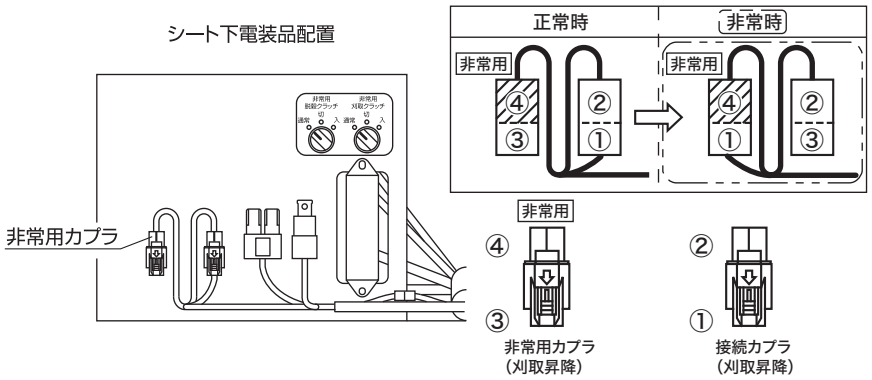
◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

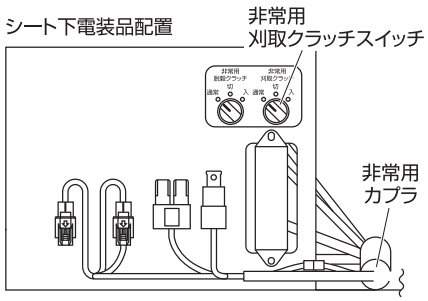
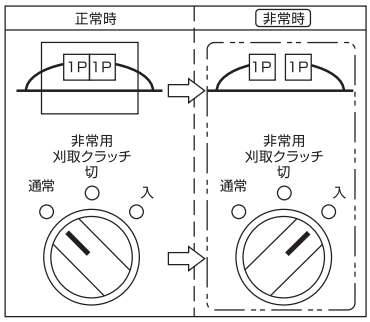
表示画面	点検または処置画面 (表示切替スイッチを押す) 点検箇所	警報の 種　類	備考・処置	参照 ページ
2番警報表示 			2番スクリューコンベアにこく粒が詰まり、回転が規定回転より低下しました。 「脱こく・切」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	ー
	2番コンベア部に詰まりがありませんか。	◎	詰まりを取り除いてください。	134、 135
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●2番駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	183
	2番警報センサの取り付けがゆるんでいませんか、または故障していませんか		2番警報センサをゆるみのないように締め付けてください。 または交換してください。	ー
スプレッダ警報表示 			スプレッダ部に詰まりが発生しました。 「脱こく・切」位置にするとブザーは停止しますが、警報画面はそのままです。OFF(ブザー停止)スイッチではブザーを停止することができません。 処置画面に従って点検・処置をしてください。	ー
	スプレッダ部に詰まりがありませんか。	◎ (エンジン停止)	詰まりを取り除いてください。	
	ベルトがゆるんでいませんか。 ●スプレッダ駆動ベルト		ベルトの張りを適正に調整してください。	
	スプレッダ警報センサが故障していませんか。		スプレッダ警報センサを交換してください。	
籾満量警報表示 		◎	グレンタンク内のこく粒が満量になりました。 こく粒を排出してください。 ブザーが断続で鳴り、グレンタンクモニターが「3／3」の状態で点滅するとともに、通常の画面ともみ満量警報画面を交互に表示します。 OFF(ブザー停止)スイッチを押すと、ブザー音は止めることができますが、画面は通常画面と警報画面を交互に表示され続けます。 さらに刈取作業を続けるとブザーが連続で鳴り、もみ満量警報画面が表示されます。この場合、OFF(ブザー停止)スイッチを押してもブザーを停止することはできません。 作業クラッチレバーを「脱こく・切」位置にするとブザーは停止し、通常画面に戻ります。	112

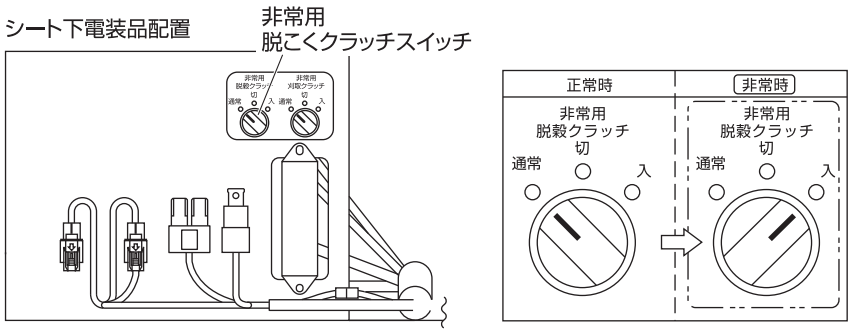
◎は警報表示ランプの点灯と同時にブザーが鳴ります。

3. センターディスプレイに表示されない不調について

状況	点検箇所	処置	参照ページ
キースイッチを回してもスタータが回らない。	バッテリ液は規定量入っていますか、また放電してはいませんか。	バッテリ液を規定量補給し、満充電にしてください。	168
	バッテリ端子部の緩み外れ、腐食はありませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けてください。 ※バッテリ端子を外す場合はまずキースイッチを必ず「OFF」にして、マイナス端子を外し、その後にプラス端子を外してください。 締め付ける場合はプラス端子を締め付け、次にマイナス端子を締め付けてください。	168
	バッテリの接続がプラス・マイナス逆になっていませんか。	プラス・マイナスを正しく接続してください。	168
	ヒューズが切れていませんか。 ●ジェネレータ・スタータスローブローヒューズ 100A, 60A, 40A (エンジン後部) ●キースイッチヒューズ 5A (エンジン後部) ●キースイッチONヒューズ 5A (シート下)	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	脱こくクラッチまたはオーガクラッチが「入」になっていませんか。	脱こくクラッチまたはオーガクラッチを「切」にしてください。	40・43
スタータは回るがエンジンが始動しない。	副変速レバーが「N」(中立)位置になっていますか。	副変速レバーを「N」(中立)位置にしてください。(走行中または作業中にエンジンが停止したときは、副変速レバーを「N」(中立)位置にしないと、エンジンが始動しない場合があります。)	39
	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満たんに給油し、エア抜きをしてください。	152・161
	燃料に水が入っていませんか。	ウォータセパレータに水がたまっていれば、水を抜いてください。	160
	燃料にエアが混入していませんか	燃料のエア抜きを行ってください。	161
	エラーが表示されていませんか。 ●エンジン過回転 ●エンジン回転数	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「エンジン制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・リレーのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	—

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取が昇降できない。	ミッションオイルが規定量入っていますか。	ミッションオイルを規定量補給してください。	154
	ヒューズが切れていませんか。 ●走行コントローラヒューズ　15A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取昇降スイッチ ●受信エラー（刈取→走行 ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
	応急で手動での作業をする場合 シート下内の4Pカプラの接続を変更してください。 1. ①のカプラと非常用銘板が付いている④のカプラを接続してください。 2. ②のカプラと③のカプラを接続してください。  ※作業終了後は、サービス工場に修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
傾斜調節できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●刈取コントローラヒューズ　5A （シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→刈取 ●送信エラー（コラム ●水平調節スイッチ ●傾斜センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取クラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●刈取クラッチヒューズ　15A （シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A （シート下） ●走行コントローラヒューズ　15A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→走行 ●送信エラー（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「クラッチ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
	応急で刈取クラッチを入れる場合 シート下の非常用刈取クラッチスイッチを切替えてください。 1. ハーネスに巻かれている非常用カプラ（1P）の黄色のテープを剥がし、カプラ接続を外してください。 2. 非常用刈取クラッチスイッチを「入」側へ回してください。   ※作業終了後は、サービス工場に修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
オーガ昇降できない。	作動油が規定量入っていますか。	作動油を規定量補給してください。	165
	ヒューズが切れていませんか。 ●走行コントローラヒューズ　15A （シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●オーガ操作スイッチ（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
オーガ旋回できない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガ旋回モータヒューズ　30A（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下） ●オーガコントローラヒューズ　5A（エンジン後）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	オーガ旋回モータの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、コントローラの初期設定が必要です。修理を依頼してください。	193
	エラーが表示されていませんか。 ●オーガ操作スイッチ（コラム ●受信エラー（走行→オーガ ●送信エラー（走行	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。 チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
脱こくクラッチが入らない	ヒューズが切れていませんか。 ●脱こくクラッチヒューズ　15A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	応急で脱こくクラッチを入れる場合 シート下の非常用脱こくクラッチスイッチを切替えてください。 1. 非常用脱こくクラッチスイッチを「入」側へ回してください。  ※作業終了後は、サービス工場に修理の依頼をしてください。 ※異常が直りましたら必ず元の状態に戻してください。		―
排出オーガクラッチが入らない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガクラッチモータヒューズ　15A　（エンジン後） ●走行コントローラヒューズ　15A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	CAN 通信エラーが表示されていませんか。 ●受信エラー（コラム→走行 ●送信エラー（コラム	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータのチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―

状況	点検箇所	処置	参照ページ
刈取オートセット・オートリフト装置が作動しない。	わらくず、泥がたまっていませんか。 ●刈取位置センサ ●刈高さセンサソリ	わらくず、泥を取り除いてください。	―
	エラーが表示されていませんか。 ●刈取位置センサ ●オートセット・オートリフトスイッチ ●オートセット高さ調節ダイヤル ●刈高さセンサソリ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「刈高さ制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
オーガ自動旋回装置が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●オーガコントローラヒューズ　5A（シート下） ●コラムコントローラヒューズ　10A（シート下）	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●排出オーガ自動スイッチ ●排出オーガ位置センサ ●排出オーガ上限スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「排出オーガ制御」を選択し、スイッチ・センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
刈取水平制御（水平）装置が作動しない。	エラーが表示されていませんか。 ●傾斜センサ ●傾斜設定ダイヤル ●水平自動スイッチ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「水平制御」を選択し、スイッチ・センサ・ランプ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
快速制御が作動しない。	ヒューズが切れていませんか。 ●快速制御ヒューズ（15A）：〔シート下〕	ヒューズを交換してください。 交換しても切れる場合は、修理を依頼してください。	171
	エラーが表示されていませんか。 ●快速調節ダイヤル ●トラニオン位置センサ ●快速駆動位置センサ	チェッカ機能の使いかたの手順に従って、チェッカモード内の「快速制御」を選択し、スイッチ、センサ・モータ・電磁弁のチェックを行ってください。チェックを行っても不調が改善されない場合は、修理を依頼してください。	―
作物を搬送しない。	刈刃駆動ベルトがスリップしていませんか。	刈刃駆動ベルトの調節を行ってください。	184
	刈刃や搬送部に、雑草、引き抜き株、泥、石などの異物がかみ込んでいませんか。	刈刃・搬送部を点検して、異物があれば取り除いてください。	―
排出オーガより穀物が排出されない。	グレン駆動チェンの強力ピンが折れていませんか。	強力ピンが折れている場合は、強力ピンを交換してください。	193

状況	点検箇所	処置	参照ページ
株の引き抜きがある。	デバイダが株の根元に突っ込んでいませんか。	刈高さ調節スイッチで、デバイダの先端を地面から５～10cmの範囲に調節してください。	―
	刈取速度が速すぎませんか。	作物・ほ場の状態に合わせて、適正な速度で刈取りを行ってください。	―
	刈刃がよく切れますか。	刈刃と受刃のすき間を調節してください。	173
刈取部でのロスが多い。	リール速度が間違っていませんか。	リール速度を、走行速度より少し速くしてください。	95
	刈刃の前で作物が滞留していませんか。	リールの高さを低くセットし、作物が刈刃からオーガへスムーズに送り込まれるようにしてください。	95
刈取部でのロスが多い。	プラットフォームが高すぎて、作物を短く刈りすぎていませんか。	作物をオーガへ均一に送り込むのに必要な長さになるまで、プラットフォームを低くしてください。	95
	向い刈りで、リールが作物を押さえつけていませんか。	リール高さを適正にしてください。	95
リールに巻き上げや巻き付きがある。	リール速度が速すぎませんか。	リールの速度を適正にしてください。	95
	タイン角度が小さすぎませんか。	タイン角度を適正にしてください。	178
	リール高さが低すぎませんか。	リールの高さを適正にしてください。	95
土や石が入る。	プラットフォームが低すぎませんか。	プラットフォームは、できるだけ高く上げてください。	95
	刈高さ自動制御を使っていますか。	刈高さ自動制御を使ってください。	102
こぎ残しがでる。	ロータの回転数が低くありませんか。	エンジン回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モード切替スイッチを「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	―
	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	「7」または、「閉」側にしてください。	47
	作物の供給量が不十分ではありませんか。	走行速度を少し速くしてください。	―
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	走行速度を少し速くしてください。リールが前過ぎれば、後ろに下げてください。	―
こく粒の飛散が多い。	送塵調節レバーが「開」側になっていませんか。	送塵調節レバーを「閉」側に調節してください。	47
	エンジンの回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にしてください。	―
	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	40
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	87

状況	点検箇所	処置	参照ページ
こぎ室内でゴトゴト音がして、能率があがらない。	作物が朝つゆなどでぬれていませんか。	よく乾燥してから刈取ってください。	―
	ロータの回転数が低くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数にするか、E モード切替スイッチを「入」(E モードランプ点灯・アクセルランプ消灯)にしてください。また、ロータ変速が作物に合っているか、確認してください。	―
	作業速度が速すぎませんか。	現在の速度より少し落として作業してください。	―
	送塵調節レバーが「閉」側になっていませんか。	稲の含水率が高いときには、送塵調節レバーを「開」側にしてください。	47
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	―
選別が悪い。	クリーンシフトの調節が間違っていませんか。	作物の条件に合わせて、クリーンシフトレバーで適正位置に調節してください。	40
	エンジンの回転数が低すぎませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで正しく調節してください。	―
	唐箕の風路、および風吸入口にワラクズなどがたまっていませんか。	ワラクズなどを取り除いてください。	―
	唐箕の回転数調節は適正ですか。	正しく調節してください。	87
損傷粒が多い。	供給量が不適正ではありませんか。	走行速度を速くしてください。こぎ室内でゴトゴト音がしているときは、走行速度を落として作業してください。	―
	作物の不均一な送り込みがありませんか。	不均一な送りの原因を調べて、取り除いてください。	―
	クリーンシフトレバーの調節が間違っていませんか。	正しく調節してください。	40
	昇降機、排出オーガパイプに土が付着していませんか。	土をきれいに落としてください。	―
	ロータ回転数が高くありませんか。	回転計を見ながら、アクセルダイヤルで規定回転数に調節してください。	―
キャビン内が冷えない。	風量が少ない。また、風が出ないのではありませんか。	ブロアモータの作動を調べてください。	―
	吹出し空気が送風になっていませんか。	温度コントロールレバーを「COOL」側にしてください。	81
	吹出し空気温度が高くありませんか。	コンプレッサの回転を調べてください。	―
	コンプレッサが回転しないのではありませんか。	ベルトの張りを適正に調整してください。	191
		電磁クラッチの作動を調べてください。	―
	冷媒量が不足していませんか。	補充してください。	194
	コンデンサが詰まっていませんか。	掃除してください。	164

4. チェッカ機能について

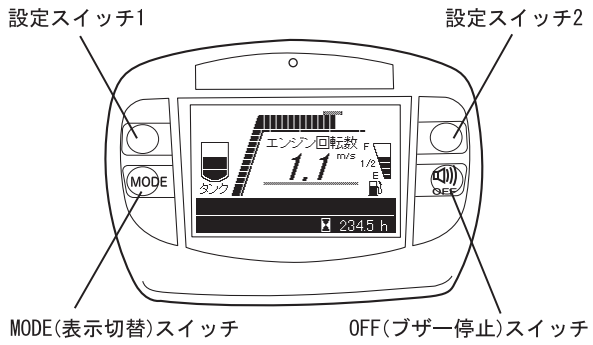
このコンバインには、チェッカ機能が内蔵されています。各コントローラに接続されている、スイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などのチェックがセンターディスプレイの画面で行えます。

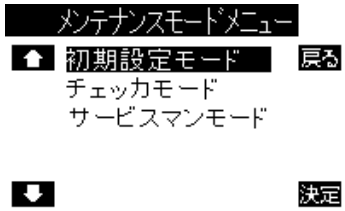
⚠警告

- 確認する内容によっては、一人作業ではできない内容もありますので、チェッカ機能を使用するときには、お買い上げいただいた特約店・販売店・JAにご相談ください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- チェック機能を使用するときには、安全な場所で機械を停止し、駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。また、基本的にはエンジンを停止させ、キースイッチを「ON」位置にして行ってください。ただし、各電磁弁のチェックなどで、やむを得ずエンジンを始動するときには、周囲に合図を送り、安全を確認してから作業を行ってください。守らないと、不意に機械が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

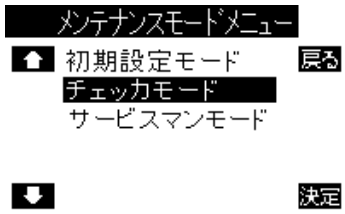
チェッカ機能の使いかた

1. MODE（表示切替）スイッチとOFF（ブザー停止）スイッチを、一緒に5秒以上押し続けてください。
   ブザーが断続で鳴って、「メンテナンスモードメニュー」の画面に切り替わります。

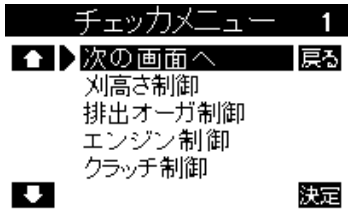




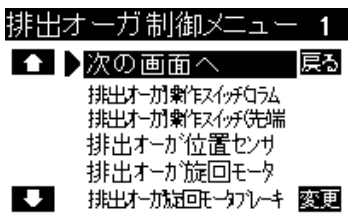
2. 「メンテナンスモードメニュー」の画面で、設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を「チェッカモード」の項目に移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。

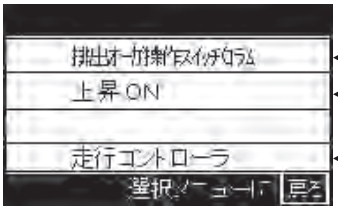


3. 「チェッカメニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい制御の項目に、設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。



4. 各制御に関連するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などの「各制御メニュー」の画面が表示されますので、チェックを行いたい項目に、設定スイッチ1（⬆）またはMODE（表示切替）スイッチ（⬇）を押して、▶印を移動して、文字を反転させ、OFF（ブザー停止）スイッチ（決定）を押します。





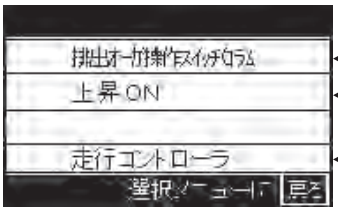
←選択したスイッチの名称
←選択したスイッチの状態
←制御コントローラ

※図は、排出オーガ制御のチェック例です。

5. 以下に、それぞれ選択したチェックしたい項目について説明します。

スイッチを選択した場合

1）スイッチの状態と、そのスイッチの入力を処理しているコントローラが表示されます。
2）スイッチ操作と表示が異なるときは、スイッチの故障か、もしくはスイッチとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
3）カプラの外れやワラクズなどでスイッチが押された状態になっていないか確認してください。
4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、サービス工場に修理を依頼してください。



←選択したスイッチの名称
←選択したスイッチの状態
←制御コントローラ

※ 図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガ操作スイッチコラムを押した状態の画面です。

センサを選択した場合

1）センサの入力値（電圧・回転数・温度など）と正常なときのセンサ値の範囲、およびそのセンサの入力を処理しているコントローラが表示されます。
2）センサが異常値のときはセンサの故障か、もしくはセンサとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
3）カプラが外れていないか確認してください。
4）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、センサ値が正常値にない場合や、エラーが解除されない場合は、サービス工場に修理を依頼してください。

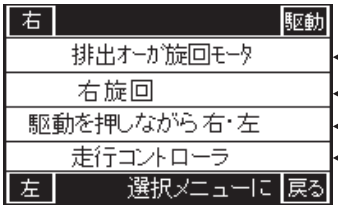


←選択したスイッチの名称
←選択したスイッチの状態
←選択したセンサの正常値
←制御コントローラ

※図は、排出オーガ制御のチェック例で、排出オーガがオーガレストに収納された状態の画面です。

モータ・ランプ・電磁を選択した場合

1）設定スイッチ 2（駆動）を押しながら、設定スイッチ1（右）もしくはMODE（表示切替）スイッチ（左）を押して、モータなどを動かすことができます。
2）画面には動かしている状態と、出力しているコントローラが表示されます。
3）もし動かないときは、モータなどの故障か、もしくはモータなどとコントローラ間のハーネスの不具合が予想されます。
4）カプラが外れていないか確認してください。
5）カプラの外れで、カプラを差し込んでも、エラーが解除されない場合は、サービス工場に修理を依頼してください。



←選択した機能の名称
←駆動状態
←操作方法
←制御コントローラ

※ 図は、排出オーガ制御のチェック例で、設定スイッチ2（駆動）を押しながら設定スイッチ1（右）を押した状態の画面です。

6. OFF（ブザー停止）スイッチ（戻る）を押して、「各制御メニュー」の画面に戻ります。さらに、制御に関するスイッチ・センサ・ランプ・モータ・電磁弁などをチェックする場合は、手順4.の要領で行ってください。
7. 通常の画面に戻る場合は、キースイッチを「OFF」位置にして、再度「ON」位置にするか、画面表示に従って、設定スイッチ2（戻る）を押して戻ってください。

1. 用語解説

あ行

イコライザ
2つ転輪が1つのフレームで支持され、シーソーのように揺動する装置で、あぜ越え性能、走行性が向上します。

ウォータセパレータ
燃料内に含まれる水分をこしとります。

HST(エッチ・エス・ティー)
Hydro（油圧）　Static（静）Transmission（変速機）の頭文字をとったもので、油圧ポンプと油圧モータを組み合せた無段変速機です。

オーガレスト
オーガを収納するためのステー（台）です。

オートセット
刈始めに、オールマイティシフトレバーにあるオートセットボタンを押すだけで、刈取部の全ての自動装置を自動状態にします。

オーガオートセット
オーガマルチリモコンの「右セット」または「左セット」スイッチにより、4ヶ所の位置に排出オーガを移動させることができます。

オーガオートリターン
オーガマルチリモコンの「リターン」スイッチを長押しすると、ランプ（緑）が点灯し、自動的に旋回してオーガレストに収納されます。収納後はランプは消灯します。

オートリフト
刈終りに、オールマイティシフトレバーにあるオートリフトボタンを押すだけで、刈取部を設定高さまで上昇させ、刈取部の全ての自動装置を休止します。

か行

快速制御
ほ場条件が変化してエンジンが過負荷になった場合に、自動的に車速を減速し、軽負荷に戻れば、車速をオールマイティシフトレバーの位置に戻す制御装置です。

刈高さ自動制御
希望の刈高さにセットすると、刈取部に設けられたセンサが土と刈取部の高さを感知し、ほ場の条件が変化しても希望の高さに自動調節します。

キャリアローラ
クローラの中央上部を支え、バタツキを押さえます。

クリーンシフトレバー
脱こく内部のクリーンシフトの角度を変えるレバーで、作物に応じて調節できます。

グレンタンク
脱こくされたこく粒をためておくタンクです。

さ行

サイドデバイダ
左のデバイダについていて、未刈稈を左に寄せます。

スクリューコンベア
プラットホームオーガの外周に巻いてあり、刈刃で刈取った作物を中央に集めます。

スローブローヒューズ
バッテリの近くにある、大電流用のヒューズです。

セフティペダル
踏み込むと、オールマイティシフトレバーが「N」（中立）位置に戻り、HSTによる油圧ブレーキがかかります。

た行

タイン
リールについているバネ状のもので、作物を引き起こします。

タンクシグナル
グレンタンク内のこく粒の充てん状況を表示します。満量になるとブザーが鳴ります。

デバイダ
刈取部の先端の両側についていて、未刈稈と刈取る作物を分離します。

は行

排出オーガ
グレンタンクにたまったこく粒を排出する筒です。

フィーダチェン
フィーダハウスの中にある作物を、脱こく部へ搬送するチェンです。

フィーダハウス
プラットホームでかき込んだ作物を、脱こく部へ搬送する部分です。

フィンガ
プラットホームオーガから出ている棒状の物で、作物をかき込みます。

プラットホーム
刈刃や、プラットホームオーガを支えているフレーム全体です。

プラットホームオーガ
刈刃のすぐ後にある回転している胴で、作物をかき込んで、フィーダハウスへ送ります。

プレクリーナー
エアクリーナーより前に、エンジンに吸入される空気の大きなチリを取り除きます。

ヘッダ
プラットホーム、リールを含むフィーダハウスより前の部分で、脱着できます。

ら行

リール
刈刃の前にある6角形のカゴ状の回転体です。リールにはタインが多数ついており、作物を引き起こします。

リールヘッダ
リール装置を備えたヘッダ部です。

ロータ
刈取った作物を、スクリューコンベヤで搬送しながら脱粒するこぎ胴です。

ロードモニター
エンジンの負荷を棒グラフ状に表示します。

わ行

ワンタッチカプラ
油圧ホースをワンタッチで接続する継手です。

2. 主要諸元

名称		コンバイン					
型式		MCH1100					
区分					S		
機体寸法	全　　長(mm)	6150			6225		
	全　　幅(mm)	2350			2350		
	全　　高(mm)	2760			2760		
機体質量(kg)		4610			4780		
エンジン	型　　式	立形水冷4気筒ディーゼルターボ					
	種　　類	4TNV94HT					
	総排気量(ℓ{cc})	3.053{3053}					
	ボア×ストローク(mm)	94×110					
	最大出力/回転速度(kW{ps}/rpm)	80.9{110}/2500					
	燃料タンク容量(ℓ)	110					
走行部	形　　式	フルクローラ					
	クローラ中心距離×接地長(mm)	1185×1780					
	クローラ幅(mm)	500					
	平均接地圧(kPa{kgf/cm^2})	25.4{0.26}			26.3{0.27}		
	変速方式×変速段数	HST無段変速(FDS)					
	走行速度(m/s)	F1	F2	F3	R1	R2	R3
		0～1.00	0～2.00	0～2.81	0～0.93	0～1.89	0～2.62
	操向方式	FDS					
刈取部	形　　式	リール+プラットホーム					
	刈幅(mm)	2060(2590)					
	リール径/バーの数(mm)	1000/6					
	リール変速方式	ベルト無段変速					
	掻込オーガ外径/ドラム径(mm)	500×300					
	フィーダハウス幅(mm)	550					
	刈高さ範囲(最低～最高)(mm)	-100～1000					
脱こく部	形　　式	スクリューロータ					
	ロータ径×幅(mm)	641(歯先径)×2170					
	選別方式	揺動・唐箕併用					
	選別幅(mm)	850					
	2番還元方式	オーガ、ロータ還元					
グレンタンク	容量(ℓ)	1900					
	排出方式/排出時間(min)	オーガ/2.5(稲)					
	排出オーガ長さ(mm)	4300					

・S：スプレッダ　M：セカンドモア　U：ロングクローラ　W：ワイドヘッダ（2.6m）
※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

名称		コンバイン					
型式		MCH1100					
区分		SM		SMU		WSMU	
機体寸法	全　　長(mm)	6225		6225		6225	
	全　　幅(mm)	2350		2350		2885	
	全　　高(mm)	2760		2760		2760	
機体質量(kg)		4920		4990		5050	
エンジン	型　　式	立形水冷4気筒ディーゼルターボ					
	種　　類	4TNV94HT					
	総排気量(ℓ{cc})	3.053{3053}					
	ボア×ストローク(mm)	94×110					
	最大出力/回転速度(kW{ps}/rpm)	80.9{110}/2500					
	燃料タンク容量(ℓ)	110					
走行部	形　　式	フルクローラ					
	クローラ中心距離×接地長(mm)	1185×1780		1235 × 1960			
	クローラ幅(mm)	500		550			
	平均接地圧(kPa{kgf/cm^2})	27.1{0.28}		22.7{0.23}		23.0{0.24}	
	変速方式×変速段数	HST無段変速(FDS)					
	走行速度(m/s)	F1	F2	F3	R1	R2	R3
		0～1.00	0～2.00	0～2.81	0～0.93	0～1.89	0～2.62
	操向方式	FDS					
刈取部	形　　式	リール+プラットホーム					
	刈幅(mm)	2060(2590)					
	リール径/バーの数(mm)	1000/6					
	リール変速方式	ベルト無段変速					
	掻込オーガ外径/ドラム径(mm)	500×300					
	フィーダハウス幅(mm)	550					
	刈高さ範囲(最低～最高)(mm)	-100～1000					
脱こく部	形　　式	スクリューロータ					
	ロータ径×幅(mm)	641(歯先径)×2170					
	選別方式	揺動・唐箕併用					
	選別幅(mm)	850					
	2番還元方式	オーガ、ロータ還元					
グレンタンク	容量(ℓ)	1900					
	排出方式/排出時間(min)	オーガ/2.5(稲)					
	排出オーガ長さ(mm)	4300					

3. オプション

名称確認	機能
セカンドモア CSM1100(W)M	高刈り作業時の残株を、刈取りと同時に再切断します。
スプレッダ CSS1100、CWM	排稈・排塵を、ほ場へ均一に拡散します。
ビーンキット（パイプコンケーブ） B1100-K(P)M	ビーンキットのコンケーブがパイプタイプのもの。
小豆キット RB1100AM・RB1100BM	小豆の作物特性に合わせて改装する専用部品です。
ソバキット BW950BM・BW950HM	ソバの作物特性に合わせて改装する専用部品です。
大豆直接排出キット B1100-SM・B1100-LM	バケットコンベアで大豆を排出する専用部品です。
バックモニタキット BMK980	

4. 主要消耗部品

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
1	エンジンベルト　LB75(AG10)	97320000250	3	エンジン～カウンタ1
2	カウンタベルト　LC151(AG8)	97320000270	2	カウンタ1～カウンタ2
3	HST入力ベルト　LB56(AG8)	97280000530	3	カウンタ2～HST
4	脱こくクラッチベルト　トクC　72H4	97320000260	2	カウンタ1～ロータケース
5	ロータ駆動ベルト　LB76(AG8)	97280000050	4	ロータケース～ロータ
6	冷却ファン駆動ベルト　LA93(AG4)	97320000230	1	カウンタ1～冷却ファン
7	吸引ファン駆動ベルト　LA53	97320000220	1	エンジン～吸引ファン
8	グレン駆動ベルト　LC70H	97090015570	1	エンジン～グレンカウンタ
9	ジェネレータ駆動ベルト　ローエッジコグ　B46.0	97320000040	1	エンジン～ジェネレータ
10	コンプレッサ駆動ベルト　LA37H	94950026440	1	T/M～コンプレッサ
11	PTO入力ベルト　トクB34　H4	97320000240	2	カウンタ2～PTOケース
12	プレファン駆動ベルト　LA38H	97320000200	1	PTOケース～プレファン
13	唐箕駆動ベルト　LB54H	08521300054	1	PTOケース～唐箕
14	選別駆動ベルト　LC194H	97280000020	1	PTOケース～揺動
15	セカンドファン駆動ベルト　LA26(AG6)	94690028820	1	選別ベルト～セカンドファン
16	2番コンベア駆動ベルト　LC49	97080008280	1	揺動～2番コンベア
17	レベリングディスク駆動ベルト　LA48H	97320000210	1	1番コンベア～レベリングディスク
18	刈取クラッチベルト　LB51(AG8)	97320000110	3	PTOケース～刈取
19	リール変速ベルト　RCVS31-950	94690002210	1	変速プーリ
20	刈刃駆動ベルト　RCLC78	94690003170	1	FH出力軸～刈刃駆動ケース
21	セカンドモア駆動ベルト　LC42H	97180000080	1	セカンドモア
22	スプレッダクラッチベルト　LB70(AG8)	97320000190	1	エンジン～スプレッダ
23	スプレッダ駆動ベルト　LB48(AG6)	97250011760	1	スプレッダ(低速)
24	スプレッダ駆動ベルト　SB47(AG6)	97250011770	2	スプレッダ(高速)
25	刈取駆動チェン　40L	97320000160	2	刈取駆動
26	チェン　50×158L	97290000660	1	
27	フィーダチェン　91L	97180010320	2	F.H
28	チェン　50×84L	94690003900	1	PFオーガ
29	チェン　415×60L	94690001860	1	リール駆動
30	チェン　415×226L	94690001920	1	リール
31	チェン　43	94690015840	1	2番下ケース
32	チェン　38	94690006000	1	2番上ケース
33	エレベータチェン　160	97320000180	1	昇降機
34	チェン　50×62L	97250010230	1	Gカウンタ～縦オーガ受継下
35	チェン　50×40L	97320000130	1	縦オーガ受継下
36	チェン　50×28L	97320000070	1	縦オーガ受継上
37	チェン　50×34L	97320000080	1	縦オーガ受継上
38	ローラチェン　50×53	97180000200	1	セカンドモア
39	タイン　260	94690029820	87	標準ヘッダ
			108	ワイドヘッダ
40	フィンガ	94690013040	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ
41	フィンガガイド	94690013050	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ
42	フィンガベアリング	94690013060	13	標準ヘッダ
			15	ワイドヘッダ

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
43	ブラケット　A	94950000430	18	リールスパイダ
44	ブラケット　B	94950000440	18	リールスパイダ
45	刈刃　CMP	97320000150	1	標準ヘッダ
46	刈刃　CMP	97290000260	1	ワイドヘッダ
47	FHチェン ササエバネ	97180010850	2	F.H
48	刈刃	94950000010	19	標準ヘッダ
			26	ワイドヘッダ
		94690003420	7	標準ヘッダ
			7	ワイドヘッダ
49	受刃 A	94690003331	13	標準ヘッダ
			17	ワイドヘッダ
50	受刃 C	94950001010	1	刈刃
51	ガイド　L	94690003430	1	刈刃
52	リールプレート	94690029882	6	リールプレート
53	リールテンショナ　A	94690001910	1	リールカウンタ
54	グロメット　30	94690029930	10	リールスライド
55	FH駆動テンショナ	97180010310	1	FH駆動
56	シートメタルゴム	94690014990	1	FHシートメタル
57	シートメタル	97180000120	2	FHシートメタル
58	扱歯　(H-1100)	97290001120	45	ロータ
59	扱歯　SK27.5	97280000430	44	ロータ
60	六角ボルト　6×12(11T)	94690028960	17	ロータ
61	六角角穴ボルト　6×16	AAAA0000231	170	ロータ
62	六角角穴ボルト　6×20	97280000390	16	ロータ
63	コーンケーブ　18(950)	97280000150	6	コーンケーブ
64	送塵弁　B	94690004790	9	送塵弁
65	弁	97320000170	1	送塵弁
66	インペラ補強前	94690028890	2	ロータ
67	インペラ補強　A	94690028900	3	ロータ
68	インペラ補強　B	94690028910	1	ロータ
69	ロータオーガ補強	97290000510	8	ロータ
70	排稈羽根	97290000540	3	ロータ
71	スロワ羽根	94690006040	2	2番コンベア上
72	入口供給板	97290000431	1	上本体入口
73	1番コンベア	97280001070	1	1番コンベア
74	バケット　120	97270000150	40	バケットエレベータ
75	2番コンベア横	94690015801	1	2番コンベア横
76	2番コンベア縦	97280000710	1	2番コンベア縦
77	2番コンベア上	94690006020	1	2番コンベア上
78	下部コンベア	97290001190	1	グレン
79	縦コンベア	97290000310	1	排出パイプ
80	横コンベア元	97290000700	1	排出パイプ
81	横コンベア先	97320000140	1	排出パイプ
82	チャフ切換ワイヤ	97320000090	1	
83	選別ワイヤ	97280000041	1	
84	シャッターワイヤ	97320000100	1	
85	駐車ブレーキワイヤ	97320000120	1	

No.	部品名称	部品コード	個　数	備　　考
86	選別クラッチワイヤ	97280000720	1	
87	エレメント　ASY	94690071390	1	HST
88	エレメント(インナ	90350032600	1	エアクリーナ
89	エレメント(アウタ	90350053800	1	エアクリーナ
90	フィルタ150メッシュ	94690070810	1	油圧タンク
91	エレメント	97250002650	1	油水分離器
92	バッテリー　115D31R	97320000060	1	
93	強力ピン6.5	94950000750	1	オーガ旋回モータ
94	ピン14	97250010080	2	グレン駆動
95	FOフィルタ	97320000050	1	燃料フィルタ
96	LOフィルタ	94690075301	1	エンジンオイルフィルタ
97	ナイフ C	94690031500	15	スプレッダ
98	ナイフ T	94690028361	16	スプレッダ

5. 主要消耗部品の点検・交換時期の目安表

※機械の使用状況やほ場の状態により、交換時間などは変化します。以下の表は、点検・交換の目安時間です。運転・作業中に異常を感じた場合は、速やかに点検を実施し、販売店に相談してください。

○: 点検と調整・掃除・締結け　●: 初期運転後の点検と調整　▲: 交換

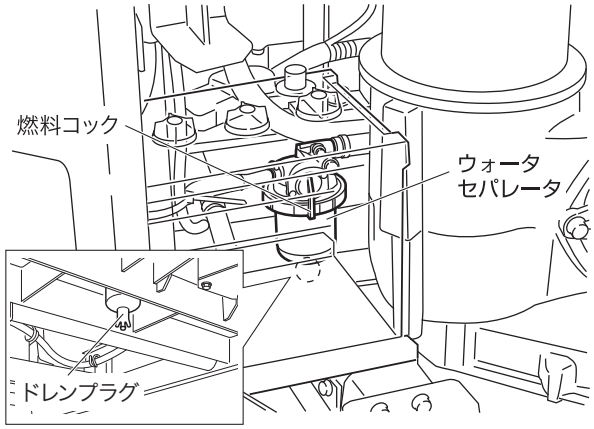
点検箇所		点検・交換時期																							
		アワメータ表示時間（時間）																					それ以降（時間：h）	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
エンジン	ジェネレータ駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	ラジエータ冷却ファンベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	冷却水	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200h 毎（1 年）
	防塵網、ラジエータフィンの目詰り	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	ー
	プレクリーナのほこり	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	ー
	エアクリーナエレメント目詰り	○	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	○	○	○	▲	毎日	200h 毎（1 年）
	燃料フィルタエレメント							▲						▲						▲			ー	300h 毎
	ウオータセパレータの水抜き	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	ー
	エンジンオイルエレメント		▲					▲						▲						▲			ー	300h 毎
	エンジンオイル		▲	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	○	▲	50h 毎	100h 毎
	燃料タンクのドレン抜き			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100h 毎	ー
	燃料パイプおよび接合部の亀裂・緩み							○						▲									300h 毎（1 年）	600h 毎（2 年）
ミッション	駐車ブレーキワイヤ		●	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	○	▲	○	○	50h 毎	300h 毎
	ＨＳＴオイルフィルタ							▲						▲									ー	600h 毎
	ミッションオイル		▲					▲						▲						▲			ー	300h 毎
	スプロケット									○								○					400h 毎	ー
	車軸オイルシール									○								○					400h 毎	ー
走行部	エンジンベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	カウンタベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	ＨＳＴ駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	コンプレッサ駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	吸引ファン駆動ベルト		●	○				○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	ブレーキワイヤー		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	▲	○	○	○	○	50h 毎	800h 毎
	バッテリー			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100h 毎	500h毎(2～3年)
	作動油							▲						▲									ー	600h 毎
	クローラ					○				○				○				▲				○	200h 毎	800h 毎
	スプロケット									▲								▲					ー	400h 毎
	転輪																	▲					ー	800h 毎
	転輪ベアリング																	▲					ー	800h 毎
	転輪オイル交換									▲								▲					ー	400h 毎
	転輪オイルシール（メカニカルシール）																	▲					ー	800h 毎
	アイドラ																	▲					ー	800h 毎
	アイドラベアリング																	▲					ー	800h 毎
	アイドラオイル交換									▲								▲					ー	400h 毎
	アイドラオイルシール（メカニカルシール）																	▲					ー	800h 毎
	クローラガイド																	▲					ー	800h 毎
	可動転輪																	▲					ー	800h 毎
	キャリアローラ																	▲					ー	800h 毎
	可動転輪, キャリアローラベアリング									▲								▲					ー	400h 毎
	可動転輪, キャリアローラオイルシール									▲								▲					ー	400h 毎
	内気フィルタ	30 時間毎に清掃																					ー	ー
	コンデンサフィン			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	100h 毎	ー

点検箇所		点検・交換時期																							
		アワメータ表示時間（時間）																					それ以降（時間：h）	
		20	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	点検	交換
刈取部	刈取駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	刈刃（含む隙間調整）			○		○		▲		○		○		▲		○		○		▲		○	100h 毎	300h 毎
	刈刃駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	リール変速ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	刈刃駆動ケースオイル		▲						▲						▲						▲		ー	300h 毎
	刈刃駆動アームベアリング							▲						▲						▲			ー	300h 毎
	刈取駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h 毎	500h 毎
	フィーダチェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h 毎	500h 毎
脱こく部	脱こく駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	ロータベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	PTO 駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	プレクリーニングファン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	唐箕駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	選別駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	セカンドファン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	２番駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	レベリングデイスクベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	インペラ補強											▲										▲	500h 毎	先端 5mm 摩耗
	ロータオーガ補強											▲										▲	500h 毎	先端 5mm 摩耗
	扱歯											▲										▲	500h 毎	先端 5mm 摩耗
	排稈羽根											▲										▲	500h 毎	先端 5mm 摩耗
	コンケーブ											▲										▲	500h 毎	線径 1/2 摩耗
	１番コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	２番コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	２番縦コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	２番上コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	バケット											▲										▲	500h 毎	先端 5mm 摩耗
	バケットチエン			○		○		○		○		▲		○		○		○		○		▲	100h 毎	500h 毎
	選別ワイヤー		●							○								▲					400h 毎	800h 毎
	ロータ駆動ケースオイル		▲					▲						▲						▲			ー	300h 毎
グレンタンク部	グレン駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	下部コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	縦コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	排出横コンベア											▲										▲	500h 毎	板厚 0.3mm 以下
	グレン駆動チェン		●	○		○		○		○		▲	●	○		○		○		○		▲	100h 毎	500h 毎
	スイングプレート											▲										▲	ー	500h 毎
電装	バッテリー	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h 毎	ー
		充電または交換																						
	ワイヤーハーネス、バッテリーケーブル	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	50h 毎	ー
		破損している時交換																						
	ヒューズ、スローブローヒューズ	破損している時交換																					ー	ー
	ランプ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	ー
		破損している時交換																						
	ホーンスイッチ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	毎日	ー
		破損している時交換																						
スプレッダセカンドモア	回転刃、受刃			○		▲		○		▲		○		▲		○		▲		○		▲	ー	ー
	スプレッダ切換えワイヤ		●							○								▲					400h 毎	800h 毎
	スプレッダ駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
	セカンドモア駆動ベルト		●	○		○		○		▲		○		○		○		▲		○		○	50，100h 毎	400h 毎
その他	強力ピン6.5(オーガ旋回モータ)	破損している時交換																					ー	ー
	ピン(グレン駆動)	破損している時交換																					ー	ー
	アイドラテンションボルト	破損している時交換																					ー	ー

【重要】 お客様へのお知らせ

本コンバイン MCH1100 はコモンレールエンジンを搭載しています。
日常点検項目や、使用する燃料・オイルは、安全・作業に関する重要項目ですので、必ずお読みいただき徹底をお願いします。
※この「お客様へのお知らせ」は、取扱説明書とともに大切に保管をお願いします。

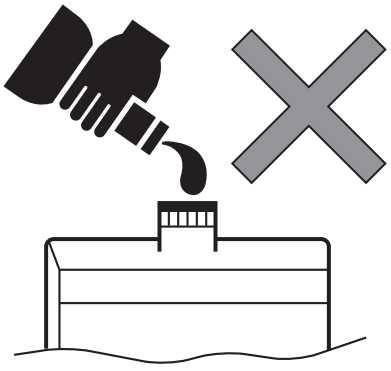
1. ウォーターセパレータを毎日点検し、水が溜まっていたり、汚れのある場合は、水抜き・洗浄をおこなってください。守らないと、サプライポンプまたはインジェクタが焼きつくおそれがあります。



2. 燃料コシ器エレメントは、下記の表に従って、定期的に点検・交換してください。守らないと、エンジン出力が低下するおそれがあります。

燃料コシ器エレメント	交換	300 時間ごと

3. 燃料は市販のディーゼル軽油をそのまま使用し、添加物等を加えないでください。添加物等で燃料噴射ノズルが目詰まりをおこし、エンジン出力が低下するおそれがあります。



4. この機械のエンジンは排ガス規制対応のため燃料噴射部品に精密部品を使用しています。使用燃料を保管する場合は亜鉛メッキ鋼板の容器のご使用は避け、樹脂製、ステンレス製などの容器を使用してください。燃料の中に亜鉛または鉛物質が溶け出すとエンジン不調の原因になる場合があります。

5. コモンレールエンジンの不調は購入先にご相談ください。サプライポンプとインジェクタの間には高圧燃料が通っています。故障かなと思ったら自分で分解・修理せずに、お買い上げいただいた特販店、または JA までご連絡ください。守らないと、整備不良による機械の故障、また高圧燃料による傷害事故のおそれがあります。



6. エンジンオイルは下記のものを使用してください。

	三菱(指定)純正オイル	一般販売店の相当オイル	
		JX 日鉱日石エネルギー(ENEOS)	コスモ石油
エンジンオイル API 分類、CF、CF-4、CI-4級	スーパーマルチ GDオイル 10W-30 (CF級)	ディーゼルエンジン用 SAE10W-30 相当品 (API 分類、CF 級以上)	

